



(公財)埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(45)

公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(45)

東九州自動車道建設（志布志 IC～鹿屋串良 JCT間）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

木森遺跡

き もり
木 森 遺 跡

(志布志市有明町)

二〇一二年二月

埋蔵文化財調査センター
公益財団法人鹿児島県教育委員会
鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

2022年3月

鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

卷頭図版 木森遺跡全景



序 文

この報告書は、東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴って、平成26年度と平成30年度に実施した木森遺跡の発掘調査の記録です。

木森遺跡は、志布志市有明町野井倉に所在し、縄文時代早期から中世までの遺構や遺物が確認されました。なかでも、縄文時代早期の石蒸し調理施設と考えられている集石や、燻製調理施設と考えられている連穴土坑が多数見つかっています。また、この連穴土坑を廃棄した後は、集石に再利用していましたことも分かりました。これは当地で暮らした先人たちの生活や土地利用を考える上で貴重な発見となりました。

本報告書が、県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する关心と御理解をいただくとともに、文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行まで協力いただいた国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所、志布志市教育委員会、関係各機関並びに発掘調査から報告書作成において従事・協力していただきました方々、遺跡の所在する志布志市有明町中肆分合地区の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター長 中村 和美

報 告 書 抄 錄



木森遺跡位置図 (S = 1/25000)

例 言

- 1 本書は、東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴う木森遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 木森遺跡は、鹿児島県志布志市有明町野井倉に所在する。
- 3 発掘調査は、国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所（以下「大隅河川事務所」という。）から鹿児島県教育委員会（以下「県教委」という。）が受託し、公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（以下、「埋文調査センター」という。）へ調査委託を行い、埋文調査センターが実施した。
- 4 発掘調査事業は、平成26年度は埋文調査センターが実施し、平成30年度は発掘調査支援業務を株式会社埋蔵文化財サポートシステムへ委託し、埋文調査センターの指揮・監督のもと発掘作業を行った。
- 5 整理・報告書作成事業は、令和3年度に埋文調査センター第一整理作業所で実施した。
- 6 掲載遺物番号は通し番号であり、本文・挿図・表・図版の遺物番号は一致する。
- 7 掲載遺構番号は遺構の種類毎に番号を付し、本文・挿図・表・図版の遺構番号は一致する。
- 8 遺物注記等で用いた遺跡記号は、「KM」である。
- 9 本書で用いたレベル数値は、海拔絶対高である。
- 10 本書で使用した方位は、全て磁北である。
- 11 発掘調査における実測図作成及び写真撮影は、調査担当者が行った。また、空中写真の撮影は、平成26年度は有限会社ホビーサンパティオに、平成30年度は有限会社スカイサーベイ九州に委託した。

- 12 本書に係る遺構図・遺物出土状況図及びトレースは新保朋久、森えりこ、有馬孝一が整理作業員の協力を得て作成した。
- 13 本書に係る出土遺物の実測・トレースは、森が整理作業員の協力を得て行った。
- 14 出土遺物の写真撮影は、鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下、「県立埋文センター」という。）写場にて、福永修一、西園勝彦が行った。
- 15 自然科学分析は、放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所に委託した。
- 16 本書の編集は新保・森・有馬が担当し、執筆分担は以下のとおりである。

第I章 発掘調査の経過	新保
第II章 遺跡の位置と環境	新保
第III章 調査の方法と層序	新保
第IV章 発掘調査の成果	
第1節 繩文時代早期の調査	新保 森 有馬
第2節 繩文時代中期以降の調査	森
第3節 中世の調査	新保 森
第4節 時期不明遺構の調査	新保 森
第V章 自然科学分析	株式会社加速器分析研究所
第VI章 総括	
第1節 遺構	新保
第2節 遺物	森
- 17 本書に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は県立埋文センターで保管し、展示・活用を図る予定である。

凡 例

- 1 本報告書掲載の遺構配置図・遺物出土状況図は1グリッド（1マス）が10m四方であり、各図に縮尺を提示してある。
- 2 遺構
 - (1) 遺構ごとに略記号を付して調査を行った。遺構の略記号を以下に示す。

連穴土坑・土坑	: SK		
集石	: SS	土器溜まり	: SU
掘立柱建物跡	: SB	溝状遺構	: SD
性格不明遺構	: SX	ピット列・ピット	: P
 - (2) 遺構図の縮尺は、基本的には以下のとおりである。ただし、大型の遺構や切り合いの多い遺構についてはレイアウト用紙に合わせて縮尺が異なる場合があるので、各図に提示してある縮尺を参照されたい。

連穴土坑・土坑	: 1/40もしくは1/50
---------	----------------

- | | | | |
|--|----------------|-----|--------------|
| 土器溜まり・集石 | : 1/20 | | |
| 掘立柱建物跡・ピット列 | : 1/60もしくは1/80 | | |
| 溝状遺構・性格不明遺構 | : 1/100 | | |
| (3) 遺構図の断面については、平面図と同縮尺とした。 | | | |
| (4) 遺構番号については、各遺構ごとの通し番号とし、調査時の番号から報告書掲載順に付け替えた。 | | | |
| (5) 土器や土層の色調は、標準土色帖に基づく。 | | | |
| (6) 遺構実測図で用いた線種の表現は下記の通りである。 | | | |
| 観察できる線 | ————— | | |
| 推定線・直上の観察では隠れる線 | | | |
| 調査区外 | — · — · — | | |
| 3 掲載遺物の縮尺は以下の通りである。 | | | |
| 土器 | : 1/3 | | |
| 剝片石器 | : 原寸 | 礫石器 | : 4/5もしくは1/2 |

目 次

巻頭図版

序文

報告書抄録

遺跡位置図

例言・凡例

目次

第Ⅰ章 発掘調査の経過	1
第1節 調査に至るまでの経緯	1
第2節 事前調査	1
第3節 本調査	2
第4節 整理・報告書作成	4
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3節 志布志IC～鹿屋串良JCT間の遺跡	6
第Ⅲ章 調査の方法と層序	15
第1節 調査の方法	15
第2節 層序	16
第Ⅳ章 発掘調査の成果	22
第1節 縄文時代早期の調査	22
第2節 縄文時代中期以降の調査	111
第3節 中世の調査	115
第4節 時期不明遺構の調査	127
第Ⅴ章 自然科学分析	131
第VI章 総括	134
第1節 遺構	134
第2節 遺物	136
写真図版	138

挿図目次

第1図 周辺遺跡位置図	7	第14図 1～4号連穴土坑	27
第2図 東九州自動車道関連遺跡位置図	14	第15図 5号連穴土坑・6号連穴土坑	28
第3図 年度別調査範囲	17	第16図 7号連穴土坑・出土遺物	29
第4図 確認調査トレンチ位置図	17	第17図 8～10号連穴土坑・出土遺物	30
第5図 土層断面位置図	17	第18図 11号連穴土坑, 78・79号土坑	32
第6図 土層断面図1	18	第19図 12号連穴土坑, 80～83号土坑	33
第7図 土層断面図2	19	第20図 13号連穴土坑, 84・85号土坑	34
第8図 土層断面図3	20	第21図 14号連穴土坑, 86～94号土坑	36
第9図 土層断面図4	21	第22図 15号連穴土坑, 51号集石・出土遺物	37
第10図 縄文早期の遺構配置図①	23	第23図 16号連穴土坑, 96号土坑 /	
第11図 縄文早期の遺構配置図②	24	17・18号連穴土坑, 95号土坑・出土遺物	38
第12図 縄文早期の遺構配置図③	25	第24図 19号連穴土坑, 97～100号土坑 /	
第13図 縄文早期の遺構配置図④	26	20号連穴土坑, 101号土坑・出土遺物	40

第25図	21・22号連穴土坑, 102・103号土坑・出土遺物	41	第61図	土器溜まり・出土遺物	84
第26図	23号連穴土坑, 104号土坑・出土遺物	42	第62図	縄文時代早期土器分布図①	88
第27図	1~12号土坑	45	第63図	縄文時代早期土器分布図②	89
第28図	13~24号土坑・出土遺物	47	第64図	縄文時代早期土器分布図③	90
第29図	25~32号土坑	48	第65図	縄文時代早期土器 1	91
第30図	33~40号土坑	50	第66図	縄文時代早期土器 2	92
第31図	41~48号土坑	52	第67図	縄文時代早期土器 3	93
第32図	49・50号土坑	53	第68図	縄文時代早期土器 4	94
第33図	51・52号土坑, 53~56号土坑	54	第69図	縄文時代早期土器 5	95
第34図	57・58号土坑, 59~63号土坑	55	第70図	縄文時代早期土器 6	96
第35図	64~67号土坑・出土遺物	56	第71図	縄文時代早期土器 7	97
第36図	68・69号土坑, 70・71号土坑・出土遺物	57	第72図	縄文時代早期土器 8	98
第37図	72~76号土坑・77号土坑・69号集石	58	第73図	縄文時代早期土器 9	99
第38図	1・2号集石・出土遺物	61	第74図	縄文時代早期土器10	100
第39図	3~6号集石	62	第75図	縄文時代早期土器11	101
第40図	7号集石	63	第76図	縄文時代早期土器12	102
第41図	8~12号集石	64	第77図	縄文時代早期土器13	103
第42図	13~16号集石	65	第78図	縄文時代早期土器14	104
第43図	17~19号集石・出土遺物	66	第79図	縄文時代早期石器 1 及び出土状況図	105
第44図	20~22号集石・出土遺物	67	第80図	縄文時代早期石器分布図	106
第45図	23~25号集石	68	第81図	縄文時代早期石器 2	107
第46図	26~29号集石	69	第82図	縄文時代中期以降の遺物出土状況図	111
第47図	30~33号集石・出土遺物	70	第83図	縄文時代中期以降の遺物	112
第48図	34~38号集石	71	第84図	中世の遺構配置図	114
第49図	39・40号集石	72	第85図	掘立柱建物跡 1 号	116
第50図	41・42号集石・出土遺物	73	第86図	掘立柱建物跡 2 号	117
第51図	43・44号集石	74	第87図	掘立柱建物跡 3 号	118
第52図	45~48号集石	75	第88図	掘立柱建物跡 4・5 号	119
第53図	49~51号集石・出土遺物	76	第89図	掘立柱建物跡 6 号	120
第54図	52・53号集石・出土遺物	77	第90図	掘立柱建物跡 7・8 号	121
第55図	54~58号集石	78	第91図	掘立柱建物跡 1・2 号出土遺物	122
第56図	59・60号集石・出土遺物	79	第92図	ピット列 1・2 号	124
第57図	61・62号集石・出土遺物	80	第93図	中世の遺物	125
第58図	63~66号集石	81	第94図	105~110号土坑・出土遺物	127
第59図	67~69号集石	82	第95図	溝状遺構・性格不明遺構	129
第60図	70~72号集石	83	第96図	溝状遺構・性格不明遺構出土遺物	130
			第97図	暦年較正年代グラフ（参考）	133

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	8	第19表	中世出土遺物観察表（土師器）	126
第2表	志布志IC～鹿屋串良JCT間の遺跡	10	第20表	中世出土遺物観察表（国産陶器）	126
第3表	連穴土坑観察表	43	第21表	中世出土遺物観察表（輸入陶器）	126
第4表	土坑観察表	59	第22表	中世出土遺物観察表（石製品他）	126
第5表	集石観察表	85	第23表	中世出土遺物観察表（その他）	126
第6表	遺構内出土土器観察表	86	第24表	V層検出土坑観察表	128
第7表	縄文時代早期土器観察表1	108	第25表	遺構内出土土器観察表	130
第8表	縄文時代早期土器観察表2	109	第26表	遺構内出土遺物観察表（土師器）	130
第9表	縄文時代早期土器観察表3	110	第27表	遺構内出土遺物観察表（国産陶器）	130
第10表	縄文時代早期石器観察表	110	第28表	放射性炭素年代測定結果1	132
第11表	縄文時代中期土器観察表	113	第29表	放射性炭素年代測定結果2	132
第12表	古代出土遺物観察表	113	第30表	連穴土坑主軸方向計測表	134
第13表	縄文時代中期以降石器観察表	113	第31表	連穴土坑・土坑の長軸・短軸・最深部平均	134
第14表	遺構内出土遺物観察表（土師器）	122	第32表	包含層出土土器分類別の出土点数	136
第15表	遺構内出土遺物観察表（国産陶器）	122	第33表	縄文時代早期石器組成表	136
第16表	遺構内出土遺物観察表（輸入陶器）	122			
第17表	掘立柱建物跡観察表	123			
第18表	ピット列観察表	124			

図版目次

図版1	木森遺跡遠景	138	図版14	中世検出遺構2	151
図版2	土層断面・遺物出土状況	139	図版15	中世検出遺構3	152
図版3	縄文時代早期検出遺構1	140	図版16	縄文時代早期遺構内出土土器1	153
図版4	縄文時代早期検出遺構2	141	図版17	縄文時代早期遺構内出土土器2	154
図版5	縄文時代早期検出遺構3	142	図版18	縄文時代早期土器1	155
図版6	縄文時代早期検出遺構4	143	図版19	縄文時代早期土器2	156
図版7	縄文時代早期検出遺構5	144	図版20	縄文時代早期土器3	157
図版8	縄文時代早期検出遺構6	145	図版21	縄文時代早期土器4	158
図版9	縄文時代早期検出遺構7	146	図版22	縄文時代早期土器5	159
図版10	縄文時代早期検出遺構8	147	図版23	縄文時代早期土器6	160
図版11	縄文時代早期検出遺構9	148	図版24	縄文時代早期土器7	161
図版12	縄文時代早期検出遺構10	149	図版25	包含層出土石器	162
図版13	中世検出遺構1	150	図版26	縄文時代中期以降の遺物	163

第Ⅰ章 発掘調査の経過

第1節 調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会（以下、「県教委」という。）は、文化財の保護・活用を図るために、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し、諸開発との調整を図ってきた。この事前協議制に基づき、日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所は、東九州自動車道の建設を計画し、志布志 IC～末吉財部 IC 間の事業の実施に先立って、事業地内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下、「文化財課」という。）に照会した。

この照会に伴い文化財課は、平成11年1月に鹿屋串良 JCT～末吉財部 IC 間を、平成12年2月には志布志 IC～鹿屋串良 JCT 間の埋蔵文化財の分布調査を実施し、50か所の遺跡が存在することが明らかとなった。

この結果をもとに、事業区内の埋蔵文化財の取扱いについて、日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所、鹿児島県土木部道路建設課高速道対策室、文化財課、鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下、「県立埋文センター」という。）の4者で協議を重ね対応を検討している最中に日本道路公団民営化の政府方針が提起され、事業の見直しと建設コストの削減も検討することとなった。

このような社会情勢の変化に伴い、遺跡の緻密な把握が要求されることとなり、埋蔵文化財の詳細分布調査、試掘調査、確認調査が実施されることとなった。

そこで、県教委は、平成13年1月29日から2月6日に調査の利便性や面積等を考慮して宮ヶ原遺跡、加治木堀遺跡、石縊遺跡、十三塚遺跡の試掘調査を実施した。さらに、平成13年7月10日から7月26日に鹿屋串良 JCT～末吉財部 IC 間の工事計画図をもとに33の遺跡について詳細分布調査と、平成13年9月17日から10月26日、平成13年12月3日から12月25日の2期間にわたり各遺跡の調査範囲及び遺物包含層の層数を把握するための試掘調査を実施した。

これらの詳細分布調査や試掘調査に加えて、既に合意されていた本線工事用道路及び側道部分の確認調査も実施することとなり、関山西遺跡、関山遺跡、狩俣遺跡の3遺跡を対象に平成13年10月1日から平成14年3月22日にかけて確認調査を実施した。

平成14年4月及び平成15年11月に志布志 IC～鹿屋串良 JCT 間の遺跡について、再度分布調査を実施した。

その後、日本道路公団民営化（現在の西日本高速道路株式会社）の閣議決定と新直轄方式に基づく道路建設の確定、平成15年11月に暫定2車線施行に伴う議事確認書締結、同年12月に大隅 IC（平成21年4月28日、「曾於弥

五郎 IC」へ名称変更）から末吉財部 IC 間の発掘調査協定書締結、平成16年3月に国土交通省九州地方整備局長、日本道路公団九州支社長、鹿児島県知事の間で新直轄方式施行に伴う確認書締結が行われ、工事は日本道路公団が国土交通省から受託し、発掘調査は日本道路公団が鹿児島県に委託することとなり、これまでの確認書、協定書はそのまま継続するということになった。ただし、日本道路公団からの委託は曾於弥五郎 IC までで終了し、曾於弥五郎 IC からの先線部は国土交通省からの受託事業となった。

平成24年度に国土交通省は、平成25年度から東九州自動車道（志布志 IC～鹿屋串良 JCT 間）の建設工事をさらに推進する意向を示し、発掘調査期間の短縮を要請してきた。

このような状況に対応するため、県教委は関係機関で協議を重ね、職員確保や予算運用が柔軟にでき、発掘調査を円滑かつ効率的に実施できる財団の設置を決定した。これを受けて、平成25年4月、公益財団法人鹿児島県文化振興財団に埋蔵文化財調査センター（以下、「埋文調査センター」という。）を設置し、国事業に関する業務を鹿児島県文化振興財団へ委託し、県立埋文センターから業務を引き継ぎ実施することとなった。

木森遺跡の主な発掘調査の経過は、以下のとおりである。

- 1 分布調査：平成12年2月・平成14年4月・平成15年11月
- 2 確認調査：平成25年8月～10月
- 3 本調査：平成26年5月～平成26年7月
平成30年5月～平成30年9月

第2節 事前調査

1 分布調査

木森遺跡の分布調査は、日本道路公団（現在の西日本高速道路株式会社）から東九州自動車道志布志 IC～鹿屋串良 JCT 間の遺跡について依頼を受け、文化財課が平成12年2月・平成14年4月・平成15年11月に実施した。

2 確認調査

確認調査は、分布調査の結果を受けて、より詳細な包含層等の状況を確認するため、文化庁の国庫補助事業を受けて、県内遺跡事前調査事業の一環として平成25年8月1日から10月28日までの期間で、県立埋文センターが安良遺跡・小牧遺跡と同時に実施した。

調査の方法は、調査対象区域内の23か所にトレンチを

設定して行った。トレントの大きさは、6×2mを基本として設定し、必要に応じて拡張した。調査は、重機により表土を剥いた後、徐々に包含層を人力で下げる方法で行った。遺構・遺物を発見した場合掘削を中止し、人力による検出を行った。

調査の結果、台地縁辺部に近い2・5・7～9・12トレントの6か所で縄文時代早期の遺構・遺物が確認され、縄文時代早期の包含層が6,400m²の範囲に広がっていた。

なお、確認調査のトレント配置については、第4図に示した。調査体制は以下のとおりである。

事業主体 国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所
調査主体 鹿児島県教育委員会
調査統括 鹿児島県立埋蔵文化財センター
調査企画 ノ 次長兼総務課長 新小田 穣
ノ 南の縄文室長兼
調査課長 堂込 秀人
ノ 調査第二係長 大久保浩二
調査担当 ノ 文化財主事 吉岡 康弘
ノ 文化財主事 切通 雅子
事務担当 ノ 主査 池之上勝太

第3節 本調査

本調査は、平成26年度・平成30年度に埋文調査センターが、県から受託し実施した。平成26年度は、5月7日から7月28日まで実施したが、現道部分や未買収地が残された。平成30年度は、5月14日から9月7日まで遺跡の西側を中心とした未調査部分を実施し、すべての本調査が終了した。表面積6,400m²、調査延べ面積10,830m²であった。

なお、各年度の調査範囲は第3図に示した。

1 調査体制

平成26年度

事業主体 国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所
調査主体 鹿児島県教育委員会
調査統括 公益財団法人 鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
調査企画 ノ センター長 堂込 秀人
ノ 総務課長兼総務係長 山方 直幸
ノ 調査課長 八木澤一郎
ノ 調査第一係長 中村 和美
調査担当 ノ 文化財専門員 平木場秀男
ノ 文化財専門員 大岩本博之

ノ 文化財調査員 下田代清海
ノ 文化財調査員 稲垣 友裕
ノ 文化財調査員 勝田 裕介
事務担当 ノ 主査 岡村 信吾

平成30年度

事業主体 国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所
調査主体 鹿児島県教育委員会
調査統括 公益財団法人 鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

セントナー長 前迫 亮一
調査企画 ノ 総務課長兼総務係長 中村伸一郎
ノ 調査課長 中原 一成
ノ 調査第三係長 三垣 恵一
調査担当 ノ 文化財専門員 立神 倫史
事務担当 ノ 主査 小牧 智子

発掘調査の実施にあたり、埋文調査センターは「埋蔵文化財発掘調査支援業務の委託実施要項」に基づき、株式会社埋蔵文化財サポートシステムへ本調査等の支援業務委託を実施した。

なお、埋文調査センター職員1名が常駐し、調査支援の方法及び業務内容に係る指導・助言及び調査現場の監理を行った。

委託先 株式会社埋蔵文化財サポートシステム
調査体制 ノ 主任技術者 山下 貢司
ノ 主任調査支援員 松崎 卓郎
ノ 調査支援員 沖野沙和美
ノ ノ 本村実季子
委託期間 平成30年5月14日～平成30年9月7日
委託内容 記録保存調査 1式
測量業務 1式
土工業務 1式
検査 中間検査 平成30年7月19日
完成検査 平成30年10月1日
(実地検査)
平成30年10月9日
(成果物検査)

2 調査の経過

調査の経過については、日誌抄を年度ごと及び集約して記載する。

平成26年度

【5月】

8日 調査開始

機材搬入及び環境整備

重機による表土剥ぎ及び無遺物層掘削

A・B-5～15区, D～F-11～15区
グリッド設定, 調査範囲図作成,
A・B-5～15区
VI・VII層掘り下げ, 遺物取り上げ, VIII層遺構検出
遺構実測・掘り下げ・写真撮影, 遺物取り上げ
C・D-11～15区
VI・VII層掘り下げ, 遺物取り上げ, VIII層遺構検出
遺構実測・掘り下げ・写真撮影, 遺物取り上げ
E・F-11～15区
IV・V層掘り下げ, 遺構検出・コンタ図作成
遺構実測・掘り下げ・写真撮影, 遺物取り上げ
13日 現地視察 堂込センター長
現地調査 中村係長
15日 監理業務 黒川文化財主事（県文化財課）

【6月】

A・B-5～15区
VII層掘り下げ, 遺物取り上げ, VIII層遺構検出
VIII層コンタ図作成, 遺構実測・掘り下げ・写真撮影, 遺物取り上げ
C・D-11～15区
VII層掘り下げ, 遺物取り上げ, VIII層遺構検出
遺構実測・掘り下げ・写真撮影, 遺物取り上げ
VIII・IX層掘り下げ, X層コンタ図作成
下層確認トレンチ設定・掘り下げ
E・F-11～15区
VI層掘り下げ, 遺構検出
遺構実測・掘り下げ・写真撮影, 遺物取り上げ
VI・VII層掘り下げ, 遺構検出, 遺物取り上げ
5日 現地視察 堂込センター長 現地調査 中村係長
10日 現地指導 山方課長, 八木澤課長
18日 監理業務 井ノ上所長, 今村係長（埋文センター）
25日 空中写真撮影

【7月】

A・B-5～15区
VII層掘り下げ, 遺物取り上げ, VIII層遺構検出
遺構実測・掘り下げ・写真撮影, 遺物取り上げ
VIII・IX層掘り下げ, X層コンタ図作成
下層確認トレンチ設定・掘り下げ, 土層断面実測
埋め戻し
C・D-11～15区
土層断面実測, 埋め戻し
E・F-11～15区
VI・VII層掘り下げ, 遺構検出, 遺物取り上げ
遺構実測・掘り下げ・写真撮影, 遺物取り上げ
VIII層コンタ図作成, 土層断面実測
埋め戻し 調査終了
22日 監理業務 前迫課長（埋文センター）
28日 発掘調査終了後, 町田堀遺跡へ移動

平成30年度

【5月】

調査開始, 機材搬入及び環境整備
A～D-1・2区 IV層重機による表土剥ぎ
A・B区 V層遺構検出, 遺構実測・掘り下げ, 写真撮影・遺物取り上げ
8日 周辺住民への事前説明会開催
15日 現地視察 前迫センター長
17日 監理業務 堂込所長

【6月】

A・B区 VII層掘り下げ
C・D-5～7区 V層遺構検出及び掘削及びVIII層掘り下げ, 遺構実測・写真撮影, 下層確認トレンチ設定・掘り下げ
C・D-6・9・10区 II～IV層無遺物層機械掘削
4日 現地指導 中原課長
現地調査 三垣係長, 福永係長
6日 現場視察 前迫センター長

【7月】

A・B区- VII層掘り下げ, X層遺構検出, 旧石器トレンチXI層掘り下げ
V層遺構検出・D-5～8区 VIII層掘り下げ
B・D～F-3・4区 VIII層遺構検出, 遺構実測・掘り下げ, 集石写真撮影・遺物取り上げ
C・D区（B・C-6～13区） V層遺構検出及び掘削, X層精査
4日 監理業務 中村係長
5日 現地指導 中原課長 現地調査 今村係長
9日 現地視察 前迫センター長
現地指導 中原課長, 現地調査 今村係長
来跡 鹿児島国際大学 三木名誉教授
鹿児島大学 北村名誉教授
12日 現地調査 三垣係長
19日 来跡 県文化財課 平文化財主事
埋文調査センター職員 4名

【8月】

A・B-4・5区 X層遺構検出, 写真撮影
B区 X層検出遺構断ち割り, 写真撮影
C区 VIII～X層遺構検出, 写真撮影, 遺構掘削
C・D区 VIII～X層掘り下げ, 遺構検出, 写真撮影
D区 V層上面精査, 空中写真撮影
6日 現地視察 前迫センター長
21日 現地調査 三垣係長
22日 現地視察 前迫センター長 現地調査 三垣係長
27日 現地調査 今村係長
来跡 同志社大学 水ノ江和同教授
28日 現地視察 前迫センター長
監理業務 平文化財主事（県文化財課）



地域住民への現地説明会（8月28日）

29日 現地指導 中原課長

【9月】

- B区 土層断面写真撮影、埋め戻し
- C・D区 VIII・X層遺構検出写真撮影、旧石器先行トレチVIII層掘り下げ、プレハブ撤収、調査区内安全対策、排土処理
- 3日 現地調査 三垣係長
- 6日 現地視察 堂込所長
監理業務 前迫センター長
現地調査 今村係長、三垣係長
来跡 鹿児島大学法文学部 森脇名誉教授

第4節 整理・報告書作成

1 整理・報告書作成作業の組織

本報告書に伴う整理・報告書作成作業は、令和3年4月～令和4年3月まで行った。なお、平成30年度は発掘調査の一部にて基礎整理作業(水洗い・注記)を行った。

整理・報告書作成業務に係る組織は以下のとおりである。
事業主体 国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所

作成主体 鹿児島県教育委員会

作成統括 公益財団法人 鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

	セ ジ タ ー 長	中 村 和 美
作成企画	リ 総務課長兼総務係長	中 島 治
	リ 調 査 課 長	福 永 修 一
	リ 調 査 第 二 係 長	有 馬 孝 一
作成担当	リ 文 化 財 専 門 員	新 保 朋 久
	リ 文 化 財 調 査 員	森 えりこ
事務担当	リ 主 事	上 園 慶 子
整理指導	志 布 志 市 教 育 委 員 会 係	長 相 美 伊 久 雄

2 整理・報告書作成作業の内容

(1) 整理作業

① 遺構

実測図と図面台帳との照合、遺構別に実測図の仕分け、注記の確認、トレース用下図面作成等

② 遺物

ア 土器・石器共通

水洗い、遺構内出土遺物と包含層出土遺物との仕分け、遺物と遺物台帳や遺構実測図との照合

イ 土器

注記、分類、接合、実測する土器の選別

ウ 石器

石器と礫の仕分け、分類、実測する石器の選別

(2) 報告書作成作業

① 遺構図のトレース、遺構配置図の作成、レイアウト、原稿執筆、報告書掲載用写真選別

② 土器の実測、拓本、トレース、レイアウト、観察表の作成、遺物分布図の作成、原稿執筆、報告書掲載用写真撮影

③ 石器の実測及び、トレース、レイアウト、観察表の作成、遺物分布図の作成、原稿執筆、報告書掲載用写真撮影

3 整理・報告書作成作業の経過

整理・報告書作成作業の経過については、日誌抄を毎月に集約して記した。

4月 図面整理、遺物の分類と計測、土器接合

5月 土器接合、実測遺物選別

6月 科学分析の業者への委託、遺構仮レイアウト

土器分類、土器仮レイアウト、写真選別

7月 原稿執筆、土器実測、遺構・遺物仮レイアウト

8月 遺構・遺物トレース、原稿執筆、遺物指導

科学分析委託の納品

9月 原稿執筆、遺構・遺物レイアウト

10月 原稿執筆、遺構レイアウト、遺物写真撮影

11月 原稿執筆、土器レイアウト、石器レイアウト

12月 遺構レイアウト、原稿執筆

1～3月 文章校正、図面等の整理、遺物等の収納

令和3年度報告書作成指導委員会

6月2日 8月6日 10月5日 11月4日 11月24日
福永課長ほか6名

令和3年度報告書作成検討委員会

6月10日 8月11日 10月13日 11月9日 11月26日
中村センター長ほか5名

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

志布志市は、鹿児島県の最東部に位置し、宮崎県都城市及び串間市と県境をなす。北は曾於市、南西は曾於郡大崎町と隣接し、南は太平洋へ向け湾口を開く志布志湾に面する。

大隅半島は、南北に走る山地、その間の丘陵、台地と低地帯から構成されており、表層の地質はいわゆるシラスなどの火山灰土壌となっている。東側の山地は、志布志湾北部から宮崎県に張り出した形で山岳地帯がある。主峰は宮崎県内に位置する鰐塚山（標高1,119m）である。西側の山地は、北部の霧島火山の分脈から湾奥に形成された姶良カルデラから南部の高隈連山へと連なっている。高隈山地は北部の白鹿岳・荒磯岳などの山々と、南部の大籠柄岳（標高1,236.8m）を主峰に、標高1,000m級の山々からなる急峻な山容である。

東西の山地は、ともに九州山地の延長上にあり、それらの間は丘陵、台地及び低地帯となっている。これらの山間部を埋めるような形で、洪積世の火山活動による火砕流が堆積する丘陵や台地が広く分布した典型的なシラス地形となっている。低地においては高隈山地や鰐塚山地などを水源とする大小の河川が走り、志布志湾、錦江湾などへ注がれている。これらの河川の流域では高位・中位・下位において三段の段丘が認められる。海岸線では砂丘が形成されるところもある。

本市の地形は、東から志布志湾に向かって緩やかに傾斜し、海岸近くで急崖となり、わずかな沖積平野を経て海岸線となる。この海岸線は、西側に旧期砂丘・新期砂丘に二分される砂丘海岸が続くのに対し、東側は日南層群で構成される岩礁海岸となる。

木森遺跡は、志布志市有明町野井倉に所在する。志布志市南部に広がる平坦なシラス台地を開析する菱田川の段丘は三段階あり、本遺跡の東側標高約45mの第三段丘面は「野井倉原（のいくらばる）」と呼ばれ、明治～昭和にかけての開拓事業により広大な稻作地帯が広がっている。第二段丘面はシラス台地の末端と標高約5mの河川流域に挟まれた比較的平坦な段丘面であり、自然湧水を利用した水田や畑地が広がり、多くの集落が形成されている。本遺跡は第二段丘面西端部に位置し、標高約30mを測る。同段丘上には、上流側に弥生・古墳時代の遺構が確認された上苑A遺跡、縄文時代晚期、古代・中世の上苑遺跡、下流側に古代・中世の遺構が確認された平B遺跡などがある。また、東北東約1.5kmの地点には次五遺跡が、西北西約1kmには春日堀遺跡がそれぞれあり、本遺跡とともに同一事業に伴って調査が行われた。

第2節 歴史的環境

本遺跡が所在する志布志市では、戦後、瀬戸口望氏を中心に分布調査・発掘調査が数多く実施されており、主に縄文時代に関して学史上重要な成果を多くあげている。近年では、農道整備に伴う発掘調査が行われ、主として弥生・古墳時代の様相が明らかになりつつある。なお、本地域は中世以前は日向国に属していたとされており、本地域の歴史・文化を考察する上で、薩摩・大隅のみならず、日向地域の影響も考慮する必要がある。

旧石器時代

中須B遺跡・蕨野B遺跡からナイフ形石器・三稜尖頭器（角錐状石器）が、道重遺跡や和田上遺跡から細石器がそれぞれ出土している。

縄文時代

本地域では、瀬戸口氏・河口貞徳氏らによる調査によって、「縄文銀座」と呼ばれるほど多数の遺跡が発見されている。

草創期では、東黒土田遺跡が著名である。舟形配石炉・貯蔵穴とともに隆帶文土器が出土している。この中で、貯蔵穴から出土した炭化種実（堅果類）は遺構内出土のものとしては日本最古級とされている。また、鎌石橋遺跡でも隆帶文土器が出土している。

早期では、前半期（貝殻文円筒形土器様式期）の集石・連穴土坑が多数発見された倉園B遺跡、塞ノ神A式の壺形土器などの遺物が出土した夏井土光遺跡、早期前半（石坂・下剥峯・桑ノ丸の時期）の集石・土坑が検出された次五遺跡、連穴土坑のトンネル部分に石坂式系土器の完形が出土した高吉B遺跡、耳栓が出土した稻荷上遺跡・横堀遺跡など、遺跡数が多い。

本遺跡のように連穴土坑が多数検出された遺跡としては、稻荷迫遺跡・高吉B遺跡、下堀遺跡、横堀遺跡などがある。

中期では、南福寺式土器・阿高系土器が多く出土した中原遺跡、大平式土器・阿高系土器が多く出土した宇都遺跡がある。

後期では、指宿式土器・福田K II式土器・一湊松山式土器・市来式土器が出土した中原遺跡、落とし穴、中岳II式土器が出土した船迫遺跡、高吉B遺跡などがある。

晩期では、干河原式土器・刻目突帯文土器が出土した山角B・炭床遺跡がある。

弥生時代

高吉B遺跡では、堅穴建物跡7軒・掘立柱建物跡5棟・土坑7基・壁側に横穴をもつ土坑1基が山ノロII式土器を伴って検出されている。また、5号堅穴建物跡からは

瀬戸内系の凹線文土器も検出されている。ほかにも、柳町遺跡・長田遺跡・前谷B遺跡などで山ノ口II式土器を伴う竪穴建物跡が検出されている。

当地域では、山ノ口II式土器と中溝式土器の折衷様式の土器が見られるのが特徴的である。当地域は、近世以前は日向国に属していたとされていることから、大隅系文化と日向系文化の融合する地域であったことの傍証となるのではないかとされている。

弥生時代終末期～古墳時代

弥生時代終末期以降は、菱田川流域で遺跡数が増加する。集落遺跡については春日堀遺跡で弥生時代終末期～古墳時代前期前半の竪穴建物跡が10軒確認されている。7軒は焼失竪穴建物跡で、検出数は県内最多である。この他に、仕明遺跡や長田遺跡では、古墳時代中後期の集落跡が確認されている。

古墳時代終末期の遺跡としては、菱田川流域において春日堀遺跡や上苑遺跡など、7世紀代の集落遺跡が挙げられる。これらの遺跡では、宮崎平野及び都城盆地から搬入された甌や精製坏、八女産及び瀬戸内産の須恵器が出土しており、活発な交易であったことが窺える。

この地域の古墳は地下式横穴墓と共に存する事例が多い。特に工事中に発見され、平成29年度に調査が行われた原田古墳群3号地下式横穴墓は最も注目される。調査では、人骨、軽石製の箱式石棺、短甲、鉄鎌、鉄斧、鉄剣が発見され、有力首長の墓であることが明らかとなつた5世紀の地下式横穴墓である。以前は当地域は古墳時代の集落遺跡は少ないとされてきたが、ここ数年の成果はめざましいものがあり、詳細な検討が待たれる。

古代

水ヶ迫横穴墓で須恵器の蔵骨器が見つかっている。小迫遺跡、牧之原A遺跡、安良遺跡、井出上A遺跡で、墨書き土器が出土している。野久尾遺跡、宮脇遺跡、仕明遺跡、稻荷迫遺跡などでは、製塩土器が出土している。この時期は調査事例が少なく、様相が明らかではない。

中世

当該時期の代表的遺跡としては志布志城跡（国指定史跡）がある。志布志城とは、内城・松尾城・高城・新城の四城の総称である。志布志城は築城時期は明らかではないが、建武3（1336）年に「救仁院志布志城」にあった肝属兼重が重久氏に敗れたという記録が初見であり、南北朝には存在したことが確認できる。

山宮神社では、明治26（1893）年に大楠倒壊の際、その根元にあった石室様の施設内より和鏡・太刀・白磁壺・青白磁合子などが発見されている。この際、状況を詳細に描いた記録画が作成されている。この記録及び遺物から、石室は陶磁器を伴う石組墓で、白磁壺の内底部には骨片が付着することから、再葬された火葬墓（12世紀後半～13世紀前半頃）の可能性があり、当地域における

重要な資料である。

市内にはこの他、建久（1190～1198）年に地頭弁済使であった安楽平九郎為成の居城とされる安楽城跡、文治4（1188）年に平重頼によって築かれたとされる松山城跡、南北朝期（1359）年に救仁郷氏の居城とされる蓬原城跡などがある。

また、遺構は検出されていないが、宝満製鉄遺跡において、県内では類例の少ない中世の製鉄関連遺物が発見されている。

近世・近代

日向国諸郡志布志郷とされ、東を秋月藩と接することから陸海ともに極めて重要な郷であった。現在の志布志小学校に地頭仮屋が置かれ、その周辺一帯は「麓」（薩摩藩の外城制度において郷士が居住していた集落。城下町的機能を有する）が形成されていた。藩米等の集積・積出港であった前川河口には津口番所が置かれていた。

船迫遺跡・見帰遺跡などでは、近世とみられる帶状硬化面が検出されている。船迫遺跡では、県内では初の出土例となった二分金も見つかっている。

戦時中には、有明町野井倉に海軍航空隊志布志基地（別名：野井倉飛行場）が存在した。ただし、昭和20（1945）年3月に米軍の大規模空襲を受け、再建されていない。現在はほとんど名残を残しておらず、一部の記録にとどまる。

第3節 志布志IC～鹿屋串良JCT間の遺跡

東九州自動車道（志布志IC～鹿屋串良JCT間）建設に伴う発掘調査は平成30年度に終了しており、各遺跡の概要を第2表に示す。詳細については各報告書を参照していただきたい。

【参考・引用文献】

※発掘調査報告書は割愛した。

志布志町編1972『志布志町誌』上巻

志布志町編1984『志布志町誌』下巻

有明町誌編さん委員会 1980『有明町誌』

大西智和・鐘ヶ江賢二・松崎大嗣2012「志布志市有明町原田古墳の測量調査」『鹿児島考古』42鹿児島県考古学会

志布志町教育委員会 1982『志布志の郷土史読本』第2集

志布志町教育委員会1985『志布志の埋蔵文化財』



第1図 周辺遺跡位置図

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡番号	遺跡名	種別	所在地	地形	時代	遺物	遺構等
1	221-363	井手上A	散布地	志布志市有明町野井倉字井手上, 上ノ水流	台地	縄文時代早期, 弥生時代, 古墳時代	土器(縄文, 成川式), 石器, 人骨, 土師器	集石, 竪穴住居, 方形周溝, 清状遺構, 土器埋設遺構, 土坑
2	221-497	井手上B	-	志布志市有明町野井倉字井手上	台地	古代	-	-
3	221-496	上ノ段E	-	志布志市有明町野井倉字上ノ段	台地	弥生時代	-	-
4	221-492	上ノ段A	-	志布志市有明町野井倉字上ノ段	台地	弥生時代	-	-
5	221-493	上ノ段B	-	志布志市有明町野井倉字上ノ段	台地	弥生時代	-	-
6	221-495	上ノ段D	-	志布志市有明町野井倉字上ノ段, 宇中	台地	古代	土師器	-
7	221-494	上ノ段C	-	志布志市有明町野井倉字上ノ段	台地	古代	土師器	-
8	221-498	稻付	-	志布志市有明町野井倉字稻付, 下段	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	-
9	221-489	中尾	-	志布志市有明町野井倉字中尾, 西原迫	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	-
10	221-487	西原B	-	志布志市有明町野井倉字西原, 中原	台地	弥生時代, 古墳時代	土器(弥生~古墳時代), 土師器	-
11	221-484	中原	-	志布志市有明町野井倉字中原, 前原	台地	弥生時代, 古墳時代	土師器	-
12	221-403	前原	散布地	志布志市有明町野井倉字前原	台地	弥生時代	土師器	-
13	221-400	吉原	散布地	志布志市有明町野井倉字吉原	台地	弥生時代, 古代	-	-
14	221-298	金ヶ迫B	-	志布志市志布志町安楽字金ヶ迫	台地	弥生時代, 古墳時代, 古代	-	-
15	221-300	七本松B	-	志布志市志布志町安楽字七本松	台地	弥生時代	-	-
16	221-299	七本松A	-	志布志市志布志町安楽字七本松	台地	弥生時代	-	-
17	221-209	大久保B	散布地	志布志市志布志町安楽字大久保・七本松	台地	弥生時代	-	-
18	221-210	高牧	散布地	志布志市志布志町安楽字高牧	台地	弥生時代	-	-
19	221-254	金ヶ迫A	散布地	志布志市志布志町安楽字金ヶ迫・高牧	丘陵	弥生時代	-	-
20	221-401	中次A	散布地	志布志市有明町野井倉字中次	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	-
21	221-402	中次B	散布地	志布志市有明町野井倉字中次	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	-
22	221-485	東原	-	志布志市有明町野井倉字東原	台地	弥生時代, 古墳時代	土師器	-
23	221-486	西原A	-	志布志市有明町野井倉字西原, 東原	台地	弥生時代	-	-
24	221-488	上原	-	志布志市有明町野井倉字上原, 東原, 西原	台地	弥生時代, 古墳時代	土器(弥生~古墳時代), 土師器	-
25	221-365	上原A	散布地	志布志市有明町野井倉字上原, 西原	台地	弥生時代, 古墳時代	土器(弥生~古墳時代)	-
26	221-499	下段	-	志布志市有明町野井倉字下段	台地	弥生時代, 古墳時代	土器(古墳時代)	土坑
27	221-500	和田上	-	志布志市有明町野井倉字和田上, 下段	台地	旧石器時代, 縄文時代早期, 弥生時代, 古墳時代	細石刃, 細石核, 土器(縄文時代)	-
28	221-394	禪宗好善寺跡	社寺跡	志布志市有明町蓬原字神領	台地	中世, 近世	-	相輪, 五輪塔, 無縫塔
29	221-380	金丸城跡	城館跡	志布志市有明町蓬原字神領	丘陵	中世	-	複郭・空堀150m×200m
30	221-393	真言宗懇持院跡	社寺跡	志布志市有明町蓬原字出水, 神領	平地	中世, 近世	-	五輪塔, 板碑, 墓碑
31	221-392	蓬原城跡	城館跡	志布志市有明町蓬原字出水, 神領	台地	古代	-	堀, 空堀, 土塁
32	221-350	大園A	散布地	志布志市有明町蓬原字大園, 上大園, 小松	台地	縄文時代後期, 弥生時代中期, 古墳時代	土器(縄文~古墳時代), 石器	-
33	221-501	大園B	-	志布志市有明町蓬原字大園, 井手ノ上	台地	古墳時代	-	-
34	221-507	牧ノ上A	-	志布志市有明町蓬原字牧ノ上	台地	縄文時代早期, 古墳時代	土器(縄文, 古墳時代), 石器	-
35	221-406	牧	散布地	志布志市有明町蓬原字牧, 外堀	台地	旧石器時代, 縄文時代早期, 縄文時代晚期, 弥生時代中期, 古墳時代, 近世	剥片, 石器, 土器(縄文~古墳時代), 火打石, 薩摩焼, 陶磁器	竪穴住居, 古道, 溝(道路状遺構), 土坑, 柱穴, 柱列, 掘立柱建物, 集石, 土坑
36	221-367	仕明	集落跡	志布志市有明町蓬原字仕明, 宮ノ前, 大園, 牧	台地	旧石器時代, 縄文時代早期, 縄文時代前期, 弥生時代中期, 古墳時代, 古代, 中世, 近世	マイクロコア, 剥片, 石器, 土器(縄文~古墳時代), 土師器, 須恵器, 石鍬, 石包丁製塙土器, 馬具, 刀子, 合子, 青磁白磁, 染付, 温石, 薩摩焼, 陶磁器	竪穴住居, 土坑, 掘立柱建物跡, 土塙墓, 道路状遺構, 清, 柱列
37	221-370	片平古墳	古墳	志布志市有明町蓬原字仕明, 逆水	平地	古墳時代	-	-
38	221-381	片平城跡	城館跡	志布志市有明町蓬原字下水流, 仕明	丘陵	古代, 古代平安	-	-

番号	遺跡番号	遺跡名	種別	所在地	地形	時代	遺物	遺構等
39	221-354	下水流	散布地	志布志市有明町蓬原字下水流, 宮ノ前	台地	弥生時代後期～終末, 古墳時代	-	-
40	221-405	上苑	集落跡	志布志市有明町野井倉字上苑, 高吉	台地	縄文時代早期, 縄文時代晚期, 弥生時代初頭～前期, 古墳時代	土器(縄文～古墳時代)	集石, 柱穴, 土坑, 壓穴住居, 壓穴状土坑, 掘立柱建物跡
41	221-313	高吉	散布地	志布志市有明町野井倉字高吉, 前田, 下段	台地	縄文時代中期, 縄文時代晚期, 弥生時代	石皿	-
42	221-391	下段B	散布地	志布志市有明町野井倉字下段, 東	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	-
43	221-463	下段A	散布地	志布志市有明町野井倉字下段	台地	古代	土師器	-
44	221-462	上苑B	散布地	志布志市有明町野井倉字上苑, 下段, 上苑下	台地	古代	土師器	-
45	221-390	下段C	散布地	志布志市有明町野井倉字下段, 東	台地	縄文時代中期, 縄文時代晚期, 弥生時代	土器(縄文～弥生時代), 打製石斧, 石鎌	-
46	221-388	東	散布地	志布志市有明町野井倉字東, 下段	台地	弥生時代	土器(弥生時代)	-
47	221-301	二重掘B	-	志布志市志布志町安楽字二重堀	-	-	-	-
48	221-211	二重堀A	散布地	志布志市志布志町安楽字二重堀	-	-	-	-
49	221-389	横堀	散布地	志布志市有明町野井倉字横堀, 下段	台地	縄文時代早期, 弥生時代, 古墳時代, 古代	土器(縄文時代), 土師器, 石器, 耳栓, 土製円盤	連穴土坑, 集石
50	221-242	水神松	散布地	志布志市志布志町安楽字水神松・三郎丸・小井出手	平地	古墳時代	-	-
51	221-284	安楽小牧A	-	志布志市志布志町安楽字小牧	台地	縄文時代, 縄文時代 早期	-	-
52	221-235	小牧古墳群	古墳	布志市志布志町安楽5973-10字小牧	台地	古墳時代	-	-
53	221-385	次五	散布地	志布志市有明町野井倉字次五、横堀	台地	古代	-	-
54	221-461	基堀	散布地	志布志市有明町野井倉字基堀, 上苑上	台地	弥生時代	土器, 石器	落とし穴, 集石
55	221-460	上苑上	散布地	志布志市有明町野井倉字上苑上	台地	古代	土師器	-
56	221-466	上苑A	散布地	志布志市有明町野井倉字上苑, 上苑下, 田尾	台地	縄文時代前期, 縄文時代晚期, 弥生時代中期, 古墳時代, 古代, 中世	土器(縄文～古墳時代), 土師器, 須恵器, 青磁, 染付, 薩摩焼	堅穴住居, 土坑, 溝状遺構
57	221-458	木森	散布地	志布志市有明町野井倉字木森, 田尾	台地	縄文時代, 中世	土器(縄文～古墳), 土師器, 須恵器	集石, 連穴土坑, 掘立柱建物跡, ピット列
58	221-465	田尾下	散布地	志布志市有明町野井倉字田尾下	台地	古代	土師器	-
59	221-464	中牟田	散布地	志布志市有明町蓬原字中牟田, 春日堀	平地	古墳時代, 古代	土器(古墳時代), 土師器, 須恵器	堅穴住居
60	221-509	牧ノ上B	-	志布志市有明町蓬原字牧ノ上	台地	古墳時代	-	-
61	221-423	春日堀	散布地	志布志市有明町蓬原字春日堀	台地	縄文時代, 古墳時代	土器(縄文～弥生時代), 土師器, 須恵器, 染付, 青磁, トロットロ石器	堅穴住居, 連穴土坑, 土坑, 集石
62	468-71	清水ノ上	散布地	曾於郡大崎町菱田清水ノ上	台地	古墳時代	-	-
63	468-132	竹安	-	曾於郡大崎町菱田竹安	平地	古墳時代, 中世	-	-
64	221-384	平B	散布地	志布志市有明町野井倉字平, 古川	台地	古代, 中世	土師器, 青磁	-
65	221-383	大代	散布地	志布志市有明町野井倉字大代, 鎌迫, 大森, 平	台地	縄文時代, 古代	土器, 土師器	-
66	221-459	鎌迫	散布地	志布志市有明町野井倉字鎌迫, 上苑上	台地	弥生時代	土器	-
67	221-457	坂上	散布地	志布志市有明町野井倉字坂上, 大代	台地	古代	土師器	-
68	221-427	平A	散布地	志布志市有明町野井倉字平, 下戸	台地	古墳時代	-	-
69	221-395	禪宗仏心院跡	社寺跡	志布志市有明町野井倉字通山	平地	近世	-	無縫塔, 一字一石塔, 墓碑
70	221-348	松原	散布地	志布志市有明町野井倉字松原、上ノ浜	海岸	弥生時代, 弥生時代 中期, 弥生時代 後期～終末	-	-
71	221-456	塩入	散布地	志布志市有明町野井倉字塩入, 押山, 山添, 川原	台地	弥生時代, 古墳時代	土師器	-
72	468-74	菱田和田	散布地	曾於郡大崎町菱田和田	台地	古墳時代	-	-
73	468-40	地応寺	地下式 横穴墓	曾於郡大崎町菱田地応寺	台地	古墳時代, 古代	-	-
74	468-131	諏訪上B	-	曾於郡大崎町菱田諏訪上・胡摩園・天神園	台地	-	-	-
75	468-73	諏訪上A	散布地	曾於郡大崎町菱田諏訪上	台地	古墳時代	-	-
76	468-16	稻荷堀(飯隈 遺跡群)	散布地	曾於郡大崎町神領稻荷堀	台地	弥生時代, 古墳時代	-	-
77	468-60	高尾B	散布地	曾於郡大崎町神領高尾	台地	古墳時代	-	-
78	468-12	高尾A	散布地	曾於郡大崎町神領高尾・蓑田馬見岡	海岸	縄文時代後期	-	-

第2表 志布志IC～鹿屋串良JCT間の遺跡

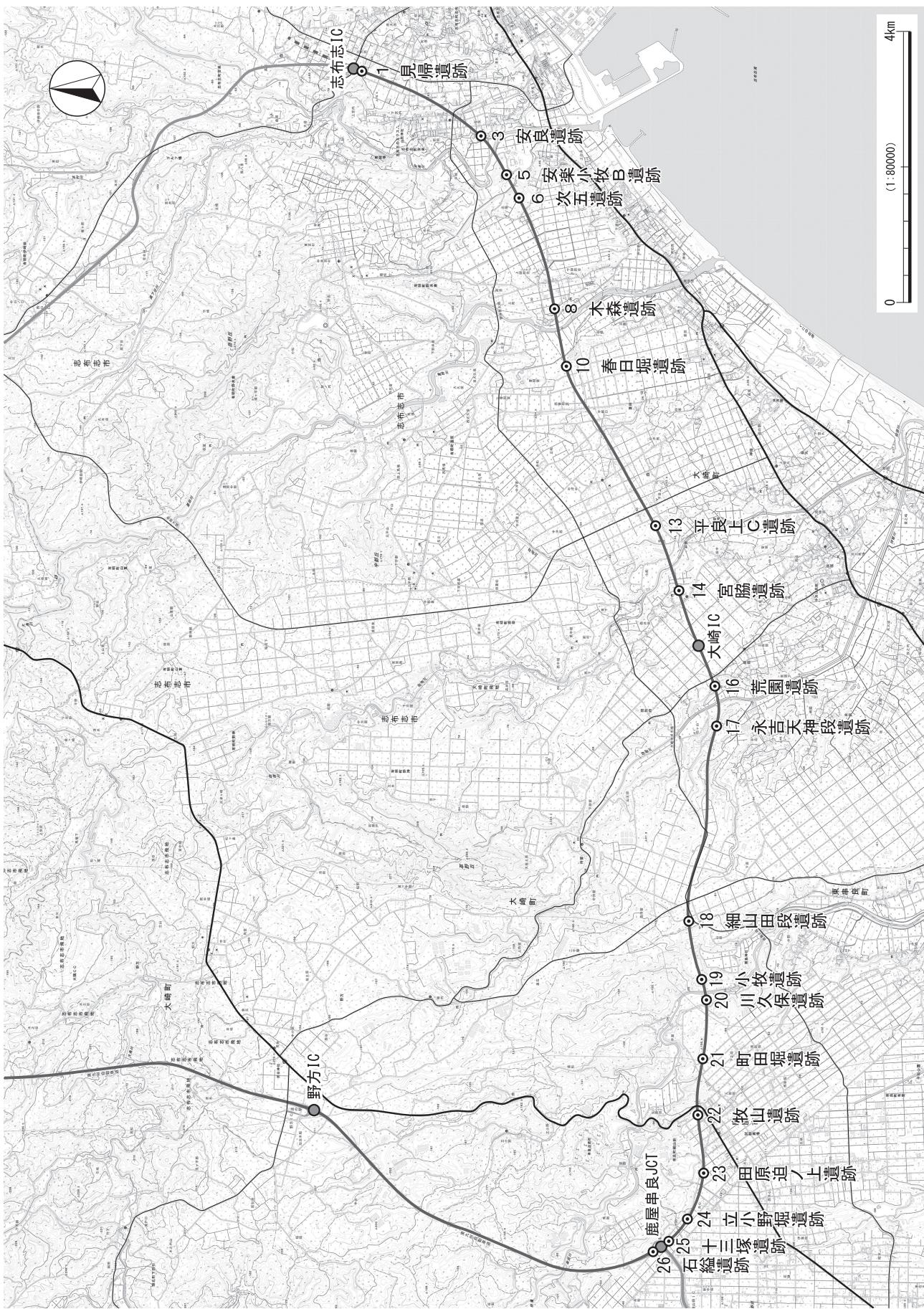
番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書作成作業	遺跡の概要				
					時代・時期	主な遺構	主な遺物		
1 見帰	志布志市 志布志町 志布志 台地上 標高約70m	H28年度 終了 ※H25・30年 度に埋文セン ター調査(隣 接地)	H30年度 刊行 R2年度 隣接地刊行		旧石器	—	ナイフ形石器、細石刃、使用痕剥片、磨石、叩石、台石		
					縄文早期	土坑、集石	吉田式、石坂式、押型文、下剥峯式、縄文系土器、石鏃、磨石、叩石、石核		
					縄文中期	落とし穴、土坑	石鏃、石皿		
					縄文後期	溝状遺構	岩崎上層式、丸尾式、辛川式、納屋向タイプ、西平式、中岳II式、石匙、石錐、打製石斧、磨石、敲石、石錘		
					弥生	—	突蒂文、高付式		
					その他の時代	土坑、溝状遺構	薩摩焼、染付		
					旧石器時代から近世までの複合遺跡であり、主体となるのは縄文時代後期である。赤色顔料を塗布した台付皿形土器が出土し、溝状遺構から出土した丸尾式土器・西平式土器などの一括資料は後期後半の共伴関係をみるうえで貴重である。				
2 宮ノ上	志布志市 志布志町 安楽 台地上 標高約45m	文化財課の試掘調査により、本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため、本調査を実施せず。							
3 安良	志布志市 志布志町 安楽 台地上 標高約30m	H28年度 H29年度 終了	H30年度 R1年度 刊行		縄文早期	集石	前平式、小牧3Aタイプ、轟A式		
					縄文中期	—	大平式、阿高式		
					縄文後・晩期	土坑	丸尾式、西平系、組織痕土器、石鏃、スクレイパー、打製石斧、磨石、石錘、丸玉		
					弥生中期	土坑	入来II式、山ノ口II式、磨製石鏃		
					古墳時代	地下式横穴墓、溝状遺構	笛貫式、須恵器、鐵鏃、鐵鐸、		
					古代～中世	掘立柱建物跡、豎穴建物跡、土坑、溝状遺構、帶状硬化面、礫集積遺構	土師器、須恵器、國產陶器、力ムイヤキ、瓦器、輸入陶磁器、滑石製石鍋、鉄関連遺物、錢貨、炭化米塊		
					近世	土坑、帶状硬化面	薩摩焼、肥前系陶器、瀬戸系陶器、錢貨、鐵製品		
縄文時代から近世までの複合遺跡であり、中世前半の炭化米塊は県内最古の事例として注目される。									
4 水神松	志布志市 志布志町 安楽 安楽川左岸 標高約3m	文化財課の試掘調査により、本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため、本調査を実施せず。							
5 安樂小牧B	志布志市 志布志町 安樂 台地上 標高約50m	H27年度 H28年度 終了	H30年度 R1年度 刊行		旧石器	—	ナイフ形石器、細石刃核、細石刃		
					縄文草創期	集石	土器片、黒曜石剥片、磨石、敲石、石皿		
					縄文早期	集石	加栗山式、札ノ元VII類、倉園B式、石坂式、下剥峯式、桑ノ丸式、押型文、平柄式、塞ノ神式、耳栓、石鏃、石匙、石錐、石核、磨製石斧、礫石器、異形石器		
					弥生	—	入来II式		
					古代～近世	溝状遺構、帶状硬化面	土師器、須恵器、青磁、薩摩焼、染付、土製品、鐵製品、寛永通宝		
起伏のある地形に立地し、縄文時代早期を中心に旧石器時代、縄文時代草創期も出土した複合遺跡である。古墳群として遺跡登録されているが、これまでの調査では痕跡を含め古墳は確認されていない。									
6 次五	志布志市 有明町 野井倉 台地縁辺部 標高約50m	H26年度 H27年度 終了 ※志布志市教育委員会調査	H29年度 刊行 ※志布志市教育委員会刊行		旧石器	—	畦原型細石刃核、細石刃、剥片		
					縄文早期	落とし穴、連穴土坑、土坑、集石、磨石集積、配石遺構、石器製作跡、	岩本式、前平式、志風頭式、東九州系無文土器、加栗山式、小牧3Aタイプ、吉田式、岩ノ上タイプ、札ノ元VII類、倉園B式、石坂式、中原式、下剥峯式、桑ノ丸式、辻タイプ、押型文、手向山式、塞ノ神式、石鏃、スクレイパー、石核、磨製石斧、石錘、磨石・敲石類、石皿、トロトロ石器、異形石器		
					縄文前期以降	落とし穴	—		
					旧石器時代から縄文時代早期を中心とする遺跡である。旧石器時代は、細石刃文化期の遺物が出土している。縄文時代早期前葉に該当する遺構や遺物が多く確認された。特に注目されるのは被熱破碎礫が多量に出土した点である。				
7 大代	志布志市 有明町 野井倉 台地縁辺部 標高約40m	文化財課の試掘調査により、本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため、本調査を実施せず。							
8 木森	志布志市 有明町 野井倉 河岸段丘 標高約30m	H26年度 H30年度 終了	R3年度 刊行予定		縄文早期	連穴土坑、土坑、集石、土	前平式、加栗山式、下剥峯式、桑ノ丸式、押型文、石鏃、石匙、楔形石器、打製・磨製石斧、磨・敲石		
					縄文中期	—	春日式、磨製石斧		
					古代	—	須恵器		
					中世	掘立柱建物跡、ピット列、ピット	土師器、青磁、白磁、滑石製石鍋片、常滑、備前、中国陶器		
					時期不詳	土坑、不明遺構、溝状遺構	—		
縄文時代早期と中世を中心とする遺跡である。遺構では縄文時代早期の連穴土坑、土坑、集石、中世の掘立柱建物跡等が発見された。遺物は縄文時代早期の土器や石器を中心に、縄文時代中期から中世の遺物が出土している。また、鬼界カルデラ噴火による液状化現象（噴砂跡）が確認されている。									
9 田尾下	志布志市 有明町 野井倉 菱田川右岸 標高約5m	文化財課の試掘調査により、本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため、本調査を実施せず。							

番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書作成作業	遺跡の概要				
					時代・時期	主な遺構	主な遺物		
10 春日堀	志布志市有明町蓬原段丘標高約30m	H26年度H27年度H28年度(1)刊行R2年度R3年度終了H30年度R元年度(2)刊行予定			縄文早期	竪穴建物跡、連穴土坑、集石、土坑、土器集中、炭化物集中、落とし穴	前平式、加栗山式、石坂式、下剥峯式、桑ノ丸式、押型文、塞ノ神式、石鎌、削器、搔器、環状石斧、磨石・敲石類、台石・石皿類、石製品、異形石器		
					縄文後期	落とし穴、土坑	丸尾式、石器		
					弥生	竪穴建物跡	山ノ口I式		
					弥生終末期～古墳前期	竪穴建物跡、土坑、遺物集中区	弥生終末期～古墳前期の土器、鉄鎌、敲石、磨敲石、砥石、台石、磨製石剣		
					古墳終末期	竪穴建物跡、掘立柱建物跡、溝跡、遺物溜まり、地下式横穴墓、遺物集中区	笛貫式新段階、甑、須恵器、鉄鎌、青銅製品、敲石、磨敲石、砥石、軽石製品、棒状石器		
					古代	掘立柱建物跡、ピット列、焼土跡	土師器、須恵器、軽石製品、土製品		
					中世	堀跡、道跡、ピット列、竪穴建物跡、土坑墓	土師器、常滑焼、白磁、青磁		
					近世	溝跡、道跡、貝溜まり			
縄文早期から中世を中心とする遺跡である。遺構は縄文時代早期の竪穴建物跡、連穴土坑、集石、落とし穴、弥生時代の竪穴建物跡、古墳～飛鳥時代の竪穴建物跡（焼失住居跡含む）、掘立柱建物跡、溝状遺構、中世の掘立柱建物跡、堀跡が検出された。遺物は縄文時代早期の土器、石器等をはじめ、弥生時代から中・近世の遺物が出土している。また、鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象（噴砂跡）の痕跡も確認されている。									
11 牧ノ上B	志布志市有明町野井倉台地上標高約47m	文化財課の試掘調査により、本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため、本調査を実施せず。							
12 稻荷堀	曾於郡大崎町菱田台地上標高約50m	文化財課の試掘調査により、本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため、本調査を実施せず。							
13 平良上C	曾於郡大崎町井俣台地上標高約40m	H26年度H27年度終了	H27年度H28年度刊行	縄文早期	竪穴住居跡、竪穴遺構、連穴土坑、土坑、集石、土器集中、チップ集中	岩本式、加栗山式、吉田式、石坂式、中原式、下剥峯式、桑ノ丸式、押型文、平柄式、塞ノ神式、苦浜式、石鎌、石匙、石錐、削器、搔器、楔形石器、打製・磨製石斧、磨石、敲石、凹石、砥石、石錘、石核、線刻礫			
縄文時代早期を中心とする遺跡である。遺構は竪穴建物跡、連穴土坑、集石、土坑が検出されている。遺物は、縄文時代早期の土器、石鎌、石匙、打製石斧、磨製石斧等が出土している。また、鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象（噴砂跡）も確認されている。									
14 宮脇	曾於郡大崎町井俣台地上標高約40m	H27年度H28年度終了	H30年度R元年度刊行	旧石器	砾群	ナイフ形石器、三稜尖頭器、台形石器、細石刃、細石刃核、スクレイパー、搔器、使用痕剥片、磨石、叩石			
				縄文早期	集石、土坑	志風頭式、加栗山式、札ノ元VII類、小牧3Aタイプ、倉園B式、下剥峯式、桑ノ丸式、押型文、手向山式、平柄式、塞ノ神式、打製石鎌、石匙、石錐、磨製石斧、磨石、叩石、石皿、軽石製品			
				中世～近世	井戸状遺構	青磁、薩摩焼、寛永通宝			
旧石器時代・縄文時代早期を中心とする遺跡である。旧石器時代では、石器製作に関連すると考えられる石核、フレーク、チップ等が出土している。縄文時代早期では、集石、土坑、土器集中、ピットと土器、石器等が出土している。鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象の噴砂跡も確認されている。									
15 堂園堀	曾於郡大崎町井俣台地上標高約45m	文化財課の試掘調査及び埋文センターの確認調査により、本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため、本調査を実施せず。							
16 荒園	曾於郡大崎町飯宿台地縁辺部標高約50m	H24年度H25年度H26年度H30年度R元年度(1)刊行H30年度R2年度R3年度(2)刊行予定※H24年度は埋文センター調査		旧石器	—	ナイフ形石器、三稜尖頭器、細石刃、細石刃核、チップ			
				縄文早期	集石、土坑、剥片・チップ集中	前平式、下剥峯式、桑ノ丸式、押型文、手向山式、平柄式、塞ノ神式、苦浜式、無文、轟A式、石鎌、スクレイパー、石匙、耳栓、打製・磨製石斧、磨石、石皿			
				縄文前期～晩期	—	轟B式、入佐式、石鎌、打製石斧、磨石、石皿			
				弥生	竪穴建物跡、土坑	吉ヶ崎式、山ノ口式、磨製石鎌未製品、砥石			
				古墳	竪穴建物跡	布留系土器、砥石、軽石製品			
				古代以前	片葉研堀	—			
				中世以降	掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構、帶状硬化面	土師器、東播系須恵器、備前焼、陶器、青磁、華南三彩、薩摩焼			
縄文時代早期から古墳時代を中心とする遺跡である。遺構は、縄文時代早期の集石、弥生時代・古墳時代の竪穴建物跡、古代以前の片葉研堀、中世の掘立柱建物跡等が検出され、遺物は縄文時代早期の土器、石器、弥生時代・古墳時代の土器、土師器、陶器、磁器等が出土している。また、鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象（噴砂跡）も確認されている。									

番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
17 永吉天神段	曾於郡 大崎町 永吉 台地縁辺及び 河岸段丘 標高30～50m	H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 終了 ※H24年度は 埋文センター 調査	H27年度 (1・第1地点) 刊行 H28年度 (2・第2地点1) 刊行 H29年度 (3・第2地点2) 刊行 H30年度 (4・第3地点) 刊行 R元年度 (5・第2地点3) 刊行	旧石器	礫群、ブロック	尖頭器、ナイフ形石器、台形石器、剥片	
				縄文早期	集石、土器埋設遺構	前平式、加栗山式、吉田式、手向山式、下剥峯式、押型文、平格式、塞ノ神式、苦浜式、条痕文、石鎌、石匙、石斧、磨石、敲石、石皿	
				縄文前期	—	曾畠式	
				縄文後期	—	岩崎上層式、北久根山式、中岳Ⅱ式	
				縄文晩期	竪穴建物跡、落とし穴、土坑	入佐式、黒川式、刻目突帯文、管玉、打製石斧	
				弥生	竪穴建物跡、掘立柱建物跡、円形周溝墓、土坑墓群、土坑	入来式、山ノ口式、黒髪式、鉄鎌、磨製石鎌、管玉	
				古墳	竪穴建物跡、土坑	成川式、須恵器	
				古代	掘立柱建物跡、土坑	須恵器、土師器	
				中世	掘立柱建物跡、土坑墓、地下式坑、火葬土坑、土坑	白磁、青磁、土師器、瓦質土器、東播系須恵器、備前焼、常滑焼、湖州六花鏡、砥石、石塔、古銭	
				近世	近世墓	薩摩焼、染付、寛永通宝、石臼	
				時期不明	掘立柱建物跡	—	
				旧石器時代から近世までの遺跡である。弥生時代中期の円形周溝墓を頂点とする土坑墓群から、国内では最古級となる鉄鎌が出土した。中世では白磁、青磁、瓦質土器、東播系須恵器等が多量に出土した。また、地下式坑と呼ばれる中～近世の大型土坑も発見された。			
18 細山田段	鹿屋市串良町 細山田 曾於郡 大崎町 細山田 台地上 標高約95m	H25年度 H26年度 H27年度 終了	H26年度 H28年度 H30年度 R元年度 (1)刊行 R2年度 (2)刊行	縄文早期	集石、埋設土器	吉田式、石坂式、下剥峯式、桑ノ丸式、中原式、押型文、平格式、塞ノ神式、苦浜式、右京西式、石鎌、石匙、磨・敲石、石皿	
				縄文前・中期	土坑、土器集中	曾畠式、深浦式、大歳山式、鷹島式、船元式、石鎌、石匙、石錐、スクレイバー、二次加工剥片、磨石、敲石、石皿、石核、炭化種實	
				縄文後期	土坑	辛川式、丸尾式、西平式、中岳Ⅱ式、石鎌、石匙、石錐、スクレイバー、磨・敲石、打製石斧、磨製石斧、石皿	
				縄文晩期	—	入佐式、黒川式	
				弥生前期	—	高橋式	
				古墳	—	成川式	
				時期不明	溝状遺構・古道	—	
				縄文時代前期から中期初頭を中心に、縄文時代早期から近世までを含む遺跡である。縄文中期では170基を超える土坑が検出されたほか、在地系土器の深浦式土器、近畿地方の大歳山式土器や鷹島式土器、瀬戸内地方の船元式土器などが出土し、当時の遠隔地交流の一端が明らかとなった。			
19 小牧	鹿屋市 串良町 細山田 台地上 標高約60m	H27年度 H28年度 H29年度 終了	H30年度 R元年度 (1)刊行 R2年度 (2)刊行 R3年度 (3)刊行予定 作業中	旧石器	—	槍先形尖頭器、ナイフ形石器、三稜尖頭器、細石刃	
				縄文早期	竪穴建物跡、連穴土坑、土坑、集石	前平式、吉田式、石坂式、下剥峯式、桑ノ丸式、押型文、平格式、塞ノ神式、苦浜式、条痕文、石鎌、石匙、石斧、磨敲石、石皿	
				縄文前期	—	曾畠式、深浦式、磨石	
				縄文後期	竪穴建物跡、石皿立て遺構、伏甕、石斧集積遺構、集石、土坑	阿高式系、岩崎上層式、指宿式、市来式、石鎌、横刃型石器、打製石斧、磨石、石皿、大珠	
				縄文晩期	—	入佐式、黒川式、刻目突帯文	
				弥生	—	入来式、山ノ口式、高付式、須久式系統、砥石	
				古墳	竪穴建物跡、礫集積、土器溜、土坑	東原式、辻堂原式、笹貴式、布留系土器、須恵器、鉄鎌、鉄製品、敲石、勾玉、臼玉、管玉、軽石加工品	
				古代	掘立柱建物跡、焼土跡、溝状遺構、土坑	土師器、須恵器、墨書き土器、鉄器、土錘、焼塙土器、土製紡錘車	
				中世以降	掘立柱建物跡、土坑、石組遺構、溝状遺構、杭列	土師器、東播系須恵器、白磁、青磁、墨書き土器、石鍋、合子、輪羽口、刀子、鉄製紡錘車、焰烙、古銭、薩摩燒	
旧石器時代から近世までの遺跡である。縄文時代早期前半から中葉の集落、後期の石皿遺構を伴う環状構造の集落とこれらに伴う遺物が特筆される。この他、古墳時代の花弁形住居跡を伴う集落や古代・中世の掘立柱建物跡群も発見されている。周辺の遺跡を含めて串良川沿岸における人間活動の変遷を追うことができる遺跡である。							
20 川久保	鹿屋市 串良町 細山田 河岸段丘 標高30～50m	H26年度 H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 終了	H27年度 H29年度 H30年度 (1・C地点)刊行 R元年度 (2・B・D地点) 刊行 R2年度 (3・A地点) (4・A地点)刊行 R3年度 作業中	旧石器	礫群	剥片尖頭器、ナイフ形石器、歎原型細石刃核	
				縄文早期	竪穴建物跡、集石、土坑	岩本式、前平式、志風頭式、加栗山式、吉田式、倉園B式、石坂式、下剥峯式、押型文、塞ノ神式、苦浜式、轟A式、石鎌、打製石斧、石皿	
				縄文前期	集石	曾畠式、磨製石斧	
				縄文後期	—	中岳式	
				縄文晩期	集石	入佐式、黒川式、刻目突帯文	
				弥生前期	—	高橋式	
				弥生中期	竪穴建物跡	下条式、山ノ口式	
				古墳	竪穴建物跡、鍛冶関連建物跡、竪穴遺構、溝状遺構、道跡	成川式、輪羽口、高坏脚転用輪羽口、鉄鎌、鉄滓、勾玉、管玉	
				古代	掘立柱建物跡	須恵器、土師器	
				中世	掘立柱建物跡、溝状遺構、道跡	青磁、白磁、瓦器椀	
旧石器時代から中世までの遺跡である。特に古墳時代では、集落を構成する多数の竪穴建物跡や鍛冶関連遺物を伴う遺構が発見されているほか、専用の輪羽口も出土している。古墳時代の鉄製品の生産過程を明らかにする良好な資料である。							

番号	遺跡名	所在地・立地	発掘調査	整理・報告書作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
21 町田堀	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約90m	H25年度 H26年度 H27年度 H28年度 終了	H27年度 (1)刊行 H29年度 (2)刊行		縄文早期	集石	下剥峯式, 平格式
					縄文後期	竪穴建物跡, 埋設土器, 落とし穴, 土坑, 石斧集積遺構	中岳II式, 石刀, 石鎌, 打製・磨製石斧, ヒスイ製垂飾, 小玉, 勾玉, 管玉
					縄文晩期	—	黒川式, 刻目突帯文
					弥生中期	竪穴建物跡	入佐式, 山ノ口式, 土製勾玉
					古墳	竪穴建物跡, 地下式横穴墓, 円形周溝墓, 溝状遺構	成川式, 人骨, 鉄劍, 鉄鎌, 刀子, ヤリ鉢, 異形石器
					古代	焼土跡, 道跡	土師器, 須恵器
縄文時代早期から古代までの遺跡である。古墳時代の地下式横穴墓が92基発見され, 円形周溝を伴う例も初めて確認されている。立小野堀遺跡や下堀遺跡等と類似性が想定され, 高塙墳と共存する志布志湾沿岸部の地下式横穴墓との比較が可能になり, 大隅半島の古墳時代像解明に必須の遺跡である。このほか, 縄文時代後期の竪穴建物跡から, 檻原文を施す完全な石刀が出土している。							
22 牧山	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約110m	H25年度 H26年度 H27年度 H28年度 R1年度 終了	H28年度 (1)刊行 H30年度 R2年度 (2)刊行 R2年度 R3年度 (3)刊行予定		旧石器	—	剥片
					縄文早期	竪穴建物跡, 連穴土坑, 土坑, 集石, 石器製作跡	吉田式, 石坂式, 下剥峯式, 桑ノ丸式, 押型文, 石鎌, 石匙, スクレイパー, 磨石
					縄文前期	埋設土器(轟式)	轟B式, 条痕文
					縄文後期	土坑, 落とし穴状遺構, 挖立柱建物跡, ピット, 埋設土器, 石器集中部	市来式, 丸尾式, 納屋向式, 納曾式, 西平式, 辛川II式, 太郎迫式, 中岳II式, 打製・磨製石斧, 磨敲石, 剥片, 石核, 石皿, 石冠
					縄文晩期	—	入佐式, 黒川式, 刻目突帯文
					弥生中期	竪穴建物跡, 挖立柱建物跡, 土坑	入来式, 山ノ口式, 打製・磨製石斧, 磨製・打製石鎌, 磨石, 敲石, 石皿, 青銅鑿
					中・近世	古道跡	青磁, 白磁, 薩摩燒
旧石器時代から中世にかけての遺跡である。特に, 縄文時代後期の建物跡を構成していた可能性のある柱穴群が環状に発見されており注目される。また, 同時期のものと考えられる複数の埋設土器と石冠が1点出土している。弥生時代中期の青銅製鑿の出土も特筆される。							
23 田原迫ノ上	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約120m	H22年度 H23年度 H24年度 H25年度 H26年度 H28年度 H30年度 終了 ※H22~24 は埋文セン タ一調査	H26年度 (1)刊行 H27年度 R1年度 R3年度 (3)刊行予定 ※H23~24 は埋文セン タ一作業		縄文早期	竪穴建物跡, 連穴土坑, 集石, 落とし穴, 土坑, 石器製作跡	前平式, 吉田式, 倉園B式, 石坂式, 下剥峯式, 辻タイプ, 桑ノ丸式, 中原式, 押型文, 手向山式, 平格式, 塞ノ神式, 石槍, 石鎌, 石匙, 磨石, 敲石, 石皿, 打製石斧
					縄文後期	落とし穴, 積集積	指宿式, 市来式, 石鎌, 磨石
					縄文晩期	—	黒川式
					弥生中期	竪穴建物跡, 大型建物跡, 挖立柱建物跡, 円形・方形周溝	山ノ口式・中溝式, 擬凹線文系壺, 土製勾玉, 鉄器, 磨製石鎌, 石匙, 砥石, 敲石, 台石
					古墳時代以降	溝状遺構, 狹穴遺構	土師器碗, 薩摩燒
					縄文時代早期から弥生時代中期を中心とした遺跡である。弥生時代中期では, ベッド状遺構を伴う方形・円形の大型竪穴住居跡, 棟持柱をもつ掘立柱建物跡2棟を含む建物跡群, 柱穴列や円形・方形の周溝などが検出されており, 大隅半島中央部における当該期の集落の様相を知る上で貴重な遺跡である。このほか, 縄文時代早期の竪穴住居跡, 連穴土坑などの遺構が多数発見されていることも注目される。		
24 立小野堀	鹿屋市 串良町 細山田 台地縁辺部 標高約125m	H22年度 H23年度 H24年度 H26年度 H30年度 終了 ※H22~24 は埋文セン タ一調査	H24~27年 度 H28年度 (1)刊行 R3年度 (2)刊行予定 ※H24は埋文 センタ一作業		縄文前・中期	—	深浦式
					縄文後期	—	指宿式, 市来式, 西平式
					弥生中期	—	山ノ口式
					古墳	地下式横穴墓, 土坑墓, 溝状遺構	成川式, 須恵器, 鉄器(刀・劍・槍・鉾・刀子・鎌等), 青銅鈴, 人骨
					時期不詳	溝状遺構	—
縄文時代前期から古墳時代までの遺跡である。特筆すべきは, 古墳時代の地下式横穴墓が約200基発見されたことである。玄室内には鉄鎌や鉄劍等の鉄器, 青銅製鎗等の副葬品と人骨が多数残っていたほか, 墓周辺から多量の土器や須恵器が出土した。青銅製鎗をはじめ, 多種多様な副葬品を伴った地下式横穴墓群の発見は, 南九州の古墳時代墓制の様相全體を解明していく上で貴重な資料である。							
25 十三塚	鹿屋市 串良町 細山田 台地上 標高約140m	H20年度 H21年度 終了 ※埋文セン タ一調査	H22年度 刊行 ※埋文セン タ一作業		縄文早期	—	石坂式
					縄文後期	—	凹線文, 市来式,
					縄文晩期	—	黒川式, 三万田式
					弥生中期	竪穴建物跡, 挖立柱建物跡, 土坑	山ノ口式, 土製勾玉, 打製・磨製石鎌, 磨石, 敲石, 砥石, 棒状敲具, 鉄鎌
					古墳	—	成川式
					中世~近世	道路状遺構	加治木錢
弥生時代中期を中心とする遺跡である。花弁形・方形・円形を呈する竪穴建物跡が発見された。出土遺物等から, 王子遺跡や前畠遺跡等と同時期の集落跡と考えられる。また, 集石が竪穴建物跡内から発見されている。7号住居跡の埋土内から, 松木蘭遺跡や永吉天神段遺跡から出土した鉄鎌と類似する無茎の鉄鎌が出土した。							
26 石縊	鹿屋市 串良町 細山田 台地上 標高約140m	H20年度 H21年度 終了 ※埋文セン タ一調査	H22年度 刊行 ※埋文セン タ一作業		縄文早期	集石, 土坑	岩本式, 前平式, 志風頭式, 石坂式, 平格式, 貝殻条痕文土器, 打製石鎌, 磨石, 敲石
					弥生中期	—	山ノ口式, 須恵式
縄文時代早期前半から早期末を中心とする遺跡である。鎌石橋式土器1個体と轟A式土器が2個体出土し, 兩型式が同時期に存在した可能性を示唆する遺跡である。							

第2図 東九州自動車道関連遺跡位置図



第Ⅲ章 調査の方法と層序

第1節 調査の方法

ここでは、発掘調査の方法、遺構の認定と検出方法等、整理・報告書作成作業の方法について簡潔に述べる。

1 発掘調査の方法

木森遺跡の発掘調査は、平成12年度、平成14年度、平成15年度に分布調査、平成25年度に確認調査、平成26年度と平成30年度に本調査を実施した。調査対象表面積は6,400m²、調査対象延面積は10,830m²であった。

調査区割り（グリッド）は、工事用基準杭のSTA44（X= -170189.773, Y=4682.681）とSTA45（X= -170211.002, Y=4584.960）の延長線を中心に、10m間隔で西側から東側に向かって1, 2, 3・・・、北側から南側に向かってA, B, C・・・と設定した。このグリッドを基にして、遺構・遺物の測量作業を行うこととした。また、トータルステーションで測量作業を行う場合、測量座標はA-1区の左下を原点（0, 0）とし、縦軸をX、横軸をYとした。

発掘調査は、基本的に重機で表土から遺物包含層上面まで除去した後、確認調査の結果に基づき、遺物包含層については人力で掘り下げを行った。無遺物層、火山灰の硬化面については、一部重機を用いて慎重に掘り下げた。遺構については、移植ごて等の遺構調査に適した道具を用いて慎重に調査し、実測や写真撮影等を行った。遺構は検出の度写真撮影、掘り下げ、実測を行った。なお、遺構の規模等に応じて図の縮尺は1/10～1/20で記録している。遺物については、トータルステーションを用いて取り上げを行った。地形測量は、V層上面、VII層、Xa層で行った。

各年度の発掘調査の方法等は、以下のとおりである。

（1）平成26年度

平成26年5月7日から7月28日までの期間に、表面積2,290m²、延べ面積3,430m²を対象として本調査を行った。

D～F-11～15区を第1調査区、B-5～15区を第2調査区とし、調査区の南北と東西方向に十字の土層観察用ベルトを設定し、第2調査区から調査を開始した。調査の結果、無遺物層の掘削中に、II層の黒色土を埋土とする掘立柱建物跡が発見されたため、遺物包含層として追加した。また、新に御池火山灰を含む層と縄文時代早期の遺物包含層の直上に堆積する砂層を、基本土層に追加した。調査終了後埋め戻しを行い、排水対策や安全対策等を施した。

（2）平成30年度

平成30年5月14日から平成30年9月7日の期間に表面積4,110m²、延べ面積7,400m²を対象に本調査を実施した。調査区割りについては、前年度のものを踏襲した。

調査は、用地境界などでは安全上の措置として通常50cm程度、道路に隣接する部分では1m程度内側に控えて調査範囲を設定するが、本遺跡においては国土交通省との協議により、工事工法上の理由により南北用地境界の一部は傾斜掘削を考慮した2～3m程度の安全控え、崖部にあたる西側部分は、4～5mの安全控えを設定し、グリッドを設定して実施した。

B-2～5区をA区、C～F-3・4区をB区、B～F-5～11区をC区、B～E-11～15区をD区とし、A・B区より調査を開始した。XII層上面まで包含層の有無を確認しながら掘り下げ、埋め戻しや排水対策、安全対策を施し、本遺跡の本調査の全てを終了した。

2 遺構の認定と検出方法

本遺跡で検出された遺構の認定と検出方法については以下のとおりである。

（1）遺構の認定・分類・時期判断

本報告書掲載の遺構は、検出面・埋土状況や色調・規模等を基に発掘調査担当者間で検討し、認定及び時期判断を行った。主な遺構の認定及び時期判断は、以下のとおりである。

土坑については、埋土や形状、遺物の出土など複合的に検討し、分類・認定・時期判断を行った。ただし、検出面が該当時期の地層よりもかなり下位層で検出されたものもあるが、埋土の堆積状況や色調・遺構内（埋土中のものも含む）遺物等から複合的に検証し、時期判断を行った。

集石については、時期を問わず概ね5個以上の礫が集中したものを集石と認定した。時期については、検出面や集石内外の出土遺物の種類等で複合的に検討し、判断した。詳細については、第IV章で述べる。

（2）遺構の検出方法

本報告書掲載の遺構の検出については、各年度とも共通の調査方法として、当時の掘り込み面に限りなく近い位置での検出を目指して調査を進めたが、判別のしやすい地層上面での検出が多くなったのは否めない。

調査中及び終了後、遺構の検出層や埋土状況、土層断面等の情報から形成時期や性格等の検討を行った。

3 整理・報告書作成作業の方法

図面整理は遺物出土分布図、土層断面図、地形測量図等に区分し、さらに遺構実測図は種類別に仕分けを行い、台帳や遺物との照合及び再確認を行った。

注記は遺跡名を表す「KM」を頭に、包含層出土遺物は続けて「区」・「層」・「取上番号」もしくは「一括」を併せて記入した。また、遺構内出土遺物には「遺構名」・「取上番号」の順で記入した。

4 出土遺物の分類

土器等は、遺構内出土遺物と包含層出土遺物に分け、包含層出土遺物については出土層位ごとに分類した。その後、土器の文様や胎土等で分類・接合を行った。報告書掲載遺物を選別し、補強・復元を行った後、実測・拓本・トレース・レイアウトを行った。石器は、遺構内出土遺物と包含層出土遺物に分け、包含層出土遺物については出土層位ごとに剥片石器と礫石器に分けた後、器種及び石材別に分類した。一部は接合も行った。報告書掲載遺物を選別し、実測・トレース・レイアウトを行った。

遺物出土分布図は、トータルステーションで取り上げたデータを統合し、図化ソフトを使用して作成した。

遺構図は、点検・修正後、掲載縮尺を決定し、トレースを行った。遺構配置図・地形図・土層断面図は、点検・修正後、デジタルトレースを行った。

第2節 層序

木森遺跡の基本層序は以下のとおりである。

I層	：表土	35cm
IIa層	：黒色土 軽石混じり 中世の遺物包含層	10cm
IIb層	：黒色土 軟質	10cm
III層	：暗褐色土 黄褐色パミス(御池火山灰含む)	15cm
IV層	：黒褐色土	10cm
V層	：黒褐色土 池田降下軽石混じりの層	10cm
VI層	：暗褐色土 黄白色パミスを含む層	5 cm
VIIa層	：黄褐色土 アカホヤ火山灰二次堆積土	20cm
VIIb層	：褐色土 アカホヤ火山灰層	5 cm
VIIc層	：灰褐色砂質土 噴砂層(鬼海カルデラ爆発に伴う)	10cm
VIII層	：黒褐色硬質土 繩文時代早期包含層	30cm
IXa層	：暗褐色硬質土	10cm
IXb層	：暗褐色硬質土 やや明るい	10cm
Xa層	：黄褐色硬質土 P14薩摩火山灰層	20cm
Xb層	：黄褐色土 P14薩摩火山灰層	15cm
XIa層	：暗褐色粘質土	10cm
XIb層	：茶褐色粘質土 いわゆるチョコ層	20cm
XIc層	：黄褐色粘質土	10cm
XII層	：旧菱田川河床礫層	25cm

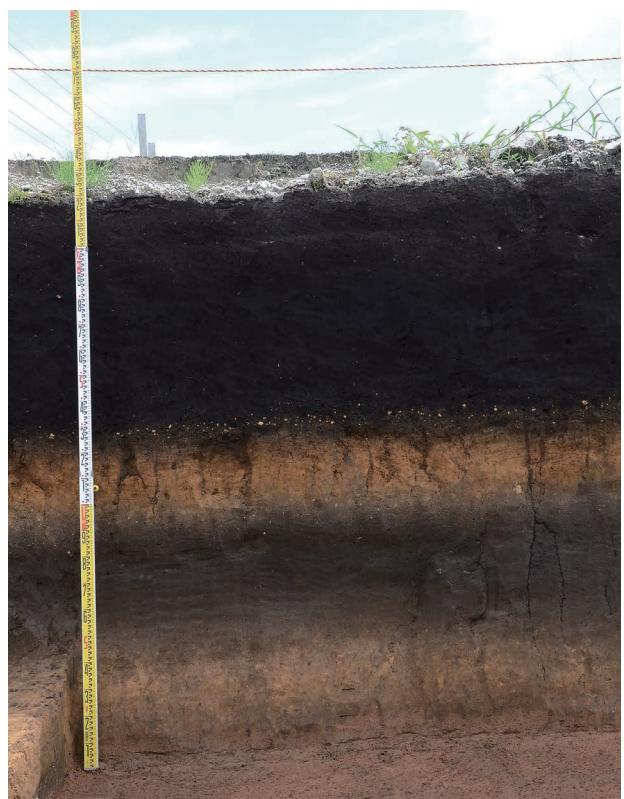
※ IX層はIXa・IX b層に明確に分層できない場所があったので、その場合はIX層とした。

※ 火山灰の年代については、町田洋 新井房夫著2003『新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺－』(P108～110)から引用した。なお、年代は放射性炭素年代測定法で算出され、歴年較正した年代である。

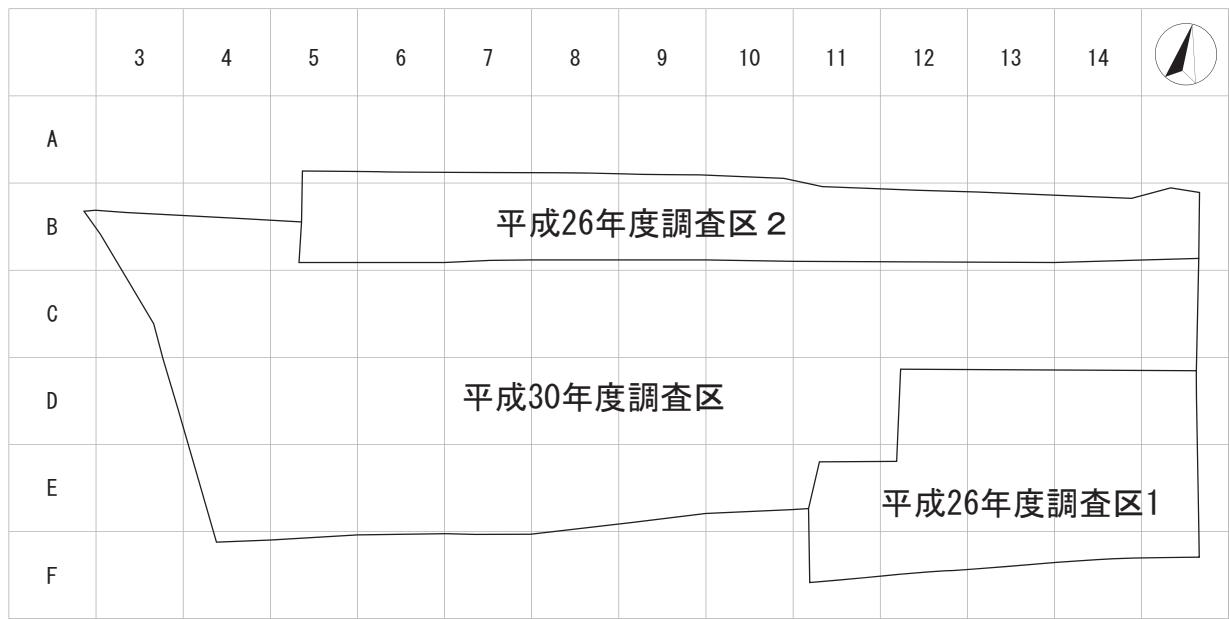
【噴砂について】

東九州自動車道建設に伴う発掘調査では、本遺跡をはじめ、春日堀遺跡・平良上C遺跡・宮脇遺跡・荒園遺跡・永吉天神段遺跡・川久保遺跡などで約7,300年前の鬼界カルデラの爆発に伴うと考えられる液状化現象（噴砂）跡が発見されている。

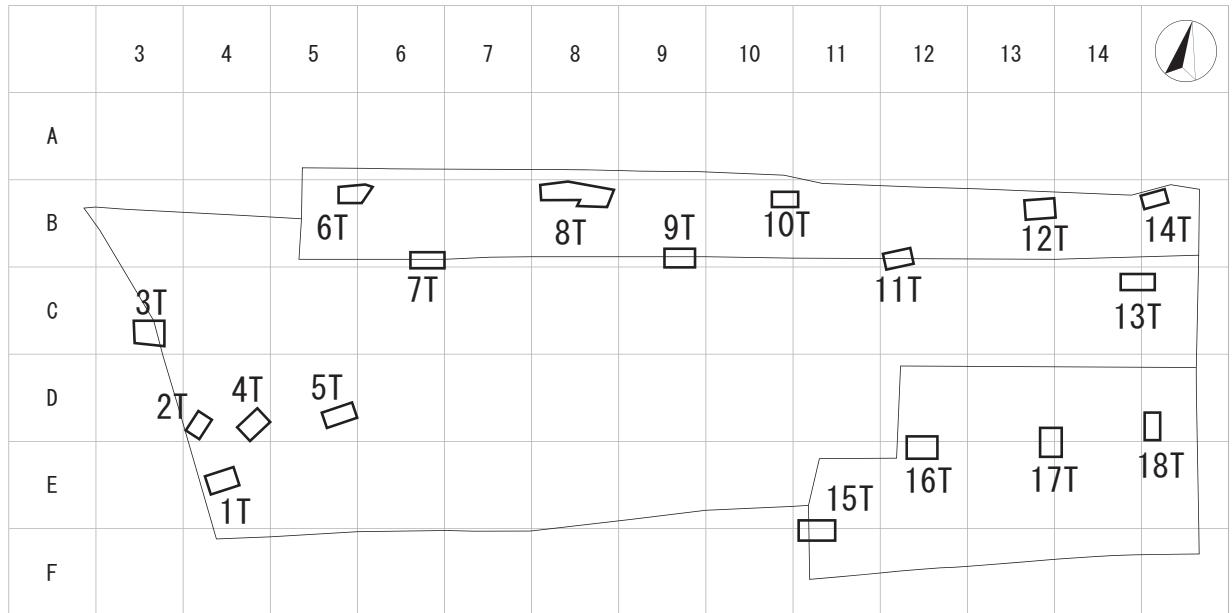
本遺跡では、アカホヤ火山灰層直下に噴砂が堆積する。成尾英仁鹿児島県考古学会会員によると、噴砂層の上部はアカホヤ火山灰と混在しており、噴砂をもたらした液状化現象の発生はアカホヤ火山灰堆積時であったことを示しており、本遺跡南部に位置する大崎町内の遺跡では、噴砂はアカホヤ火山灰層中に認められるが、本遺跡ではアカホヤ火山灰層に直接覆われ、間に挟まれることはない。このような噴砂の状況は対岸の春日堀遺跡でも同様であると述べられている。このような相違が生じた原因については幸屋火山灰降下軽石層や噴砂現象の規模が関係していると推定されるが、詳細は今後の課題である。



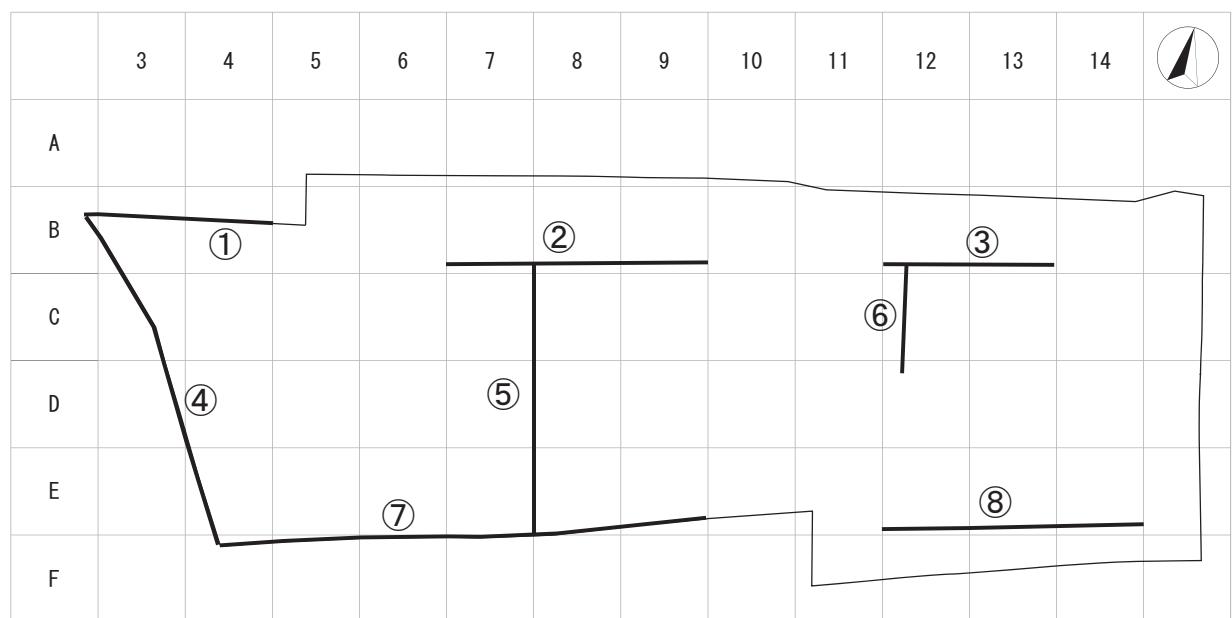
木森遺跡基本層序



第3図 年度別調査範囲 (1グリッド=10m)

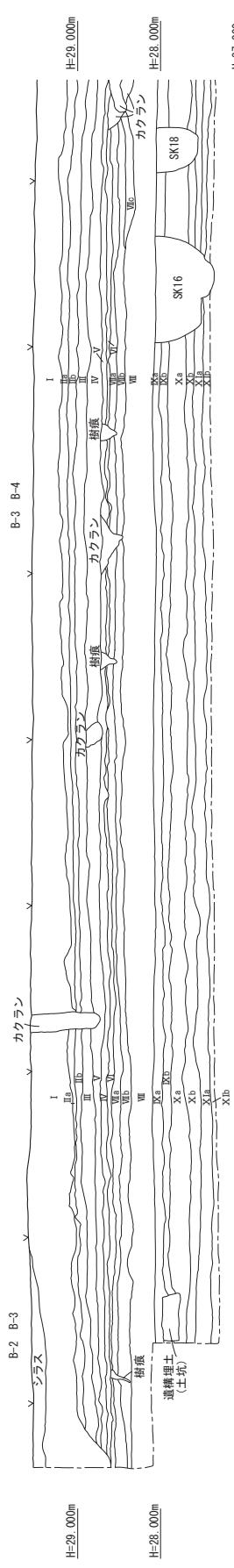


第4図 確認調査トレンチ位置図 (1グリッド=10m)

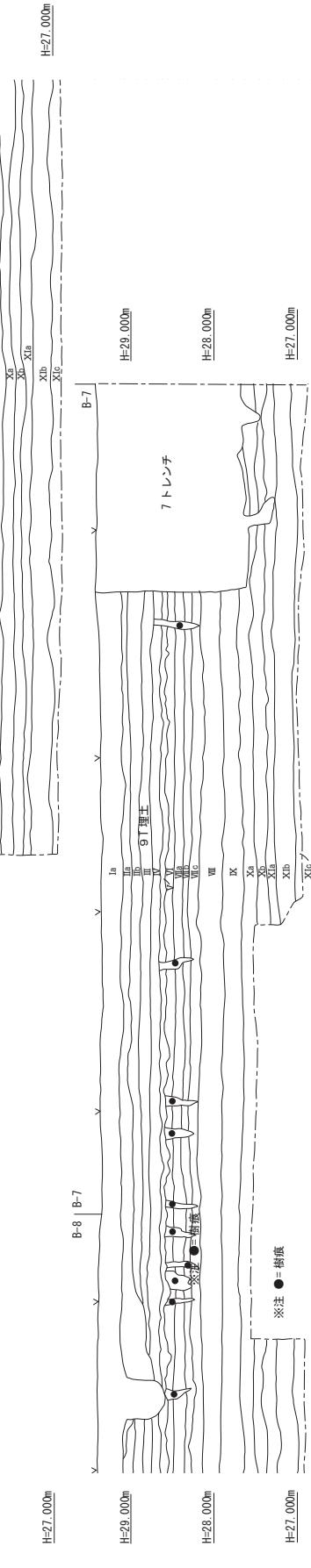
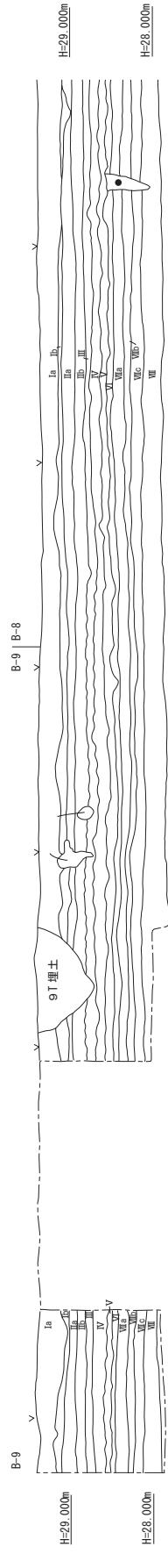


第5図 土層断面位置図 (1グリッド=10m)

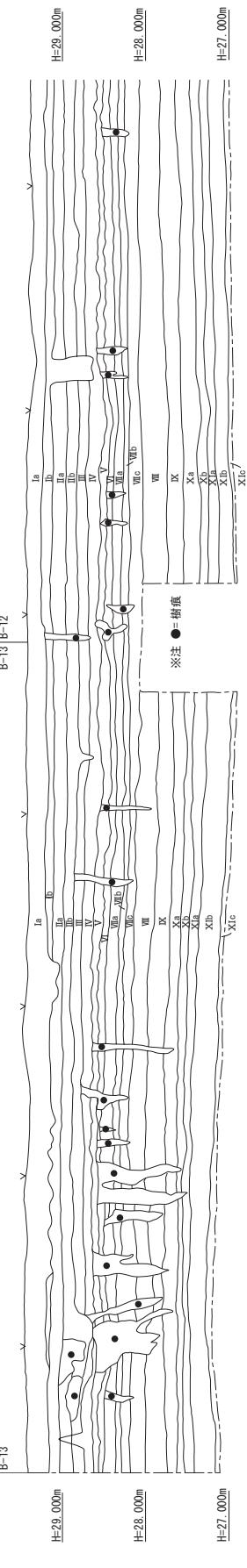
①B2～B5 グリッド北壁土層断面図



②B7～B9 グリッド南壁土層断面図

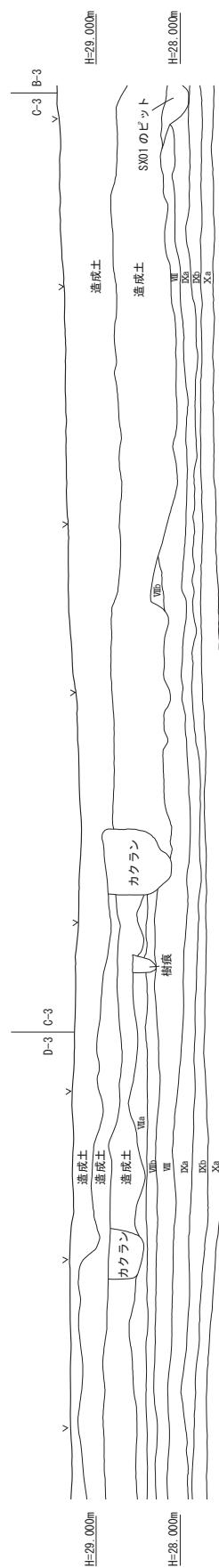
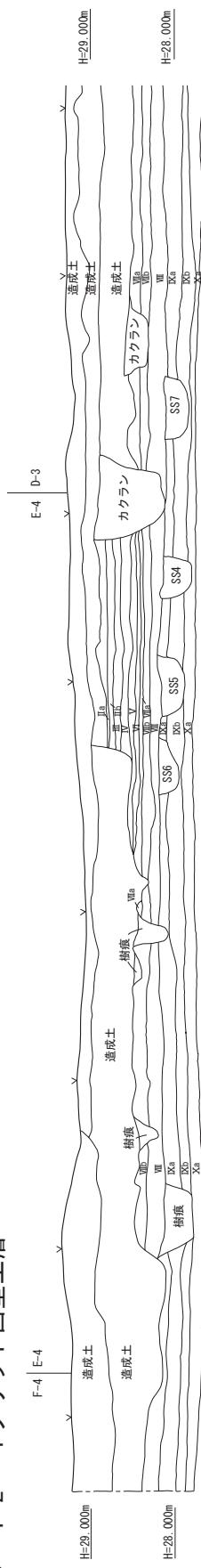


③B12～B13 グリッド南壁土層断面図 (1)

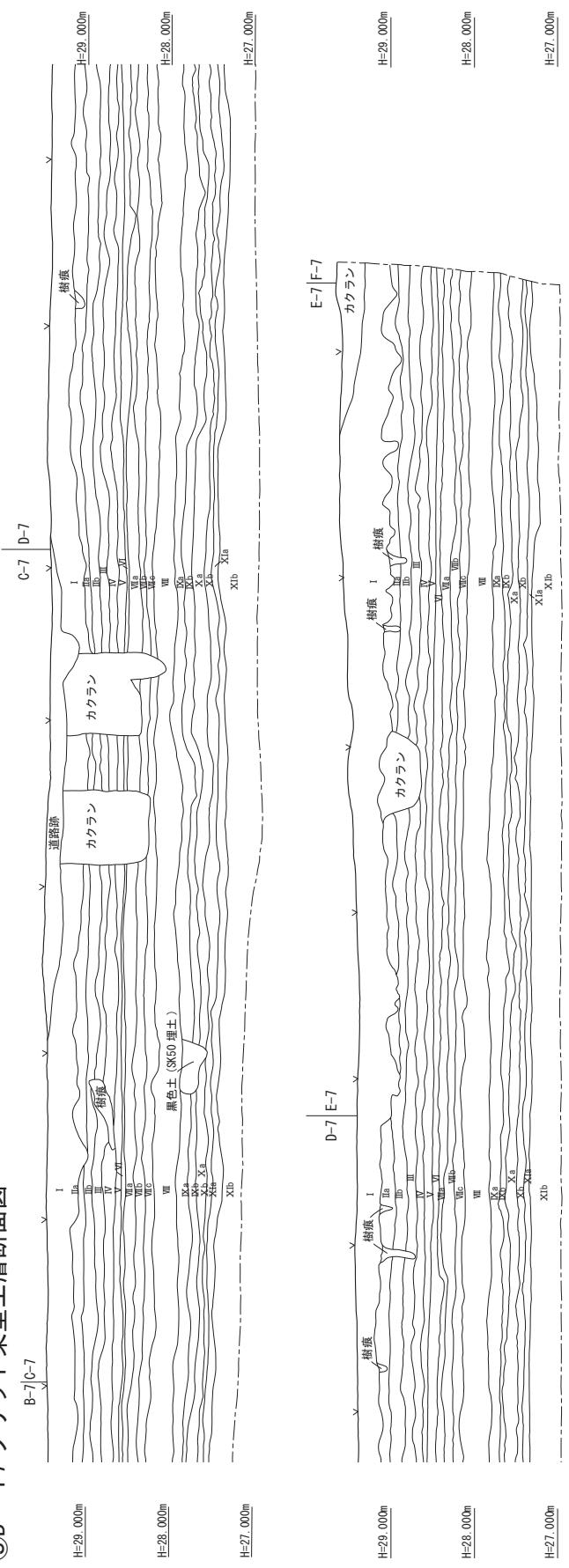


第6図 土層断面図1 (S=1/80)

④B～F 2～4 グリッド西壁土層

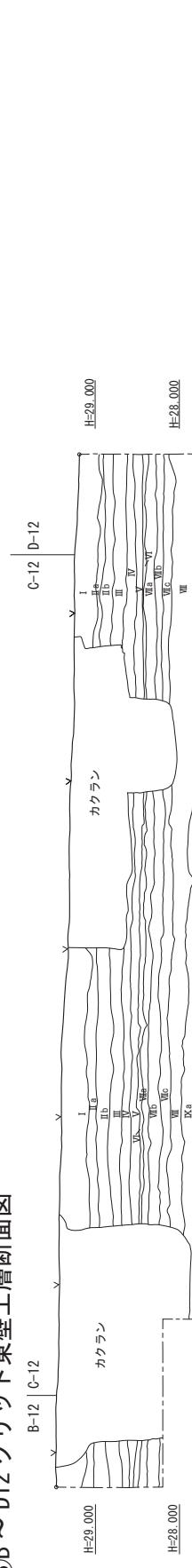


⑤B～F7 グリッド東壁土層断面図

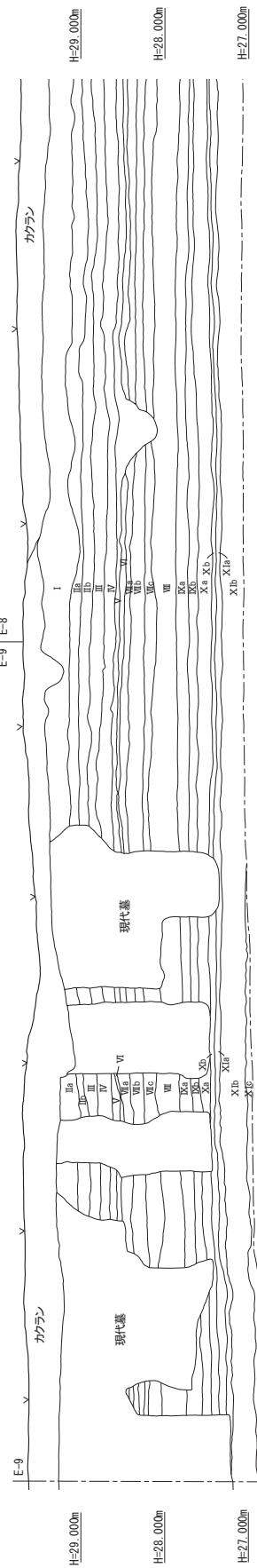


第7図 土層断面図2 (S=1/80)

⑥B ~ D12 グリッド東壁土層断面図

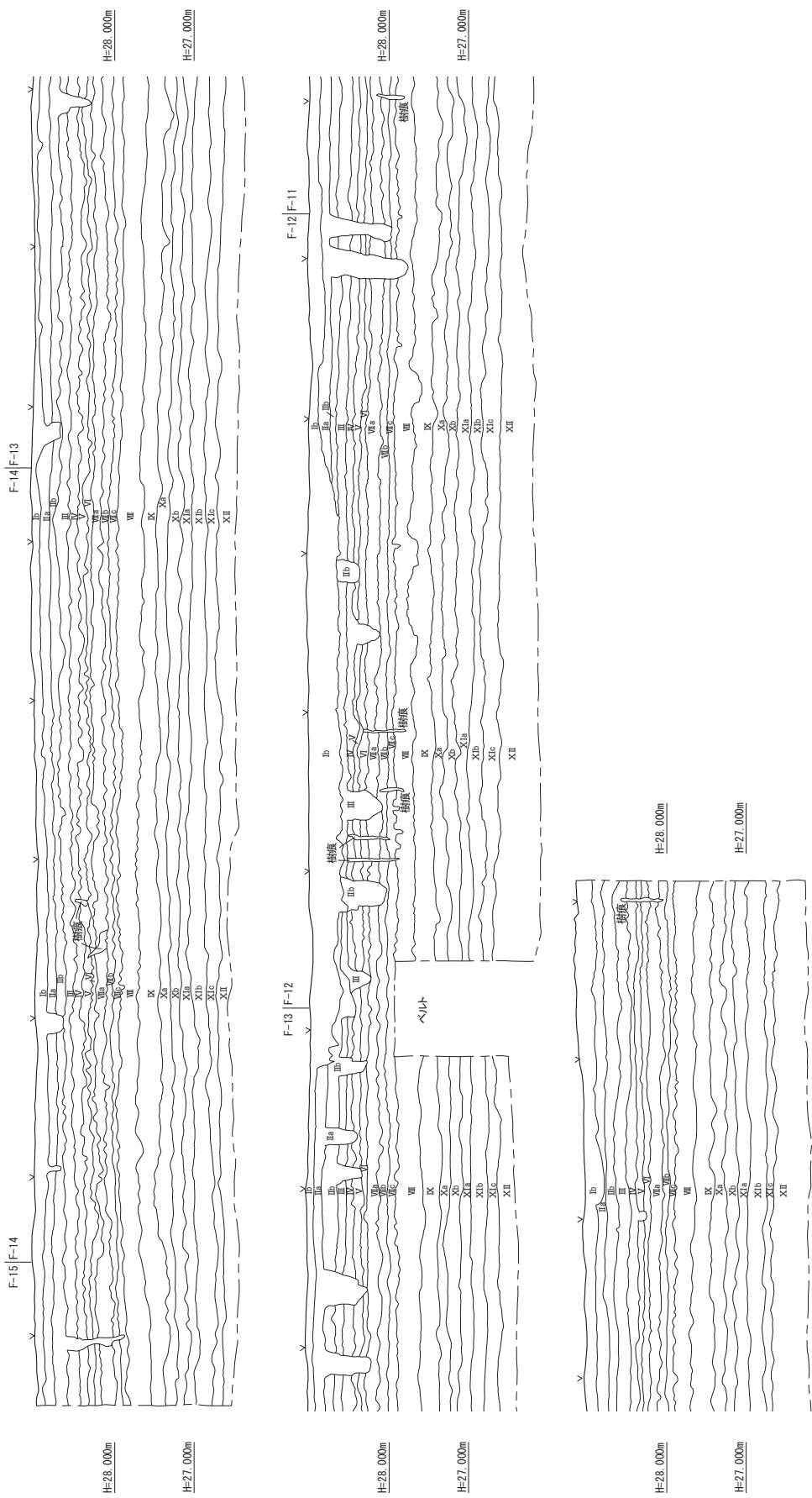


⑦F4 ~ E9 グリッド南壁土層断面図 (1)



第8図 土層断面図3 (S=1/80)

⑧F11～F15 グリッド南壁土層断面図



第9図 土層断面図4 (S=1/80)

第IV章 発掘調査の成果

第1節 縄文時代早期の調査

1 調査の概要

縄文時代早期の調査は、該当層であるVII層～X層の調査で、全調査範囲に及ぶ。

調査は人力による掘り下げで進めながら、遺構を当時の生活面で確認できるよう慎重に調査を進めた。遺構は、連穴土坑23基、土坑104基、集石72基、土器溜まり1基が検出された。基本的にはX層上面で検出している。土器溜まり、集石においては主にVII層～IX層上面において検出した。遺構の多くは調査区の西側にあたる、B～E-4～9区から検出されている。

(1) 連穴土坑について

本遺跡では、人為的に掘り込まれた竪穴状の遺構を土坑とした。そして2つの土坑が地中のトンネルでつながった土坑をセットで連穴土坑と称した。また、トンネルは認められないものの、ブリッジが崩落した可能性が高いと考えられるものも連穴土坑として扱った。なお、検出時から連穴土坑と判断できず、当初集石遺構として調査を行ったものや、土坑として調査を行ったものもある。本遺跡では23基認定した。

調査は基本的に長軸方向を基準に半裁し、埋土観察後に完掘した。本報告書では、下記に示すように連穴土坑の各部分に名称をつけた。

主穴部：連穴土坑の大きい方の土坑

従穴部：連穴土坑の小さい方の土坑

トンネル：小さな土坑と大きな土坑が地中で繋がっている部分

ブリッジ：トンネルの上にあたる部分

長軸：主穴部・従穴部・ブリッジのほぼ中央を通る長さ

短軸：主穴部・従穴部・ブリッジの各主軸に対して直角に交わり、各部の端までの長さ。

深さ：検出位置から底面までの長さ

高さ：トンネルの主軸と短軸が交わる点から底面までの長さ

(2) 土坑について

土坑は、平成26年度の調査で1基、平成30年度の調査で103基の計104基が検出された。本報告書では、以下に示すように土坑の各部分に名称を付した。

長軸：検出面で、土坑のほぼ中心を通り、その土坑の広がりが長いほうの長さ

短軸：長軸の中央を通り、長軸に対して直角に広がる長さ

最深部深さ：長軸で、その土坑で最も深い部分の長さ
ほとんどの土坑はX層上面で検出している。掘り下げ

は半裁法を用いて、埋土の違いを確認しながら移植ゴテで行った。平面形態は円形、橢円形、不定形等様々である。半数近くは単独で検出されているが、連穴土坑や複数の土坑が切り合っているものが認められる。報告にあたっては、検出面の形状をもとに以下の5つに分類した。

I類：検出面の形状が、円形または不定形円形を呈するもの

II類：検出面の形状が、円形に近い橢円形または不定形橢円形を呈するもの

III類：検出面の形状が長橢円形または不定形長橢円形を呈するもの

IV類：検出面の形状が長橢円形を呈し、断面形状などの形相から連穴土坑を想起させるもの

V類：調査区外へ広がるか、切り合ひ及び先行トレーン等の影響で全形状が把握できないもの

本遺跡ではI類が19基、II類が12基、III類が23基、IV類が14基、V類が36基である。なお、平面形状や断面形状は感覚的に判断したものである。

(3) 集石について

VII～IXa層で72基を検出した。特に調査範囲の北側(B-7・8区)と南側(E-8・9区)および西側C～E-4～6区周辺でまとまって検出された。礫の集中部および掘り込みの有無により、木森遺跡の集石を以下のように分類した。

I類：明確な集中部が見られず、掘り込みのないもの

II類：明確な集中部が見られ、掘り込みのないもの

III類：明確な集中部が見られ、掘り込みのあるもの

IV類：明確な集中部が見られず、掘り込みがあるもの

V類：分類が困難なもの

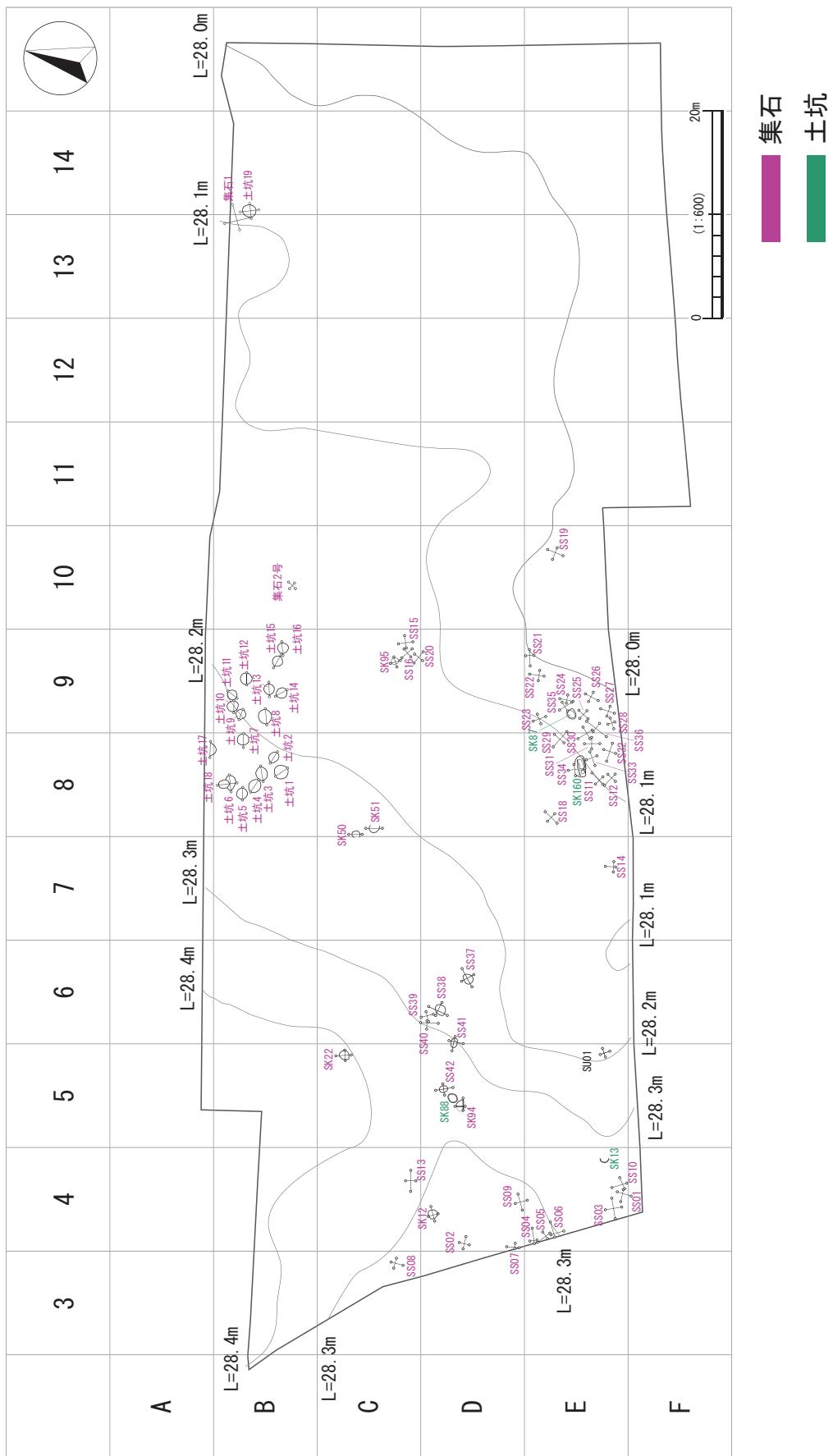
なお、構成礫の集中部の有無は感覚的なものであり、礫間の空間の有無や重なり等を目安にした。

本遺跡ではI類が2基、II類が4基、III類が47基、IV類が17基、V類が2基である。

(4) 土器溜まりについて

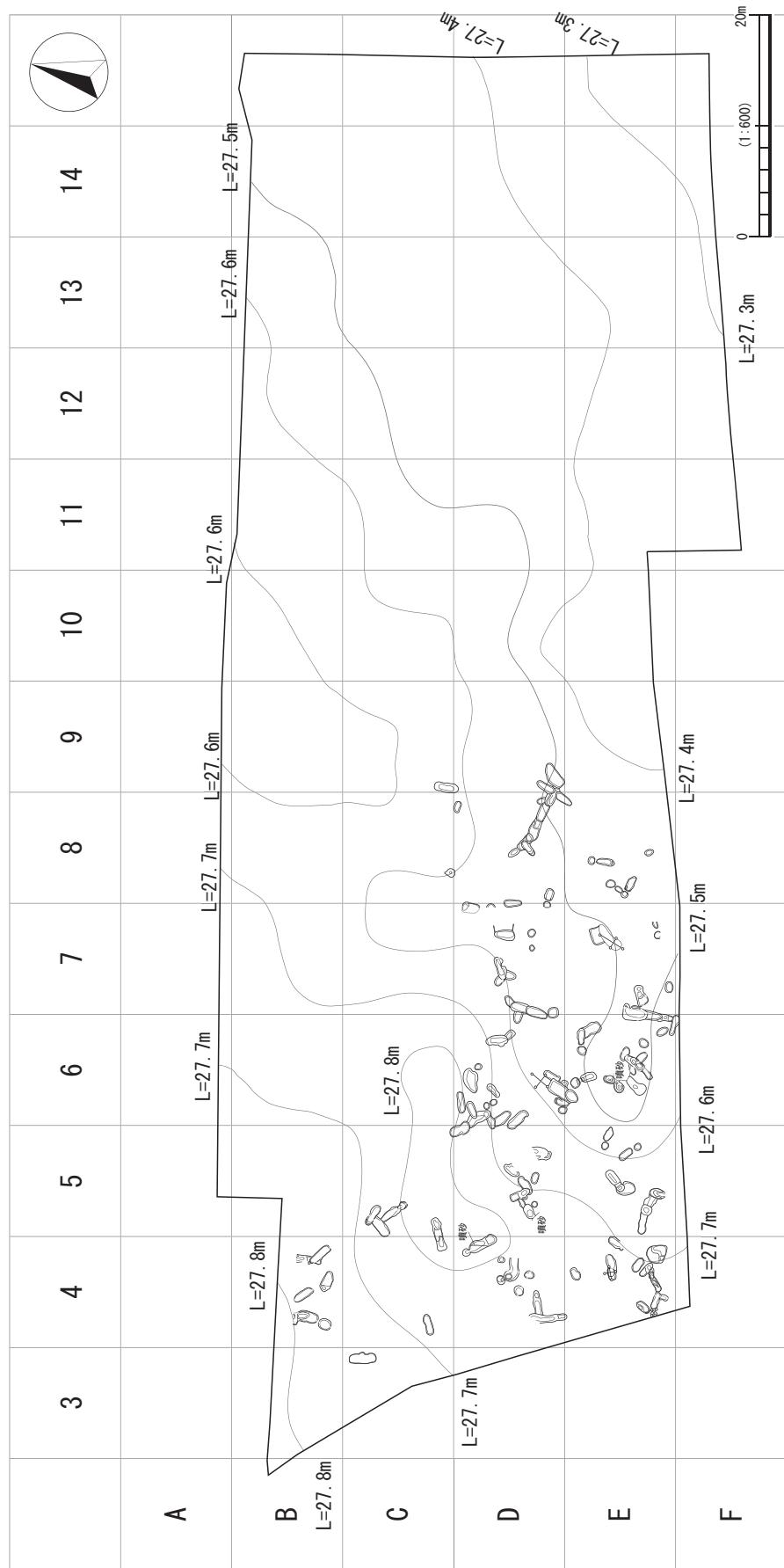
本遺跡では1基検出されている。周辺には連穴土坑と土坑等、多くの遺構が検出されているエリアである。

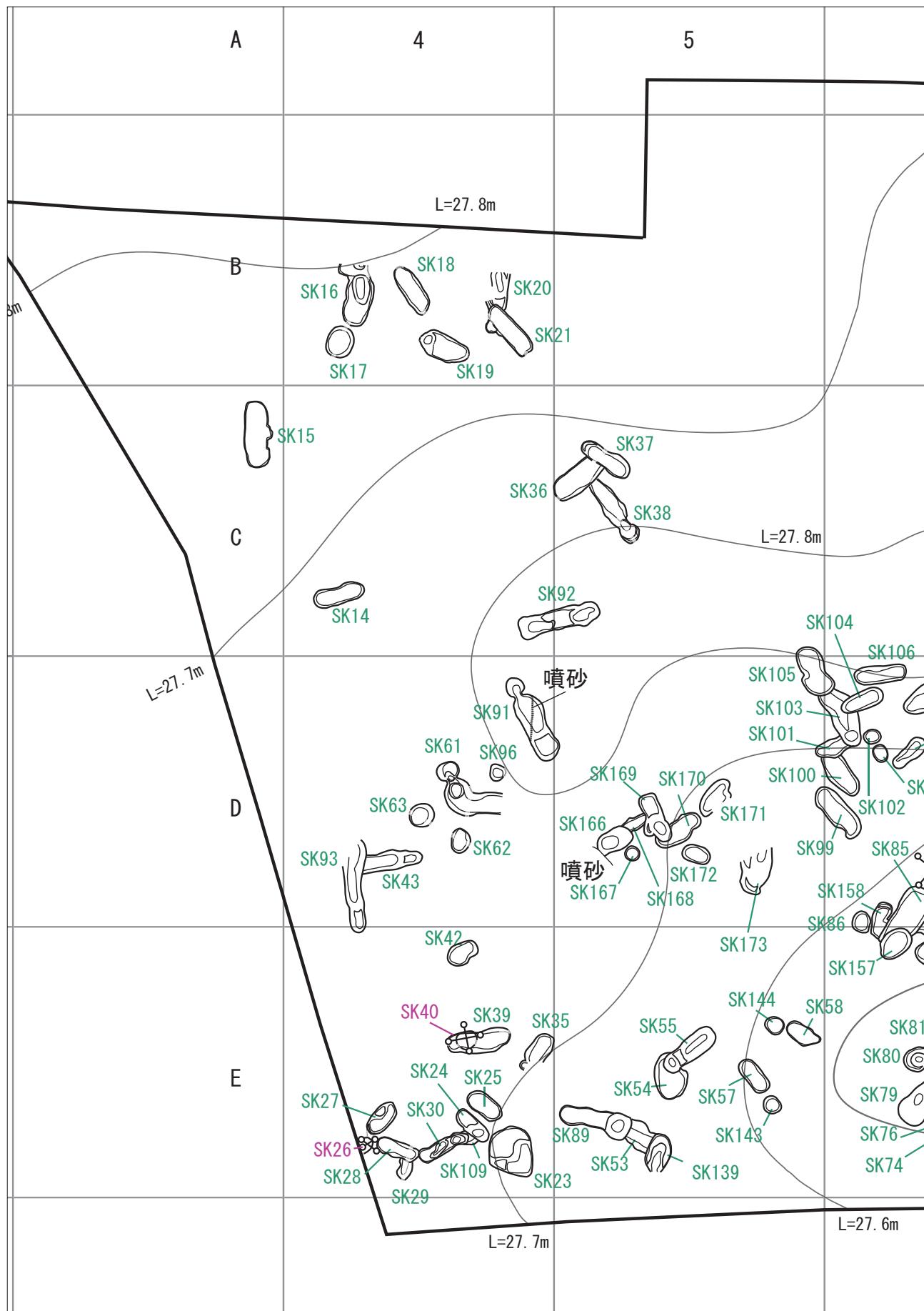
以下、個別の報告を行う。なお、後に示す遺構配置図については旧遺構名で付した。また、報告において各部の長さが不明な場合は、確認できた部分までの長さを()で示した。



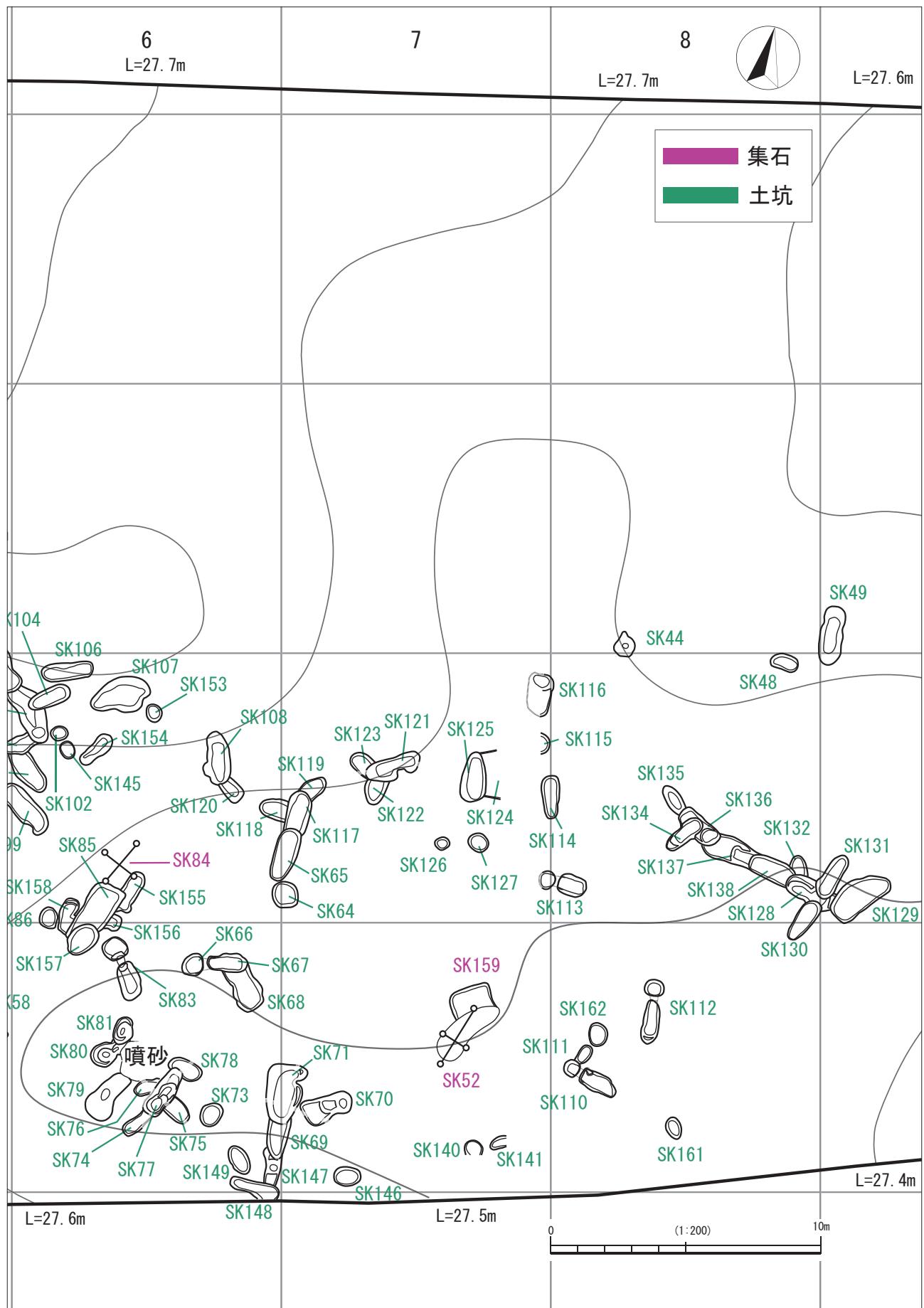
第10図 繩文早期の遺構配置図①

第11図 繩文早期の遺構配置図②





第12図 繩文早期の遺構配置図③



第13図 繩文早期の遺構配置図④

2 遺構

(1) 連穴土坑 (第14図～26図)

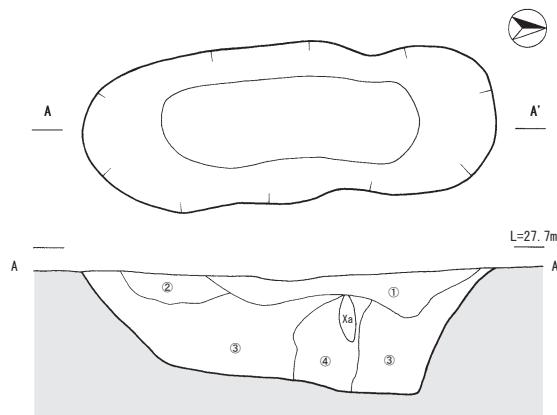
(単独検出)

1号連穴土坑 (SK49) [第14図]

C・D-9区、Xa層で検出した。長軸方向に半裁し、断面の土層より、ブリッジが崩落した連穴土坑と判断した。全長は219cmあり、底面までの深さは最深部で65cmを測る。埋土は黒褐色土を基調とし、少量の炭化物を含む。ブリッジ崩落土部分にXa層ブロックが確認できた。

埋土から出土した遺物はなかった。

1号連穴土坑



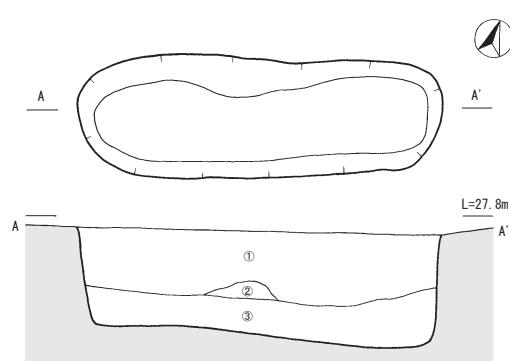
- ① 黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
- ② 暗褐色土 しまりあり、粘性なし。
- ③ 黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
- ④ 暗褐色土 しまりあり、粘性なし。一部Xa層のブロックが確認できる。

2号連穴土坑 (SK91) [第14図]

D-4区、Xa層で検出した。埋土中にブリッジの崩落土が確認できることから連穴土坑と判断した。確認できた全長は337cmあり、底面までの深さは最深部で30cmを測る。埋土は基本的にⅧ層を基調とし、黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土及び底面は暗褐色土であるが、底面は炭化物の粒子をわずかに含んでいる。また、噴砂跡が確認できたため断面も示した。土層⑥は水性作用により酸化していない。

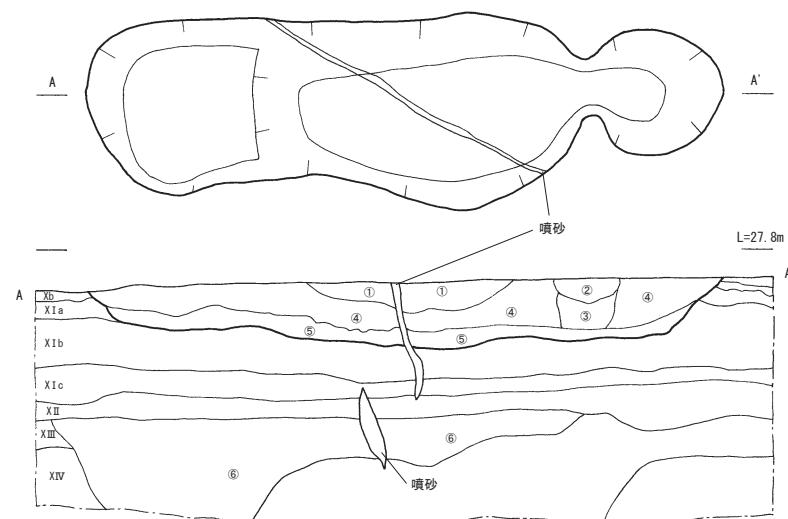
出土遺物は埋土①からⅡ類土器1点が出土したが、小片のため掲載には至らなかった。

3号連穴土坑



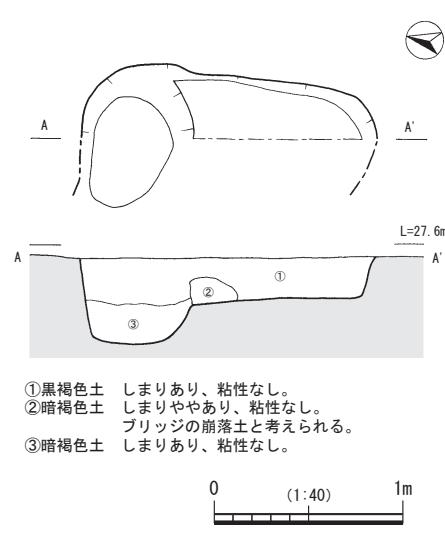
- ① 黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
- ② 黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
- ③ にぶい赤褐色土 しまりあり、粘性あり。

2号連穴土坑



- ① 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。
- ② 暗褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。連穴土坑のブリッジ部分
- ③ 暗褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。
- ④ 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。
- ⑤ 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。
- ⑥ 灰色粘質土 XII層やXIV層が変色した層。土質は左右に見られる層とほぼ同じ。

4号連穴土坑



- ① 黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
- ② 暗褐色土 しまりややあり、粘性なし。
ブリッジの崩落土と考えられる。
- ③ 暗褐色土 しまりあり、粘性なし。

0 (1:40) 1m

第14図 1～4号連穴土坑

3号連穴土坑 (SK106) [第14図]

D-6区, Xa層で検出した。ブリッジの崩落土が確認できることから連穴土坑と判断した。全長は193cmあり、底面までの深さは最深部で60cmを測る。埋土の上層部は黒褐色土であり、ブリッジ崩落土も黒褐色土であるが、1~5cmのロームブロックを多量に含む。土坑底面はにぶい赤褐色土で、径1mm以下の炭化物の粒子をわずかに含む。

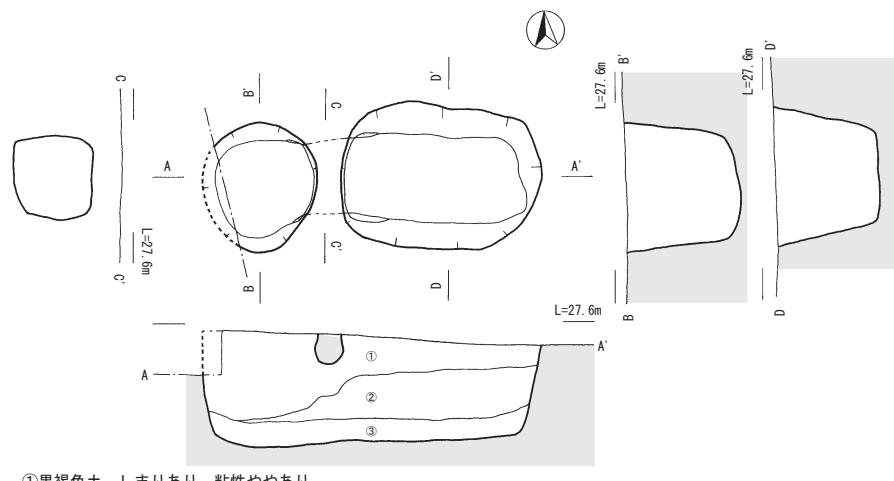
埋土から出土した遺物はなかった。

4号連穴土坑 (SK116) [第14図]

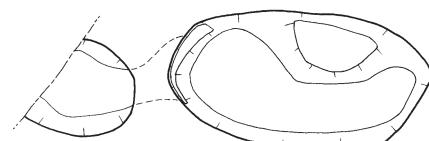
D-7・8区, Xa層で検出した。西側の部分は先行トレンチで削平しており、その断面よりブリッジの崩落土が確認できることから連穴土坑と判断した。全長は確認できた部分で(156)cmあり、底面までの深さは最深部で44cmを測る。埋土は黒褐色土で、1~2mmの炭化物の粒子をわずかに含む。ブリッジ崩落部分も暗褐色土であるが、5~15mmのやや大きめのローム粒子を含む。

出土遺物は遺構内一括でII類土器1点を取り上げたが、小片のため掲載には至らなかった。

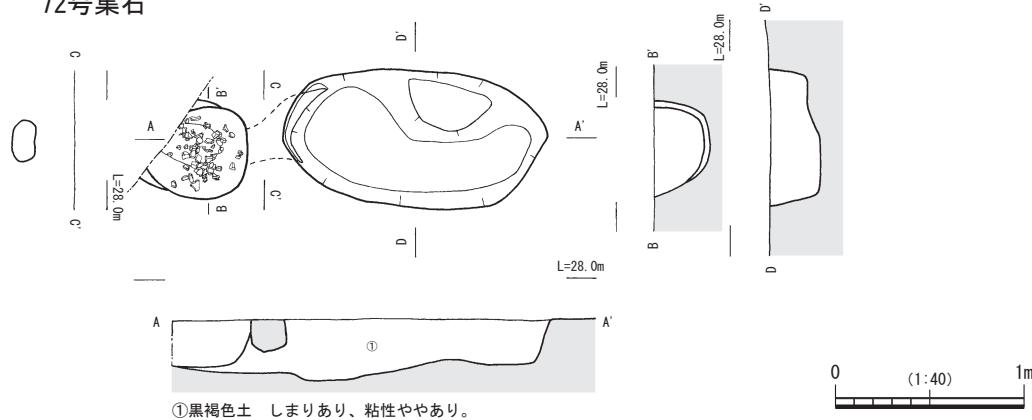
5号連穴土坑



6号連穴土坑

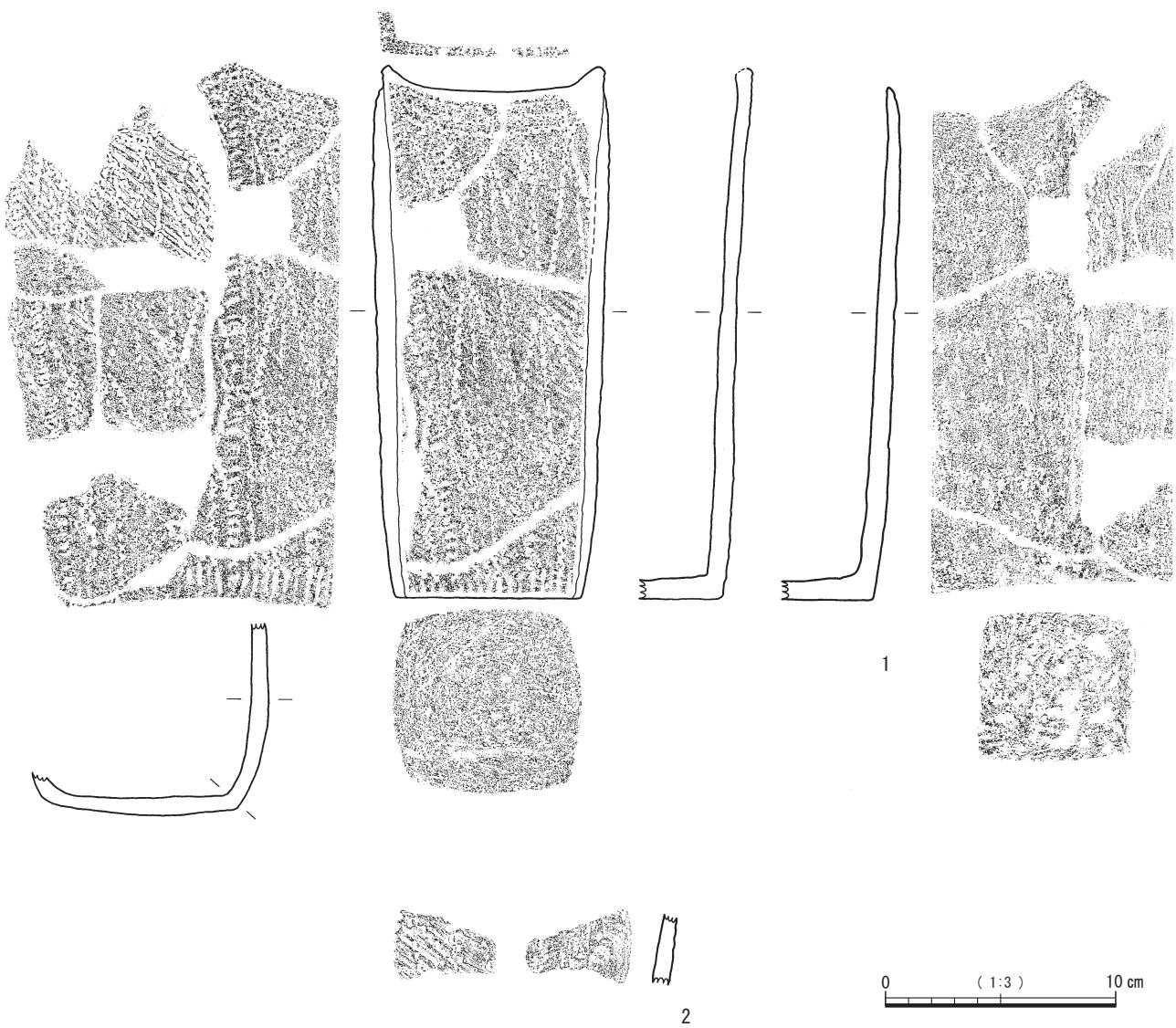
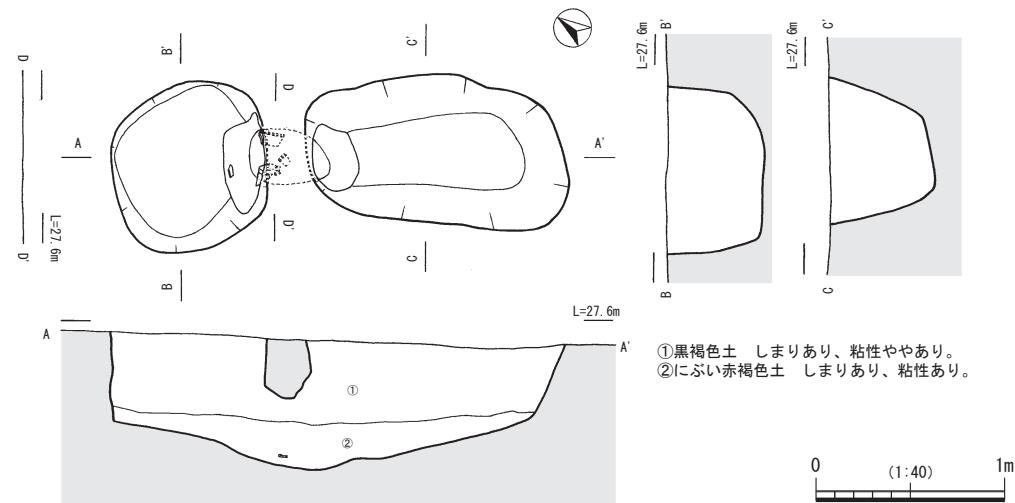


72号集石



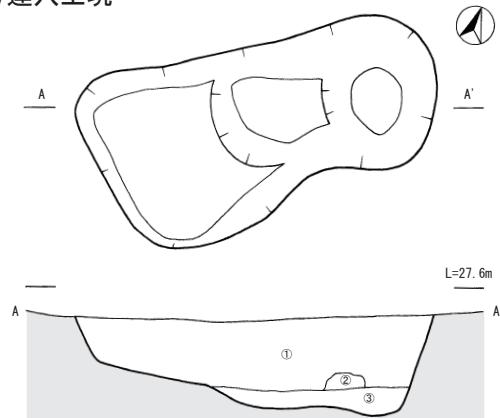
第15図 5号連穴土坑・6号連穴土坑

7号連穴土坑



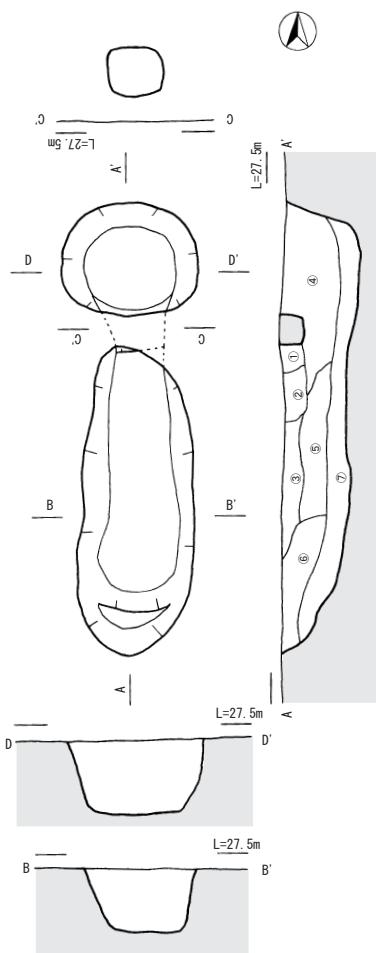
第16図 7号連穴土坑・出土遺物

8号連穴土坑



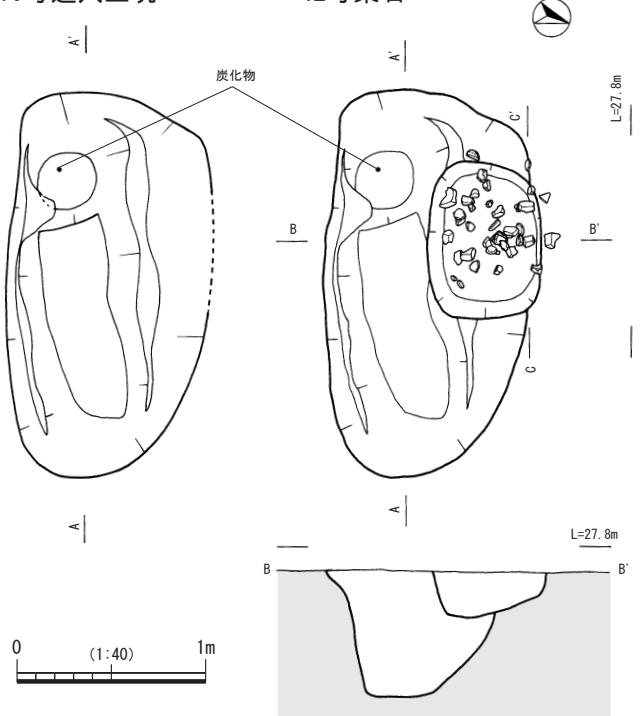
①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。
②暗褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。ブリッジ崩落土
③にぶい赤褐色土 しまりあり、粘性あり。

9号連穴土坑



①暗褐色土 しまりあり、粘性なし。
②黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
③黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
④黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
⑤黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
⑥黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
⑦暗褐色土 しまりあり、粘性あり。

10号連穴土坑



①黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
②黒色土 しまりあり、粘性なし。
③黒褐色土 しまり強い、粘性なし。
④にぶい赤褐色土 しまりやや弱い、粘性あり。



3

0 (1:3) 10 cm

第17図 8～10号連穴土坑・出土遺物

5号連穴土坑 (SK113) [第15図]

D-7・8区, Xa層で検出した。Xa～Xb層部分を利用したブリッジが残る連穴土坑である。確認できた全長は(179)cmで、西側の従穴部は、先行トレンチにより一部削平されている。主穴部の長軸は106cm、短軸75cm、底面までの深さは最深部で52cmである。従穴部の長軸は(50)cm、短軸69cm、底面までの深さは最深部で61cm、トンネル部の長軸は13cm、短軸39cm、高さ41cmを測る。埋土の上層部は黒褐色土であり、炭化物を少量含む。土坑底面は暗褐色土である。

埋土から出土した遺物はなかった。

6号連穴土坑 (SK26 SK27) [第15図]

[重複遺構] 72号集石 (SK26)

E-4区X層で検出した。当初、掘り込みを持つ集石遺構(72号集石)と近接する土坑として調査を進めていたが、掘り込みの完掘作業途中でブリッジとトンネル部が確認できたため連穴土坑と判断した。確認できた全長は(200)cmで、主穴部の長軸140cm、短軸72cm、深さ26cmである。埋土は黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含む。トンネル部の長軸18cm、短軸21cm、高さ12cmである。従穴部の長軸は(42)cm、短軸52cm、深さ29cmである。72号集石は、従穴部の掘り込みを集石として再利用されたものと考えられる。72号集石については後述する。

埋土から出土した遺物はなかった。

7号連穴土坑 (SK83) [第16図]

E-6区, Xa層で検出した。ブリッジの一部が残存したため連穴土坑と判断した。全長241cm、主穴部は長軸137cm、短軸78cm、底面までの深さは最深部で55cmである。従穴部の長軸は83cm、短軸89cm、検出面からの深さ54cmである。トンネル部の長軸21cm、短軸29cm、高さは36cm、埋土の上層は黒褐色土で、下層はにぶい赤褐色土である。重複する遺構等はなく、単独で検出された。

出土遺物は埋土②から土器13点が出土した。1は底部はすべて残存しており、口縁から胴部にかけて約半分が残存していたため、完形に復元できた。角筒器形であり、底面の各辺はやや弧状となるが、長軸8.1cm、短軸7.9cmとほぼ正方形に近い。器高は23.1cmであり、底部から口縁部に向けて直線的に立ち上がる。口縁部に3段の貝殻刺突線文を施し、胴部には貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突線文を施し、角部には貝殻腹縁を用いて刺突を施す。底部境から縦位の貝殻条痕を施す。内面はケズリを施しており、底部内面には工具ナデが観察できる。2は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。どちらもⅡ類土器である。

8号連穴土坑 (SK70) [第17図]

E-7区, Xa層で検出した。ブリッジの崩落土が確認できることから連穴土坑と判断した。確認できた全長は191cm、底面までの深さは最深部で54cmを測る。埋土

は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は暗褐色土、土坑底面はにぶい赤褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含んでいる。重複する遺構等はなく、単独で検出した。埋土から出土した遺物はなかった。

9号連穴土坑 (SK112) [第17図]

E-8区, Xa層で検出した。Xa・Xb層部分を利用したブリッジが一部残る連穴土坑である。全長241cm、主穴部の長軸164cm、短軸59cm、検出面からの深さは最深部35cmである。従穴部の長軸61cm、短軸72cm、検出面からの深さは最深部で41cmである。トンネル部の高さは26cm、長軸16cm、短軸は29cmである。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土であり、炭化物の粒子をわずかに含んでいる。

出土遺物は埋土④から土器1点が出土し、包含層出土土器と接合した。3は円筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。

10号連穴土坑 (SK160) [第17図]

[重複遺構] 42号集石 (SS34)

E-8区, Ⅷ層で検出した。検出時にP13と考えられる広がりを42号集石が切るような状況が確認でき、北側にサブトレンチを入れ、土層を確認したところブリッジの崩落土が確認されたことから連穴土坑と判断した。10号連穴土坑が廃棄後に42号集石が構築されたものと考えられる。42号集石については後述する。

全長は205cm、底面までの深さは最深部で約68cmを測る。埋土は黒色土が大部分を占め、炭化物を含んでいる。ブリッジ崩落土は黒褐色土、土坑底面はにぶい赤褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含んでいる。

出土遺物は埋土②からⅡ類土器1点及び炭化物が出土したが、小片のため掲載には至らなかった。また、埋土②から出土した炭化物で年代測定を実施したところ、未補正で $9429 \pm 34^{14}\text{C}$ BPの値が得られた(IAAA-210172)。(第V章参照)

11号連穴土坑 (SK38)

[重複遺構] 78号土坑 (IV類: SK36)

79号土坑 (IV類: SK37) [第18図]

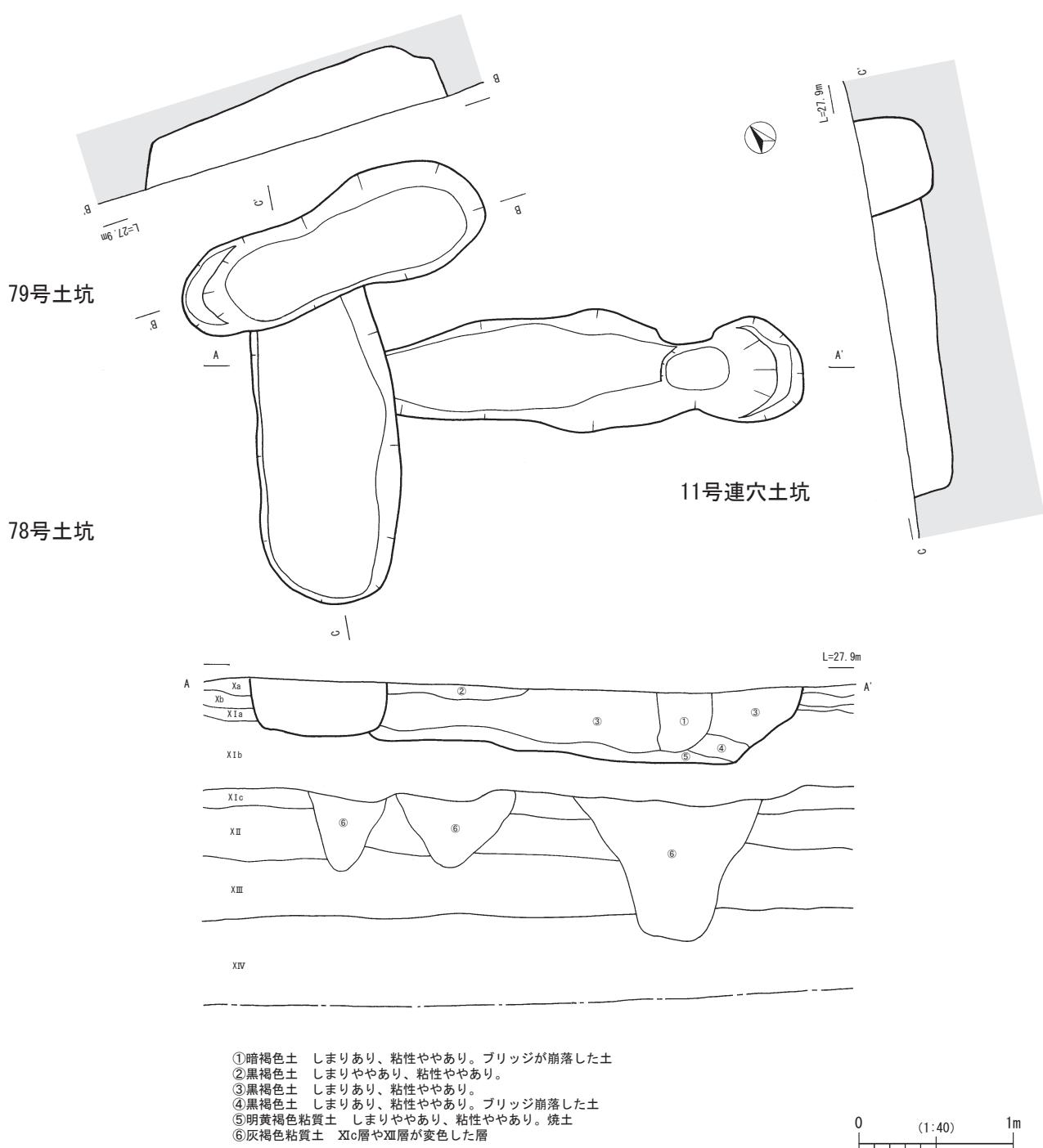
11号連穴土坑はC-5区Xa層で検出した。長軸方向を基準にトレンチを入れ、断面の土層より、ブリッジが崩落した連穴土坑と判断した。確認できた全長は(267)cm、底面までの深さは最深部で約46cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占める。土坑底面には炭化物の粒子が見られ、焼土が確認された。埋土②から炭化物が出土した。焼土が確認されたため断面も示した。土層⑥は水性作用により酸化していない。

重複遺構は78号土坑と79号土坑の2基である。ともに検出面の形状が連穴土坑を想定させるものであったが、ブリッジの崩落土等が確認できなかつたため土坑と判断した。

78号土坑は79号土坑に切られ、11号連穴土坑を切っている。平面の形状は長軸(188)cm、短軸91cmの楕円形である。底面までの深さは最深部で30cmを測る。

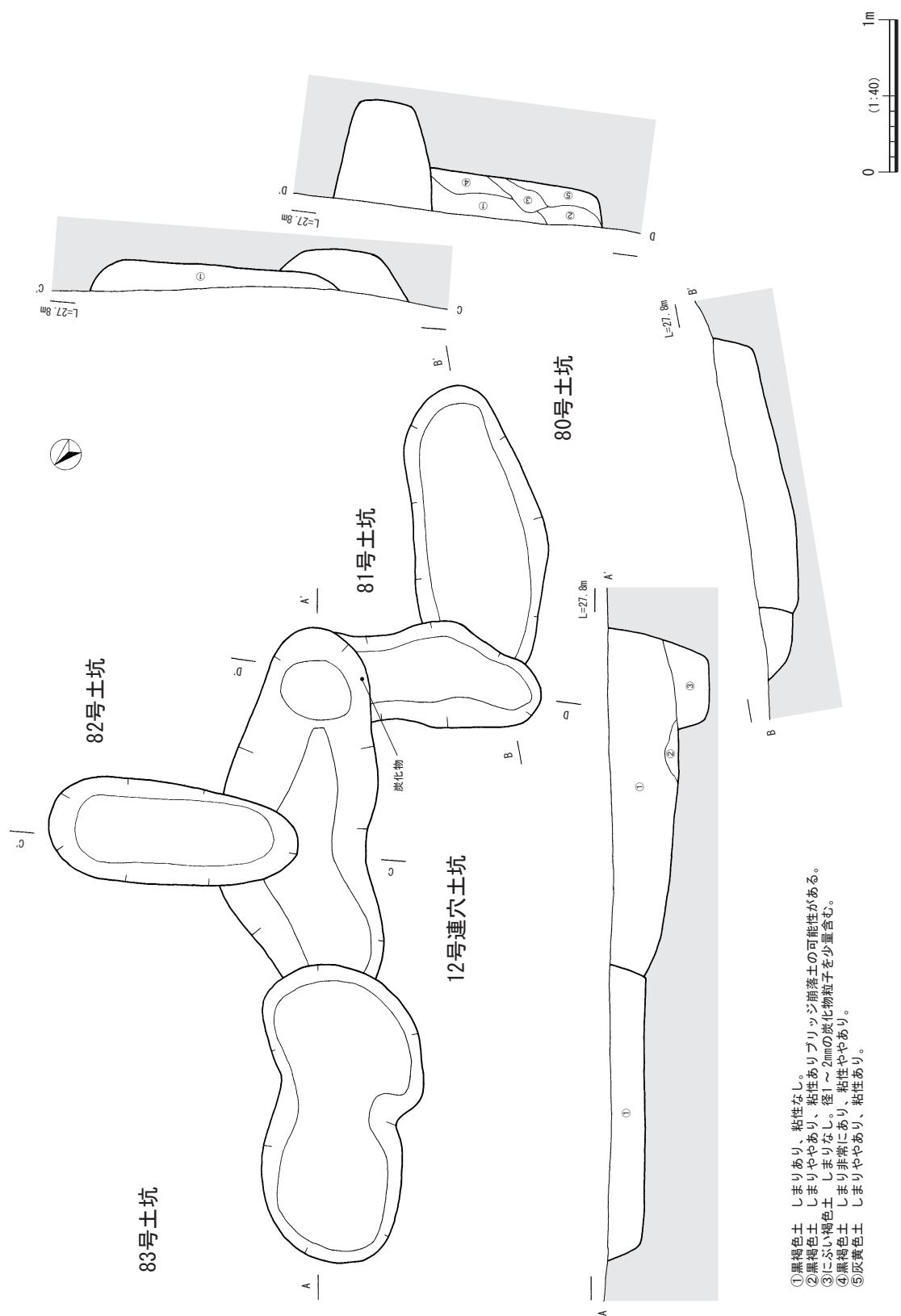
79号土坑は78号土坑を切っており、平面の形状は長軸

204cm、短軸75cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で37cmを測る。埋土は78号、79号土坑とともにVII層を基調とした黒褐色土である。炭化物が出土している。



第18図 11号連穴土坑、78・79号土坑

第19図 12号連穴土坑, 80 ~ 83号土坑



12号連穴土坑 (SK103)

[重複遺構] 80号土坑 (Ⅲ類 : SK100)

81号土坑 (Ⅳ類 : SK101) 82号土坑 (Ⅲ類 : SK104)

83号土坑 (Ⅲ類 : SK105)

[第19図]

80号土坑の北西側は81号土坑に切られている。平面の形状は長軸 (178) cm, 短軸87cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で30cmを測る。埋土はVII層を基調とした黒褐色土である。

81号土坑は北側は12号連穴土坑に切られ、南側は80号土坑を切っている。平面の形状は長軸 (114) cm, 短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測る。埋土中にブリッジの痕跡は確認できなかったが、底面の形状、12号連穴土坑と切り合いが見られることから連穴土坑の可能性も考えられるが、詳細は不明である。埋土は黒褐色土で炭化物も含む。

12号連穴土坑はD- 5・6区, Xa層で検出した。82号土坑, 83号土坑に切られており、81号土坑を切っている。遺構全体のプランは不明であるが、南東側の埋土中に炭化物が集中し、ブリッジの崩落土と思われる土層が確認できたことから連穴土坑と判断した。確認できた部分の全長は (220) cmあり、底面までの深さは最深部で67cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は5～10mmのローム粒子を含んでいる。土坑底面はにぶい褐色土で、炭化物の粒子を含んでいる。出土

遺物は埋土①から炭化物が出土した。この炭化物で年代測定を実施したところ、未補正で $9493 \pm 36^{14}\text{C}$ BPの値が得られた (IAAA - 210171)。(第V章参照)

82号土坑は12号連穴土坑を切っている。平面の形状は長軸162cm, 短軸66cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で15cmを測る。

83号土坑は12号連穴土坑を切っている。平面の形状は長軸191cm, 短軸102cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で24cmを測る。埋土の色調はやや暗めの黒褐色土である。出土遺物は埋土①からⅡ類土器1点が出土したが、小片のため掲載には至らなかった。

13号連穴土坑 (SK121)

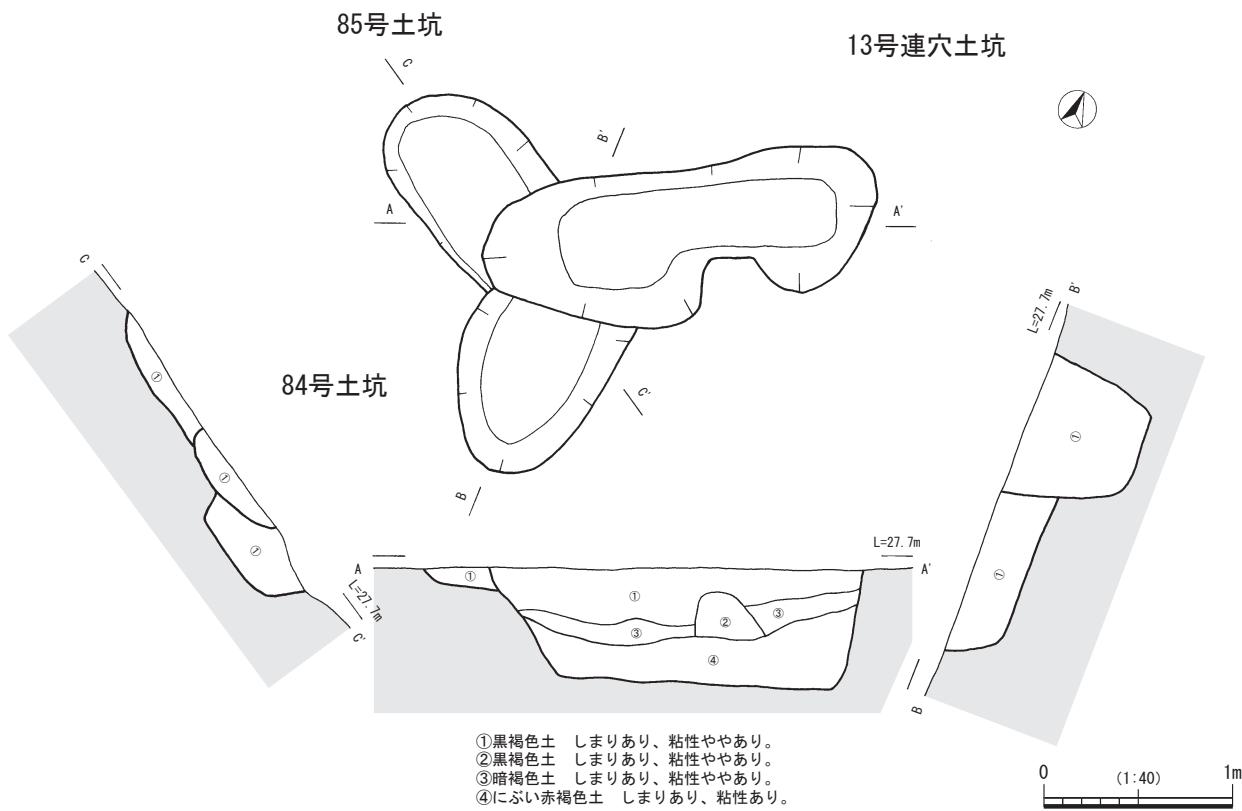
[重複遺構] 84号土坑 (Ⅲ類 : SK122)

85号土坑 (V類 : SK123) [第20図]

85号土坑は東側は13号連穴土坑、84号土坑に切られている。平面の形状は長軸(74) cm, 短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で11cmを測る。埋土はともに暗褐色で、埋土から出土した遺物はなかった。

84号土坑は北側は13号連穴土坑に切られている。平面の形状は長軸(90) cm, 短軸79cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で28cmを測る。埋土は暗褐色土である。

13号連穴土坑はD- 7区, Xa層で検出した。長軸方向を基準にサブトレンチを入れ、断面の土層の様相から



第20図 13号連穴土坑, 84・85号土坑

ブリッジが崩落した部分が確認できたことから、連穴土坑と判断した。確認できた全長は197cm、底面までの深さは最深部で63cmを測る。上層部の埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は暗褐色土、土坑底面にはぶい赤褐色土である。炭化物を少量含む。

埋土から出土した遺物はなかった。

14号連穴土坑（SK134） [第21図]

〔重複遺構〕 86号土坑（IV類：SK128）

87号土坑（IV類：SK129） 88号土坑（III類：SK130）

89号土坑（III類：SK131） 90号土坑（IV類：SK132）

91号土坑（II類：SK135） 92号土坑（V類：SK136）

93号土坑（V類：SK137） 94号土坑（IV類：SK138）

重複する遺構が10基あり、本遺跡で最多の重複遺構となっている。

91号土坑は東南側の92号土坑に切られている。平面の形状は長軸(113)cm、短軸57cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測る。埋土はVII層を基調とする黒褐色土である。

93号土坑は92号土坑、94号土坑に切られている。平面の形状は長軸(140)cm、短軸96cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で35cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物は埋土①から土器1点が出土した。5は一対の角部を持つ。上面観がレモン形を呈する器形と考えられる。口縁部には横位の貝殻刺突文を3段施し、胴部には貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突文を施す。角部の左右で、縦位と斜位の貝殻刺突線文の交差する高さが異なり、角部から最も離れた箇所では、斜位の貝殻刺突文が省略されている。縦位貝殻刺突線文の間隔も1.3～2cmと疎らである。また、貝殻条痕の間隔も一定ではなく、やや雑然と施されている。角部は角筒器形と同様に、貝殻腹縁を用いて刺突を施す。口唇部には刻目を入れる。II類土器である。

92号土坑は、東西部の93号土坑、91号土坑を切り、14号連穴土坑に切られている。長軸172cm、短軸77cm、底面までの深さは最深部で35cm、埋土はVII層を基調とする黒褐色土である。

14号連穴土坑はD-8区、Xa層で検出した。92号土坑を切っている。ブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。全長は162cm、底面までの深さは最深部で68cmを測り、底面はほぼ水平に安定している。埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は暗褐色土、土坑底面にはぶい赤褐色土である。

出土遺物は埋土②から土器1点が出土した。4は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施し、角部には貝殻腹縁を用いて刺突を施す。II類土器である。

90号土坑は形状より連穴土坑の可能性も考えられたが南側は86号土坑、94号土坑に切られているため詳細は不

明である。平面の形状は長軸(70)cm、短軸(48)cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測る。埋土は暗褐色土である。

94号土坑は、90号土坑、93号土坑を切り、86号土坑に切られている。平面の形状は長軸(157)cm、短軸81cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で46cmを測る。埋土②から炭化物が出土した。

86号土坑は87号土坑、88号土坑、89号土坑に切られ、90号土坑、94号土坑を切っている。形状は連穴土坑に類似するが、ブリッジの崩落土等は確認できなかつたため土坑と判断した。平面の形状は長軸(183)cm、短軸(90)cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で42cmを測る。埋土は黒褐色土である。

87号土坑は、西側は86号土坑を切っている。形状は連穴土坑に類似するが、ブリッジの崩落土等は確認できなかつたため土坑と判断した。平面の形状は長軸240cm、短軸117cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で34cmを測る。埋土は黒褐色土である。

88号土坑は、北側は86号土坑を切っている。平面の形状は長軸170cm、短軸65cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で21cmを測る。埋土は黒褐色土である。

89号土坑は、南側で86号土坑を切っている。平面の形状は長軸180cm、短軸63cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で30cmを測る。埋土はVII層を基調とする黒褐色土である。

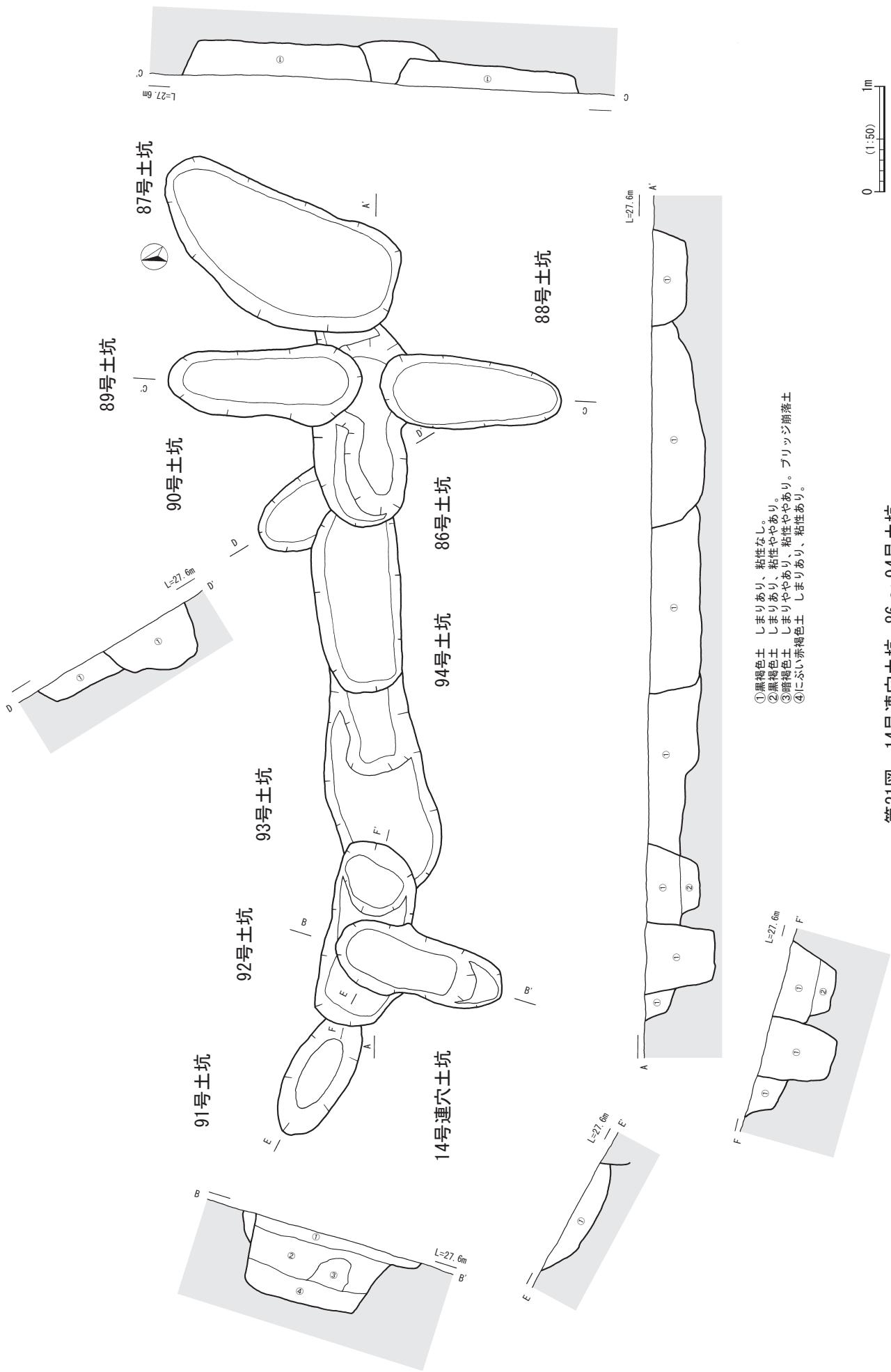
15号連穴土坑（SK39） [第22図]

〔重複遺構〕 51号集石（SK40）

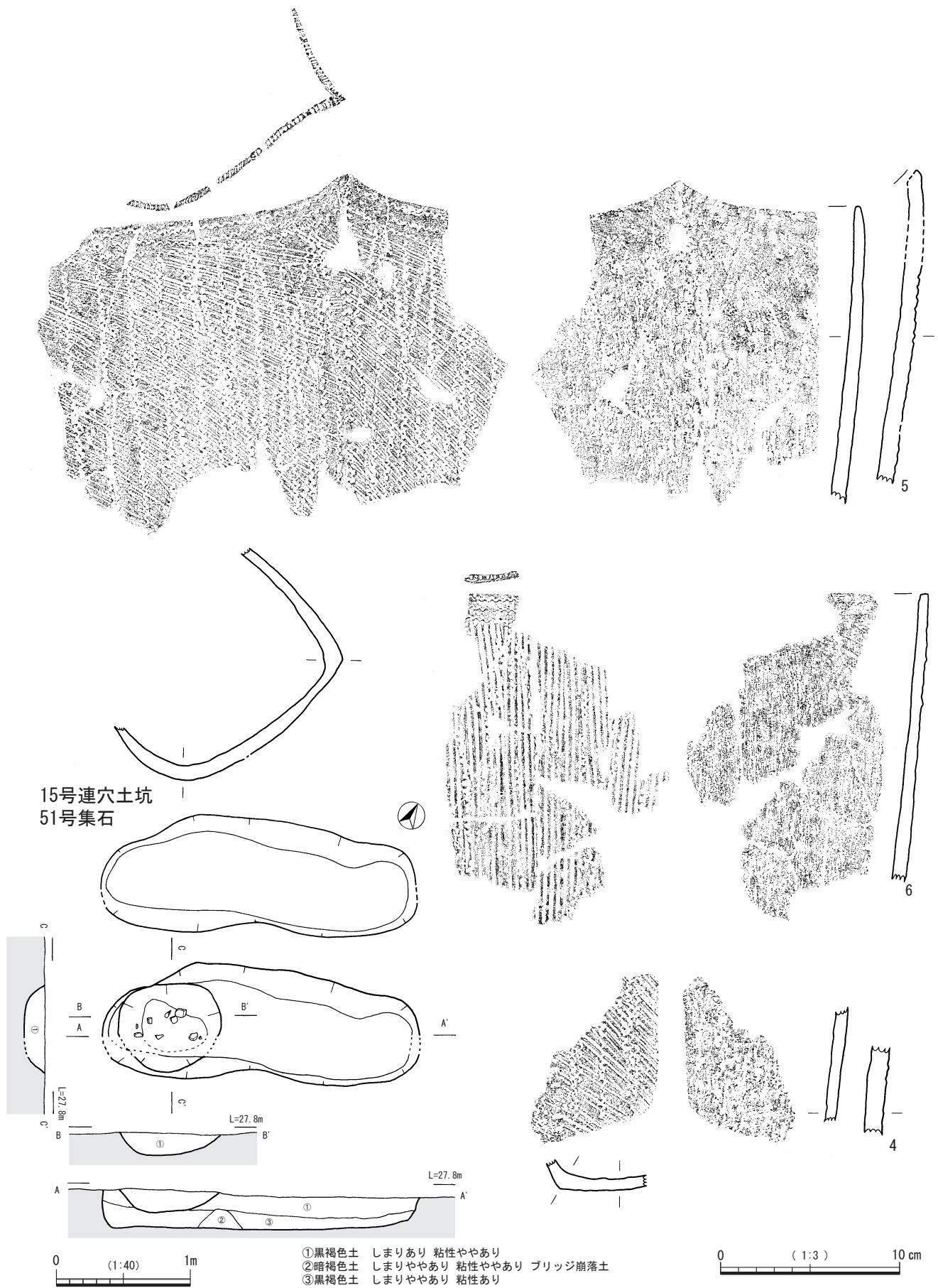
15号連穴土坑はE-4区、Xa層で検出した。長軸方向を基準にサブトレンチを入れ、断面の土層より、ブリッジが崩落した連穴土坑と判断した。確認できた全長は236cm、底面までの深さは最深部で(27)cmを測る。埋土は黒褐色土を基調とし、ブリッジ崩落土部は、Xa、Xb層を基調とする暗褐色土である。少量の炭化物を含む。

51号集石は、15号連穴土坑を再利用した集石と考えられる。51号集石については後述する。

出土遺物は埋土①から土器1点が出土し、96号土坑出土土器及び包含層出土土器と接合した。6は円筒器形の口縁から胴部であり、口縁部には横位の貝殻刺突線文を3段施し、胴部に縦位の貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突線文を、口唇部内端側に刻目を施す。II類土器である。



第21図 14号連穴土坑, 86 ~ 94号土坑



第22図 15号連穴土坑, 51号集石・出土遺物

16号連穴土坑 (SK55)

[第23図]

〔重複遺構〕 96号土坑 (IV類 : SK54)

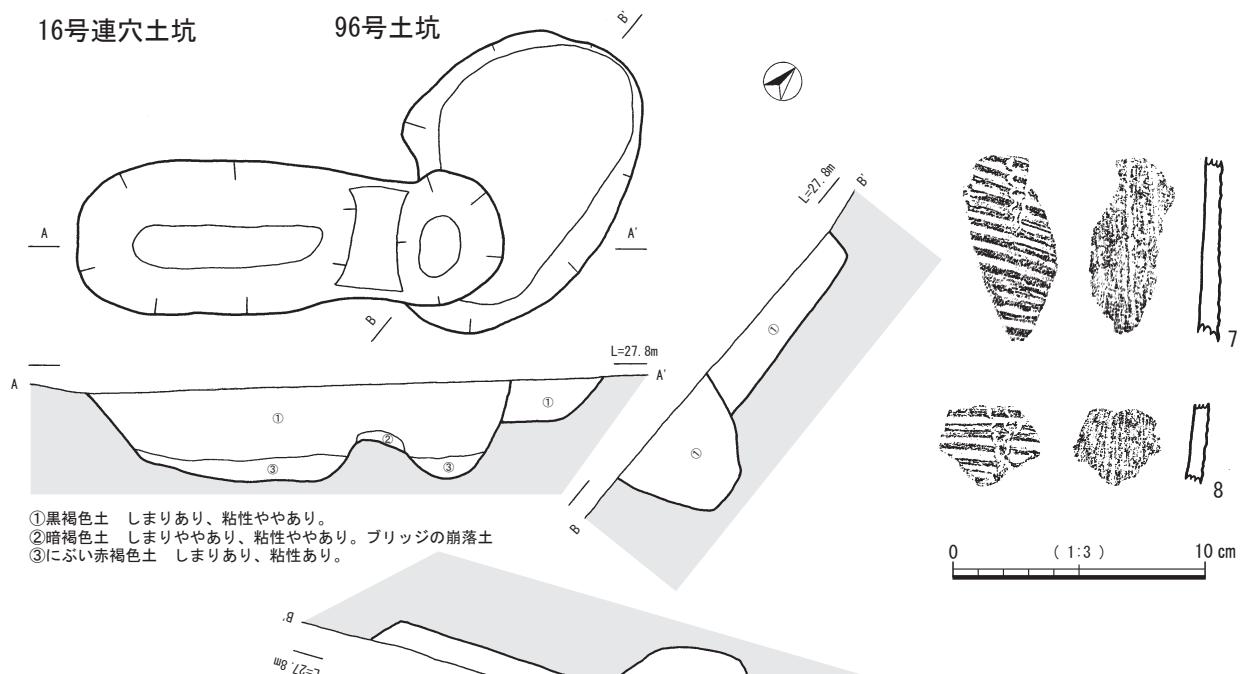
96号土坑は、北側の16号連穴土坑に切られている。埋土内にブリッジの痕跡等は見られなかったが、連穴土坑の可能性も考えられる。平面の形状は長軸(172)cm, 短軸124cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測る。埋土は黒褐色である。出土遺物は埋土①から土器1点が出土し、15号連穴土坑出土土器及び包含層出土土器と接合した。6は円筒器形の口縁から胴部であり、口縁部には横位の貝殻刺突線文を3段施し、胴部に縦位の貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突線文を施す。口

唇部内端側に刻目を施す。II類土器である。

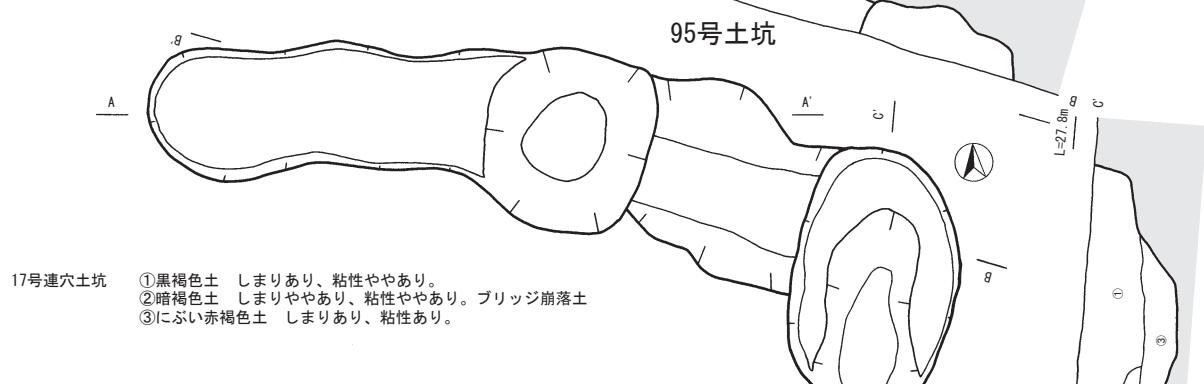
16号連穴土坑はE-5区, Xa層で検出した。96号土坑を切る。ブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。全長は225cm, 底面までの深さは最深部で52cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は暗褐色土、土坑底面はにぶい赤褐色土である。

出土遺物は埋土①から土器1点が出土した。7は円筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。II類土器である。

16号連穴土坑



17号連穴土坑



18号連穴土坑

①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。
②暗褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。ブリッジ崩落土
③にぶい赤褐色土 しまりあり、粘性あり。

18号連穴土坑

第23図 16号連穴土坑, 96号土坑 /17・18号連穴土坑, 95号土坑・出土遺物

17号連穴土坑（SK89）・18号連穴土坑（SK139）

〔重複遺構〕 95号土坑（V類：SK53） [第23図]

95号土坑は、17号連穴土坑と18号連穴土坑に切られている。平面の形状は長軸(87)cm, 短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測る。埋土はV層を基調とする黒褐色土である。埋土から遺物等は出土していない。

17号連穴土坑は、埋土中にブリッジ崩落の痕跡が確認できることから連穴土坑と判断した。全長は269cm, 底面までの深さは最深部で50cmを測る。埋土は黒褐色土を基調とし、ブリッジ崩落土部分は10～30mmのロームブロックをわずかに含む暗褐色土であり、炭化物も含んでいる。埋土から遺物等は出土していない。

18号連穴土坑はE-5区, Xa層で検出した。検出面のプランが一部調査区外へ出ていたが、埋土中にブリッジの崩落土が確認されたことから連穴土坑と判断した。全長は(141)cm, 底面までの深さは最深部で50cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占めている。ブリッジ崩落土は暗褐色土、土坑底面は赤褐色土で炭化物をわずかに含んでいる。

出土遺物は埋土①から土器1点が出土した。8は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。II類土器である。

19号連穴土坑（SK77）

〔重複遺構〕 97号土坑（V類：SK74）

98号土坑（V類：SK75） 99号土坑（V類：SK76）

100号土坑（II類：SK78） [第24図]

97号土坑は、平面の形状が長軸(113)cm, 短軸49cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で17cmを測る。

98号土坑は平面の形状が長軸(92)cm, 短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で21cmを測る。

99号土坑は平面の形状は長軸(74)cm, 短軸53cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で16cmを測る。

100号土坑は平面の形状は長軸124cm, 短軸68cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で14cmを測る。

97号土坑から100号土坑の埋土は、いずれもV層を基調とする黒褐色土で、少量の炭化物を含む。各土坑内から出土した遺物はなかった。

19号連穴土坑はE-6区, Xa層で検出した。97号土坑、98号土坑、99号土坑、100号土坑を切る。ブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。全長は201cm, 底面までの深さは最深部で53cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は黒褐色土で1～10cm程度の暗褐色のブロック土を多量に含む。また、埋土中に噴砂が確認できる。埋土から出土した遺物はなかった。

20号連穴土坑（SK66 SK67）

〔重複遺構〕 101号土坑（V類：SK68） [第24図]

101号土坑は、20号連穴土坑に切られており、平面の形状は長軸(152)cm, 短軸106cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測る。埋土はV層を基調とする黒褐色土である。少量の炭化物を含む。土坑内から出土した遺物はなかった。

20号連穴土坑はE-6区, Xa層で検出された。Xa～XIb層部分を利用したブリッジが一部残る連穴土坑である。全長241cm, 主穴部の長軸は150cm, 短軸67cm, 底面までの深さは最深部で56cmを測り、101号土坑を切っている。従穴部の長軸は75cm, 短軸79cm, 底面までの深さは最深部で68cm, トンネル部の長軸16cm, 短軸35cm, 高さ36cm, 埋土はV層を基調とした黒褐色土であり、土坑底面はにぶい赤褐色土である。

出土遺物は埋土①から土器1点及び炭化物が出土した。9は外面に横位の貝殻条痕を施す胴部である。I類土器である。なお、埋土①から出土した炭化物で年代測定を実施したところ、未補正で $9534 \pm 36^{14}\text{C}$ BPの値が得られた(IAAA-210170)。(第V章参照)

21号連穴土坑（SK71）・22号連穴土坑（SK69）

〔重複遺構〕 102号土坑（IV類：SK147）

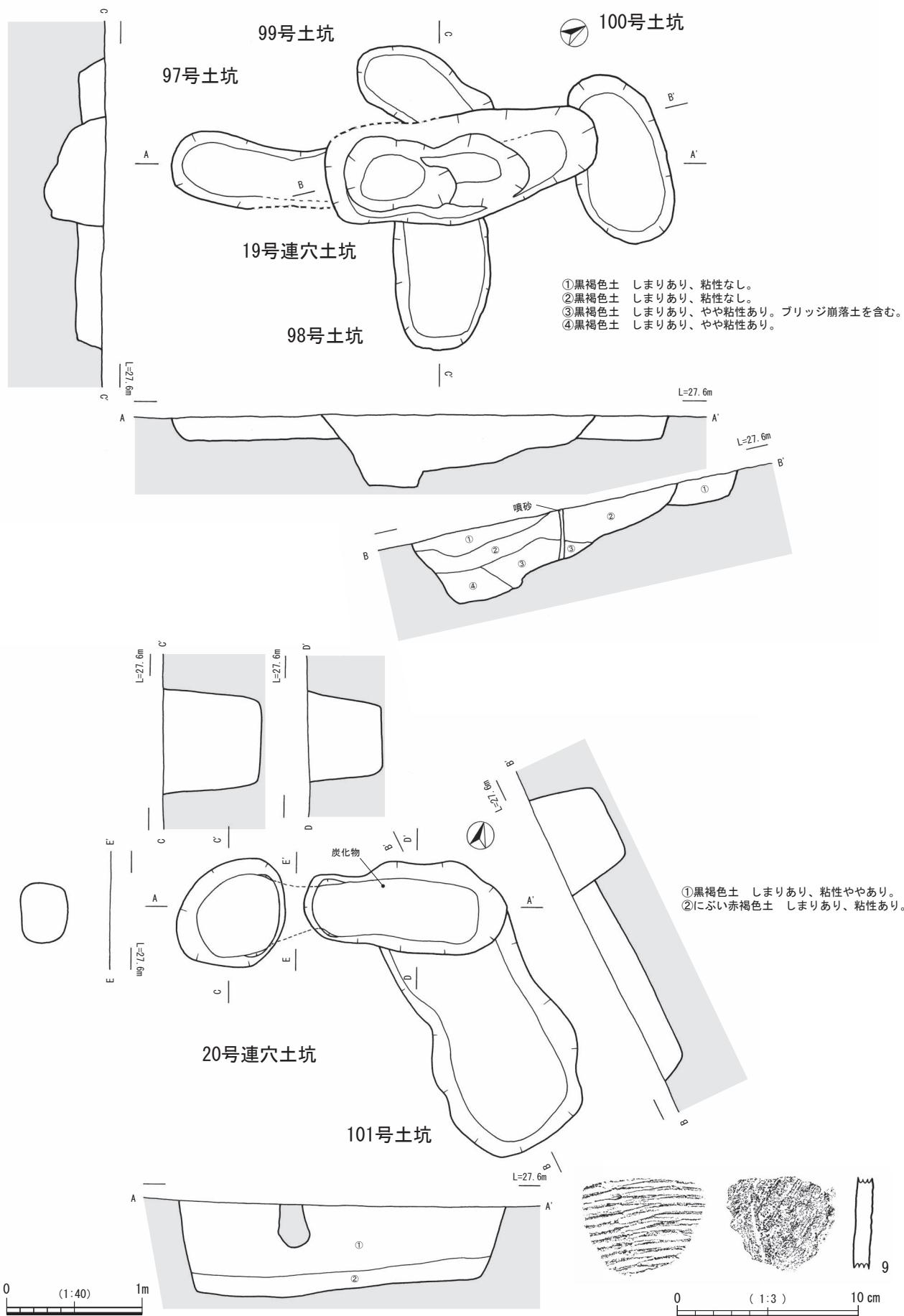
103号土坑（III類：SK148） [第25図]

102号土坑は、22号連穴土坑と103号土坑に切られている。平面の形状は長軸(98)cm, 短軸54cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で36cmを測る。埋土はV層を基調とする黒褐色土である。埋土から出土した遺物等はなかった。

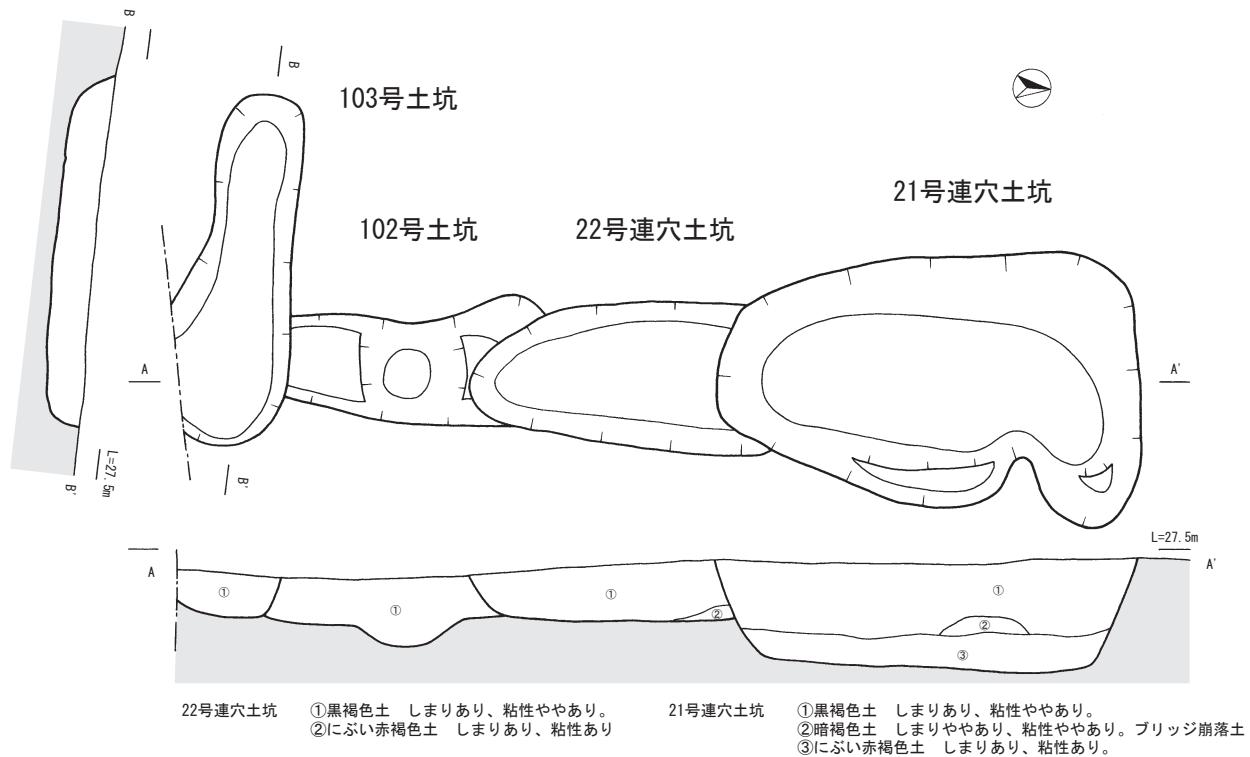
22号連穴土坑は102号土坑を切り、21号連穴土坑に切られているが、埋土中にブリッジの崩落土が確認できたことから連穴土坑と判断した。全長は不明であるが、底面までの深さは最深部で34cmを測る。埋土は、黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落土は10～20mmのロームブロックを含んでいる暗褐色土である。埋土から出土した遺物はなかった。埋土状況からブリッジ崩落後に21号連穴土坑が構築されたと考えられる。

21号連穴土坑はE-6・7区, Xa層で検出した。22号連穴土坑を切っている。サブトレンチを入れ、ブリッジ崩落土が確認できたことから、連穴土坑と判断した。全長は223cm, 底面までの深さは最深部で59cmを測る。埋土は黒褐色土が大部分を占める。ブリッジ崩落部分は暗褐色土で10～30mmのやや大きめのロームブロックを含む。土坑底面はにぶい赤褐色土で、1mm以下の炭化物の粒子をわずかに含んでいる。

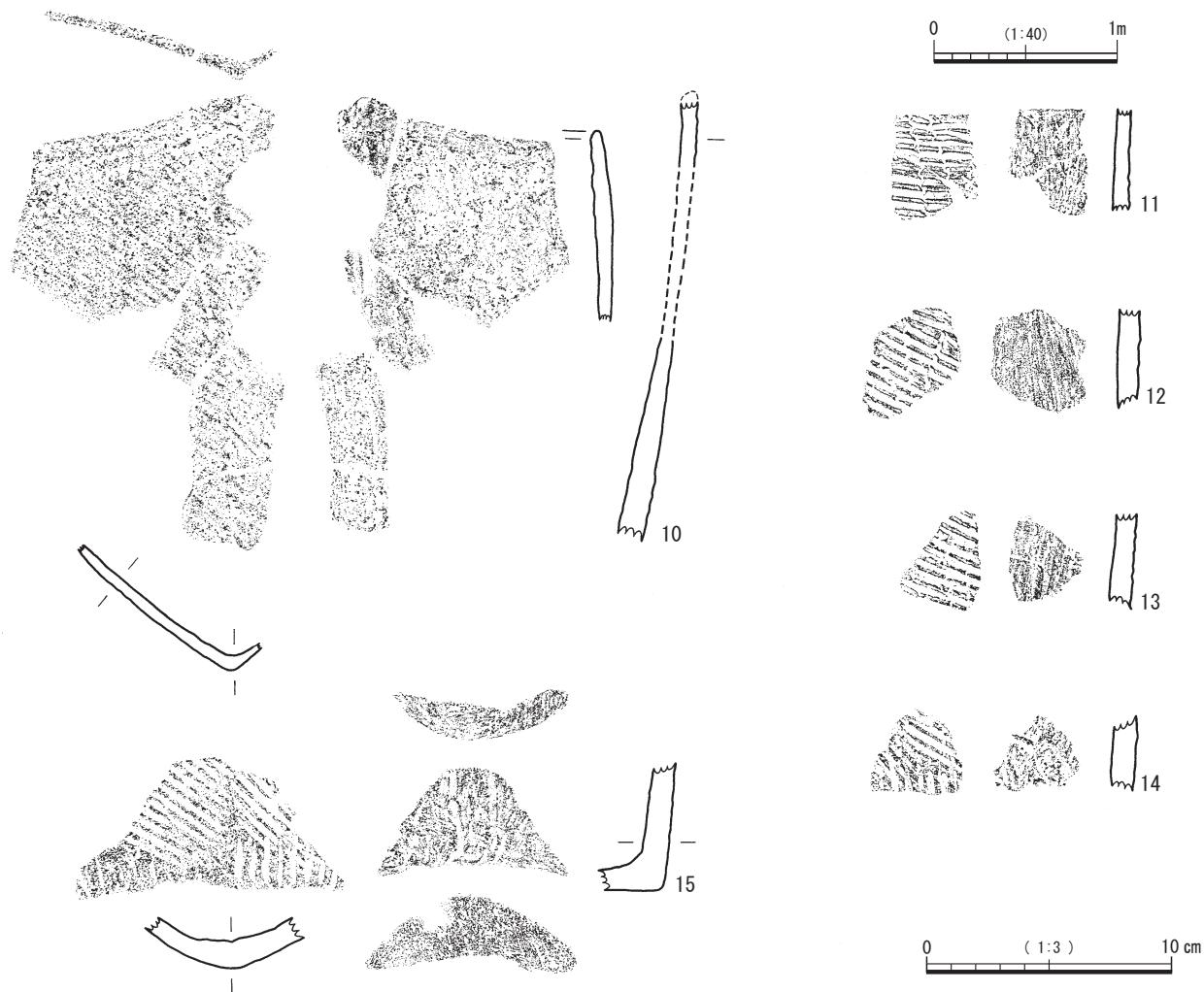
出土遺物は埋土①・②から土器10点が出土し、その他に遺構内一括で土器11点を取り上げた。10は角筒器形の口縁から胴部である。内外面とも摩滅しており、文様等は判然としない。11～14は遺構内一括遺物である。11



第24図 19号連穴土坑, 97～100号土坑 /20号連穴土坑, 101号土坑・出土遺物



22号連穴土坑 ①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。
②にぶい赤褐色土 しまりあり、粘性あり
21号連穴土坑 ①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。
②暗褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。ブリッジ崩落土
③にぶい赤褐色土 しまりあり、粘性あり。



第25図 21-22号連穴土坑, 102-103号土坑・出土遺物

は円筒器形の胴部、12・13は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。14は底部付近である。横断面が緩い弧状となるため、角筒器形か円筒器形か判然としない。15は角筒器形の底面である。角部は鈍角であり、底面はやや丸みを帯びる。外面に斜位の貝殻条痕と底部境から縦位の貝殻条痕を施す。すべてⅡ類土器である。

23号連穴土坑（SK110）

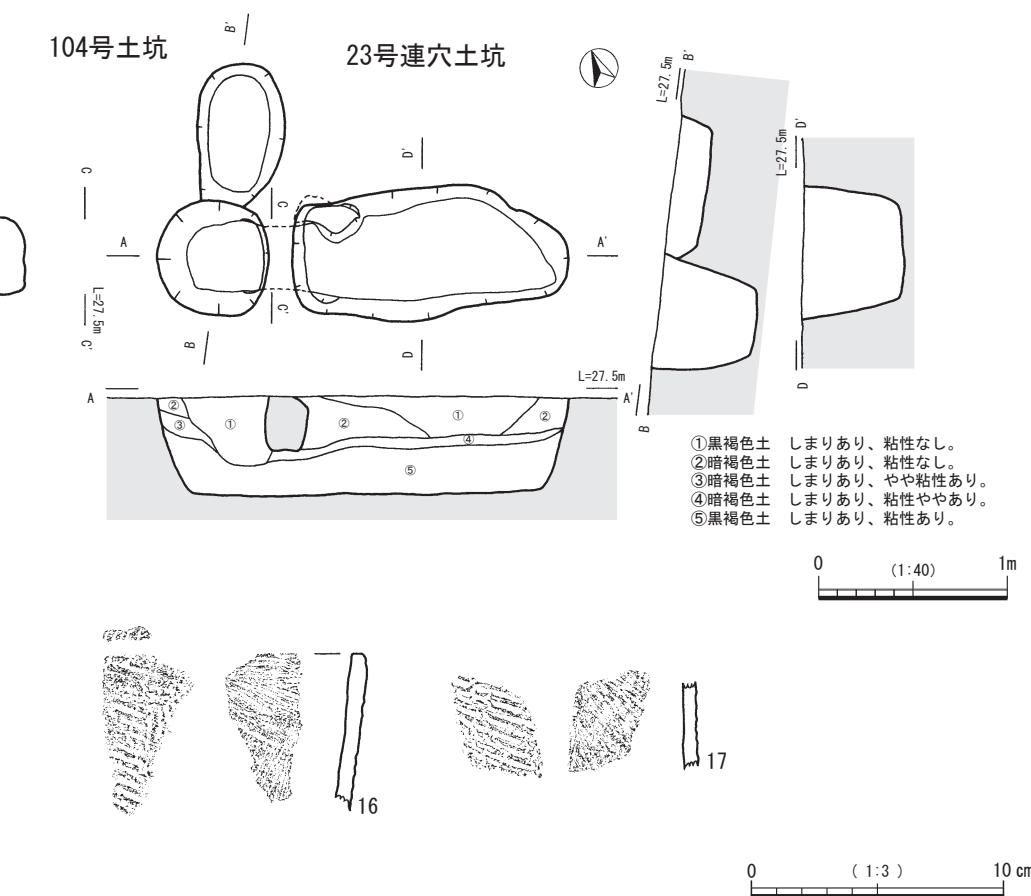
【重複遺構】 104号土坑（V類：SK111） [第26図]

104号土坑は平面の形状が長軸(74)cm、短軸46cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測る。埋土は黒褐色土である。埋土から出土した遺物はなかった。

23号連穴土坑は、E-8区、Xa層で検出した。Xa～Xb層部分を利用したブリッジが残る連穴土坑であ

る。全長218cm、主穴部の長軸は146cm、短軸70cmであり、検出面からの深さは52cmである。従穴部の検出面からの深さ52cm、長軸59cm、短軸61cmである。トンネル部の高さは24cm、長軸13cm、短軸は32cmである。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含んでいる。

出土遺物は埋土①から土器が3点が出土し、その他に遺構内一括で土器1点を取り上げた。また、埋土⑤から炭化物が出土した。16・17は文様・胎土・焼成等が類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。角筒器形の口縁から胴部であり、口縁部に縦位の貝殻刺突線文を連続して施し、その下に横位の貝殻刺突線文を1段施す。胴部には貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。



第26図 23号連穴土坑、104号土坑・出土遺物

第3表 連穴土坑観察表

遺構名	旧遺構名	検出区	検出面	主軸	全長 (cm)	最深部 深度 (cm)	トンネル部(cm)	主穴部(cm)	ブリッジ 横土	炭化物	出土遺物	土器	石器	
1号連穴土坑	SK49	C-D-9	Xa	N2° E	219	65	—	—	—	—	—	O	—	
2号連穴土坑	SK91	D-4	Xa	N50° E	337	30	—	—	—	—	—	O	—	
3号連穴土坑	SK106	D-6	Xa	N19° E	193	60	—	—	—	—	—	O	—	
4号連穴土坑	SK116	D-7-8	Xa	N7° E	186	44	—	—	—	—	—	O	—	
5号連穴土坑	SK113	D-7-8	Xa	N3° W	179	61	13	39	41	106	75	52	O	
6号連穴土坑	SK26	27	E-4	X	S24° W	200	29	18	21	12	140	72	26	O
7号連穴土坑	SK83	E-6	Xa	W33° N	241	55	83	89	54	21	29	36	137	78
8号連穴土坑	SK70	E-7	Xa	N75° E	191	55	—	—	—	—	—	O	—	—
9号連穴土坑	SK112	E-8	Xa	N5° W	241	41	61	72	41	16	29	164	59	35
10号連穴土坑	SK160	E-8	VIII	W18° S	205	68	—	—	—	—	—	O	—	—
11号連穴土坑	SK38	C-5	Xa	W18° S	267	46	—	—	—	—	—	O	—	—
12号連穴土坑	SK103	D-5-6	Xa	E42° S	(220)	67	—	—	—	—	—	O	—	—
13号連穴土坑	SK121	D-7	Xa	N70° E	(197)	63	—	—	—	—	—	O	—	—
14号連穴土坑	SK134	D-8	Xa	N88° E	162	68	—	—	—	—	—	O	—	—
15号連穴土坑	SK39	E-4	Xa	S39° W	236	(27)	—	—	—	—	—	O	—	—
16号連穴土坑	SK55	E-5	Xa	W23° S	225	52	—	—	—	—	—	O	—	—
17号連穴土坑	SK89	E-5	Xa	W48° S	269	50	—	—	—	—	—	O	—	—
18号連穴土坑	SK139	E-5	Xa	N86° E	(141)	50	—	—	—	—	—	O	—	—
19号連穴土坑	SK77	E-6	Xa	W71° S	201	53	—	—	—	—	—	O	—	—
20号連穴土坑	SK66	67	E-6	Xa	W90° S	241	68	75	79	68	16	35	150	67
21号連穴土坑	SK71	E-6-7	Xa	W15° S	223	59	—	—	—	—	—	O	—	—
22号連穴土坑	SK69	E-6-7	Xa	N6° W	(130)	34	—	—	—	—	—	O	—	—
23号連穴土坑	SK110	E-8	Xa	N6° W	218	52	59	61	52	13	32	24	146	70
												O	—	—

(2) 土坑【第27図～37図】

(単独検出)

1号土坑 (I類 : SK17) [第27図]

B-4区のXa層で検出した。平面の形状は長軸113cm、短軸97cmの円形である。底面までの深さは最深部で13cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

2号土坑 (I類 : SK44) [第27図]

C・D-8区のXa層で検出した。平面の形状は長軸92cm、短軸77cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測り、断面の形状は擂鉢状を呈する。埋土は掘り込み部は暗褐色土で、中央部が黒褐色土及び底面は暗褐色土である。少量の炭化物、パミスを含む。

出土遺物は埋土①から炭化物が出土した。

3号土坑 (I類 : SK62) [第27図]

D-4区のXa層で検出した。平面の形状は長軸84cm、短軸73cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

4号土坑 (I類 : SK63) [第27図]

D-4区のXa層で検出した。平面の形状は長軸92cm、短軸89cmの円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土である。

出土遺物は埋土①からⅡ類土器1点が出土したが、小片のため掲載には至らなかった。

5号土坑 (I類 : SK96) [第27図]

D-4区のXa層で検出した。平面の形状は長軸62cm、短軸62cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とした黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

6号土坑 (I類 : SK167) [第27図]

D-5区のXa層で検出した。平面の形状は長軸54cm、短軸54cmの円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

7号土坑 (I類 : SK88) [第27図]

D-5区のVII層で検出した。平面の形状は長軸86cm、短軸84cmの円形である。底面までの深さは最深部で13cmを測り、断面の形状は皿状を呈する。埋土は黒褐色土を基調とする。

埋土から遺物は出土していない。

8号土坑 (I類 : SK102) [第27図]

D-6区のXa層で検出した。当初は10号土坑との連穴土坑の可能性も考えられ調査を行ったが、トンネルやブリッジの痕跡が確認できなかつたため単独の土坑と判断した。平面の形状は長軸62cm、短軸52cmの円形である。底面までの深さは最深部で26cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とした黒褐色土で、炭化物の粒子を含む。

埋土①から炭化物が出土した。この炭化物で年代測定を実施したところ、未補正で 9412 ± 35^{14C} BPの値が得られた(IAAA - 210173)。(第V章参照)

9号土坑 (I類 : SK153) [第27図]

D-6区のXa層で検出した。平面の形状は長軸64cm、短軸60cmの円形である。底面までの深さは最深部で17cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

10号土坑 (I類 : SK145) [第27図]

D-6区のXa層で検出した。当初は8号土坑との連穴土坑の可能性も考えられ調査を行ったが、トンネルやブリッジの痕跡が確認できなかつたため単独の土坑と判断した。平面の形状は長軸65cm、短軸52cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とした黒褐色土で、炭化物の粒子を含む。

埋土から遺物は出土していない。

11号土坑 (I類 : SK86) [第27図]

D・E-6区のXa層で検出した。平面の形状は長軸76cm、短軸66cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とした黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

12号土坑 (I類 : SK126) [第27図]

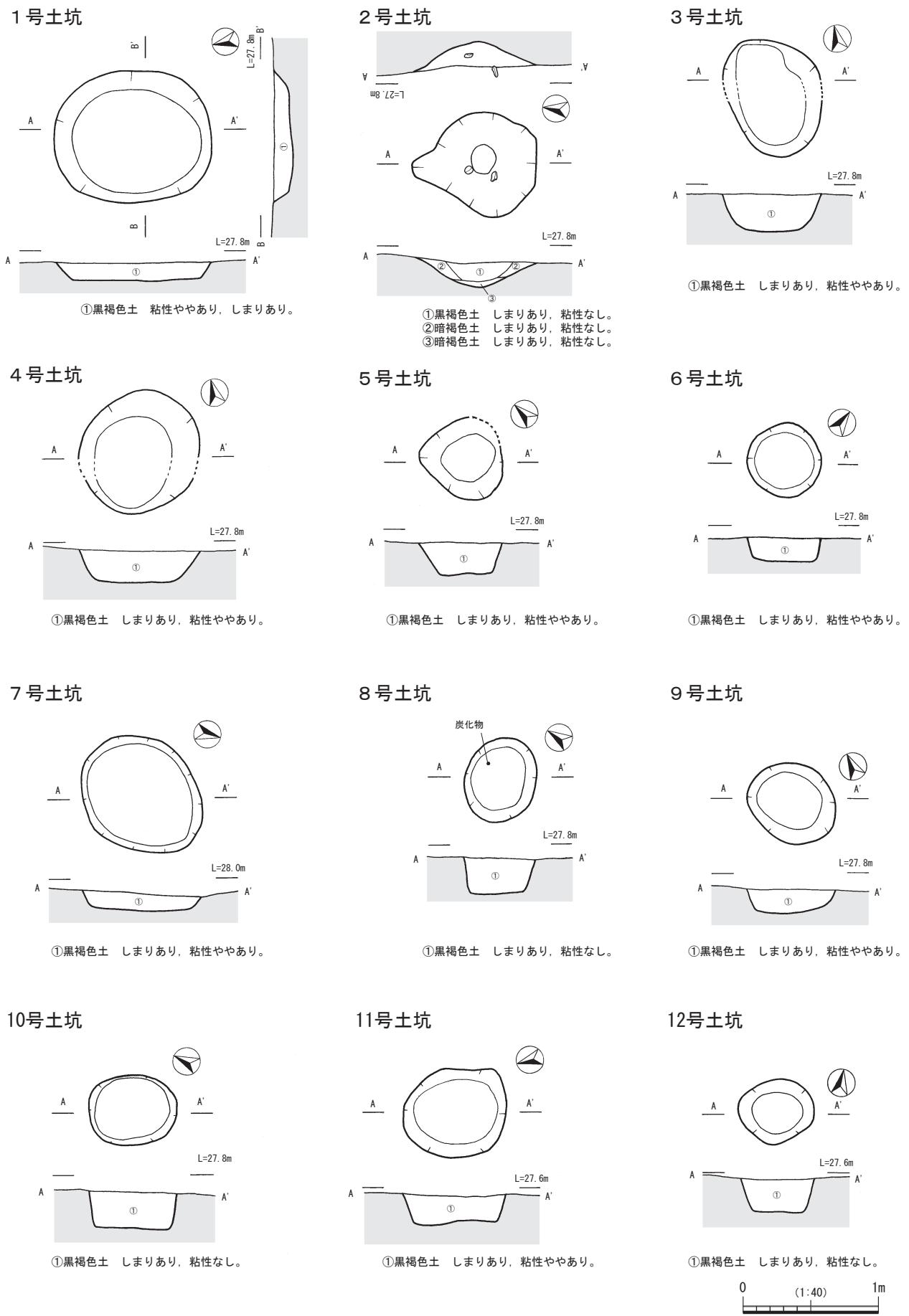
D-7区のXa層で検出した。平面の形状は長軸54cm、短軸48cmの円形である。底面までの深さは最深部で24cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で、炭化物の粒子を極少量含む。

埋土から遺物は出土していない。

13号土坑 (I類 : SK127) [第28図]

D-7区のXa層で検出した。平面の形状は長軸74cm、短軸66cmの円形である。底面までの深さは最深部で21cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土を基調とし、炭化物の粒子を含む。

埋土から遺物は出土していない。



第27図 1～12号土坑

14号土坑 (I類 : SK23)

[第28図]

E-4区のXa層で検出した。平面の形状は長軸170cm、短軸158cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で12cmを測り、断面の形状は舟形状を呈する。

出土遺物は埋土①から土器1点が出土した。18は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。II類土器である。

15号土坑 (I類 : SK143)

[第28図]

E-5区のXa層で検出した。平面の形状は長軸67cm、短軸61cmの円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土を基調とする。

埋土から遺物は出土していない。

16号土坑 (I類 : SK144)

[第28図]

E-5区のXa層で検出した。平面の形状は長軸71cm、短軸64cmの円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

17号土坑 (I類 : SK73)

[第28図]

E-6区のXa層で検出した。平面の形状は長軸94cm、短軸77cmの円形である。底面までの深さは最深部で14cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土で、1mm以下の炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

18号土坑 (I類 : SK162)

[第28図]

E-8区のXa層で検出した。平面の形状は長軸86cm、短軸70cmの円形である。底面までの深さは最深部で15cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土で炭化物の粒子を極少量含む。

埋土から遺物は出土していない。

19号土坑 (I類 : SK87)

[第28図]

E-9区のVII層で検出した。平面の形状は長軸96cm、短軸88cmの不定形円形である。底面までの深さは最深部で12cmを測り、断面の形状は擂鉢状を呈する。埋土は黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

20号土坑 (II類 : SK172)

[第28図]

D-5区のXa層で検出した。平面の形状は長軸105cm、短軸63cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

21号土坑 (II類 : SK42)

[第28図]

E-4区のXa層で検出した。平面の形状は長軸119cm、短軸80cmの不定形楕円形である。底面までの深さは最深部で30cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は上層部は黒褐色土で、底面は暗褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

22号土坑 (II類 : SK149)

[第28図]

E-6区のXa層で検出した。平面の形状は長軸115cm、短軸66cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で18cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土で、1mm以下の炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

23号土坑 (II類 : SK146)

[第28図]

E-7区のXa層で検出した。平面の形状は長軸100cm、短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で21cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

24号土坑 (II類 : SK161)

[第28図]

E-8区のXa層で検出した。平面の形状は長軸83cm、短軸56cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土で炭化物を少量含む。

埋土から遺物は出土していない。

25号土坑 (III類 : SK18)

[第29図]

B-4区のXa層で検出した。平面の形状は長軸(194)cm、短軸73cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で28cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。北側は調査区外へ伸びる。埋土は黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

26号土坑 (III類 : SK15)

[第29図]

C-3区のXa層で検出した。平面の形状は長軸245cm、短軸104cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で11cmを測り、断面の形状は浅い皿状を呈する。

埋土から遺物は出土していない。

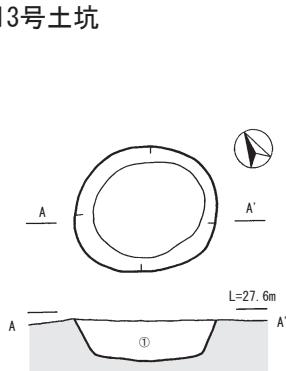
27号土坑 (III類 : SK14)

[第29図]

C-4区のXa層で検出した。平面の形状は長軸191cm、短軸65cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測り、断面の形状は舟形状を呈する。埋土は黒褐色土である。

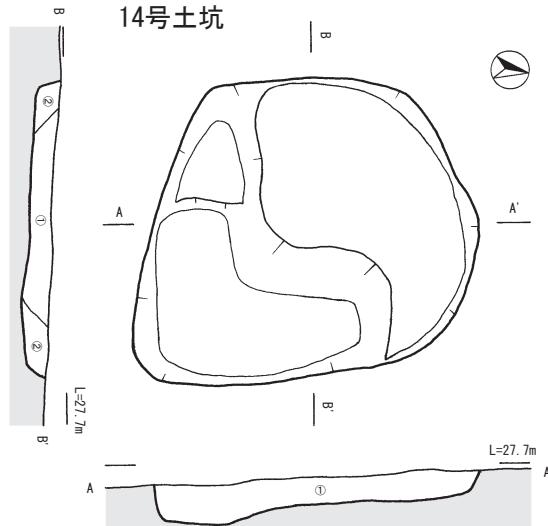
埋土から礫が6点出土した。

13号土坑



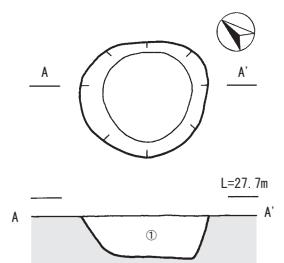
①黒褐色土 しまりあり、粘性なし。

14号土坑

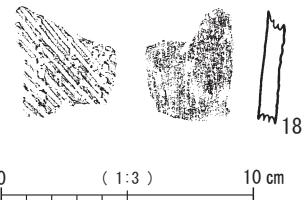


①黒褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。
②暗褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。

15号土坑

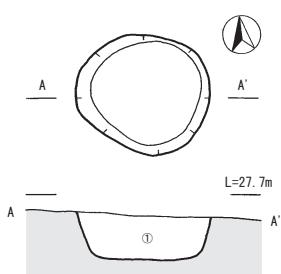


①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。



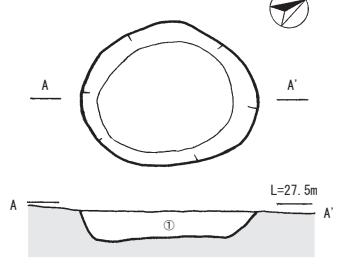
0 (1:3) 10 cm

16号土坑



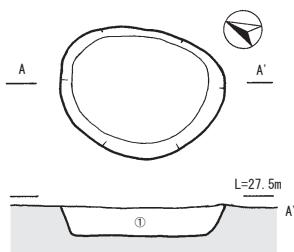
①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。

17号土坑



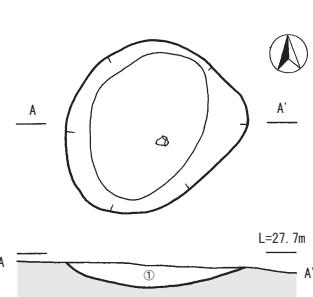
①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。

18号土坑



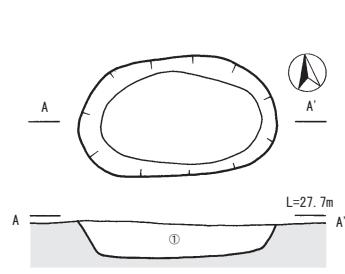
①黒褐色土 しまりあり、粘性なし。

19号土坑



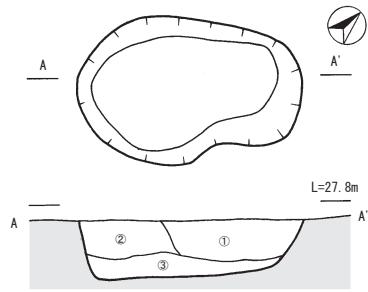
①黒褐色土 しまりあり、粘性なし。

20号土坑



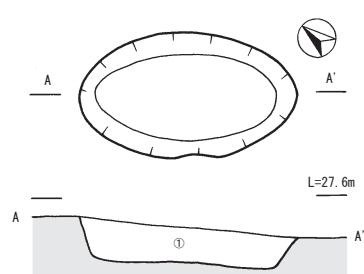
①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。

21号土坑



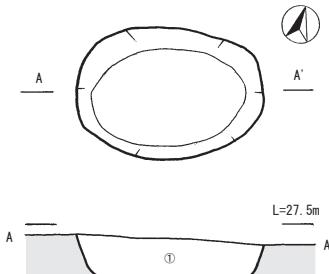
①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。
②黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。
③暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。

22号土坑



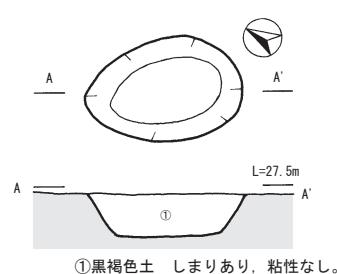
①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。

23号土坑



①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。

24号土坑

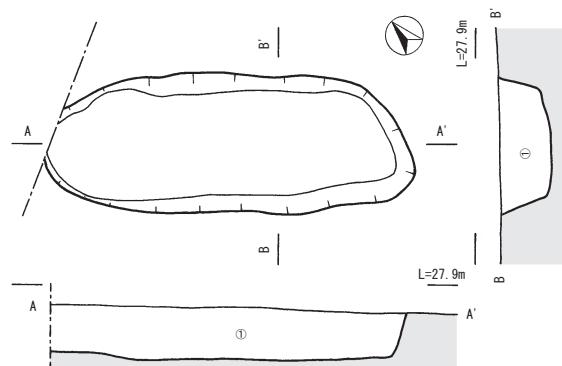


①黒褐色土 しまりあり、粘性なし。

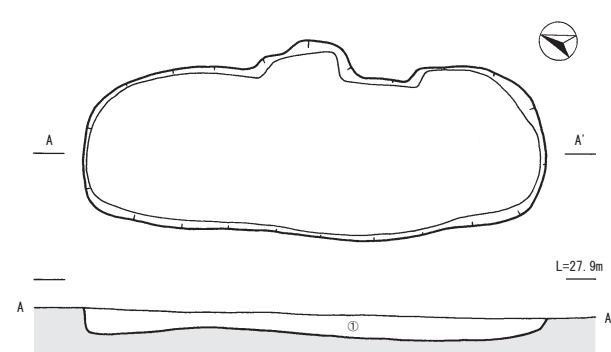
0 (1:40) 1m

第28図 13～24号土坑・出土遺物

25号土坑

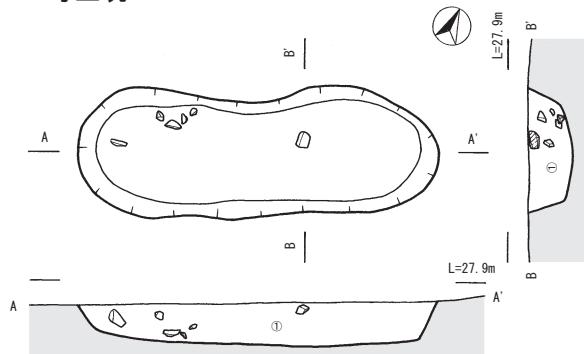


26号土坑



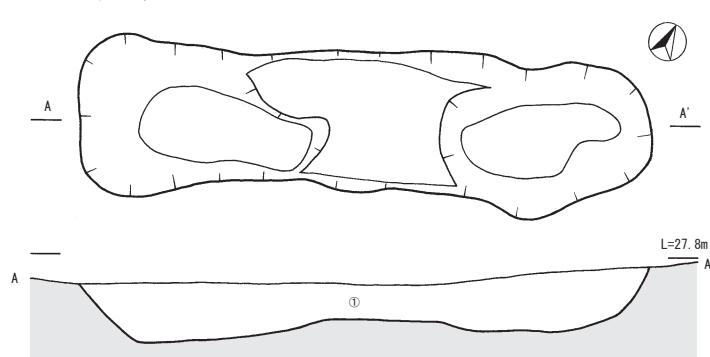
①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。

27号土坑



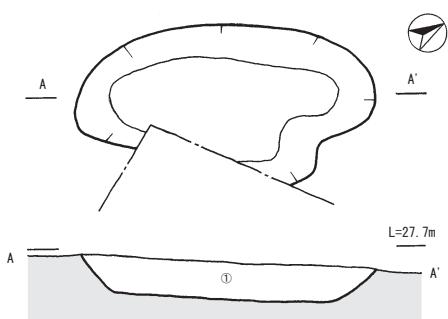
①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。

28号土坑



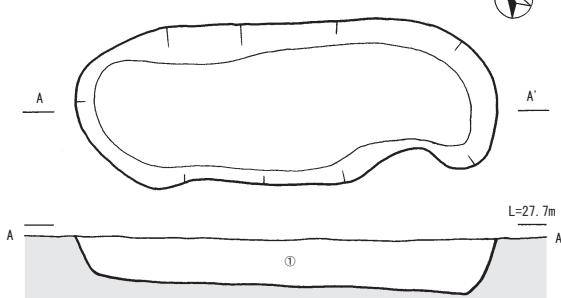
①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。中央部分に暗褐色土が斑状にまじる。

29号土坑



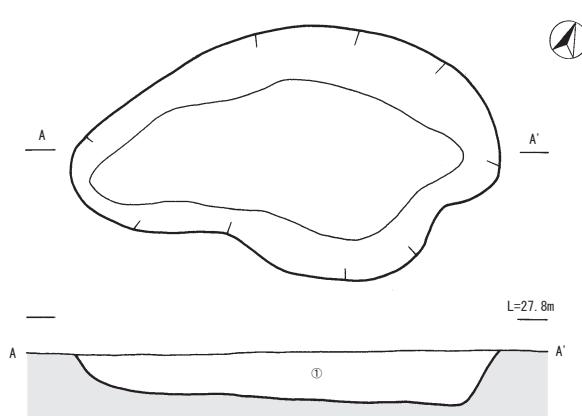
①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。

30号土坑



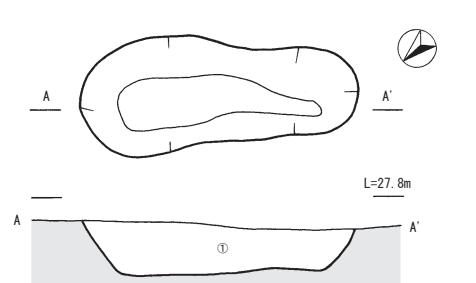
①黒褐色土 しまりあり、粘性なし。

31号土坑



①黒褐色土 しまりあり、粘性なし。

32号土坑



①黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。

0 (1:40) 1m

第29図 25 ~ 32号土坑

28号土坑（Ⅲ類：SK92）**[第29図]**

C-4・5区のXa層で検出した。平面の形状は長軸303cm、短軸74cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で19cmを測り、断面の形状は舟形状を呈する。埋土は黒褐色土で、炭化物の粒子を含む。中央部分に暗褐色土が班状に混じる。

埋土から遺物は出土していない。

29号土坑（Ⅲ類：SK171）**[第29図]**

D-5区のXa層で検出した。東側は先行トレンチにより削平されている。平面の形状は長軸156cm、短軸(70)cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で20cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVIII層を基調とする黒褐色土で1mm以下の炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

30号土坑（Ⅲ類：SK99）**[第29図]**

D-5・6区のXa層で検出した。平面の形状は長軸223cm、短軸85cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で25cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で、炭化物の粒子を含む。

埋土①から炭化物が出土した。

31号土坑（Ⅲ類：SK107）**[第29図]**

D-6区のXa層で検出した。平面の形状は長軸224cm、短軸132cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で25cmを測り、断面の形状は舟形状を呈する。埋土は黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

32号土坑（Ⅲ類：SK154）**[第29図]**

D-6区のXa層で検出した。平面の形状は長軸144cm、短軸58cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で28cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVIII層を基調とする黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

33号土坑（Ⅲ類：SK114）**[第30図]**

D-7・8区のXa層で検出した。平面の形状は長軸158cm、短軸68cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で20cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で、しまりがあり、粘性はない。1～3mmのローム粒子、1～2mmの炭化物の粒子を含む。

埋土から遺物は出土していない。

34号土坑（Ⅲ類：SK48）**[第30図]**

D-8区のXa層で検出した。平面の形状は長軸103cm、短軸57cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は東西の壁面が一部崩落し堆積したと考えられる。中央部は暗褐色土で、炭化物の粒子を少量含む。

埋土から遺物は出土していない。

35号土坑（Ⅲ類：SK25）**[第30図]**

E-4区のXa層で検出した。平面の形状は長軸144cm、短軸72cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVIII層を基調とする黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

36号土坑（Ⅲ類：SK57）**[第30図]**

E-5区のXa層で検出した。平面の形状は長軸140cm、短軸65cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で13cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は上層部及び底面は黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

37号土坑（Ⅲ類：SK58）**[第30図]**

E-5区のXa層で検出した。平面の形状は長軸130cm、短軸70cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVIII層を基調とする黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

38号土坑（Ⅲ類：SK79）**[第30図]**

E-6区のXa層で検出した。平面の形状は長軸(195)cm、短軸110cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で31cmを測り、断面の形状は擂鉢状を呈する。埋土はVIII層を基調とする黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

39号土坑（IV類：SK16）**[第30図]**

B-4区のXa層で検出した。平面の形状は長軸(193)cm、短軸114cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で50cmを測り、断面の形状は台形状で中央部は擂鉢状の掘り込みを呈する。北側は調査区外へ伸びる。主軸部分より連穴土坑の可能性も想定されたがブリッジやブロック等確認できなかったため土坑と判断した。埋土は黒褐色土で、炭化物をわずかに含む。

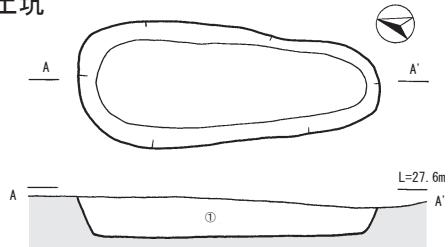
出土遺物は、埋土①からII類土器2点が出土したが、小片のため掲載には至らなかった。

40号土坑（IV類：SK19）**[第30図]**

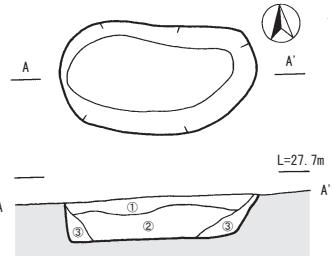
B-4区のXa層で検出した。平面の形状は連穴土坑の可能性も想定されたがブリッジやブロック等確認できなかったため土坑と判断した。平面の形状は長軸190cm、短軸91cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で17cmを測り、断面の形状は、西側は擂鉢状で、東側は舟形状を呈する。埋土はVIII層を基調とする黒褐色土で、1mm程度の炭化物を含む。

埋土から遺物は出土していない。

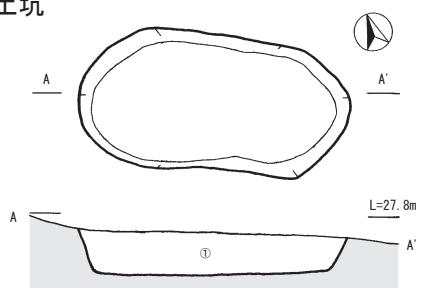
33号土坑



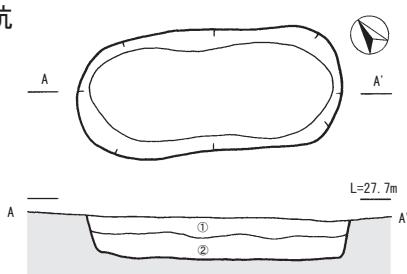
34号土坑



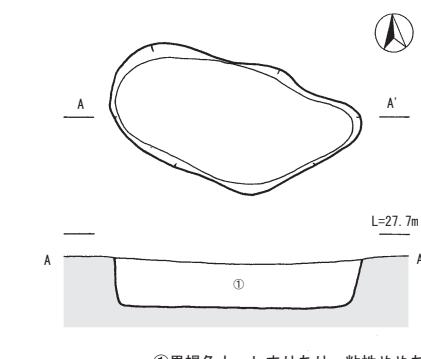
35号土坑



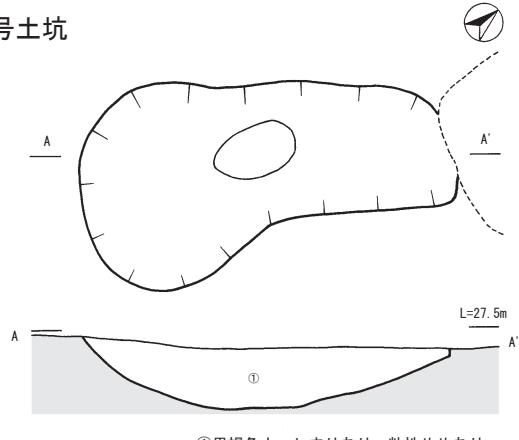
36号土坑



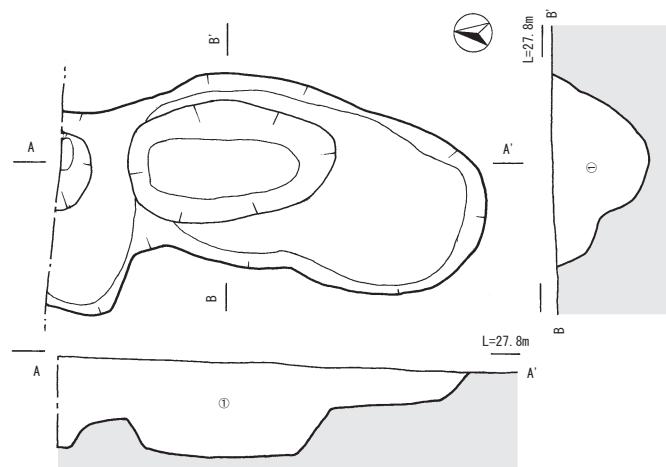
37号土坑



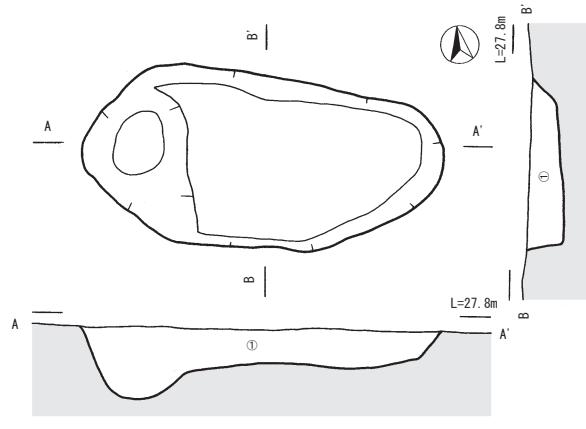
38号土坑



39号土坑



40号土坑



0 (1:40) 1m

第30図 33～40号土坑

41号土坑 (IV類 : SK61)

[第31図]

D-4区のXa層で検出した。平面の形状は連穴土坑に類似するが、ブリッジ崩落土等は確認できなかつたため土坑と判断した。長軸(220)cm、短軸(98)cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で59cmを測り、断面の形状は台形状で、一部擂鉢状の掘り込み部を呈する。埋土はVII層を基調とする。上層部は黒褐色土で、底面はにぶい赤褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

42号土坑 (IV類 : SK35)

[第31図]

E-4区のXa層で検出した。上層からの搅乱に南側が削平されているが、埋土やプランの状況が10号連穴土坑と類似しており、連穴土坑の可能性も考え調査を進めたが、トンネルやブリッジ崩落土等は確認できず。土坑と判断した。平面の形状は長軸(111)cm、短軸76cmの不定形長楕円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で、黄橙色の粒子を多量に含む。

埋土から遺物は出土していない。

43号土坑 (V類 : 土坑17号)

[第31図]

B-8区のIX層上面で検出した。北部分は調査区外へ延びている。検出時は集石遺構として調査したが、礫数が少なく、土坑と判断した。長軸(119)cm、短軸(55)cmである。底面までの深さは最深部で21cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。

埋土から遺物は出土していない。

44号土坑 (V類 : SK173)

[第31図]

D-5区のXa層で検出した。北側は先行トレンチにより削平されている。平面の形状は長軸(160)cm、短軸(115)cmの不定形長楕円形で、底面までの深さは最深部で35cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とする黒褐色土で、炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

45号土坑 (V類 : SK115)

[第31図]

D-7区のXa層で検出した。西側は先行トレンチにより削平されている。長軸(78)cm、短軸(34)cmで、底面までの深さは最深部で16cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で、炭化物の粒子を含む。

埋土から遺物は出土していない。

46号土坑 (V類 : SK13)

[第31図]

E-4区のVIII層で検出した。平面の形状は長軸86cm、短軸(41)cmで、底面までの深さは最深部で11cmを測り、断面の形状は浅い皿状を呈する。埋土は上層部は黒褐色土である。

埋土から遺物は出土していない。

47号土坑 (V類 : SK140)

[第31図]

E-7区のXa層で検出した。平面の形状は、長軸68cm、短軸(55)cmで、底面までの深さは最深部で26cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で、炭化物の粒子を極少量含む。

埋土から遺物は出土していない。

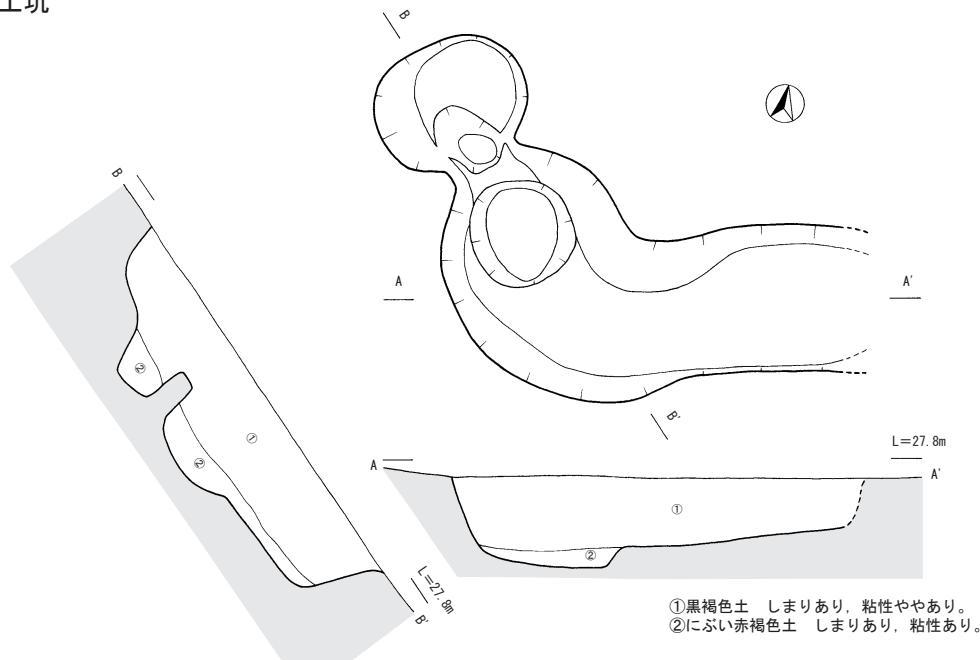
48号土坑 (V類 : SK141)

[第31図]

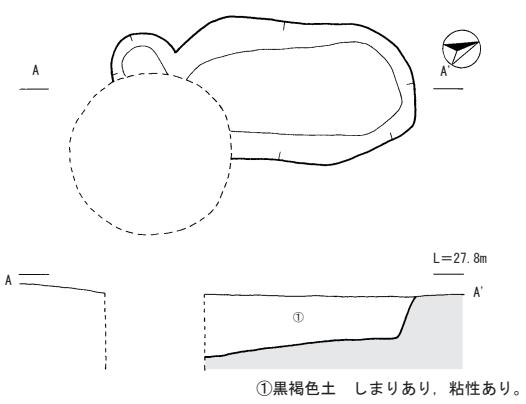
E-7区のXa層で検出した。先行トレンチにより東側は削平されている。平面の形状は、長軸(63)cm、短軸42cmで、底面までの深さは最深部で15cmを測り、断面の形状は台形状を呈する。埋土は黒褐色土で、1mm以下の炭化物の粒子をわずかに含む。

埋土から遺物は出土していない。

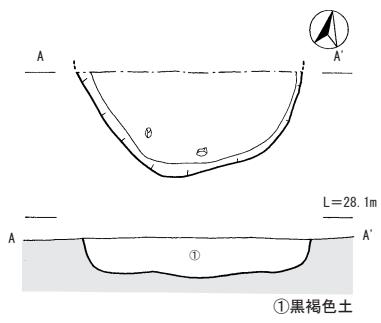
41号土坑



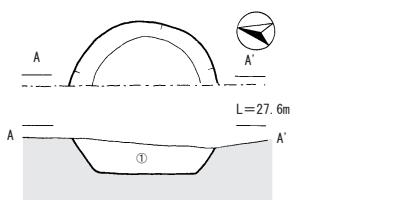
42号土坑



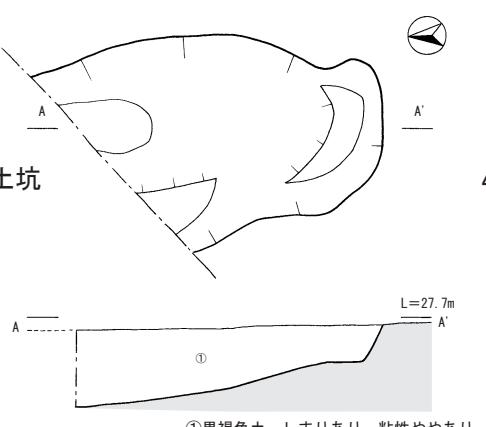
43号土坑



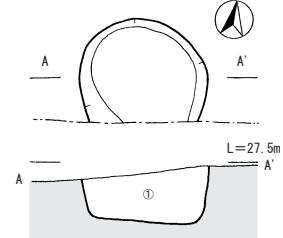
45号土坑



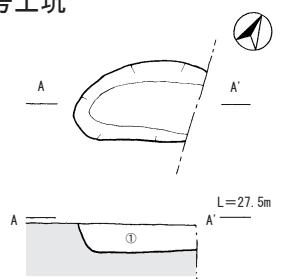
44号土坑



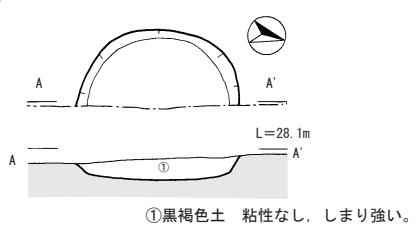
47号土坑



48号土坑



46号土坑



0 (1:40) 1m

第31図 41～48号土坑

土坑（重複検出）

49号土坑（V類：SK20） 50号土坑（II類：SK21）

[第32図]

49号土坑はB-4区のXa層で検出した。北側は調査区外へ伸び、南側は50号土坑に切られている。長軸(128)cm, 短軸82cm, 底面までの深さは最深部で25cmを測る。50号土坑は、長軸205cm, 短軸96cm, 底面までの深さは最深部で23cmを測る。埋土はとともにVIII層を基調とする黒褐色土であり、遺物等は出土していない。

51号土坑（IV類：SK43） 52号土坑（V類：SK93）

[第33図]

51号土坑はD-4区のXa層で検出した。西側は52号土坑に切られている。プランの状況から、連穴土坑の可能性も考えられたがブリッジ崩落土等は確認できず。土坑と判断した。長軸(221)cm, 短軸74cm, 底面までの深さは最深部で37cmを測る。埋土は黒褐色土である。

52号土坑はD-E-4区のXa層で検出された。北西側は先行トレンチにより削平されている。長軸(281)cm, 短軸80cm, 底面までの深さは最深部で47cmを測る。埋土は黒褐色土である。51号、52号ともに埋土から遺物は出土していない。

53号土坑（II類：SK166） 54号土坑（V類：SK168）

55号土坑（IV類：SK169） 56号土坑（IV類：SK170）

+噴砂 [第33図]

4基の重複する土坑をD-5区のXa層で検出した。

54号土坑は53号土坑と55号土坑に切られている。長軸85cm, 短軸52cm, 底面までの深さは最深部で13cmを測る。埋土はVIII層を基調とする黒褐色土である。

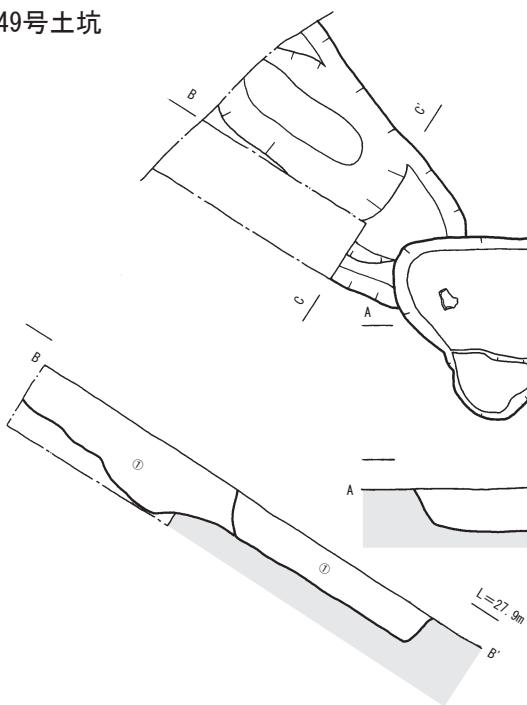
53号土坑は南側を噴砂に切られ、北東側の54号土坑を切っている。平面の形状は、長軸(132)cm, 短軸80cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で25cmを測る。断面形は皿状を呈する。

56号土坑は55号土坑に切られている。長軸186cm, 短軸82cm, 底面までの深さは最深部で11cmを測る。

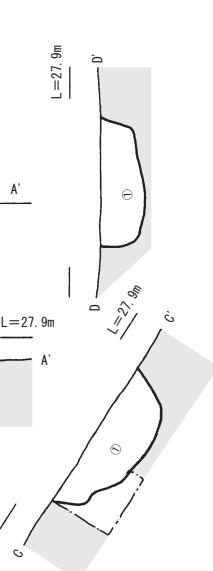
55号土坑は長軸188cm, 短軸95cm, 底面までの深さは最深部で27cmを測る。

4基とも埋土はVIII層を基調とする黒褐色土である。これらの土坑から遺物等は出土していない。

49号土坑



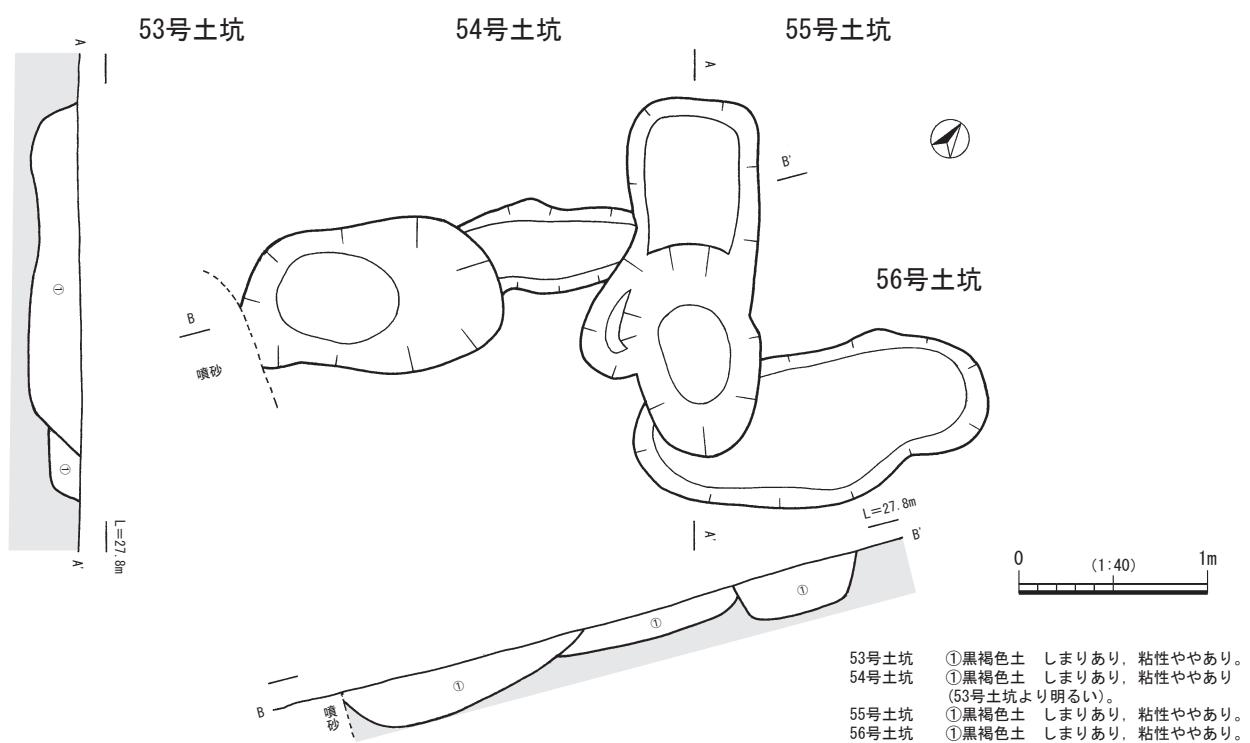
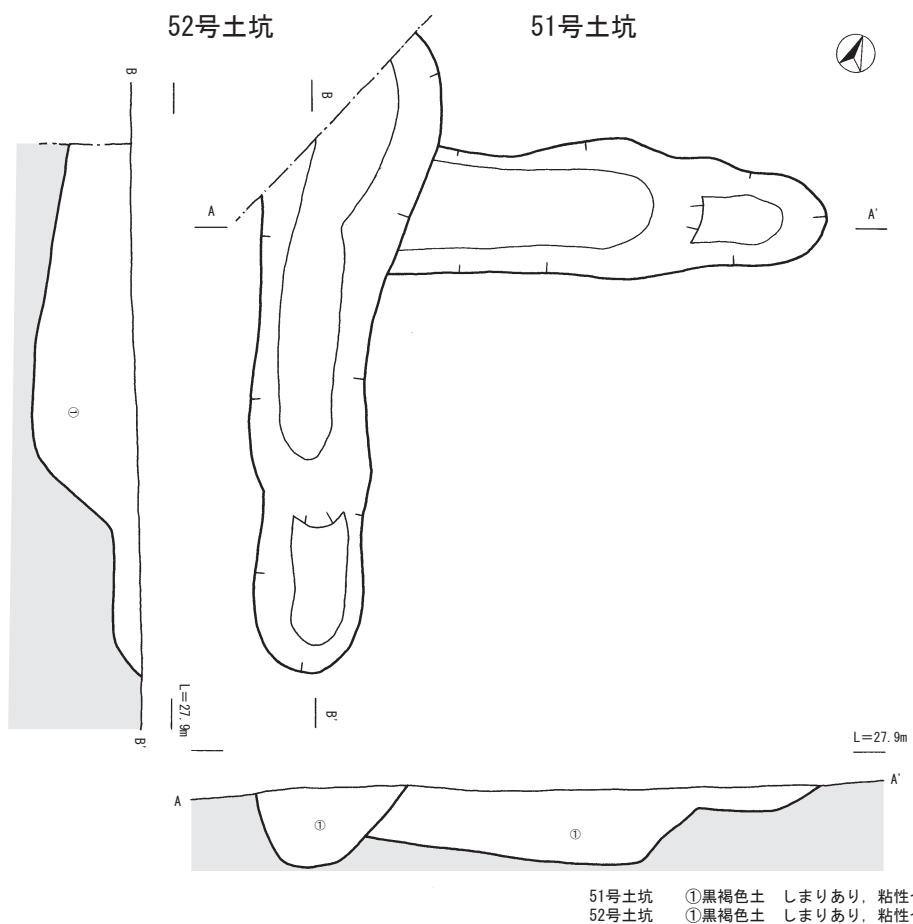
50号土坑



49号土坑 ①黒褐色土 しまりあり、粘性なし。
50号土坑 ①黒褐色土 しまりあり、粘性なし。

0 (1:40) 1m

第32図 49・50号土坑



第33図 51・52号土坑, 53～56号土坑

57号土坑 (IV類 : SK108) 58号土坑 (V類 : SK120)

[第34図]

D-6区のXa層で切り合う形で検出した。

58号土坑は57号土坑に切られている。長軸(84)cm, 短軸62cm, 底面までの深さは最深部で20cmを測る。

57号土坑は58号土坑を切っている。平面の形状は、長軸195cm, 短軸103cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で23cmを測る。断面形は舟形状を呈する。

埋土はともに黒褐色土である。

これらの土坑から遺物等は出土していない。

59号土坑 (V類 : SK85) 60号土坑 (V類 : SK155)

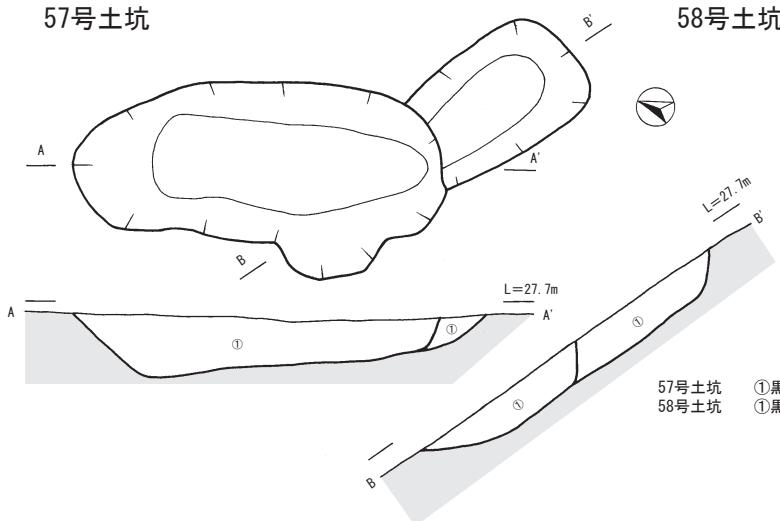
61号土坑 (V類 : SK156) 62号土坑 (II類 : SK157)

63号土坑 (V類 : SK158) [第34図]

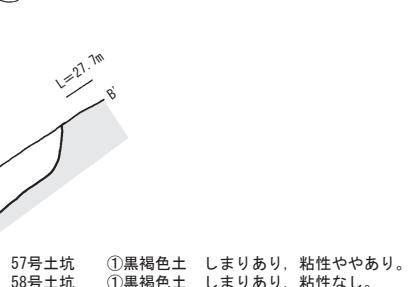
D-E-6区のXa層で検出した。60号土坑は59号土坑に切られている。平面の形状は、長軸(158)cm, 短軸(66)cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で27cmを測る。断面形は台形状を呈する。埋土はV層を基調とする黒褐色土である。

61号土坑は59号土坑に切られている。長軸(46)cm, 短軸(60)cm, 底面までの深さは最深部で23cmを測る。埋土

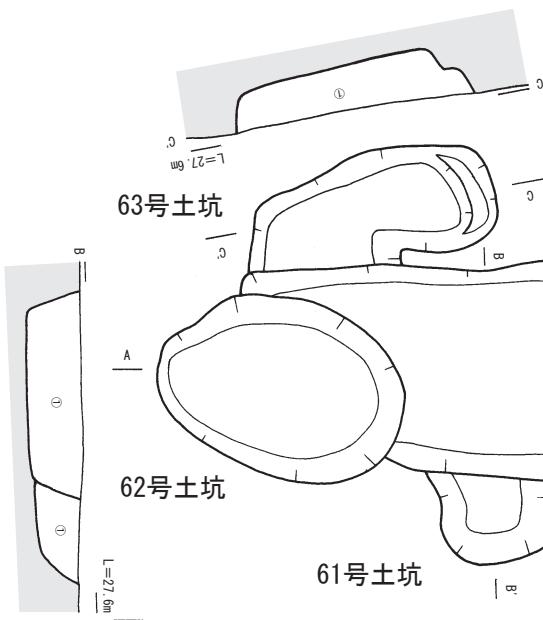
57号土坑



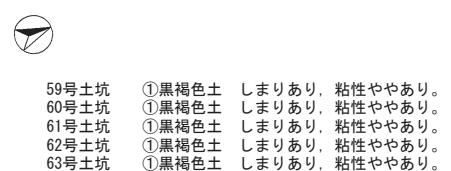
58号土坑



63号土坑

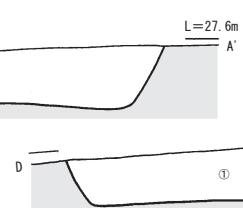


59号土坑

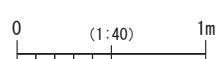


62号土坑

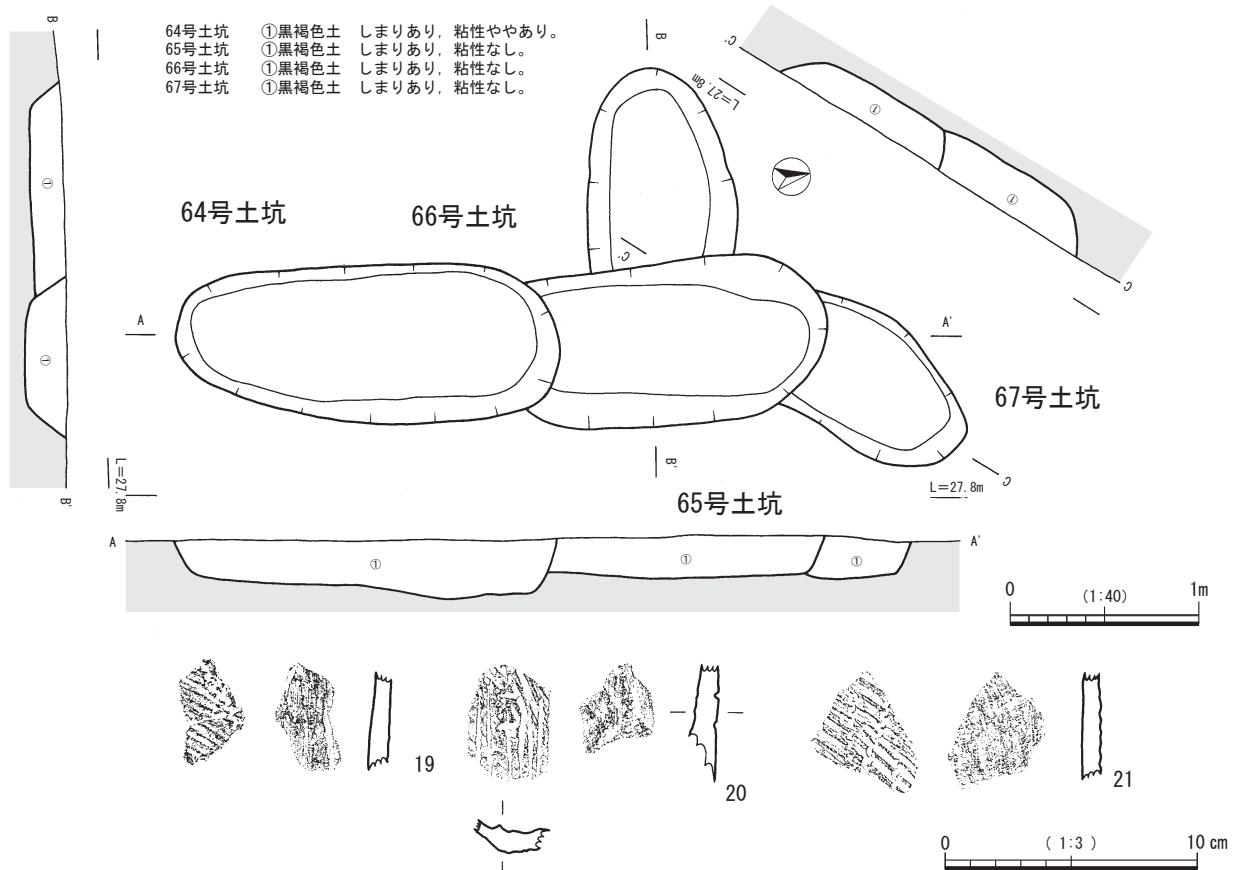
61号土坑



60号土坑



第34図 57-58号土坑, 59 ~ 63号土坑



第35図 64～67号土坑・出土遺物

はVII層を基調とする黒褐色土である。

63号土坑は東側が59号土坑に切られている。長軸128cm, 短軸63cm, 底面までの深さは最深部で23cmを測る。埋土はすべてVII層を基調とした黒褐色土である。

59号土坑は62号土坑に切られ、60号土坑, 61号土坑を切っている。平面の形状は、長軸(167)cm, 短軸119cmの長楕円形を呈する。底面までの深さは最深部で39cmを測る。断面形は台形状を呈する。埋土はVII層を基調とした黒褐色土である。

62号土坑は59号土坑を切っている。長軸132cm, 短軸94cm, 底面までの深さは最深部で25cmを測る。埋土はVII層を基調とする黒褐色土である。

これらの土坑から遺物等は出土していない。

64号土坑 (IV類: SK65) 65号土坑 (V類: SK117) 66号土坑 (V類: SK118) 67号土坑 (V類: SK119) [第35図]

D-6・7区のXa層で4基の重複する土坑を検出した。

66号土坑は65号土坑に切られている。平面の形状は、長軸(104)cm, 短軸79cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で17cmを測る。断面形は台形状を呈する。

67号土坑は65号土坑に切られている。平面の形状は、長軸(85)cm, 短軸68cmの長楕円形である。底面までの深

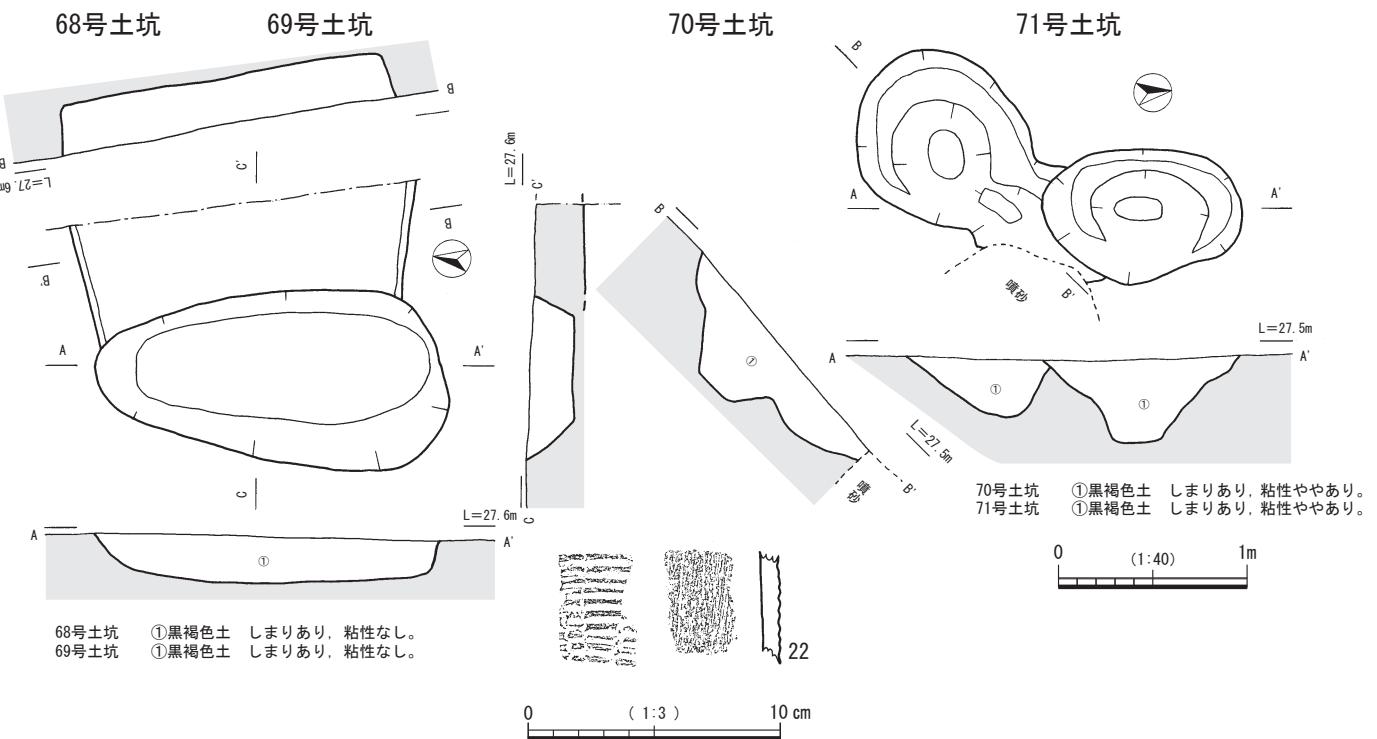
さは最深部で22cmを測る。断面形は台形状を呈する。埋土は4基ともVII層を基調とした黒褐色土で、65号土坑より明るい土色である。この土坑からは遺物等は出土していない。

65号土坑は67号土坑を切り、64号土坑に切られている。平面の形状は、長軸(142)cm, 短軸88cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で22cmを測る。断面形は台形状を呈し、埋土は黒褐色土である。

出土遺物は埋土①からⅡ類土器2点が出土し、その内1点は小片のため掲載には至らなかった。21は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。Ⅱ類土器である。

64号土坑は65号土坑を切っている。平面の形状は、長軸202cm, 短軸86cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で38cmを測る。断面形は舟形状を呈する。埋土は黒褐色土である。

出土遺物は埋土①から土器2点が出土した。19は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。20は角筒器形の底部付近である。外面に貝殻条痕と縦位の刻目を施す。角部には刺突を施す。どちらもⅡ類土器である。



第36図 68・69号土坑, 70・71号土坑・出土遺物

68号土坑 (III類 : SK124) 69号土坑 (V類 : SK125)

[第36図]

D-7区のXa層で2基の土坑を検出した。68号土坑は東側は先行トレンチにより掘削され、西側は69号土坑に切られている。長軸(178)cm、短軸48cm、底面までの深さは最深部で24cmを測る。埋土は黒褐色土である。

69号土坑は68号を切っている。長軸182cm、短軸89cm、底面までの深さは最深部で24cmを測る。埋土はともに黒褐色土である。出土遺物は埋土①から土器1点が出土した。22は円筒形容器の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。II類土器である。

70号土坑 (V類 : SK80) 71号土坑 (II類 : SK81) 噴砂

[第36図]

重複する2基の土坑と噴砂をE-6区のXa層で検出した。

70号土坑は、長軸(137)cm、短軸86cm、底面までの深さは最深部で30cmを測る。北東側は71号土坑と噴砂に切られている。平面形状より、連穴土坑の可能性も想定されたが、ブリッジの崩落土等確認できなかつたため土坑と判断した。

71号土坑は70号土坑を切っている。平面の形状は、長軸106cm、短軸72cmの楕円形である。底面までの深さは最深部で44cmを測る。断面形は擂鉢状を呈する。

2基の土坑とも埋土はVII層を基調とする黒褐色土である。これらの土坑から遺物等は出土していない。

72号土坑 (IV類 : SK24) 73号土坑 (IV類 : SK28)

74号土坑 (V類 : SK29) 75号土坑 (V類 : SK30)

76号土坑 (V類 : SK109)

[第37図]

5基の重複する土坑をE-4区のXa層で検出した。

76号土坑は72号土坑、75号土坑に切られているため形状、大きさ等は不明である。底面までの深さは最深部で32cmを測る。

74号土坑は北側は73号土坑に切られている。平面の形状は、長軸(72)cm、短軸46cm、底面までの深さは最深部で20cmを測る。

73号土坑は、東側は75号土坑に切られている。平面の形状は、長軸(160)cm、短軸59cmの長楕円形である。底面までの深さは最深部で19cmを測る。断面形は台形状を呈する。

75号土坑は73号土坑と76号土坑を切っている。平面の形状は連穴土坑に類似ながらブリッジの崩落土等は確認できなかつたため土坑と判断した。平面の形状は長楕円形である。長軸205cm、短軸51cm、底面までの深さは最深部で36cmを測る。

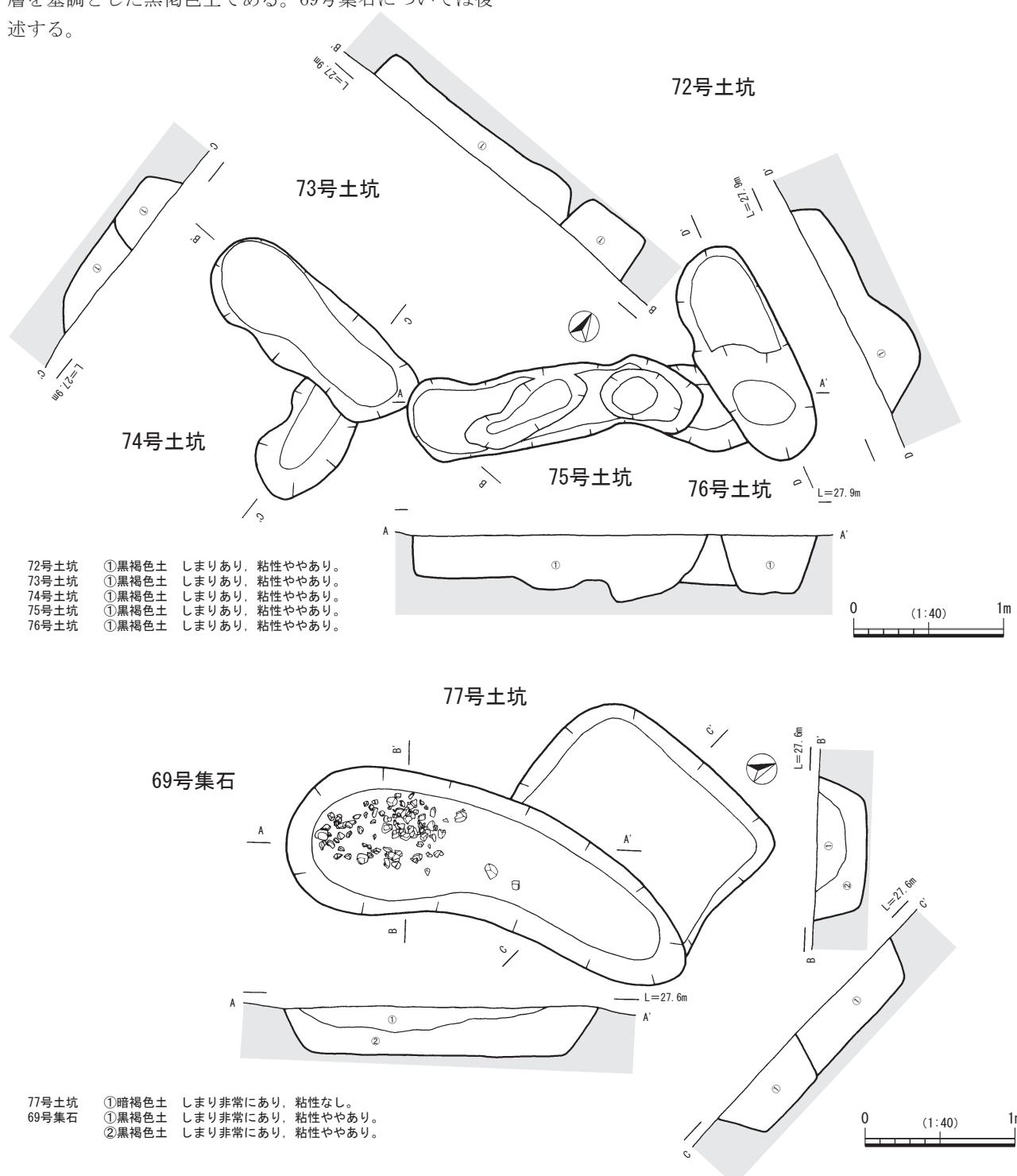
出土遺物は埋土①からII類土器1点が出土したが、小片のため掲載には至らなかつた。

72号土坑は76号土坑を切っている。長軸140cm、短軸58cm、底面までの深さは最深部で24cmを測る。検出面の形状から、連穴土坑の可能性も想定されたがブリッジ崩落土等確認できなかつたため土坑と判断した。

5基の埋土はいずれも埋土は黒褐色土である。これらの土坑からは遺物等は出土していない。

77号土坑 (V類: SK159) 69号集石 (SK52) [第37図]

E-7区のXa層で69号集石と重複して検出した。方形の形状にも見え、竪穴建物跡の可能性も考えられたが、遺物や柱穴等確認されなかったため土坑と判断した。長軸157cm、短軸(88)cm、底面までの深さは最深部で22cmを測る。77号土坑の東側は69号集石に切られており、ともに断面形は台形状を呈する。残存する西側は、平坦な底面からゆるやかに壁面が立ち上がる。埋土はⅧ層を基調とした黒褐色土である。69号集石については後述する。



第37図 72～76号土坑・77号土坑・69号集石

第4表 土坑観察表

遺構名	旧遺構番号	区	検出面	分類	大きさ(cm)			遺物等	部位	埋 土		備考
					長軸	短軸	深さ					
1号土坑	SK17	B4	Xa	I	113	97	13	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。粘性ややあり。しまりあり。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。		
2号土坑	SK44	CDB	Xa	I	92	77	18	礫 炭化物	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり。粘性なし。径1~30mmの炭化物。径1~10mmのバミスを多量に含む。 ②暗褐色土 10YR3/3。しまりあり。粘性なし。径1~3mmの炭化物。バミスを含む。 ③暗褐色土 10YR3/4。しまりあり。粘性なし。径2~5mmのバミスを多量に含む。		
3号土坑	SK62	D4	Xa	I	84	73	27	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。		
4号土坑	SK63	D4	Xa	I	92	89	23	土器	底部	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子をわずかに含む。		
5号土坑	SK96	D4	Xa	I	62	62	23	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子をわずかに含む。		
6号土坑	SK167	D5	Xa	I	54	54	18	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
7号土坑	SK88	D5	VII	I	86	84	13	礫	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
8号土坑	SK102	D6	Xa	I	62	52	26	礫 炭化物	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性なし。径1~5mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。	C-14年代測定	
9号土坑	SK153	D6	Xa	I	64	60	17	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
10号土坑	SK145	D6	Xa	I	65	52	27	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性なし。径1~3mmのローム粒子を含む。径1~2mmの炭化物粒子を含む。		
11号土坑	SK86	D・E6	Xa	I	76	66	18	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
12号土坑	SK126	D7	Xa	I	54	48	24	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまりあり。粘性なし。径1~3mmのローム粒子と炭化物粒子を極少量含む。		
13号土坑	SK127	D7	Xa	I	74	66	21	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性なし。径1~3mmのローム粒子と径1~2mmの炭化物粒子を極少量含む。		
14号土坑	SK23	E4	Xa	I	170	158	12	土器	胸部	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり。粘性ややあり。径1~2mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。 ②暗褐色土 10YR3/3。しまりややあり。粘性ややあり。径1~2mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
15号土坑	SK143	E5	Xa	I	67	61	22	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
16号土坑	SK144	E5	Xa	I	71	64	23	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。 ②暗褐色土 10YR3/3。しまりややあり。粘性ややあり。径1~2mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
17号土坑	SK73	E6	Xa	I	94	77	14	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。		
18号土坑	SK162	E8	Xa	I	86	70	15	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまりあり。粘性なし。径1~3mmのローム粒子を少量含む。炭化物粒子を極少量含む。		
19号土坑	SK87	E9	VII	I	96	88	12	礫	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり。粘性なし。径1~3mmの炭化物とローム粒子を少量含む。		
20号土坑	SK172	D5	Xa	II	105	63	18	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~2mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
21号土坑	SK42	E4	Xa	II	119	80	30	—	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり。粘性ややあり。径1~5mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。 ②黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~5mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。 ③暗褐色土 10YR3/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
22号土坑	SK149	E6	Xa	II	115	66	18	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。 ②黒褐色土 10YR2/2。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。		
23号土坑	SK146	E7	Xa	II	100	70	21	—	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
24号土坑	SK161	E8	Xa	II	83	56	22	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性なし。径1~3mmのローム粒子と炭化物を少量含む。		
25号土坑	SK18	B4	Xa	III	(194)	73	28	—	—	①黒褐色土 10YR2/2。粘性ややあり。しまりあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1~2mmの炭化物粒子を含む。		
26号土坑	SK15	C3	Xa	III	245	104	11	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mmのローム粒子を含む。		
27号土坑	SK14	C4	Xa	III	191	65	22	礫	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下のローム粒子を含む。		
28号土坑	SK92	C4・5	Xa	III	303	74	19	礫	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。中央部分に暗褐色土10YR3/3が斑状にまじる。		
29号土坑	SK171	D5	Xa	III	156	(70)	20	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
30号土坑	SK99	D5・6	Xa	III	223	85	25	礫 炭化物	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性なし。径1~3mmのローム粒子と径1~2mmの炭化物粒子を含む。		
31号土坑	SK107	D6	Xa	III	224	132	25	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性なし。径1~3mmのローム粒子を含む。径1~2mmの炭化物粒子を極少量含む。		
32号土坑	SK154	D6	Xa	III	144	58	28	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~5mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
33号土坑	SK114	D7・8	Xa	III	158	68	20	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性なし。径1~3mmのローム粒子と径1~2mmの炭化物粒子を少量含む。		
34号土坑	SK48	D8	Xa	III	103	57	22	—	—	①暗褐色土 10YR3/3。しまりあり。粘性なし。径1~3mmのローム粒子と炭化物粒子を少量含む。 ②暗褐色土 10YR3/4。しまりあり。粘性なし。径1~3mmのローム粒子と炭化物粒子を少量含む。 ③褐色土 10YR4/4。しまりあり。粘性なし。径1~3mmの炭化物粒子と径1~5mmのローム粒子を極少量含む。		
35号土坑	SK25	E4	Xa	III	144	72	22	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。 ②黒褐色土 10YR2/2。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。		
36号土坑	SK57	E5	Xa	III	140	65	13	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。 ②暗褐色土 10YR2/3。しまりややあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。		
37号土坑	SK58	E5	Xa	III	130	70	23	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
38号土坑	SK79	E6	Xa	III	(195)	110	31	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
39号土坑	SK16	B4	Xa	IV	(193)	114	50	土器	口縁 腹部	①黒褐色土 10YR2/2。粘性ややあり。しまりあり。径1~2mmの炭化物、バミスを含む。		
40号土坑	SK19	B4	Xa	IV	190	91	17	—	—	①黒褐色土 7.5YR3/1。しまりあり。粘性なし。径1mm程度の炭化物、バミスを含む。		
41号土坑	SK61	D4	Xa	IV	(220)	(98)	59	—	—	①赤褐色土 5YR5/4。しまりあり。粘性あり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。		
42号土坑	SK35	E4	Xa	IV	(111)	76	27	—	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり。粘性あり。径1~2mmの黄褐色粒子(バミス)を多量に含む。径1~5mmのローム粒子を含む。		
43号土坑	土坑17号	B8	IX	V	(119)	(55)	21	礫	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。		
44号土坑	SK173	D5	Xa	V	(160)	(115)	35	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。		
45号土坑	SK115	D7	Xa	V	(78)	(34)	16	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性なし。径1~3mmのローム粒子と径1~2mmの炭化物粒子を少量含む。		
46号土坑	SK13	E4	VII	V	86	(41)	11	—	—	①黒褐色土 7.5YR3/2。粘性なし。しまり強い。1~2mmのバミス、黒色粒(炭化物)、白色粒を多量に含む。		
47号土坑	SK140	E7	Xa	V	68	(55)	26	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1~5mmのロームブロックを含む。		
48号土坑	SK141	E7	Xa	V	(63)	42	15	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。		
49号土坑	SK20	B4	Xa	V	(128)	82	25	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性なし。径1~2mmのバミスをやや多く含む。	SK21に切られる	
50号土坑	SK21	B4	Xa	II	205	96	23	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性なし。径1mm以下の炭化物、バミスを少量含む。	SK20を切る	
51号土坑	SK43	D4	Xa	IV	(221)	74	37	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子、炭化物粒子を含む。	SK43に切られる	
52号土坑	SK93	D・E4	Xa	V	(281)	80	47	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり。粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。	SK43を切る	

遺構名	旧遺構番号	区	検出面	分類	大きさ(cm)			遺物等	部位	埋 土	備考
					長軸	短軸	深さ				
53号土坑	SK166	D5	Xa	II	(132)	80	25	—	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	砂砂に切られる SK168を切る
54号土坑	SK168	D5	Xa	V	85	52	13	—	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。SK166より明るい。径1~3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK166・SK169に切られる
55号土坑	SK169	D5	Xa	IV	188	95	27	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。径1mm以下の炭化物粒子をわずかに含む。	SK168・SK170を切る
56号土坑	SK170	D5	Xa	IV	186	82	11	—	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。径1mm以下の白色粒子を含む。SK169に切られる	SK169に切られる
57号土坑	SK108	D6	Xa	IV	195	103	23	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の炭化物粒子を含む。	SK120を切る
58号土坑	SK120	D6	Xa	V	(84)	62	20	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまりあり、粘性なし。径1~3mmのローム粒子と径1~2mmの炭化物粒子を少量含む。	SK108に切られる
59号土坑	SK85	D・E6	Xa	V	(167)	119	39	礫	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子をわずかに含む。径1mm以下の白色粒子を含む。SK155・SK156・SK158を切る SK157に切られる	SK155・SK156・SK158を切る SK157に切られる
60号土坑	SK155	D6	Xa	V	(158)	(66)	27	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。径1~3mmのローム粒子を含む。SK155に切られる	SK155に切られる
61号土坑	SK156	D・E6	Xa	V	(46)	(60)	23	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK156に切られる	SK156に切られる
62号土坑	SK157	E6	Xa	II	132	94	25	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK157に切れる	SK157に切れる
63号土坑	SK158	D・E6	Xa	V	128	63	23	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK158に切れる	SK158に切れる
64号土坑	SK65	D6・7	Xa	IV	202	86	38	土器	胴部、底部	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK117に切れる	SK117に切れる
65号土坑	SK117	D7	Xa	V	(142)	88	22	土器	胴部	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性なし。SK117に切れる	SK65に切られる SK118・SK119を切る
66号土坑	SK118	D6・7	Xa	V	(104)	79	17	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまりあり、粘性なし。SK117に切れる	SK117に切れる
67号土坑	SK119	D7	Xa	V	(85)	68	22	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまりあり、粘性なし。SK117より明るくローム粒子が少ない。	SK117に切れる
68号土坑	SK124	D7	Xa	III	(178)	48	24	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまりあり、粘性なし。SK125に切れる	SK125に切れる
69号土坑	SK125	D7	Xa	V	182	89	24	土器	胴部	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性なし。SK124に切れる	SK124を切る
70号土坑	SK80	E6	Xa	V	(137)	86	30	礫	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK81に切れる	SK81に切れる
71号土坑	SK81	E6	Xa	II	106	72	44	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK80に切れる	SK80を切る
72号土坑	SK24	E4	Xa	IV	140	58	24	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK109に切れる	SK109を切る
73号土坑	SK28	E4	Xa	IV	(160)	59	19	礫	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK29に切れる SK30に切れる	SK29以下の炭化物粒子をわずかに含む。
74号土坑	SK29	E4	Xa	V	(72)	46	20	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK28に切れる	SK28に切れる
75号土坑	SK30	E4	Xa	V	205	51	36	土器	胴部	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK28・SK109を切れる	SK28・SK109を切れる
76号土坑	SK109	E4	Xa	V	—	—	32	—	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。SK24・SK30に切れる	SK24・SK30に切れる
77号土坑	SK159	E7	Xa	V	157	(88)	22	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまり非常にあり、粘性なし。SK52(集石)に切られる	SK52(集石)に切られる
78号土坑	SK36	C5	Xa	IV	(188)	91	30	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性なし。SK37に切れる	SK37に切れる
79号土坑	SK37	C5	Xa	IV	204	75	37	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性なし。SK38を切る	SK38を切る
80号土坑	SK100	D5・6	Xa	II	(178)	87	30	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性なし。SK101に切れる	SK101に切れる
81号土坑	SK101	D5・6	Xa	V	(114)	70	27	礫	炭化物	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。SK100に切れる	SK100を切る
82号土坑	SK104	D6	Xa	III	162	66	15	—	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり、粘性なし。SK103に切れる	SK103に切れる
83号土坑	SK105	D5・6	Xa	III	191	102	24	土器	胴部	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり、粘性なし。SK103に切れる	SK103を切る
84号土坑	SK122	D7	Xa	III	(90)	79	28	—	—	①暗褐色土 10YR3/2。しまりあり、粘性なし。SK121に切れる SK122に切れる	SK121に切れる
85号土坑	SK123	D7	Xa	V	(74)	70	11	—	—	①暗褐色土 10YR3/2。しまりあり、粘性なし。SK121・SK122に切れる	SK121・SK122に切れる
86号土坑	SK128	D8・9	Xa	V	(183)	(90)	42	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまりあり、粘性なし。SK129・SK130・SK131に切れる SK128を切る	SK129・SK130・SK131に切れる
87号土坑	SK129	D9	Xa	III	240	117	34	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性なし。SK128に切れる	SK128を切る
88号土坑	SK130	D・E8	Xa	III	170	65	21	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性なし。SK128に切れる	SK128を切る
89号土坑	SK131	D8・9	Xa	III	180	63	30	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまりあり、粘性なし。SK128に切れる	SK128を切る
90号土坑	SK132	D8	Xa	V	(70)	(48)	23	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまりあり、粘性なし。SK128・SK138に切れる	SK128・SK138に切れる
91号土坑	SK135	D8	Xa	II	(113)	57	22	—	—	①暗褐色土 10YR3/2。しまりあり、粘性なし。SK136に切れる	SK136に切れる
92号土坑	SK136	D8	Xa	V	172	77	35	—	—	①黒褐色土 10YR2/1。しまりあり、粘性なし。SK135に切れる	SK135・SK137に切れる
93号土坑	SK137	D8	Xa	V	(140)	96	35	—	—	②にぶい褐色土 7.5YR6/3。しまりややあり、粘性あり。SK134に切れる	SK134に切れる
94号土坑	SK138	D8	Xa	III	(157)	81	46	—	—	①暗褐色土 10YR3/4。しまりあり、粘性なし。SK128に切れる	SK128に切れる
95号土坑	SK53	E5	Xa	V	(87)	70	27	—	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。SK99・SK139に切れる	SK99・SK139に切れる
96号土坑	SK54	E5	Xa	V	(172)	124	23	土器	口縁	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK55に切れる	SK55に切れる
97号土坑	SK74	E6	Xa	V	(113)	49	17	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまりややあり、粘性ややあり。SK7に切れる	SK7に切れる
98号土坑	SK75	E6	Xa	V	(92)	70	21	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK7に切れる	SK7に切れる
99号土坑	SK76	E6	Xa	V	(74)	53	16	—	—	①黒褐色土 10YR2/2。しまりあり、粘性ややあり。SK7に切れる	SK7に切れる
100号土坑	SK78	E6	Xa	II	124	68	14	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK7に切れる	SK7に切れる
101号土坑	SK68	E6	Xa	V	(152)	106	22	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK67に切れる	SK67に切れる
102号土坑	SK147	E6	Xa	IV	(98)	54	36	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK69・SK148に切れる	SK69・SK148に切れる
103号土坑	SK148	E・F6	Xa	III	187	(62)	22	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。しまりあり、粘性ややあり。SK147に切れる	SK147に切れる
104号土坑	SK111	E8	Xa	V	(74)	46	18	—	—	①黒褐色土 10YR3/2。しまりあり、粘性なし。SK110に切れる	SK110に切れる

(3) 集石 (第38図~60図)

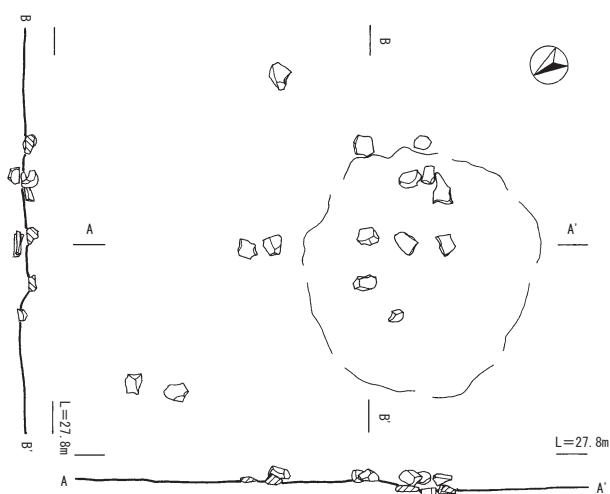
1号集石 (SS11 : I類) [第38図]

E-8区, VIII層で検出した。黒褐色のシミ状の広がりは見られたが明確な掘り込み部は確認できなかった。構成礫数は15個であり、ごく僅かな炭化物を含んでいる。関連する遺物は確認できなかった。

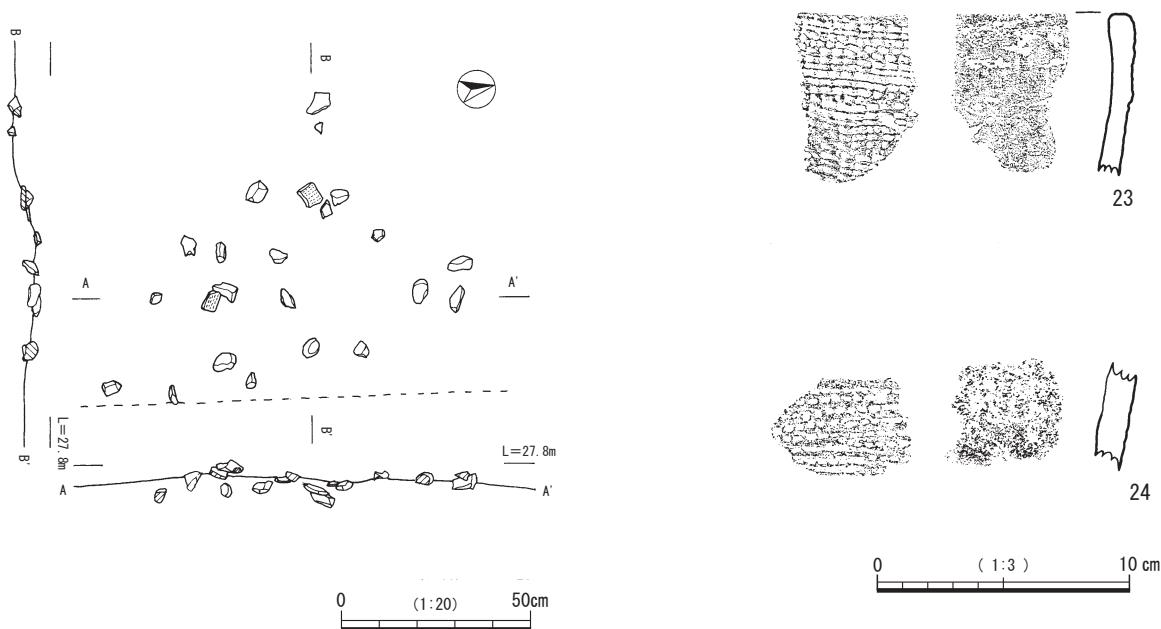
2号集石 (SS19 : I類) [第38図]

E-10区, VII層で検出した。明確な掘り込みは確認できなかった。構成礫数は20個である。出土遺物は土器2点が出土した。23は口唇部に平坦面を作り、直口する口縁部である。外面には縦位の貝殻刺突を連続して施す。内面は丁寧なナデを施す。24は外面に貝殻刺突線文を施し、内面は丁寧なナデを施す。どちらもIII類土器である。なお、23の付着炭化物で年代測定を実施したところ、未補正で $8863 \pm 34^{14}\text{C}$ BPの値が得られた (IAAA - 210169)。(第V章参照)

1号集石

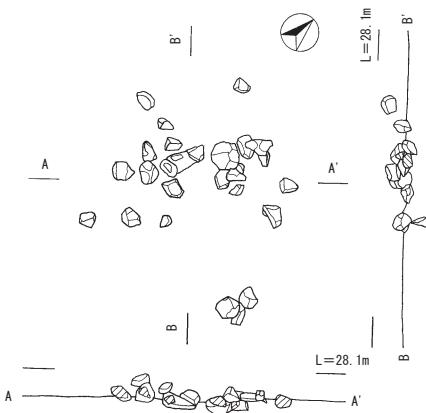


2号集石

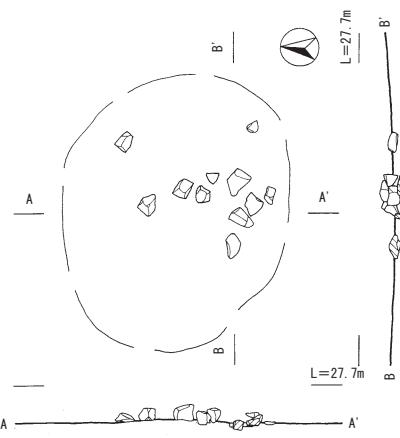


第38図 1・2号集石・出土遺物

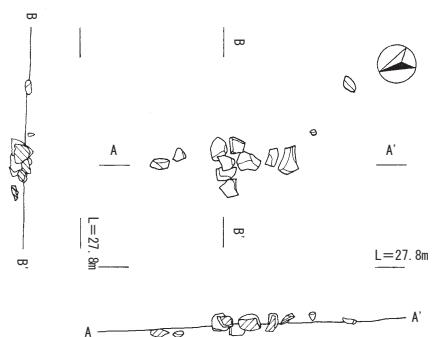
3号集石



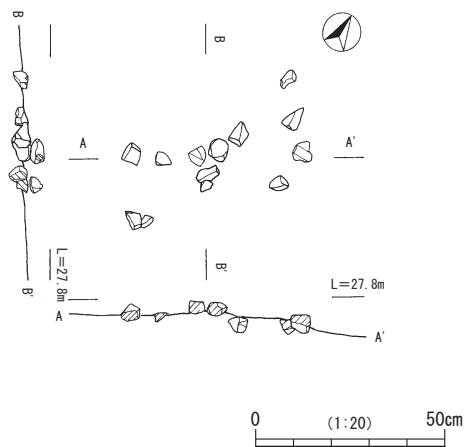
4号集石



5号集石



6号集石



第39図 3～6号集石

3号集石（集石2号：II類） [第39図]

B-10区, VIII層で検出した。構成礫数は28個である。炭化物が1点出土している。掘り込み部及び関連する遺物は確認できなかった。炭化物が出土した。

4号集石（SS22：II類） [第39図]

E-9区, VIII層で検出した。黒褐色のシミ状の広がりは見られたが明確な掘り込みは確認できなかった。構成礫数は11個であり、関連する遺物は確認できなかった。

5号集石（SS25：II類） [第39図]

E-9区, VIII層で検出した。構成礫数は12個である。

礫は集中しているが掘り込みは確認できなかった。関連する遺物は確認できなかった。

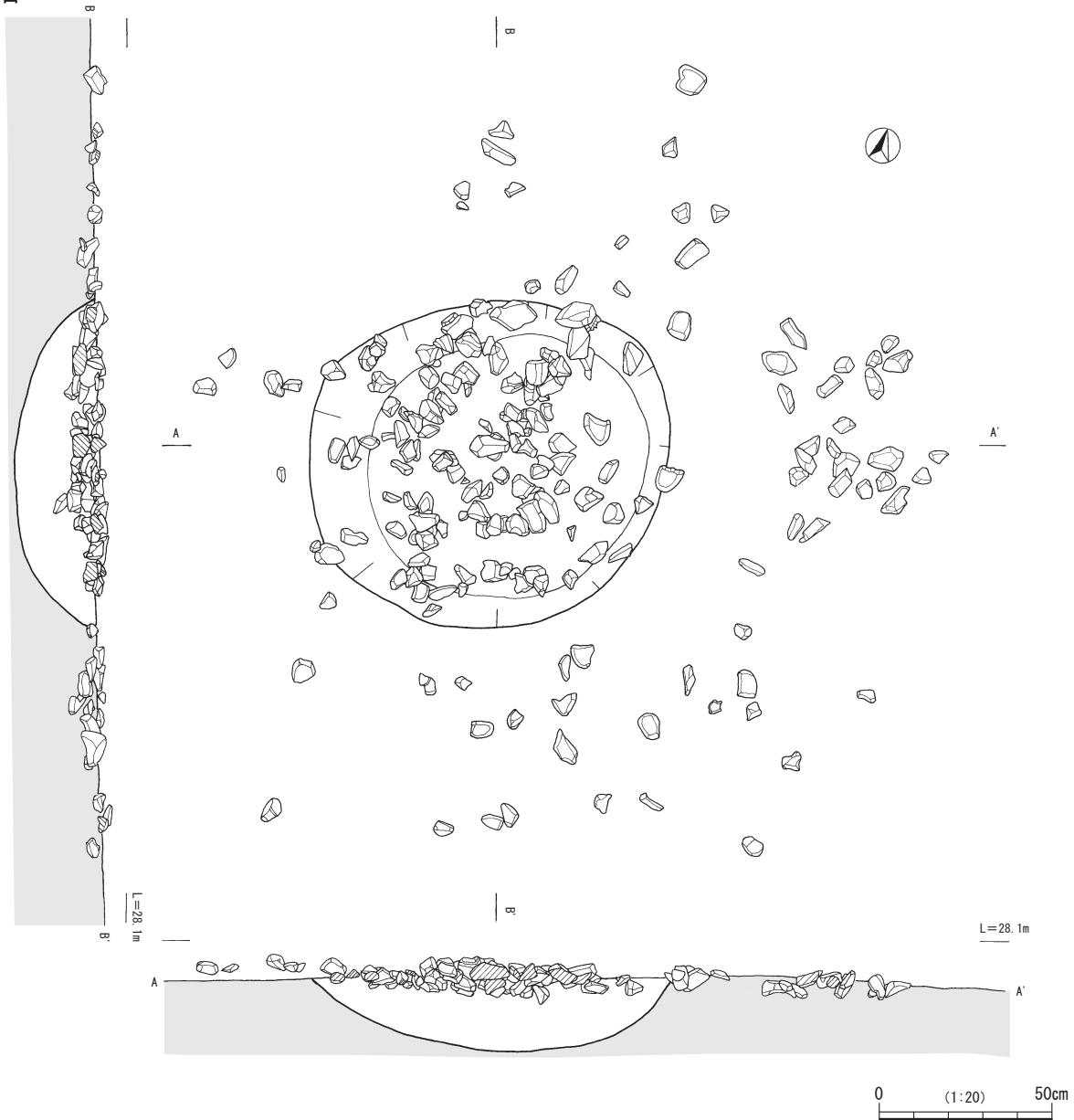
6号集石（SS28：II類） [第39図]

E-9区, VIII層で検出した。構成礫数は13個である。掘り込み及び関連する遺物は確認できなかった。

7号集石（集石1号：III類） [第40図]

B-13・14区, VIII層で検出した。構成礫数は188個で掘り込みは約105×95cmの円形である。検出面からの深さは21cmである。土器片の胴部が出土したが小片のため図化には至らなかった。

7号集石



第40図 7号集石

8号集石（土坑1号：Ⅲ類） [第41図]

B-8区, IX層上面で検出した。構成礫数は147個である。掘り込みは約135×130cmの円形で、検出面からの深さは32cmである。関連する遺物は確認できなかった。

出土遺物はⅡ類土器1点が出土したが、小片のため掲載には至らなかった。また、埋土から炭化物が出土した。

9号集石（土坑2号：Ⅲ類） [第41図]

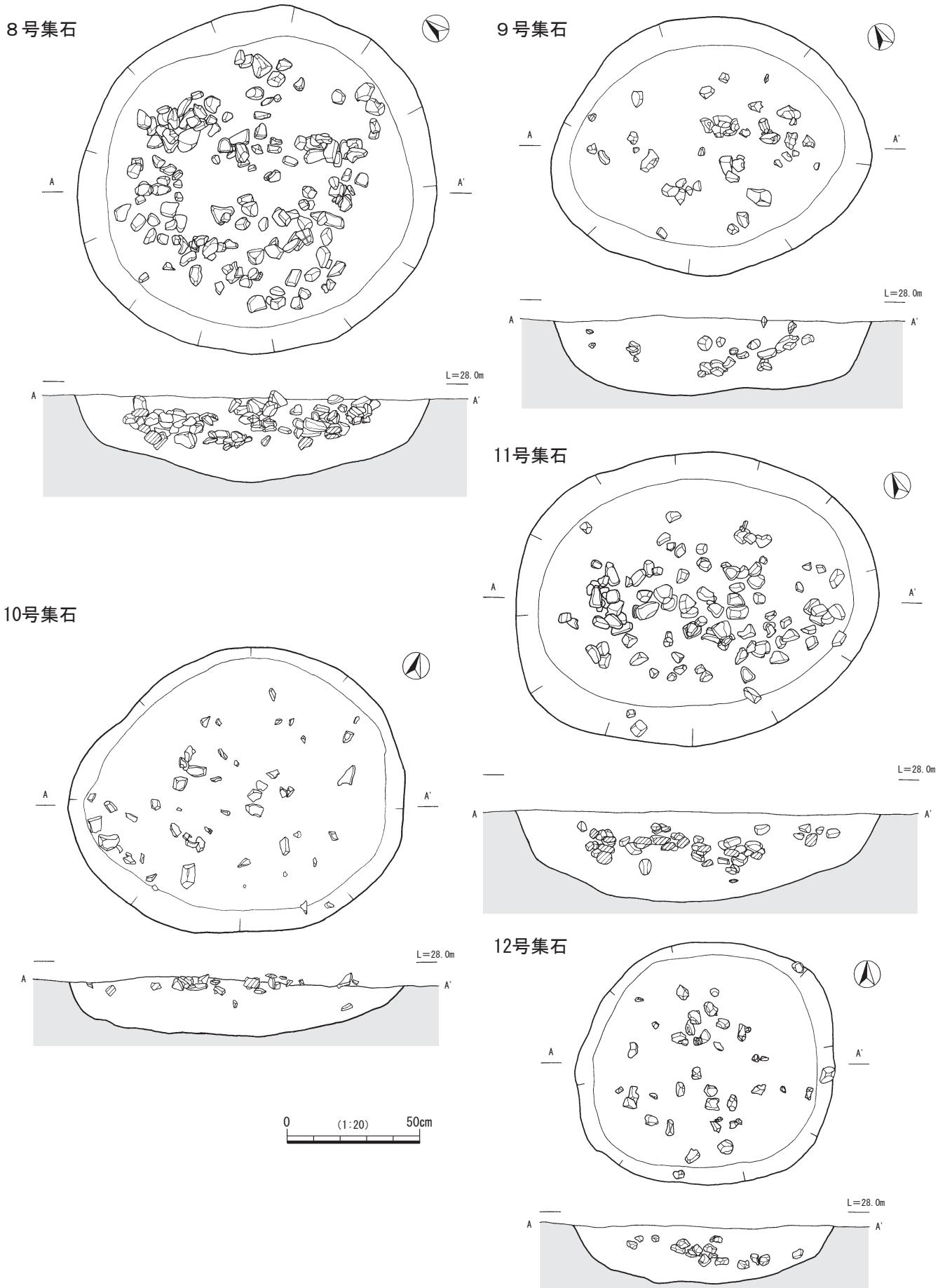
B-8区, IX層上面で検出した。構成礫数は42個である。掘り込みは約120×97cmの円形で、検出面からの深さは29cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

10号集石（土坑3号：Ⅲ類） [第41図]

B-8区, IX層上面で検出した。構成礫数は52個である。掘り込みは約126×106cmの円形で、検出面からの深さは21cmである。関連する遺物は確認できなかった。

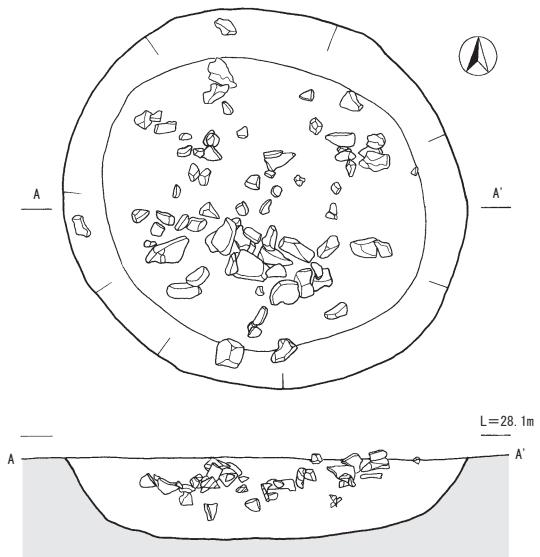
11号集石（土坑4号：Ⅲ類） [第41図]

B-8区, IX層上面で検出した。構成礫数は107個である。掘り込みは約137×110cmの円形で、検出面からの深さは34cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

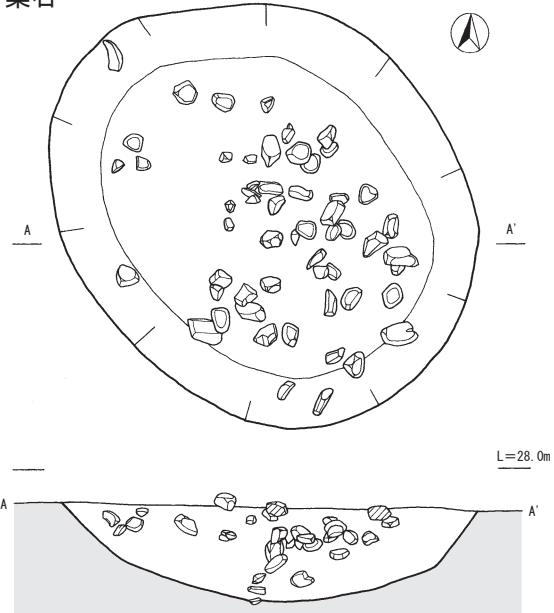


第41図 8～12号集石

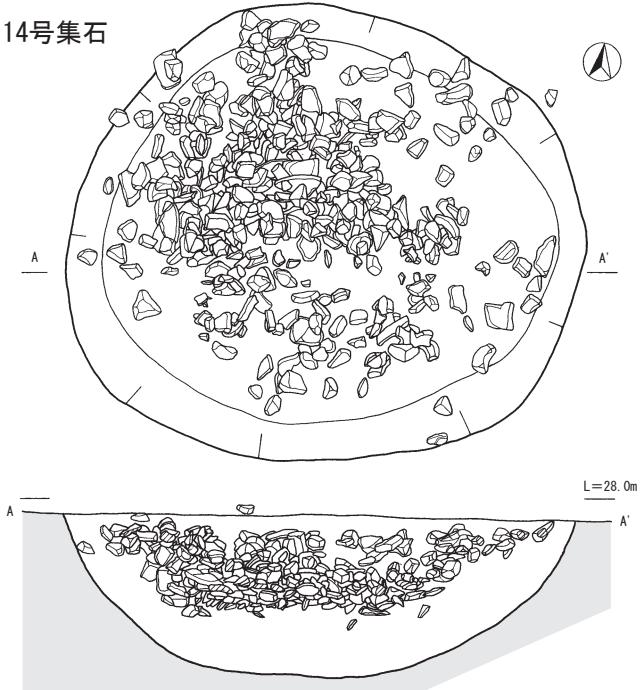
13号集石



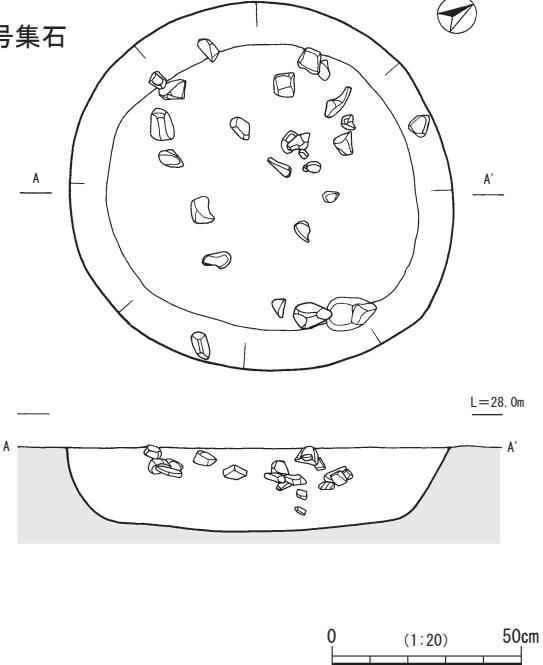
15号集石



14号集石



16号集石



0 (1:20) 50cm

第42図 13～16号集石

12号集石（土坑5号：Ⅲ類） [第41図]

B-8区、IX層上面で検出した。構成礫数は42個である。掘り込みは約100×100cmの円形で、検出面からの深さは90cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

13号集石（土坑7号：Ⅲ類） [第42図]

B-8区、IX層上面で検出した。構成礫数は79個である。掘り込みは約105×100cmの円形で、検出面からの深さは21cmである。関連する遺物は確認できなかった。

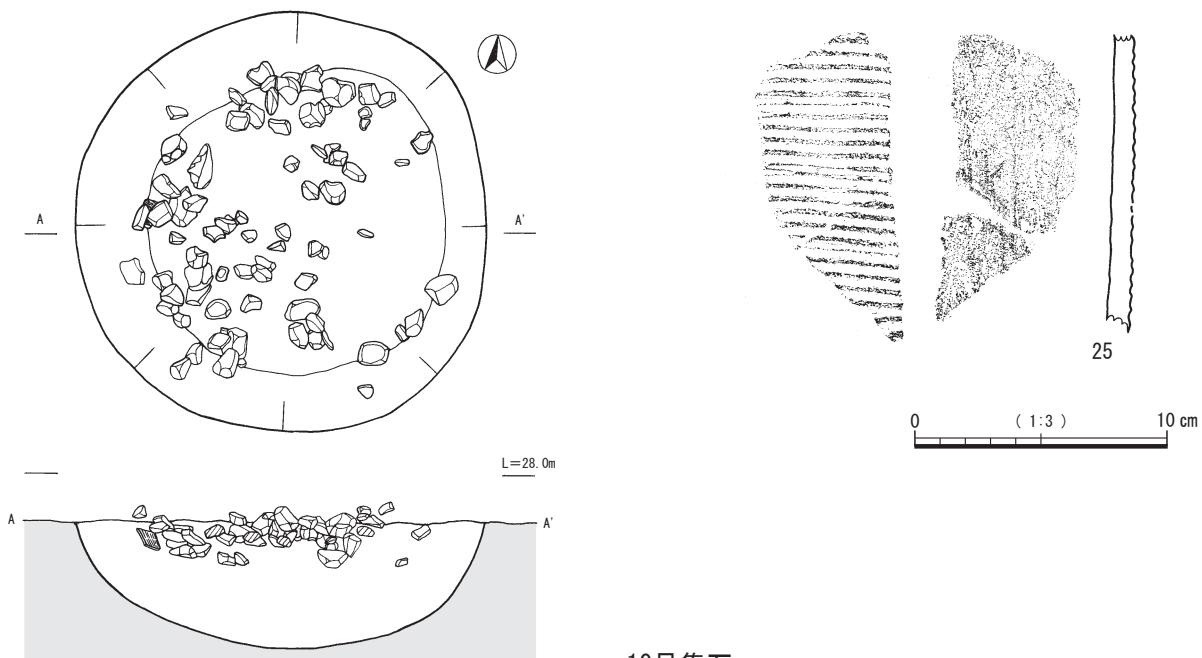
14号集石（土坑8号：Ⅲ類） [第42図]

B-9区、IX層上面で検出した。構成礫数は405個であり、ほとんどが砂岩である。掘り込みは約140×120cmの円形で、検出面からの深さは43cmである。埋土から炭化物が出土した。

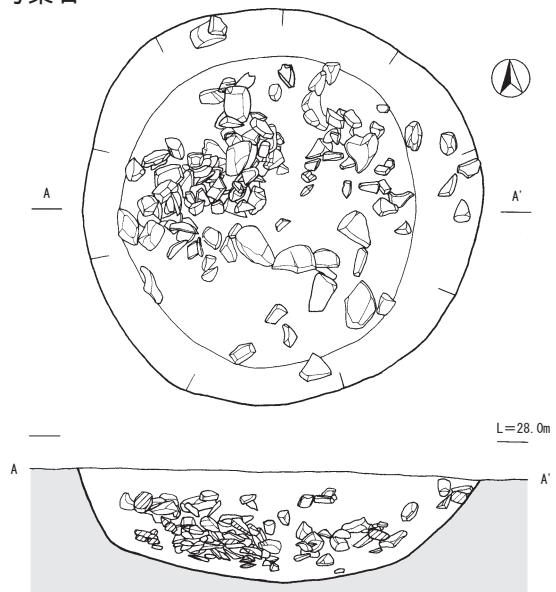
15号集石（土坑10号：Ⅲ類） [第42図]

B-9区、IX層上面で検出した。構成礫数は57個であり、掘り込みは約120×100cmの円形で、検出面からの深さは25cmである。関連する遺物は確認できなかった。

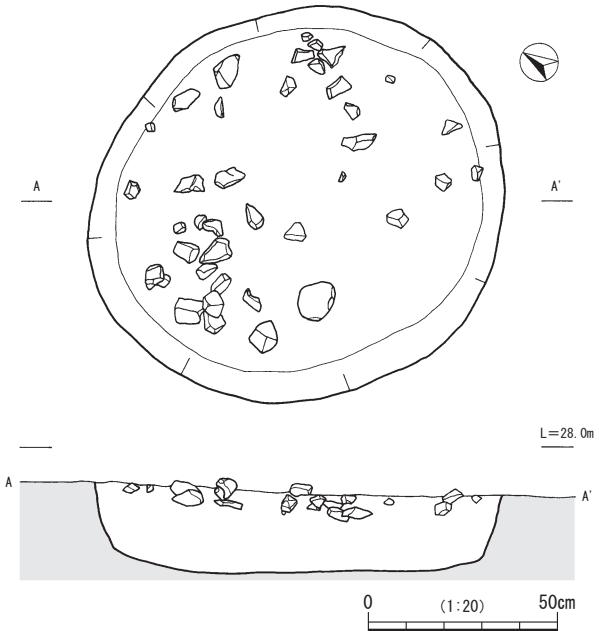
17号集石



18号集石



19号集石



第43図 17～19号集石・出土遺物

16号集石（土坑11号：Ⅲ類） [第42図]

B-9区, IX層上面で検出した。構成礫数は28個であり、掘り込みは約100×100cmの円形で、検出面からの深さは23cmである。II類土器1点が出土したが、小片のため掲載には至らなかった。

17号集石（土坑12号：Ⅲ類） [第43図]

B-9区, IX層上面で検出した。構成礫数は76個であり、掘り込みは約110×110cmの円形で、検出面からの深さは33cmである。土器1点が出土した。また、埋土から炭化物が出土した。25は外面に横位の貝殻条痕を施す胴部である。I類土器である。

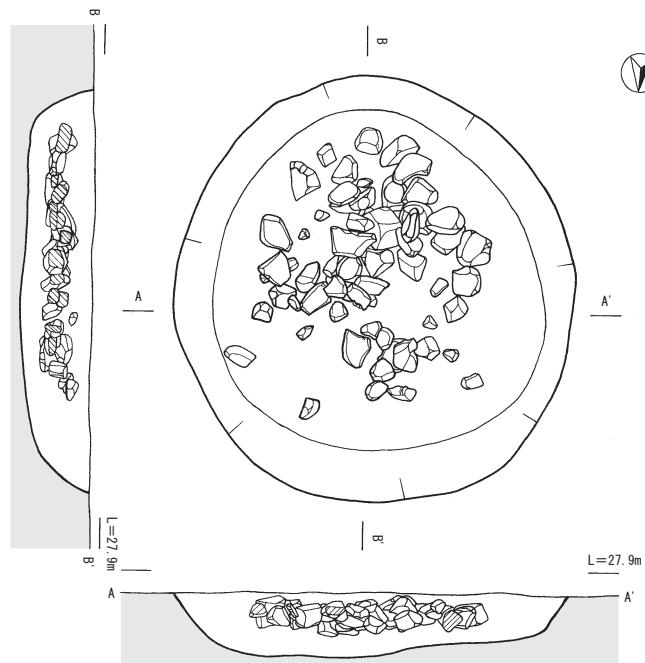
18号集石（土坑13号：Ⅲ類） [第43図]

B-9区, IX層上面で検出した。構成礫数は154個であり、掘り込みは約105×105cmの円形で、検出面からの深さは29cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

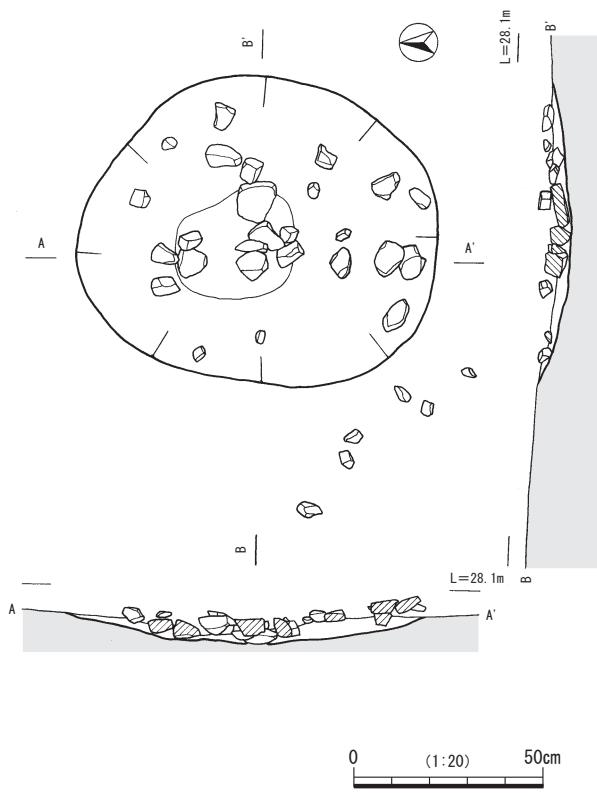
19号集石（土坑14号：Ⅲ類） [第43図]

B-9区, IX層上面で検出した。構成礫数は39個であり、掘り込みは約110×105cmの円形で、検出面からの深さは23cmである。関連する遺物は確認できなかった。

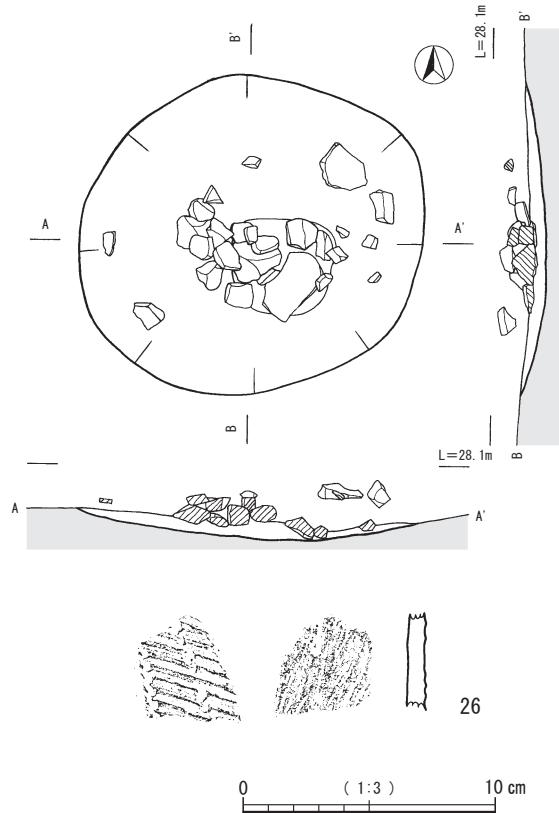
20号集石



21号集石



22号集石



第44図 20～22号集石・出土遺物

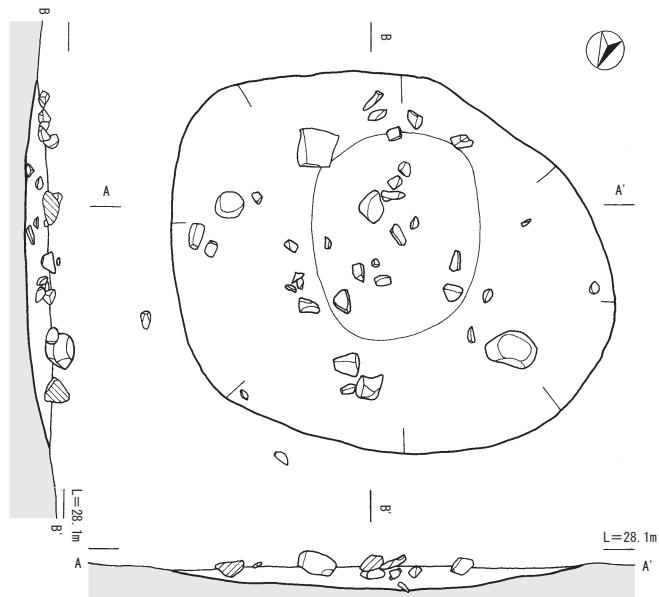
20号集石（土坑16号：Ⅲ類） [第44図]

B-9区, IX層上面で検出した。構成礫数は59個であり、掘り込みは約110×105cmの円形で、検出面からの深さは17cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

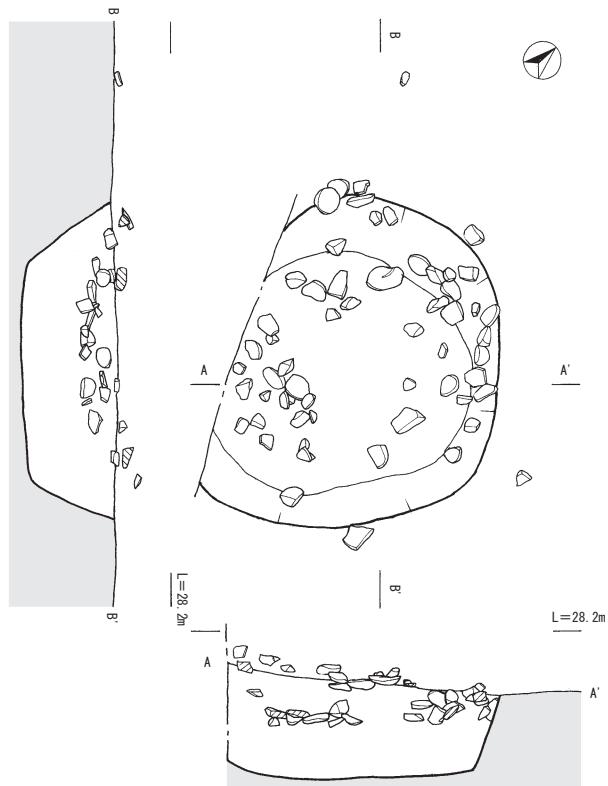
21号集石（SS01：Ⅲ類） [第44図]

E・F-4区, VIII層で検出した。構成礫数は33個であり、掘り込みは約95×80cmの円形で、検出面からの深さは7cmである。関連する遺物は確認できなかった。

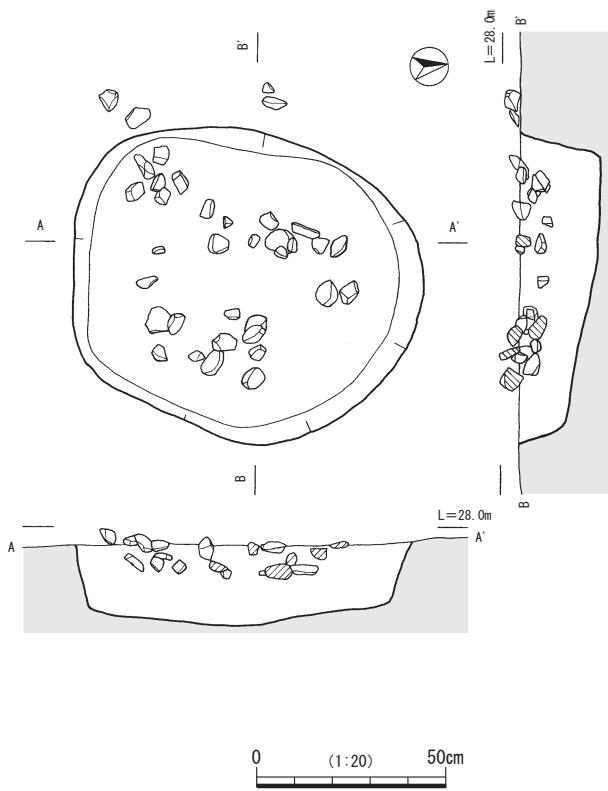
23号集石



24号集石



25号集石



22号集石 (SS02 : III類) [第44図]

D-4区, VIII層で検出した。構成礫数は26個であり、掘り込みは約95×85cmの円形で、検出面からの深さは9cmである。出土遺物は土器1点が出土した。26は角筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。II類土器である。

23号集石 (SS03 : III類) [第45図]

E-4区, VIII層で検出した。構成礫数は39個であり、掘り込みは約125×100cmの円形で、検出面からの深さは7cmである。関連する遺物は確認できなかった。

24号集石 (SS05 : III類) [第45図]

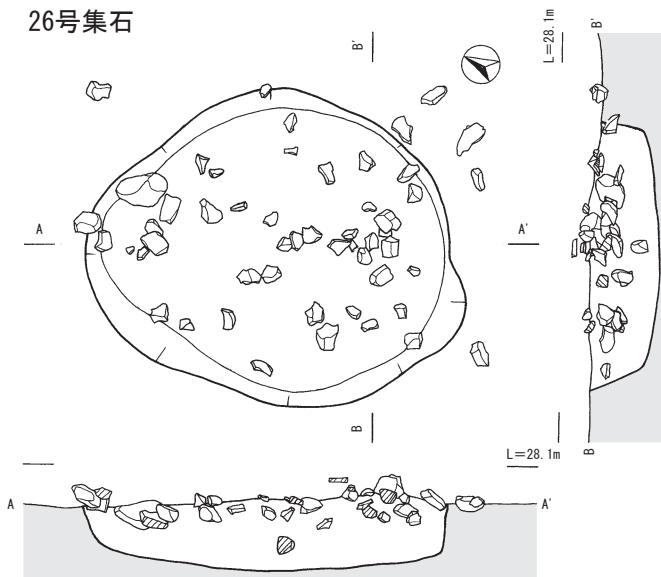
E-4区, VIII層で検出した。構成礫数は60個であり、掘り込みは約90×(70)cmの円形で、検出面からの深さは26cmである。関連する遺物は確認できなかった。

25号集石 (SS08 : III類) [第45図]

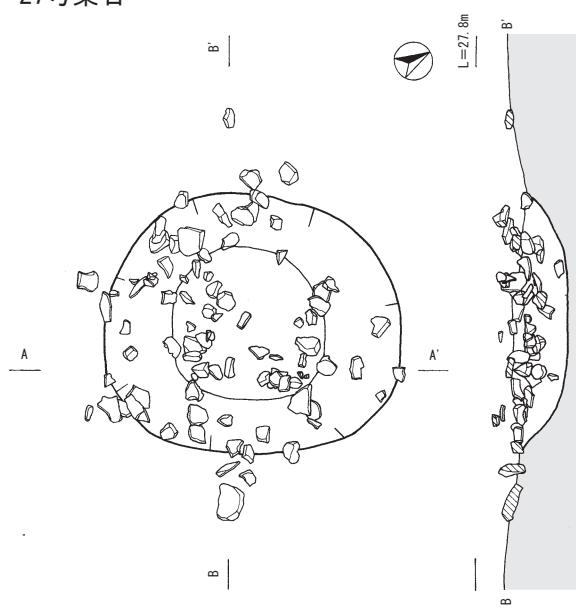
C-3区, VIII層で検出した。構成礫数は36個であり、掘り込みは約95×80cmの円形で、検出面からの深さは21cmである。関連する遺物は確認できなかった。

第45図 23～25号集石

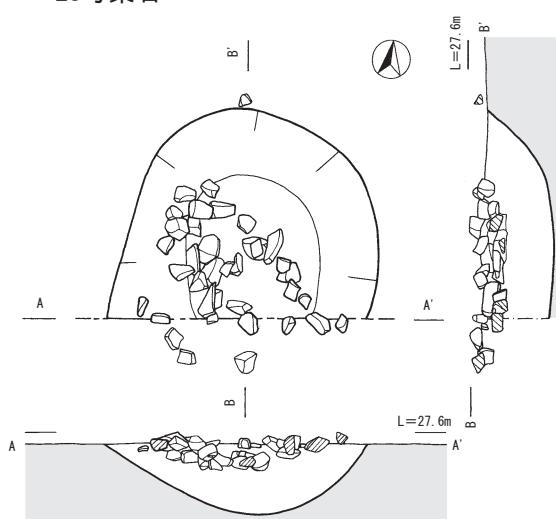
26号集石



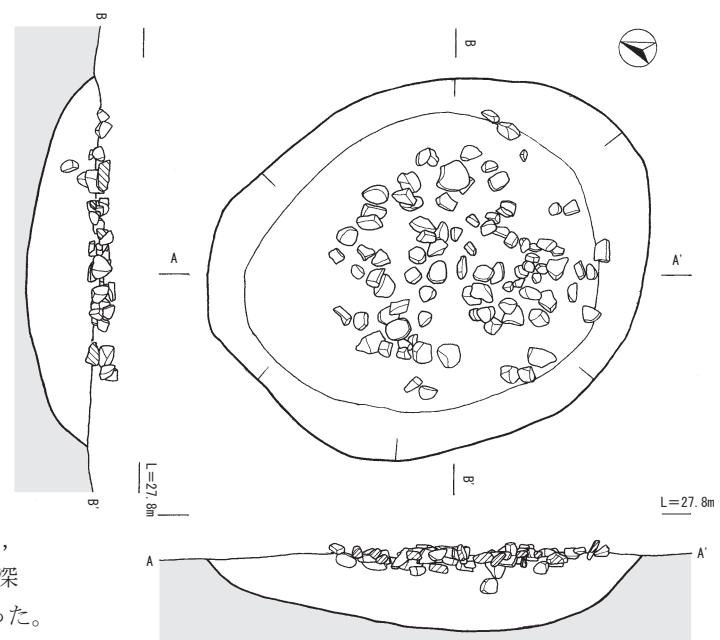
27号集石



28号集石



29号集石



26号集石 (SS10 : III類)

[第46図]

E-4区, VIII層で検出した。構成礫数は52個で、掘り込みは約100×80cmの円形で、検出面からの深さは19cmである。関連する遺物は確認できなかった。

27号集石 (SS12 : III類)

[第46図]

E-8区, VIII層で検出した。構成礫数は90個であり、80×70cmの円形で、検出面からの深さは15cmである。関連する遺物は確認できなかった。

28号集石 (SS14 : III類)

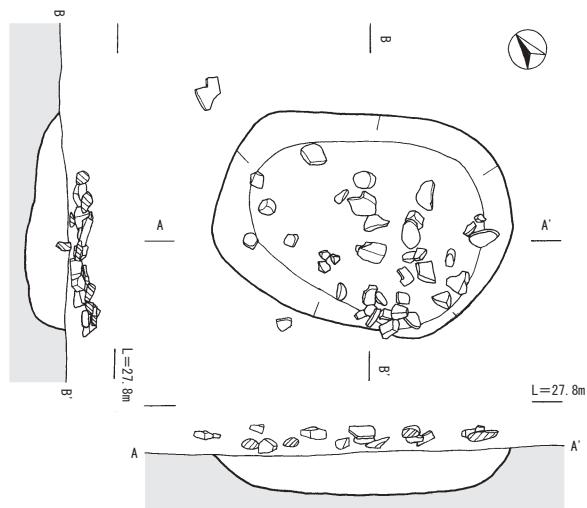
[第46図]

E-7区, VIII層で検出した。構成礫数は37個であり、掘り込みは(55)×(70)cmのやや楕円形で、検出面からの深さは18cmである。土器片の口縁部が出土したが小片のため図化には至らなかった。

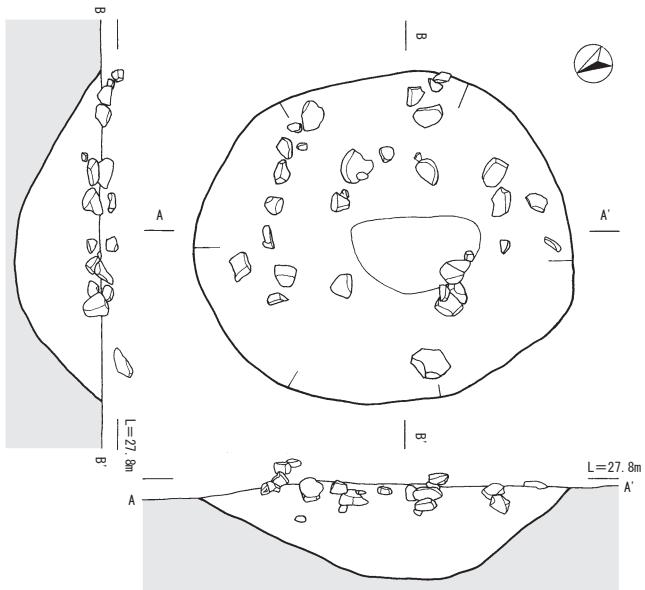
0 (1:20) 50cm

第46図 26～29号集石

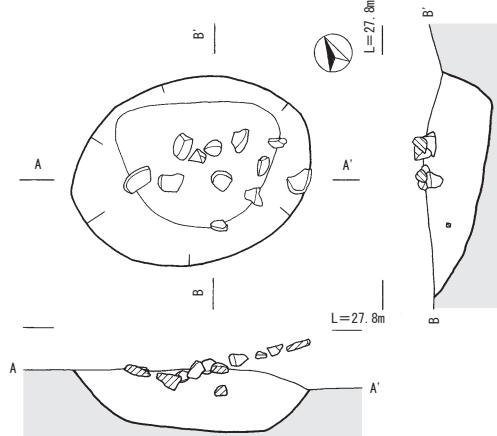
30号集石



31号集石



32号集石



29号集石 (SS15 : III類) [第46図]

C-9区, VIII層で検出した。構成礫数は90個であり、掘り込みは約115×100cmの円形で、検出面からの深さは21cmである。関連する遺物は確認できなかった。

30号集石 (SS16 : III類) [第47図]

C-9区, VIII層で検出した。構成礫数は39個であり、掘り込みは約80×60cmの円形で、検出面からの深さは12cmである。南側にはシミ状の広がりが見られる。関連する遺物は確認できなかった。

31号集石 (SS18 : III類) [第47図]

E-8区, VIII層で検出した。構成礫数は33個であり、掘り込みは約100×90cmの円形で、検出面からの深さは25cmである。出土遺物は土器1点が出土した。27は円筒器形の胴部である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。II類土器である。

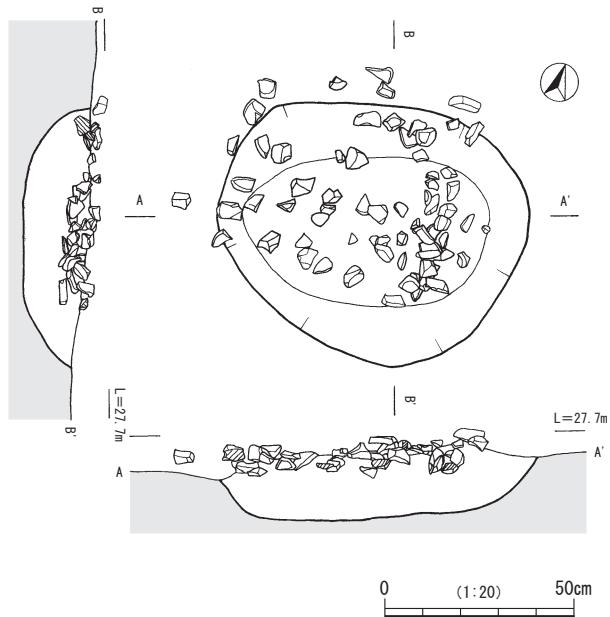
32号集石 (SS20 : III類) [第47図]

C・D-9区, VIII層で検出した。構成礫数は13個であり、掘り込みは約65×50cmの円形で、検出面からの深さは17cmである。関連する遺物は確認できなかった。



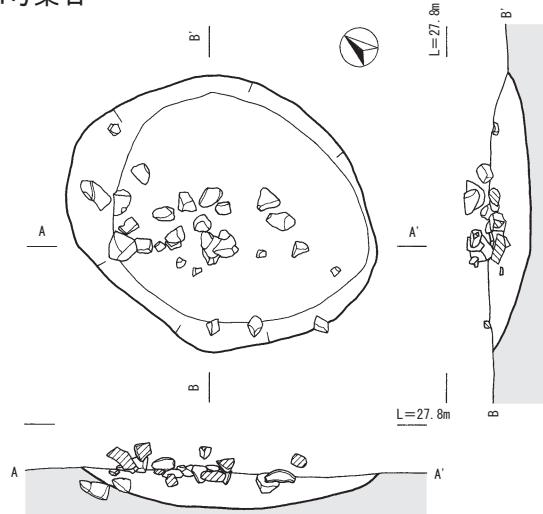
0 (1:3) 10 cm

33号集石

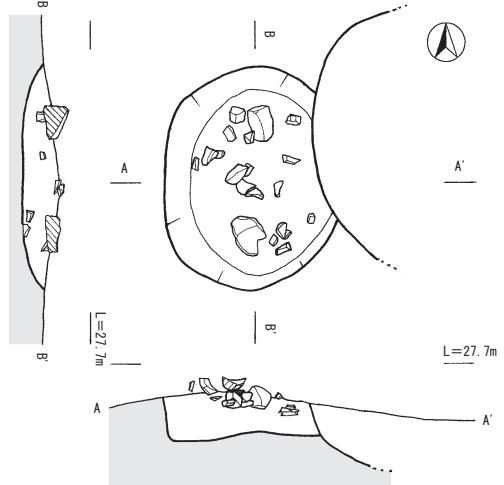


第47図 30～33号集石・出土遺物

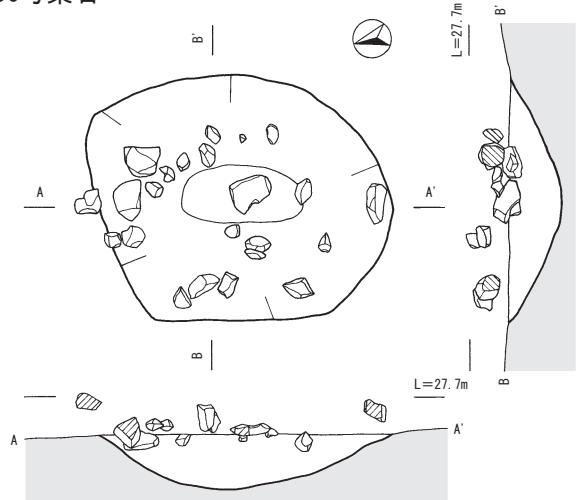
34号集石



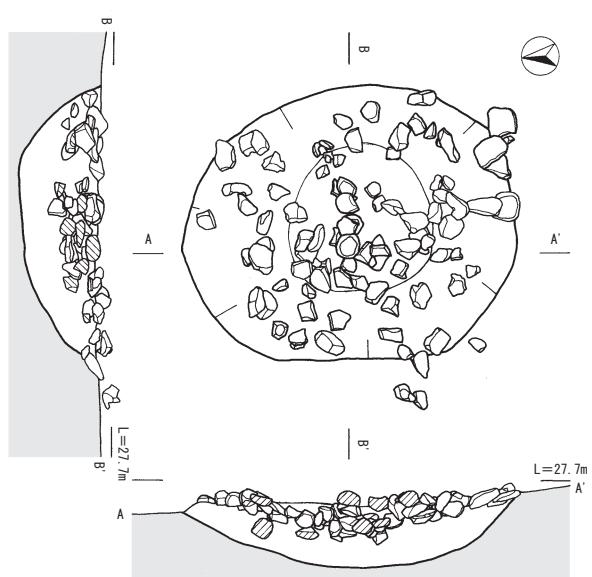
35号集石



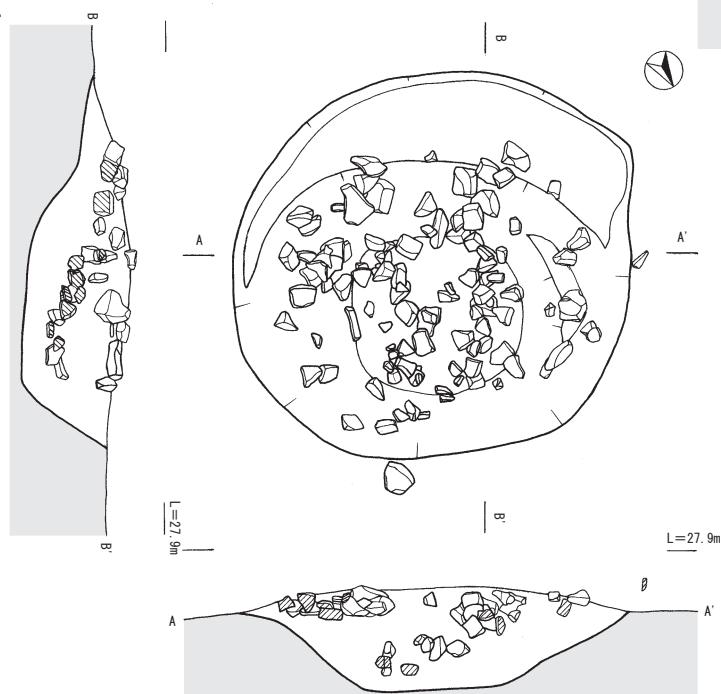
36号集石



37号集石



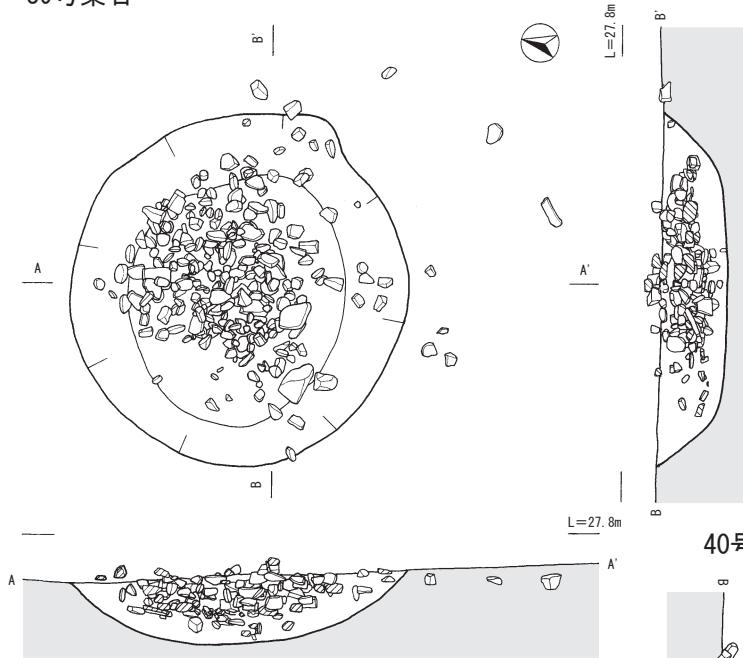
38号集石



0 (1:20) 50cm

第48図 34 ~ 38号集石

39号集石



33号集石 (SS21 : III類) [第47図]

E-9区, VIII層で検出した。構成礫数は67個であり、掘り込みは約80×70cmの円形で、検出面からの深さは18cmである。関連する遺物は確認できなかった。

34号集石 (SS23 : III類) [第48図]

E-9区, VIII層で検出した。構成礫数は29個であり、掘り込みは約85×65cmの円形で、検出面からの深さは11cmである。関連する遺物は確認できなかった。

35号集石 (SS24 : III類) [第48図]

E-9区, VIII層で検出した。構成礫数は20個であり、掘り込みは(60)×(40)cmの円形で、検出面からの深さは10cmである。関連する遺物は確認できなかった。

36号集石 (SS26 : III類) [第48図]

E-9区, VIII層で検出した。構成礫数は23個であり、掘り込みは約85×65cmの円形で、検出面からの深さは14cmである。関連する遺物は確認できなかった。

37号集石 (SS27 : III類) [第48図]

E-9区, VIII層で検出した。構成礫数は97個であり、掘り込みは約90×70cmの円形で、検出面からの深さは17cmである。関連する遺物は確認できなかった。

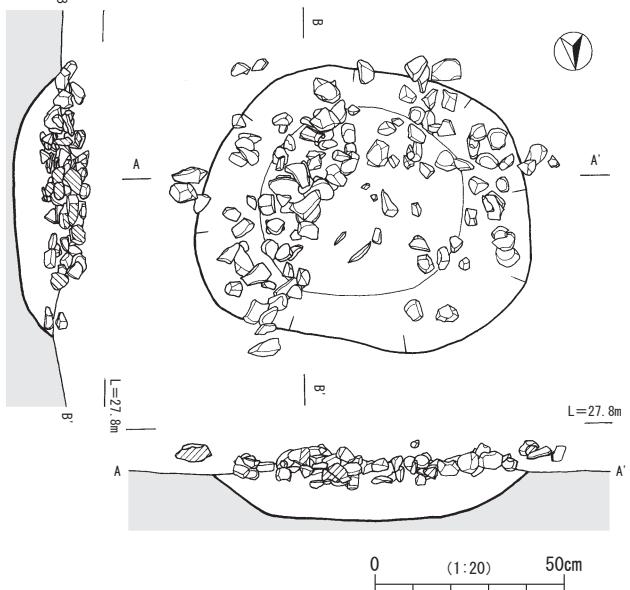
38号集石 (SS29 : III類) [第48図]

E-8・9区, VIII層で検出した。構成礫数は107個であり、掘り込みは約105×100cmの円形で、検出面からの深さは21cmである。関連する遺物は確認できなかった。

39号集石 (SS31 : III類) [第49図]

E-8区, VIII層で検出した。構成礫数は287個であり、掘り込みは約95×85cmの円形で、検出面からの深さは17cmである。関連する遺物は確認できなかった。

40号集石



第49図 39・40号集石

40号集石 (SS32 : III類) [第49図]

E-8区, VIII層で検出した。構成礫数は124個であり、掘り込みは約90×75cmの円形で、検出面からの深さは14cmである。関連する遺物は確認できなかった。

41号集石 (SS33 : III類) [第50図]

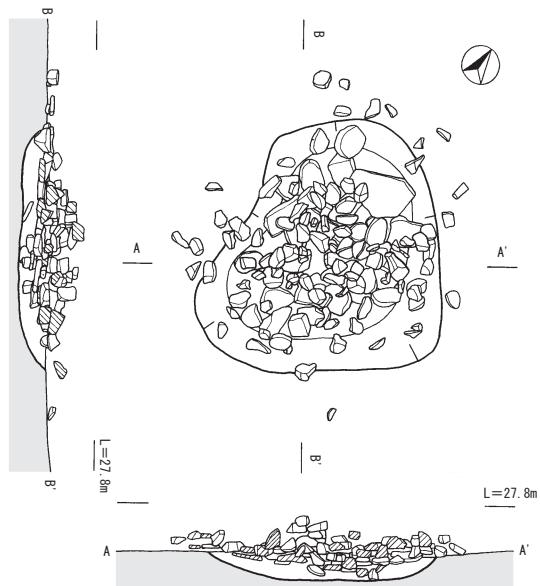
E-8区, VIII層で検出した。構成礫数は144個であり、掘り込みは約70×60cmの不定形で、検出面からの深さは6cmである。関連する遺物は確認できなかった。

42号集石 (SS34 : III類) [第50図]

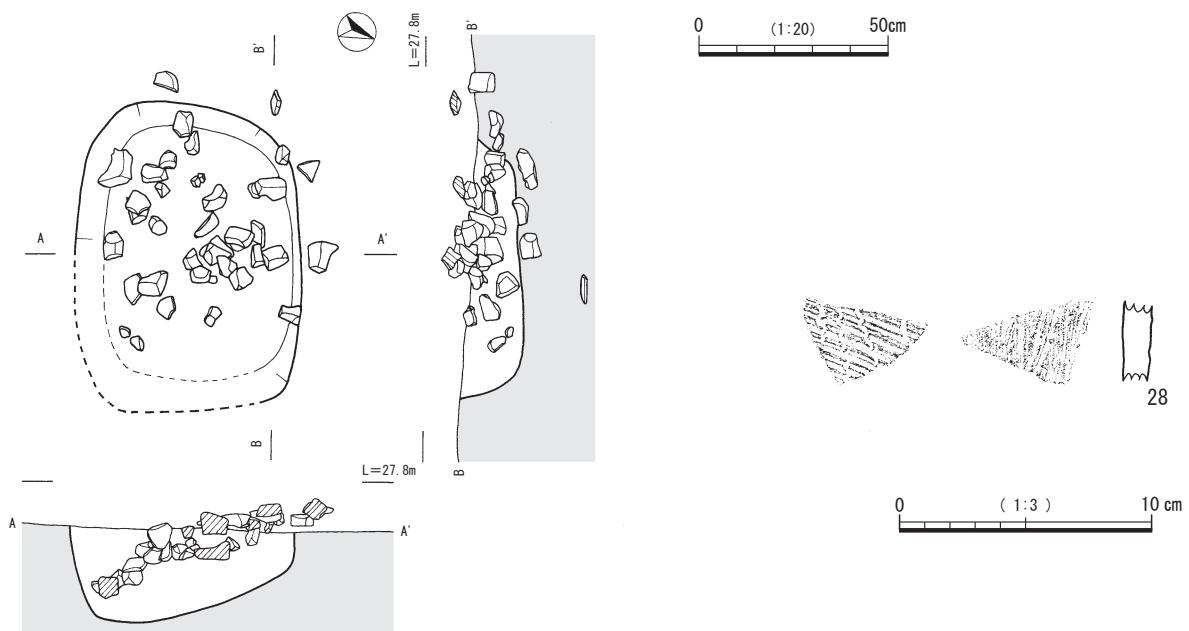
E-8区, VIII層で検出した。10号連穴土坑と切り合っている。構成礫数は54個であり、掘り込みは約85×60cmのやや隅丸方形で、検出面からの深さは13cmである。

出土遺物は土器1点が出土した。28は角筒器形の胴部で、II類土器である。(第6表参照)

41号集石



42号集石



第50図 41・42号集石・出土遺物

43号集石 (SS30 : III類)

[第51図]

E-8区, VIII層で検出した。44号集石を切っている。構成礫数は193個であり、掘り込みは約100×90cmの円形で、検出面からの深さは18cmである。関連する遺物は確認できなかった。

44号集石 (SS36 : III類)

[第51図]

E-8・9区, VIII層で検出した。43号集石に切られている。構成礫数は175個であり、掘り込みは約195×145cmの楕円形で、検出面からの深さは28cmである。関連する遺物は確認できなかった。

45号集石 (SS37 : III類)

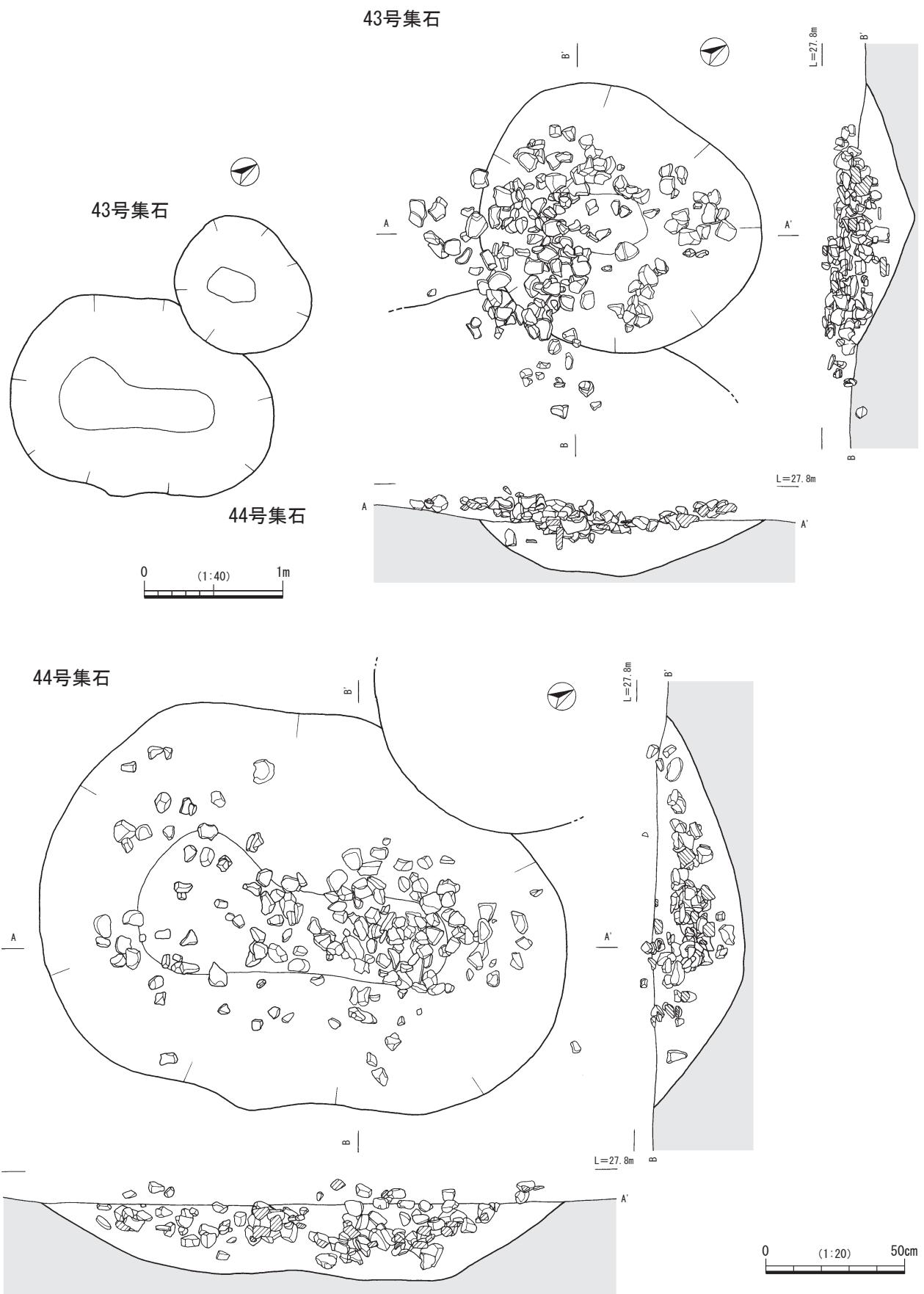
[第52図]

D-6区, VII層で検出した。構成礫数は64個であり、掘り込みは約100×85cmの円形で、検出面からの深さは29cmである。関連する遺物は確認できなかった。

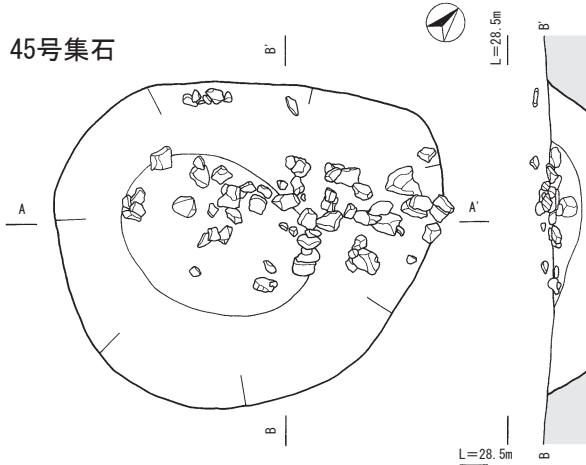
46号集石 (SS38 : III類)

[第52図]

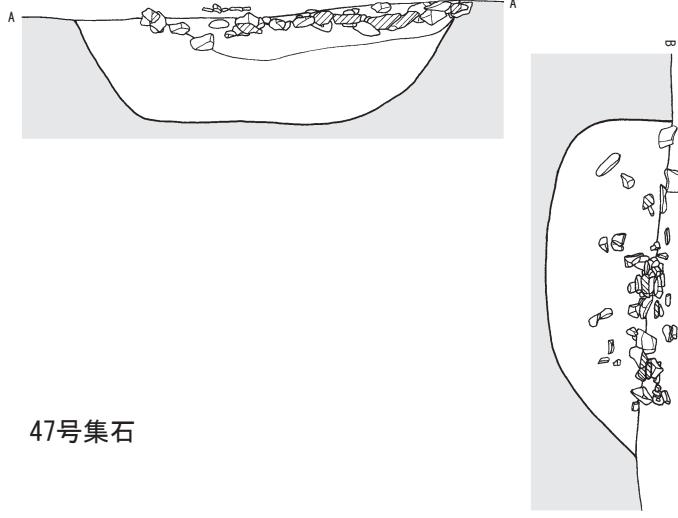
D-6区, VII層で検出した。構成礫数は82個であり、掘り込みは約95×90cmの円形で、検出面からの深さは29cmである。関連する遺物は確認できなかった。



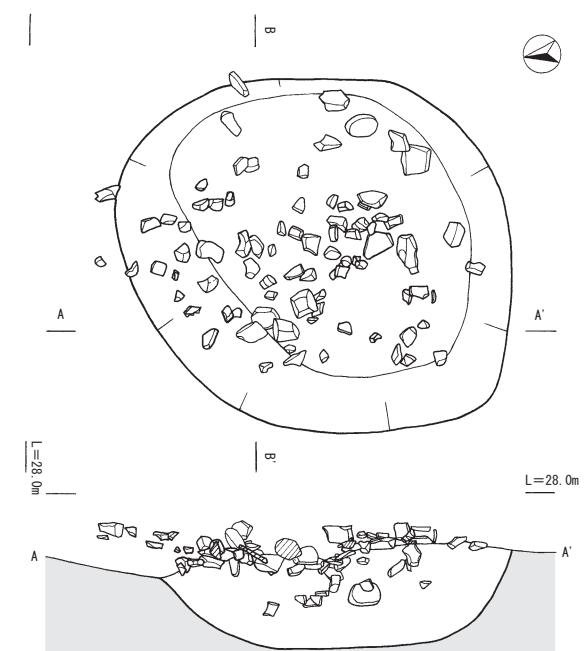
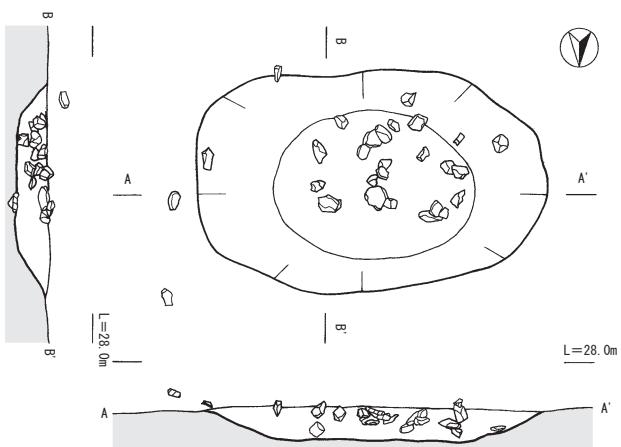
第51図 43・44号集石



46号集石



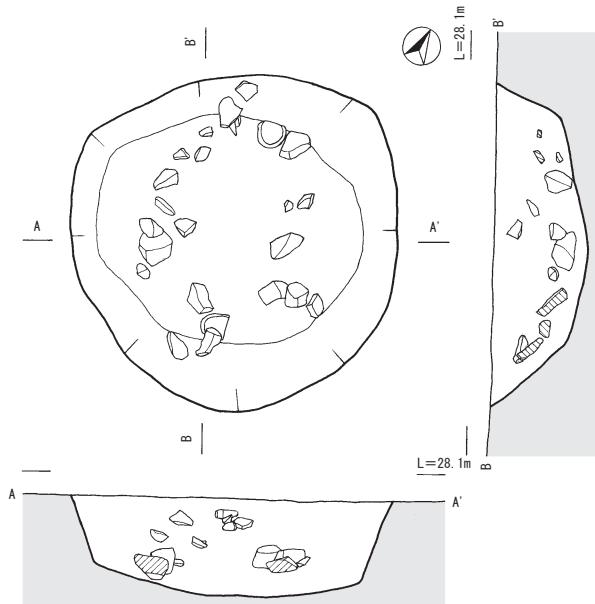
47号集石



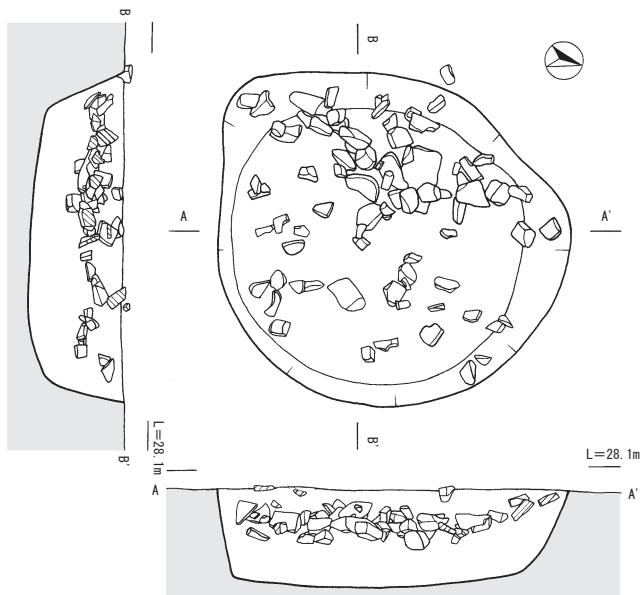
第52図 45 ~ 48号集石

0 (1:20) 50cm

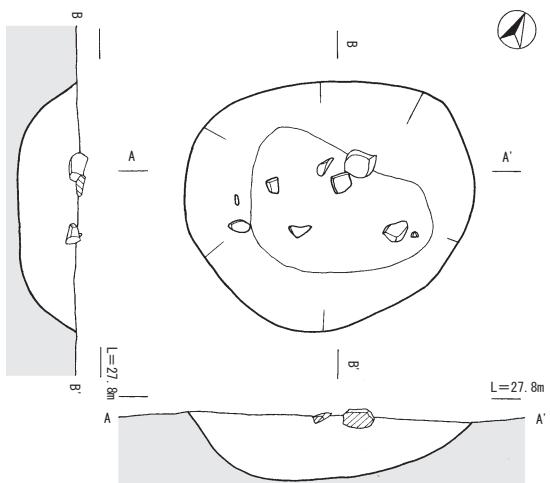
49号集石



50号集石



51号集石



0 (1:20) 50cm

第53図 49～51号集石・出土遺物

47号集石 (SS41 : III類)

[第52図]

D-5・6区, VII層で検出した。構成礫数は28個であり、掘り込みは約95×60cmの楕円形で、検出面からの深さは9cmである。関連する遺物は確認できなかった。

48号集石 (SS42 : III類)

[第52図]

D-5区, VII層で検出した。構成礫数は29個であり、掘り込みは約80×65cmの円形で、検出面からの深さは8cmである。関連する遺物は確認できなかった。

49号集石 (SK12 : III類)

[第53図]

D-4区, VII層で検出した。構成礫数は25個であり、掘り込みは約85×85cmの円形で、検出面からの深さは26cmである。関連する遺物は確認できなかった。

50号集石 (SK22 : III類)

[第53図]

C-5区, VII層で検出した。構成礫数は79個であり、掘り込みは約95×85cmの円形で、検出面からの深さは26cmである。関連する遺物は確認できなかった。

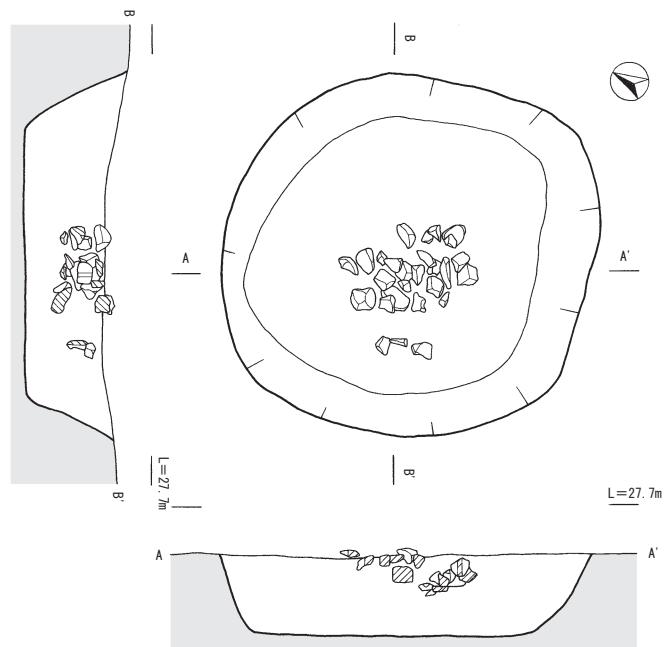
51号集石 (SK40 : III類)

[第53図]

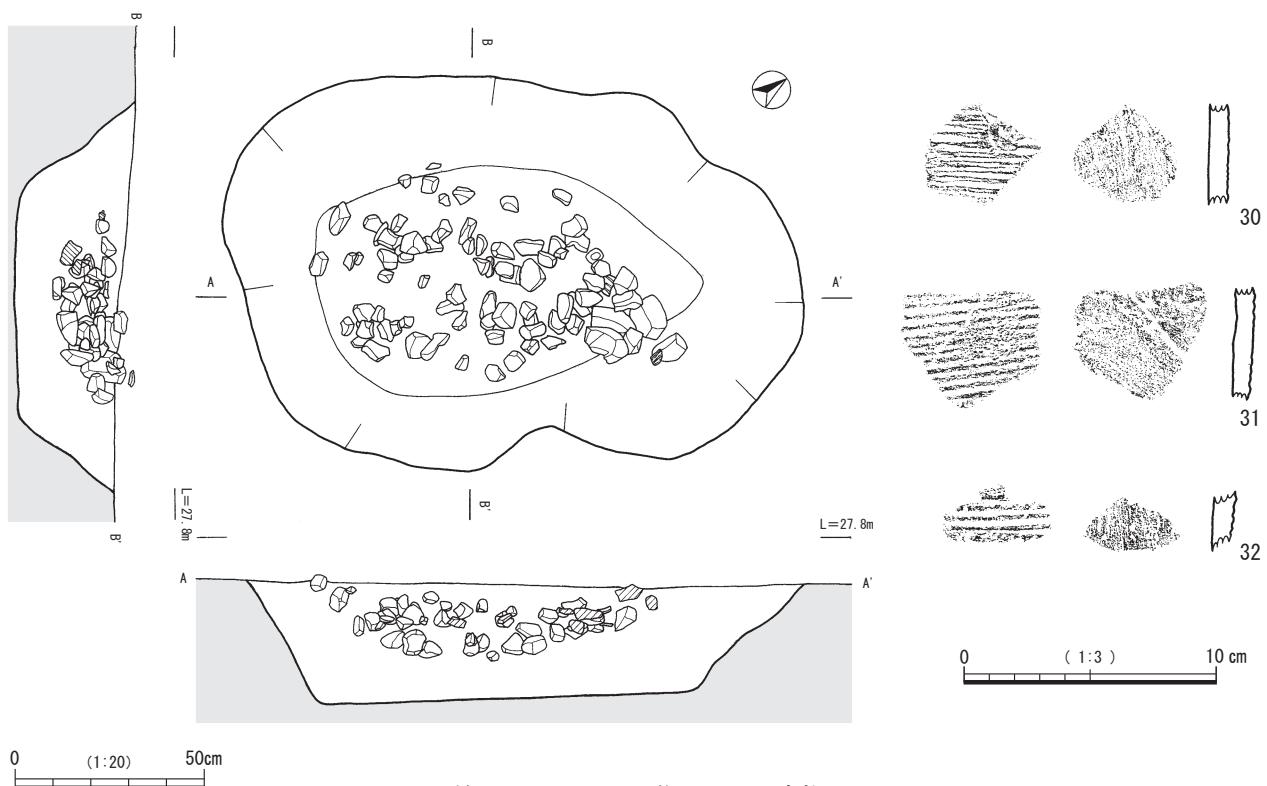
E-4区, Xa層で検出した。15号連穴土坑の再利用遺構と考えられる。構成礫数は7個であり、掘り込みは約75×65cmの円形で、検出面からの深さは16cmである。

出土遺物は埋土からII類土器2点及び炭化物が出土し、その内1点は小片のため掲載には至らなかった。29は角筒器形の底部付近である。外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文、縦位の刻目を施す。II類土器である。

52号集石



53号集石



第54図 52・53号集石・出土遺物

52号集石 (SK64 : III類)

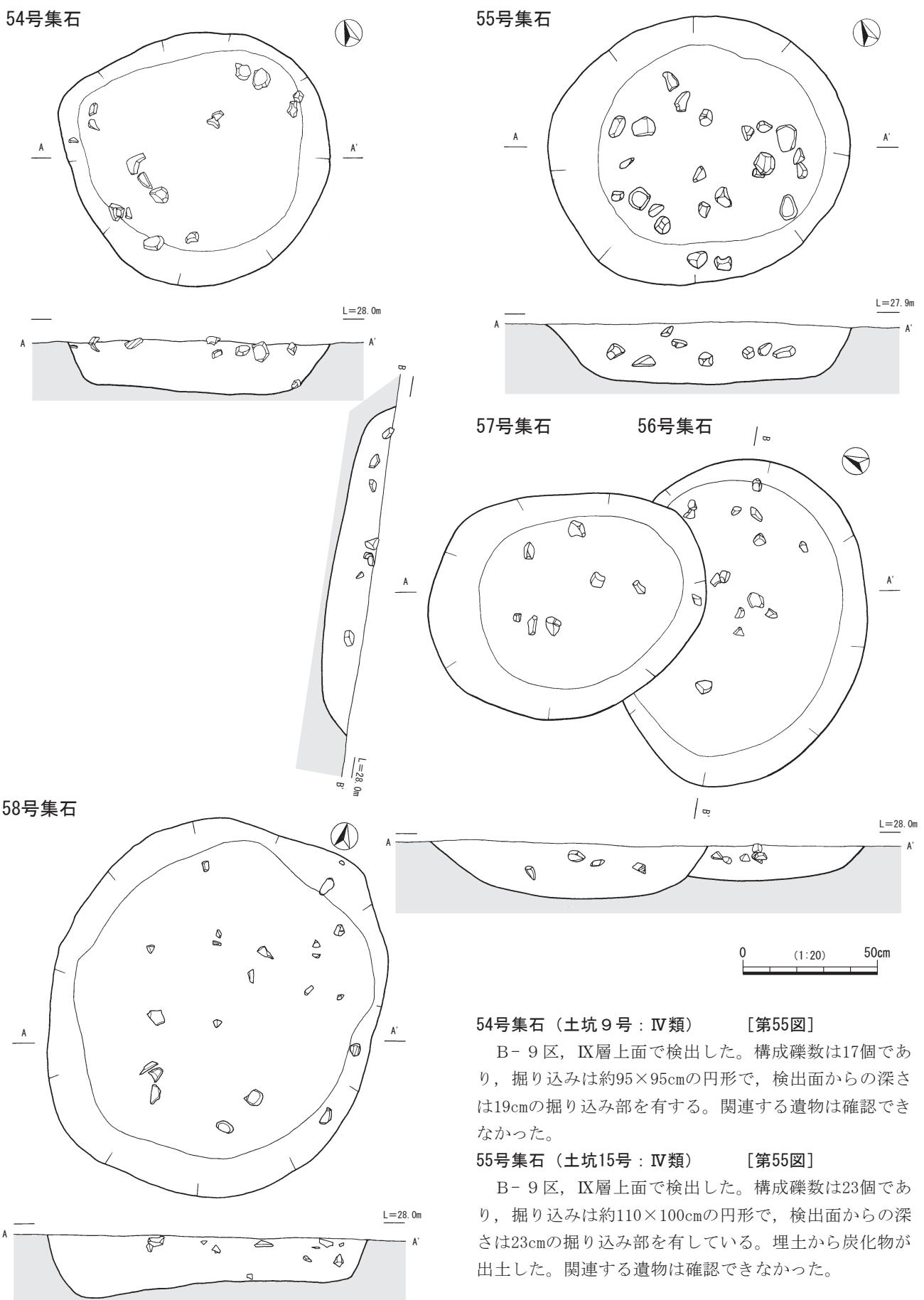
D-6・7区, Xa層で検出した。構成礫数は28個であり、掘り込みは約95×95cmの円形で、検出面からの深さは16cmである。関連する遺物は確認できなかった。

[第54図]

53号集石 (SK84 : III類)

D-6区, Xa層で検出した。構成礫数は80個であり、掘り込みは約150×105cmの楕円形で、検出面からの深さは30cmの掘り込み部を有する。

出土遺物は埋土から土器3点が出土した。30～32は外面に横位の貝殻条痕を施す胴部である。I類土器である。



第55図 54～58号集石

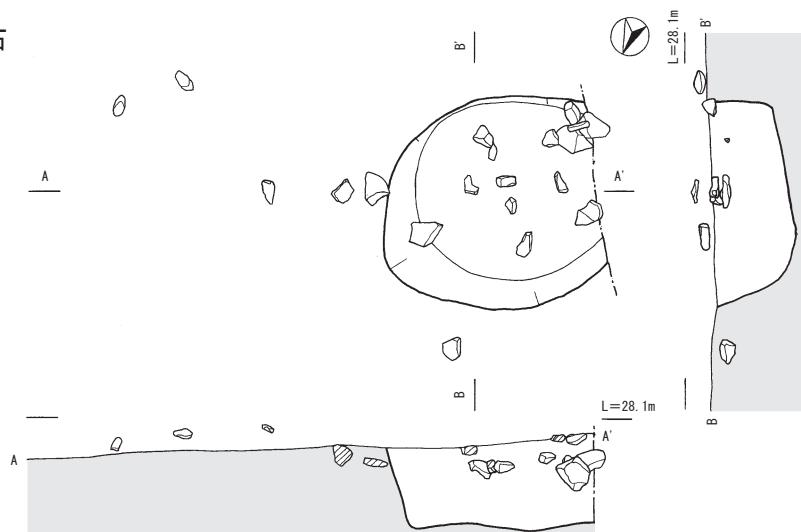
54号集石（土坑9号：IV類） [第55図]

B-9区、IX層上面で検出した。構成礫数は17個であり、掘り込みは約95×95cmの円形で、検出面からの深さは19cmの掘り込み部を有する。関連する遺物は確認できなかった。

55号集石（土坑15号：IV類） [第55図]

B-9区、IX層上面で検出した。構成礫数は23個であり、掘り込みは約110×100cmの円形で、検出面からの深さは23cmの掘り込み部を有している。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

59号集石



60号集石



第56図 59・60号集石・出土遺物

56号集石（土坑6号：IV類） [第55図]

B-8区、IX層上面で検出した。土坑18号に切られている。確認できた構成礫数は13個である。掘り込みは約110×95cmの楕円形で、検出面からの深さは21cmである。出土遺物はIII類土器1点が出土したが、小片のため掲載には至らなかった。また、埋土から炭化物が出土した。

57号集石（土坑18号：IV類） [第55図]

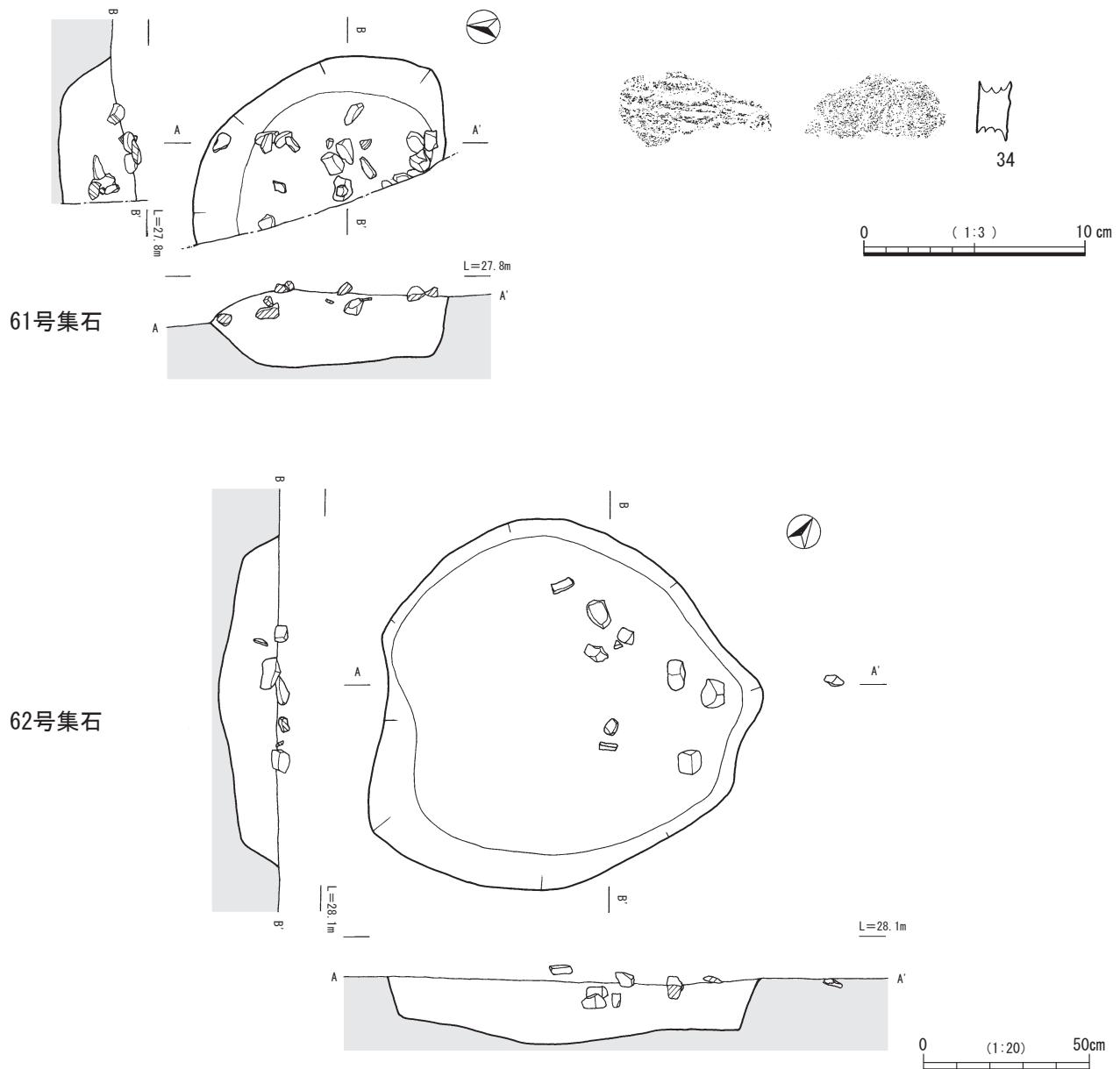
B-8区、IX層上面で検出した。土坑6号を切っており、構成礫数は8個と少ないが、掘り込みは約105×85cmの円形で、検出面からの深さは20cmである。埋土から炭化物が出土した。関連する遺物は確認できなかった。

58号集石（土坑19号：IV類） [第55図]

B-9区、IX層で検出した。構成礫数は21個であり、掘り込みは約140×125cmの円形で、検出面からの深さは23cmである。出土遺物はIII類土器1点が出土したが、小片のため掲載には至らなかった。また、埋土から炭化物が出土した。

59号集石（SS04：IV類） [第56図]

E-4区、VII層で検出した。構成礫数は20個であり、掘り込みは約(55)×55cmの円形で、検出面からの深さは20cmである。関連する遺物は確認できなかった。



第57図 61・62号集石・出土遺物

60号集石 (SS06 : IV類) [第56図]

E-4区, VIII層で検出した。構成礫数は56個であり、掘り込みは約65×(65)cmの楕円形で、検出面からの深さは10cmである。出土遺物は土器1点が出土した。33は角筒器形の胴部である。内外面とも摩滅しており、外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す。II類土器である。

61号集石 (SS07 : IV類) [第57図]

D-4区, VIII層で検出した。構成礫数は19個であり、掘り込みは約(80)×(40)cmの楕円形で、検出面からの深さは22cmである。出土遺物は土器2点が出土し、II類土器1点は小片のため掲載には至らなかった。34は外面に横位の貝殻条痕を施す胴部である。I類土器である。

62号集石 (SS09 : IV類) [第57図]

D-E-4区, VIII層で検出した。構成礫は11個と少ないが、掘り込みは約115×110cmの円形で、検出面からの深さは19cmである。関連する遺物は確認できなかった。

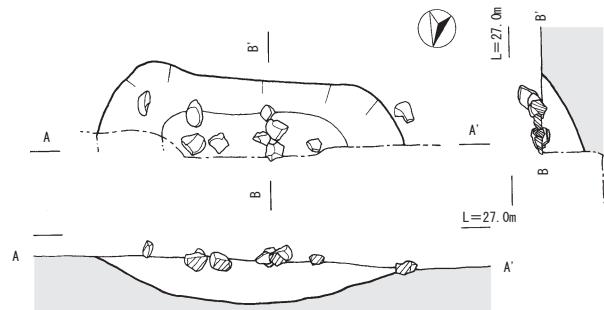
63号集石 (SS13 : IV類) [第58図]

C-4区, IXa層で検出した。構成礫数は10個であり、掘り込みは約180×(20)cmの楕円形で、検出面からの深さは11cmである。関連する遺物は確認できなかった。

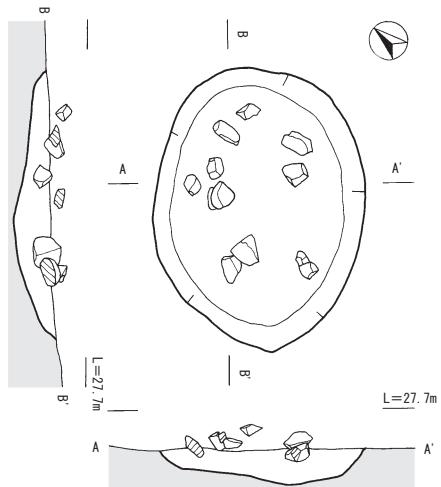
64号集石 (SS35 : IV類) [第58図]

E-9区, VIII層で検出した。構成礫数は12個であり、掘り込みは約85×55cmの円形で、検出面からの深さは10cmである。関連する遺物は確認できなかった。

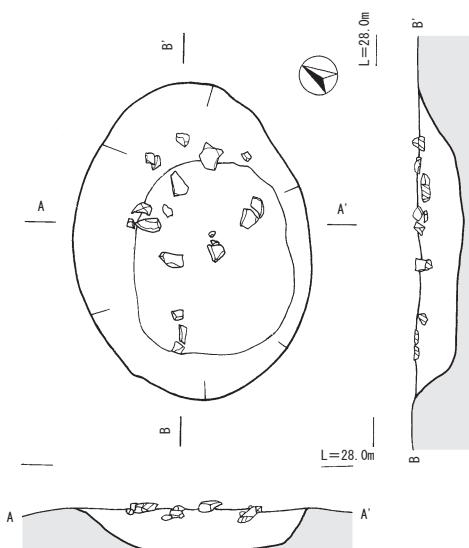
63号集石



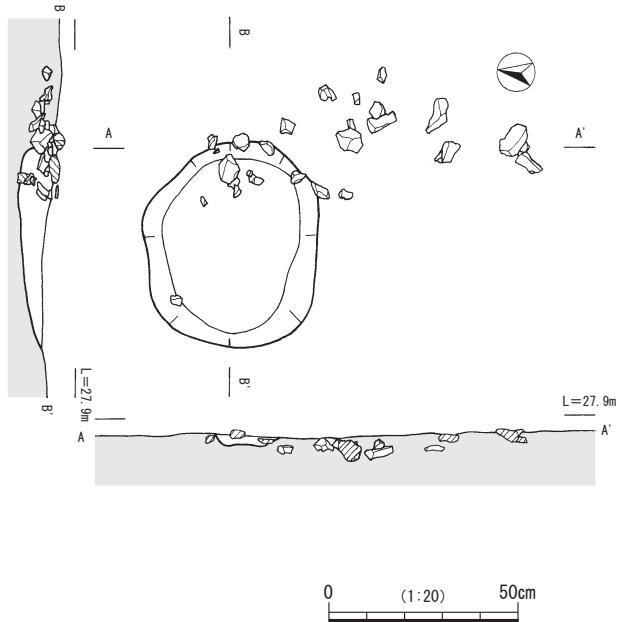
64号集石



65号集石



66号集石



第58図 63～66号集石

65号集石 (SS39 : IV類) [第58図]

D-6区, VIII層で検出した。構成礫数は19個であり、掘り込みは約85×60cmの円形で、検出面からの深さは12cmである。炭化物が1点出土している。関連する遺物は確認できなかった。

66号集石 (SS40 : IV類) [第58図]

D-6区, VIII層で検出した。構成礫数は28個であり、掘り込みは約55×45cmの円形で、検出面からの深さは9cmである。関連する遺物は確認できなかった。

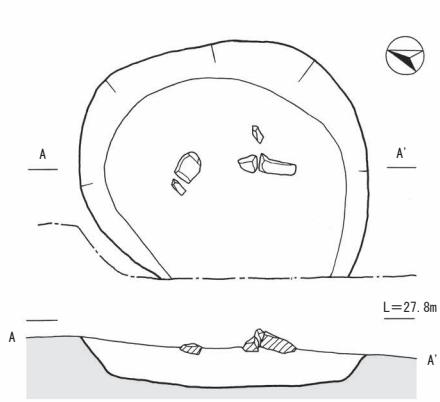
67号集石 (SK50 : IV類) [第59図]

C-7・8区, IXa層で検出した。構成礫数は5個であり、集中部は見られない。掘り込みは約75×(60)cmの円形で、検出面からの深さは11cmである。関連する遺物は確認できなかった。

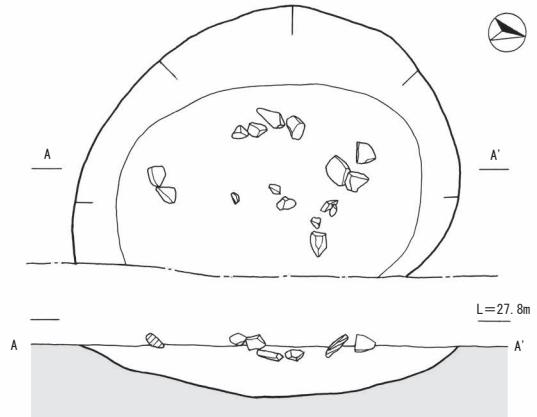
68号集石 (SK51 : IV類) [第59図]

C-8区, IXa層で検出した。構成礫数は16個であり、掘り込みは約100×(70)cmの円形で、検出面からの深さは13cmである。関連する遺物は確認できなかった。

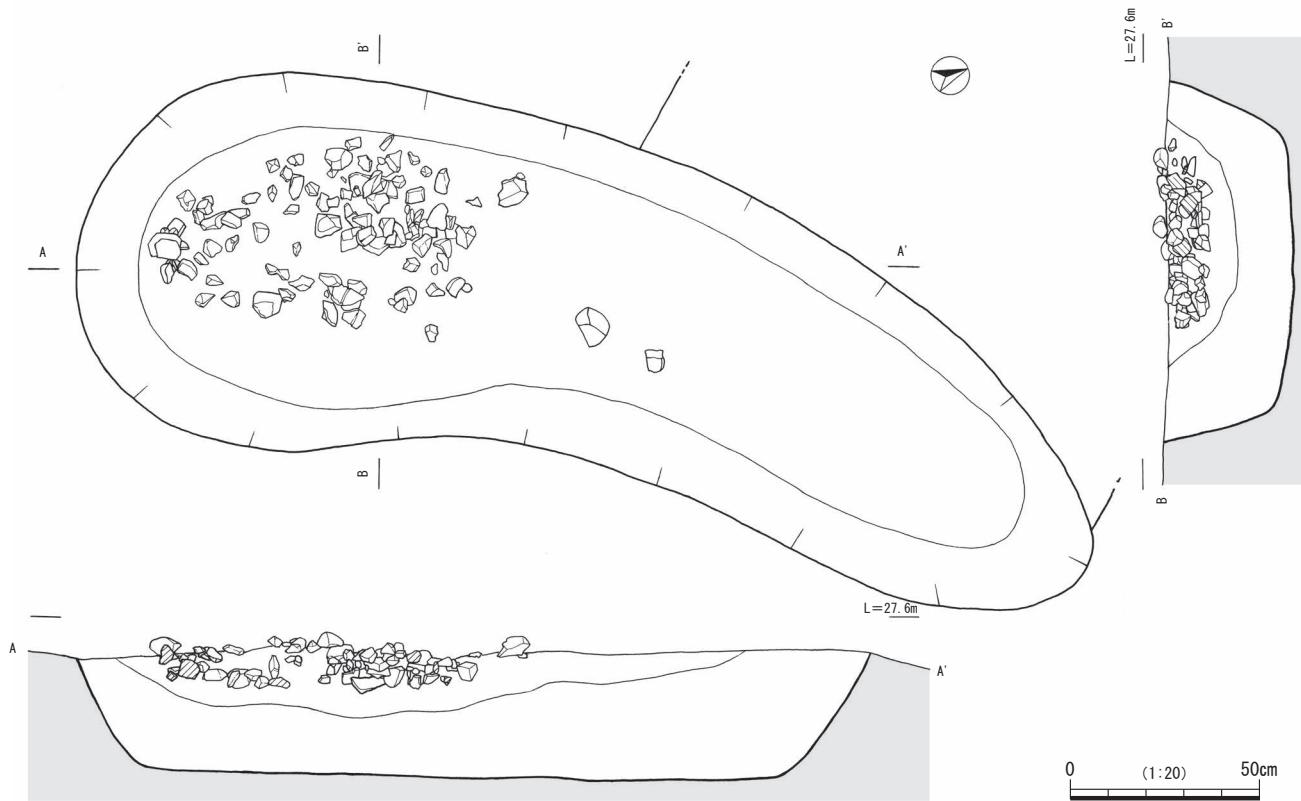
67号集石



68号集石



69号集石



第59図 67～69号集石

69号集石 (SK52 : IV類) [第59図]

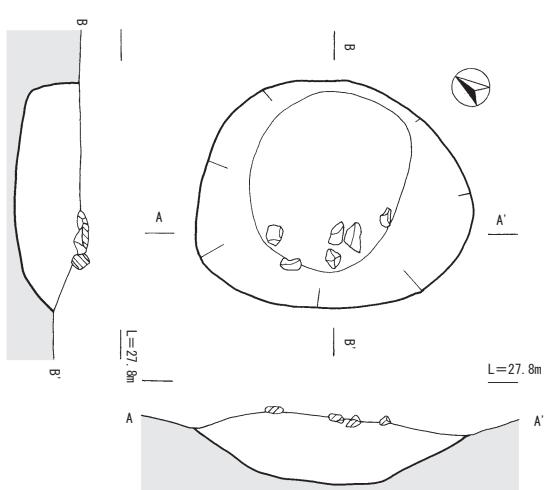
E-7区, Xa層で検出した。77号土坑を切っている。構成礫数は106個であり、掘り込みは約210×95cmの長楕円形で、検出面からの深さは32cmである。

埋土から炭化物が出土した。

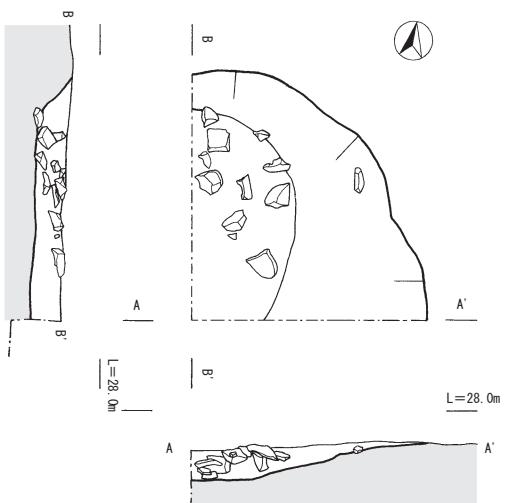
70号集石 (SK95 : IV類) [第60図]

C-9区, VIII層で検出した。構成礫数は6個であり、掘り込みは約70×60cmの円形で、検出面からの深さは17cmである。関連する遺物は確認できなかった。

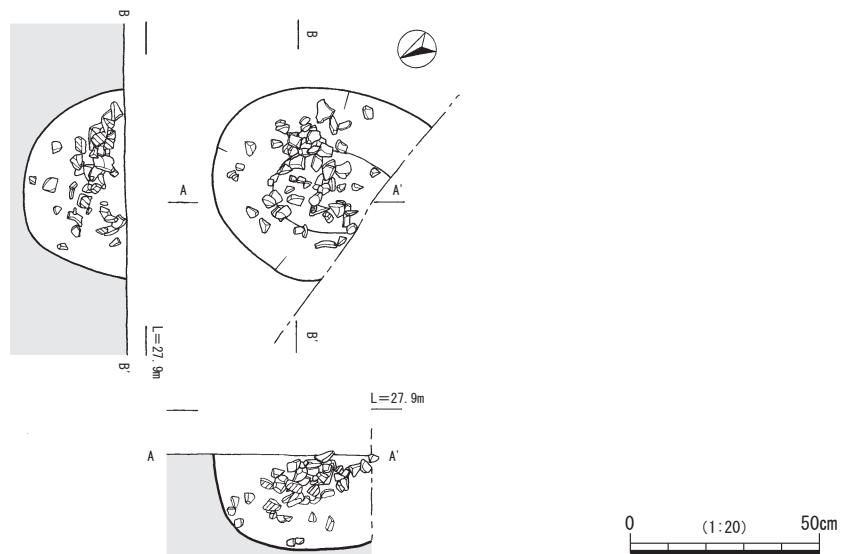
70号集石



71号集石



72号集石



第60図 70～72号集石

71号集石 (SK94 : V類)

D-5区, VIII層で検出した。形状不明のため分類は不明とした。構成礫数は確認できた部分で12個、検出面からの深さは8cmである。関連する遺物は確認できなかつた。

[第60図]

72号集石 (SK26 : V類)

E-4区, Xa層で検出した。6号連穴土坑(SK26 SK27)の從穴部の埋没が進んだ凹地を再利用したものと考えられる。そのため分類は不明とした。構成礫数は67個、検出面からの深さは29cmである。関連する遺物は確認できなかつた。

(4) 土器溜まり (SU01) [第61図]

E-5区, VIII層で検出した。35～37は接合はしないものの、文様・胎土・焼成等が類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。なお、37は包含層出土土器である。底部から口縁部まで直線的に立ち上がり、口唇部に平坦面を作り出す。口径は30.4cm、底径は17.6cmであり、外面の全面に貝殻刺突文を連続して横位に施す。部分的に貝殻腹縁をロッキングしたり、押引き

状に施している。底部境から貝殻刺突文とは異なる施文具を用いて、やや長めの刻目のような相交弧文を施している。器面調整は両面とも丁寧なナデを施している。胎土に石英や長石、白色粒子を多く含む。38は底径10.8cmと、37に比べると小型の底部である。35～37と同様に、外面には貝殻刺突を連続して横位に施し、内面は丁寧なナデを施している。すべてⅢ類土器である。



第61図 土器溜まり・出土遺物

第5表 集石観察表

()は欠損部分までの測定値

造構名	旧造構名	検出区	検出面	総礫数 (個)	分類	大きさ(cm)		掘り込み部		出土 土器	石材別個数				構成磚				重量(g)別個数				備考		
						長軸	短軸	有無	深さ (cm)		安山岩	ホルン フェルス	砂岩	凝灰岩	その他	1 ~ 100	101 ~ 200	201 ~ 300	301 ~ 400	401 ~ 500	501 ~ 600	600 ~ 700	701 ~		
1号集石	S S11	E-8	VIII	15	I	—	—	×	—	x	9	—	5	1		15									
2号集石	S S19	E-10	VIII	20	I	—	—	×	無	口縁 脣部	1	5	12	2		20								C-14年代測定	
3号集石	集石2号	B-10	VIII	28	II	—	—	×	—	x	—	—	—	—		18	6	3	1					炭化物	
4号集石	S S22	E-9	VIII	11	II	—	—	×	無	x	—	—	10	1		11									
5号集石	S S25	E-9	VIII	12	II	—	—	×	無	x	1	—	11	—		10	2								
6号集石	S S28	E-9	VIII	13	II	—	—	×	無	x	4	—	9	—		11	2								
7号集石	集石1号	B-13.14	VIII	188	III	105	95	○	21	x	—	—	—	—		128	47	11	2						
8号集石	土坑1号	B-8	IX	147	III	135	130	○	32	脣部	—	1	117	1		118	25	4						炭化物	
9号集石	土坑2号	B-8	IX	42	III	120	97	○	29	x	—	—	—	—		35	5	2						炭化物	
10号集石	土坑3号	B-8	IX	52	III	126	106	○	21	x	—	—	—	—		51	2	1							
11号集石	土坑4号	B-8	IX	107	III	137	110	○	34	x	—	—	—	—		花崗岩1	92	14	1						炭化物
12号集石	土坑5号	B-8	IX	42	III	100	100	○	90	x	—	—	—	—		40	2							炭化物	
13号集石	土坑7号	B-8	IX	79	III	105	100	○	21	x	—	—	—	—		70	8	1							
14号集石	土坑8号	B-9	IX	405	III	140	120	○	43	x	—	2	403	—		396	6	1	2						
15号集石	土坑10号	B-9	IX	57	III	120	100	○	25	x	—	—	—	—		花崗岩2	47	10							
16号集石	土坑11号	B-9	IX	28	III	100	100	○	23	脣部	—	—	—	—		22	3	1	1	1					
17号集石	土坑12号	B-9	IX	76	III	110	110	○	33	脣部	—	—	—	—		57	15	3	1					土器・炭化物	
18号集石	土坑13号	B-9	IX	154	III	105	105	○	29	x	—	—	—	—		132	17	4	1					炭化物	
19号集石	土坑14号	B-9	IX	39	III	110	105	○	23	x	—	—	—	—		32	5	1	1						
20号集石	土坑16号	B-9	IX	59	III	110	105	○	17	x	—	—	—	—		28	17	11	1	1	1			炭化物	
21号集石	S S01	E-F-4	VIII	33	III	95	80	○	7	x	3	—	28	2		15	12	3	1	1	1				
22号集石	S S02	D-4	VIII	26	III	95	85	○	9	脣部	1	1	2	2		12	7	3	2			1	1	土器	
23号集石	S S03	E-4	VIII	39	III	125	100	○	7	x	1	—	37	1		31	4	2				2			
24号集石	S S05	E-4	VIII	60	III	90	(70)	○	26	x	11	—	30	19		50	10								
25号集石	S S08	C-3	VIII	36	III	95	80	○	21	x	12	1	9	14		26	9	1							
26号集石	S S10	E-4	VIII	52	III	100	80	○	19	x	5	1	46	—		42	9						1		
27号集石	S S12	E-8	VIII	90	III	80	70	○	15	x	15	3	60	9		貢岩3	84	5	1						
28号集石	S S14	E-7	VIII	37	III	(55)	(70)	○	18	口縁部	1	—	33	2		軽石1	19	17	1						
29号集石	S S15	C-9	VIII	90	III	115	100	○	21	x	29	3	49	9		81	9								
30号集石	S S16	C-9	VIII	39	III	80	60	○	12	x	7	1	21	10		35	4								
31号集石	S S18	E-8	VIII	33	III	100	90	○	25	脣部	1	—	25	7		21	10	2						土器	
32号集石	S S20	C-D-9	VIII	13	III	65	50	○	17	x	4	—	4	5		12	1								
33号集石	S S21	E-9	VIII	67	III	80	70	○	18	x	—	—	67	—		67									
34号集石	S S23	E-9	VIII	29	III	85	65	○	11	x	1	1	26	1		21	7	1							
35号集石	S S24	E-9	VIII	20	III	(60)	(40)	○	10	x	—	—	20	—		18	1	1							
36号集石	S S26	E-9	VIII	23	III	85	65	○	14	x	3	—	19	1		14	5	2	1	1					
37号集石	S S27	E-9	VIII	97	III	90	70	○	17	x	16	—	64	16		軽石1	81	16							
38号集石	S S29	E-8·9	VIII	107	III	105	100	○	21	x	10	—	95	2		71	27	7	1	1					
39号集石	S S31	E-8	VIII	287	III	95	85	○	17	x	62	54	152	18		チャート1	282	3	2						
40号集石	S S32	E-8	VIII	124	III	90	75	○	14	x	42	1	74	5		軽石2	108	16							
41号集石	S S33	E-8	VIII	144	III	70	60	○	6	x	13	4	89	38		136	7	1							
42号集石	S S34	E-8	VIII	54	III	85	60	○	13	脣部	6	1	44	1		軽石1	30	18	4	1	1			土器	
43号集石	S S30	E-8	VIII	193	III	100	90	○	18	x	14	1	168	8		軽石2	150	37	3	1	1			SS36を切る	
44号集石	S S36	E-8·9	VIII	175	III	195	145	○	28	x	18	2	150	5		109	58	8						SS30に切られる	
45号集石	S S37	D-6	VIII	64	III	100	85	○	29	x	4	—	58	2		50	10	4							
46号集石	S S38	D-6	VIII	82	III	95	90	○	29	x	4	1	69	8		69	10	1	2						
47号集石	S S41	D-5·6	VIII	28	III	95	60	○	9	x	—	—	25	3		28									
48号集石	S S42	D-5	VIII	29	III	80	65	○	8	x	2	—	27	—		27	2								
49号集石	S K12	D-4	VIII	25	III	85	85	○	26	x	1	—	21	3		13	7	2	1	1	1				
50号集石	S K22	C-5	VIII	79	III	95	85	○	26	x	7	—	69	3		56	17	4	1	1					
51号集石	S K40	E-4	Xa	7	III	75	65	○	16	脣部	1	—	6	—		5	1	1						炭化物・土器	
52号集石	S K64	D-6·7	Xa	28	III	95	95	○	16	x	4	—	23	1		21	4	3							
53号集石	S K84	D-6	Xa	80	III	150	105	○	30	脣部	8	2	64	6		35	28	9	4	1	1	2	土器		
54号集石	土坑9号	B-9	IX	17	IV	95	95	○	19	x	—	—	—	—		13	3	1						炭化物	
55号集石	土坑15号	B-9	IX	23	IV	110	100	○	23	x	—	—	—	—		軽石1	15	7	1						
56号集石	土坑6号	B-8	IX	13	IV	110	95	○	21	脣部	—	—	—	—		13								土坑6号を切る	
57号集石	土坑18号	B-8	IX	8	IV	105	85	○	20	x	—	—	—	—		8								土坑18号に切られる	
58号集石	土坑19号	B-9	IX	21	IV	140	125	○	23	脣部	—	—	—	—		21								炭化物	
59号集石	S S04	E-4	VIII	20	IV	(55)	55	○	20	x	6	—	12	1		軽石1	13	5	1	1					
60号集石	S S06	E-4	VIII	56	IV	65	(65)	○	10	脣部	15	1	25	15		44	11	1						土器	
61号集石	S S07	D-4	VIII	19	IV	(80)	(40)	○	22	脣部	4	—	8	7		13	4	2						土器	
62号集石	S S09	D-E-4	VIII	11	IV	115	110	○	19	x	3	—	6	2		6	1	2	1	1					
63号集石	S S13	C-4	IXa	10	IV	180	(20)	○	11	x	1	—	8	1		8	2				</td				

第6表 遺構内出土土器観察表

捕獲番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量(cm)			主文様・調整			胎土			色調		出土区	層位	取上番号	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面		石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母	外面	内面		
16	1	II	深鉢	口縁～底部			23.1	貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい褐色	にぶい褐色	E 6	Xa	SK83-2・3・5・7・8・10・11・13～15・17
	2	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○						にぶい褐色	にぶい褐色	E 6	Xa	SK83-6
17	3	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい褐色	にぶい褐色	E 8	Xa	SK112-1
																にぶい褐色	にぶい褐色	E 7	VIII	4006
																にぶい褐色	にぶい褐色	E 8	VIII	4827
22	4	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○			○	○	にぶい黄褐色	にぶい褐色	D 8	Xa	SK134-1	
	5	II	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○ ○					にぶい褐色	褐色	D 8	Xa	SK137-1	
	6	II	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					にぶい褐色	にぶい褐色	E 4	Xa	SK39-1・SK54-1	
															にぶい褐色	にぶい褐色	E 5	Xa		
															にぶい褐色	にぶい褐色	E 4	VIII	3343・3344・3631	
23	7	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					褐色	にぶい褐色	E 5	Xa	SK55-1	
	8	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○					橙色	橙色	E 5	Xa	SK139-1	
24	9	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					明赤褐色	橙色	E 6	Xa	SK67-1	
25	10	II	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					暗赤褐色	にぶい赤褐色	E 6・7	Xa	SK71-8・9	
	11	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					赤褐色	にぶい赤褐色	E 6・7	Xa	SK71-1括	
	12	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					暗褐色	明赤褐色	E 6・7	Xa	SK71-1括	
	13	II	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					橙色	赤褐色	E 6・7	Xa	SK71-1括	
	14	II	深鉢	胴部				貝殻条痕・キザミ	ケズリ	○ ○ ○					にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	E 6・7	Xa	SK71-1括	
	15	II	深鉢	底部				貝殻条痕・キザミ	ケズリ	○ ○ ○					にぶい赤褐色	橙色	E 6・7	Xa	SK71-1	
26	16	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○					赤褐色	暗赤褐色	E 8	Xa	SK110-2	
	17	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○					明赤褐色	にぶい橙色	E 8	Xa	SK110-3・4	
28	18	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○					褐色	にぶい黄橙色	E 4	Xa	SK23-1	
35	19	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	D 6・7	Xa	SK65-1	
	20	II	深鉢	胴部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	D 6・7	Xa	SK65-2	
	21	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					褐色	にぶい赤褐色	D 6・7	Xa	SK117-1	
36	22	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					にぶい橙色	明赤褐色	D 7	Xa	SK125-1	
38	23	III	深鉢	口縁部				貝殻刺突・ナデ	ナデ	○ ○ ○	○				にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	E 10	VIII	SS19-12・13	
	24	III	深鉢	胴部				貝殻刺突・ナデ	ナデ	○ ○ ○	○				にぶい黄橙色	灰黃褐色	E 10	VIII	SS19-6	
43	25	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					にぶい褐色	橙色	B 9	IX	土坑12-41	
																	E 5	VIII	2830	
44	26	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○	○ ○				灰褐色	にぶい赤褐色	D 4	VIII	SS02-7	
47	27	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○					にぶい赤褐色	にぶい橙色	E 8	VIII	SS18-29	
50	28	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○	○ ○				にぶい橙色	にぶい黄橙色	E 8	VIII	SS34-37	
53	29	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○					にぶい赤褐色	にぶい黄橙色	E 4	Xa	SK40-8	
54	30	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○					にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	D 6	Xa	SK84-73	
	31	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	—	○ ○ ○					灰白色	にぶい黄橙色	D 6	Xa	SK84-72	
	32	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					にぶい褐色	にぶい橙色	D 6	Xa	SK84-55	
56	33	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					にぶい黄橙色	灰黃褐色	E 4	VIII	SS06-32	
57	34	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○					にぶい黄橙色	灰黃褐色	D 4	VIII	SS07-17	
61	35	III	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・ナデ	ナデ	○ ○ ○	○ ○	○	○	○	灰黃褐色	灰黃褐色	E 5	VIII	SU01-5・7・9・17・22	
	36	III	深鉢	口縁～胴部	30.4			貝殻刺突・ナデ	ナデ	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	にぶい黄橙色	灰黃褐色	E 5	VIII	3427・3429・3430・3461・3733・3739・3741・4108・4110・4115・4118	
	37	III	深鉢	胴～底部	17.6			貝殻刺突・ナデ	ナデ	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○	○	にぶい褐色	にぶい黄橙色	E 5	VIII	4134・4141・4331	
	38	III	深鉢	胴～底部	10.8			貝殻刺突・ナデ	ナデ・ミガキ	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	○	○	にぶい黄橙色	灰黃褐色	E 5	VIII	SU01-11・13～15	

3 遺物

(1) 土器

縄文時代早期の遺物包含層であるVII・IX層（確認調査時のVI層該当）からは、一括取り上げ遺物を含めて、土器が1305点出土し、そのうち147点を掲載した。出土状況は調査範囲の西側でややまとまって出土し、東側では疎らな状況であった。

土器は器形・文様・器面調整等からI類からVII類に分類した。以下に分類基準を記述し、類別に出土土器の詳細を述べる。なお、出土状況については第62～64図に示す。

I類土器

器形は底部から口縁部までほぼ直線的に立ち上がり円筒形を呈する。底部は平底である。文様は口縁部上端に貝殻やヘラ状工具による縦位や斜位の刺突文を施す。外面には横位や斜位の貝殻条痕を明瞭に施す。口唇部には刺突や刻目を施す。器面調整は内面にケズリが施され、口縁部付近では横位、胴部では縦位や斜位に施されるものが多い。

II類土器

器形は底部から口縁部までほぼ直線的に立ち上がるものと、口縁部がわずかに外反するものがあり、円筒形を呈する。また、口縁部が波状を呈し、やや丸みを帯びた角部を形成する角筒形やレモン形がある。底部はすべて平底である。文様は口縁部に貝殻刺突線文を施し、胴部は斜位や縦位の貝殻条痕を施した後、貝殻刺突線文や刺突を施す。口縁部上位に貝殻刺突を施すものや粘土紐貼付文を施すものもある。口唇部及び底部付近には刻目が施される。器面調整は内面にケズリが施され、口縁部付近では横位、胴部では縦位や斜位に施されるものが多い。

III類土器

器形は口縁部が直口ないしわずかに内湾するものや、大きく内傾するものがあり、胴部は直線的もしくはややすぼまりながら底部へ至る筒状の器形を呈する。文様は外面のほぼ全体に貝殻刺突文が施される。貝殻腹縁部をロッキングしたり、やや押引き状に施すものもある。器面調整は内外面とも丁寧なナデを施す。

IV類土器

本遺跡からは破片資料のみであり、器形は復元できなかった。文様は胴部に条線を鋸歯状に施す。器面調整は内外面とも丁寧なナデを施す。

V類土器

本遺跡からは小片が1点出土した。文様は外面に押型文を施す。器面調整は内外面ともナデを施す。

VI類土器

本遺跡からは破片資料のみであり、器形は復元できなかった。器壁の厚みが不規則であり、文様は施されな

い。器面調整は内外面ともナデを施す。

VII類土器

I～VI類に当てはまらなかつたものを一括した。

① I類土器（第65～67図39～65）

I類土器は口縁部上端に刺突を施し、胴部に横位や斜位の貝殻条痕を施す土器である。

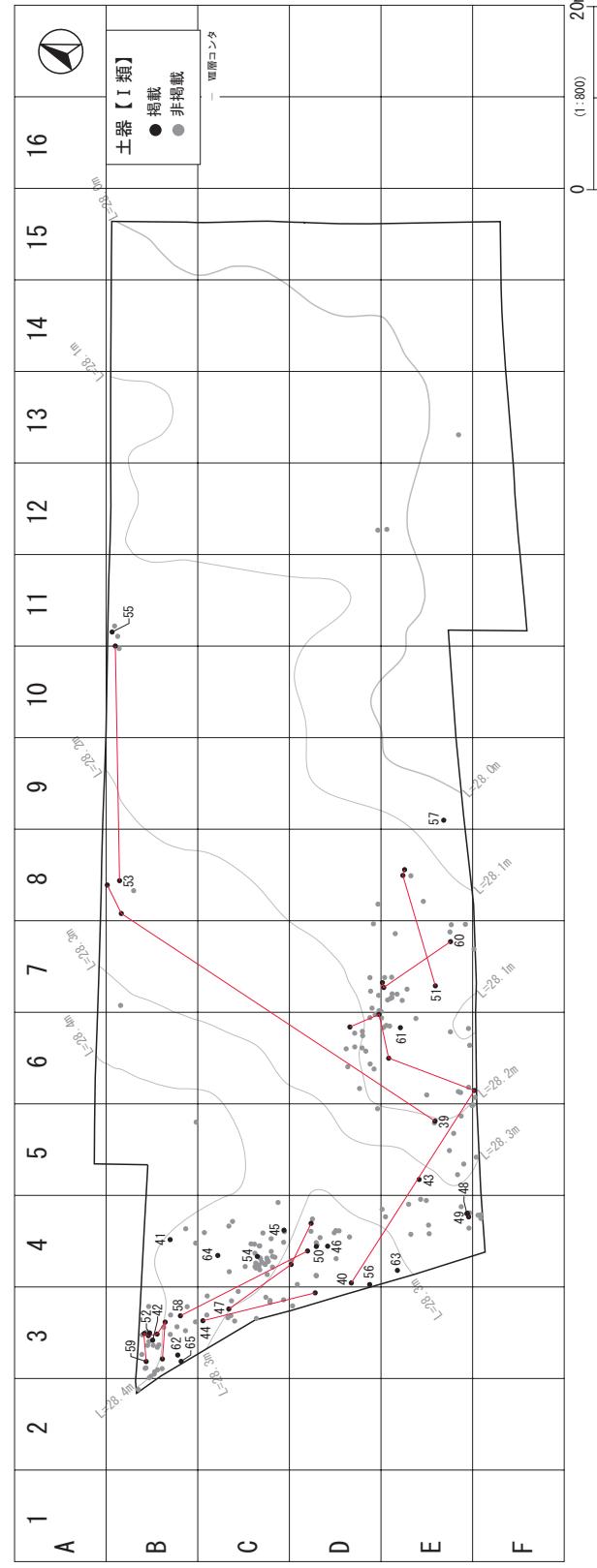
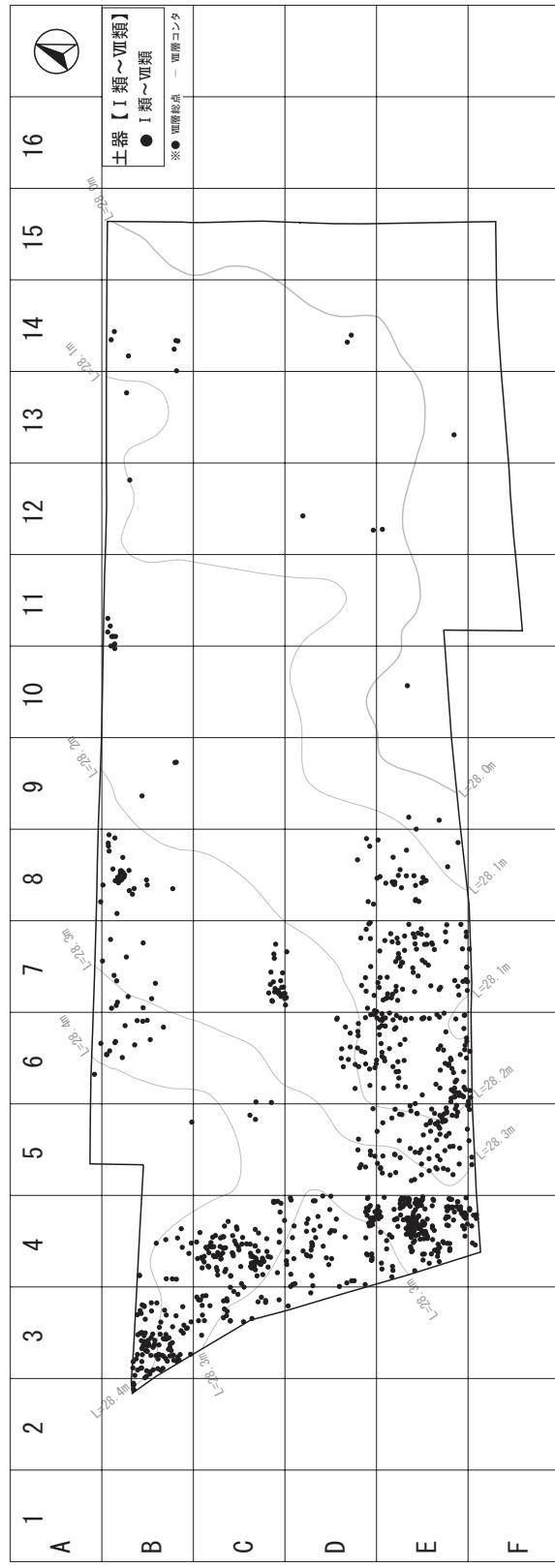
39は完形に復元できた。口径18.8cm、底径17.2cm、器高32.2cmであり、本遺跡で確認された土器の中で最大であり、全体的に器壁に厚みがある。口唇部には平坦面を作り、棒状工具による刺突を施す。口縁部にはヘラ状工具による刺突を1段施す。外面には横位の貝殻条痕を施し、内面には口縁部付近は横位、胴部から底部にかけては斜位や縦位にケズリを施している。また、外面から穿孔したと考えられる縦長の補修孔が残る。40～46は口縁部である。40～42は口縁部にヘラ状工具による刺突を1段施し、43・44は羽状に施す。45は施文具は判然としないが、縦長の刺突を1段施し、46は貝殻刺突を横位に施す。47～58は胴部である。外面は横位の貝殻条痕を施し、内面はケズリ調整が施されている。59～65は底部である。底面及び底部内面ともナデ調整が施され、一部に指おさえ痕が残る。59～61は底径が13～14cmであり、60・61は外面に横位の貝殻条痕を施した後、縦位の貝殻条痕を施す。63～65は底面に圧痕が観察できる。

② II類土器（第68～75図66～143）

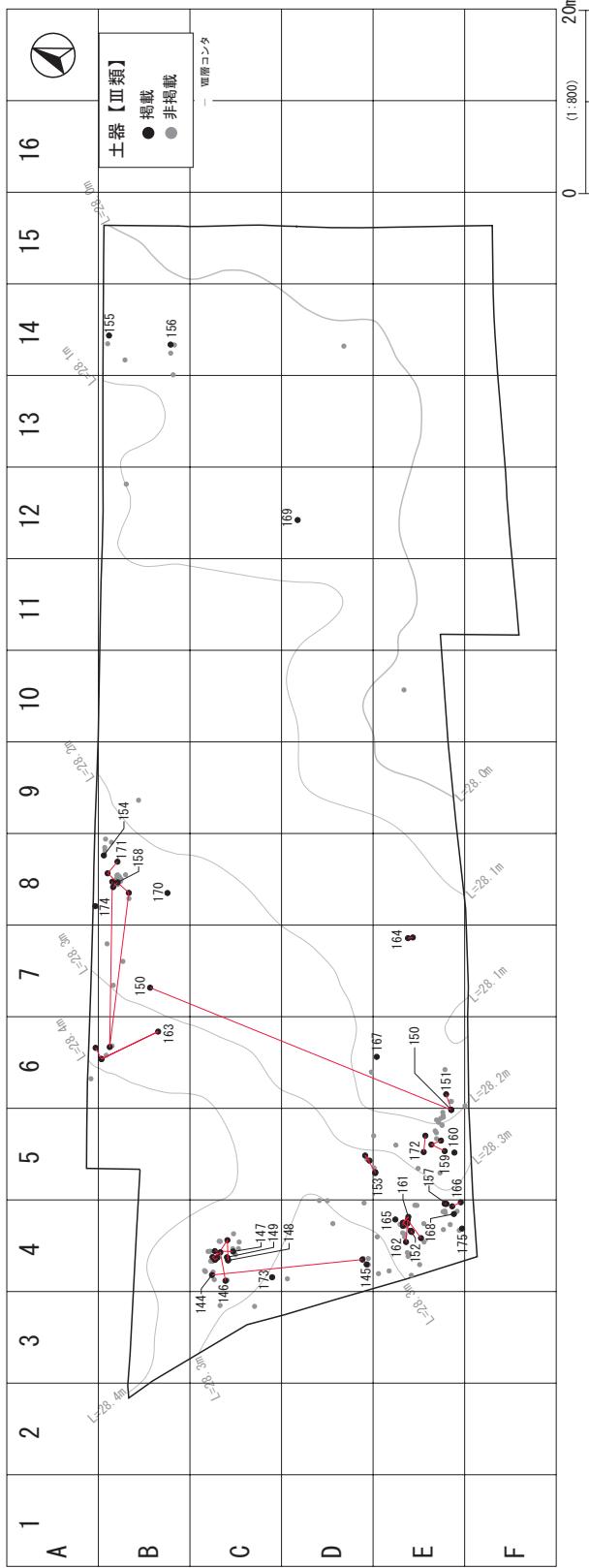
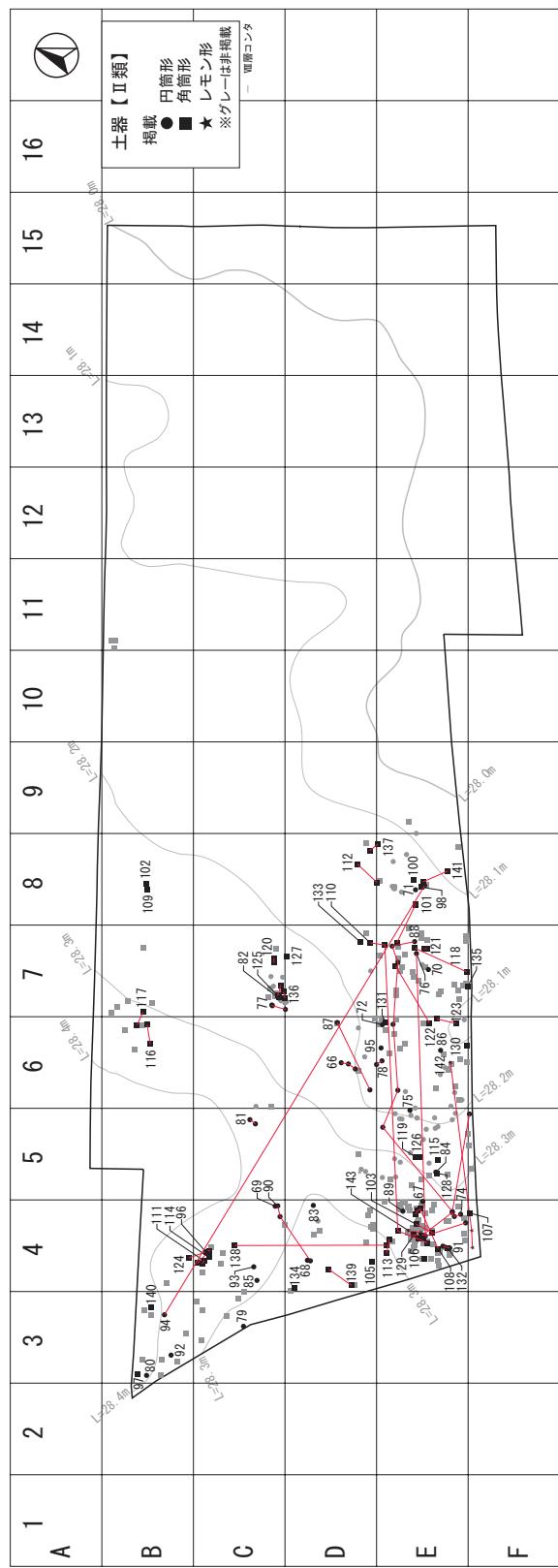
II類土器は円筒形・角筒形・レモン形があり、文様は貝殻条痕と貝殻刺突線文を二重施文し、内面はケズリを施す土器である。円筒形・角筒形・レモン形の器形別に掲載した。

66～96は円筒形を呈する。66～74は口縁部である。66～70は縦位の貝殻刺突の直下に、横位の貝殻刺突線文を1段施す。71～74は横位の貝殻刺突線文を3もしくは4段施し、胴部に斜位もしくは縦位の貝殻条痕を施す。73～76は胴部に縦位の貝殻条痕を施し、縦位と斜位の貝殻刺突線文を組み合わせ、X字状のモチーフを描く。部分的に貝殻刺突線文を二重に施す。77～90は斜位の貝殻条痕と縦位や斜位の貝殻刺突線文を施す胴部である。88・89は斜位の短い貝殻刺突を縦位に連続して施し、斜位の貝殻刺突線文と組み合わせてX字状のモチーフを描く。90は斜位の貝殻刺突線文を2本1単位で施す。91は貝殻条痕と刺突を施す。92～96は胴部下半及び底部であり、貝殻条痕を胴部下半までは斜位に、底部付近では横位に施す。94・95は底部境から縦位の貝殻条痕を施す。

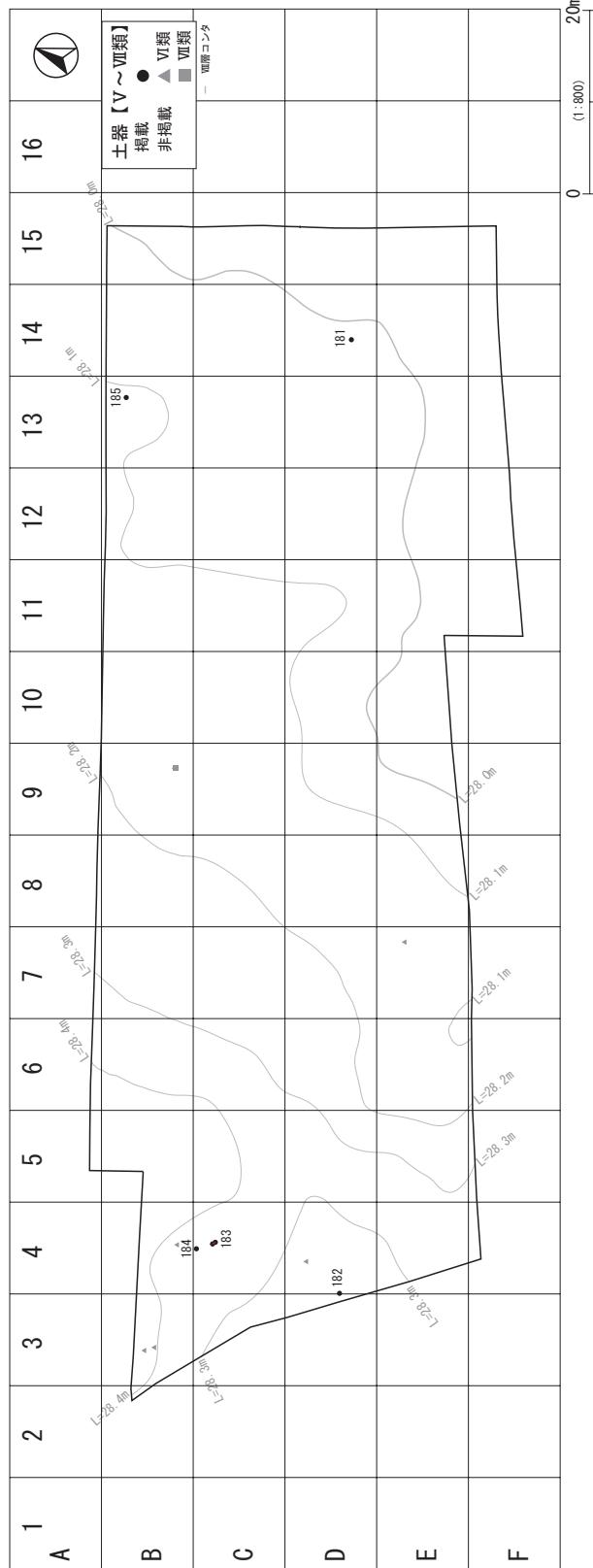
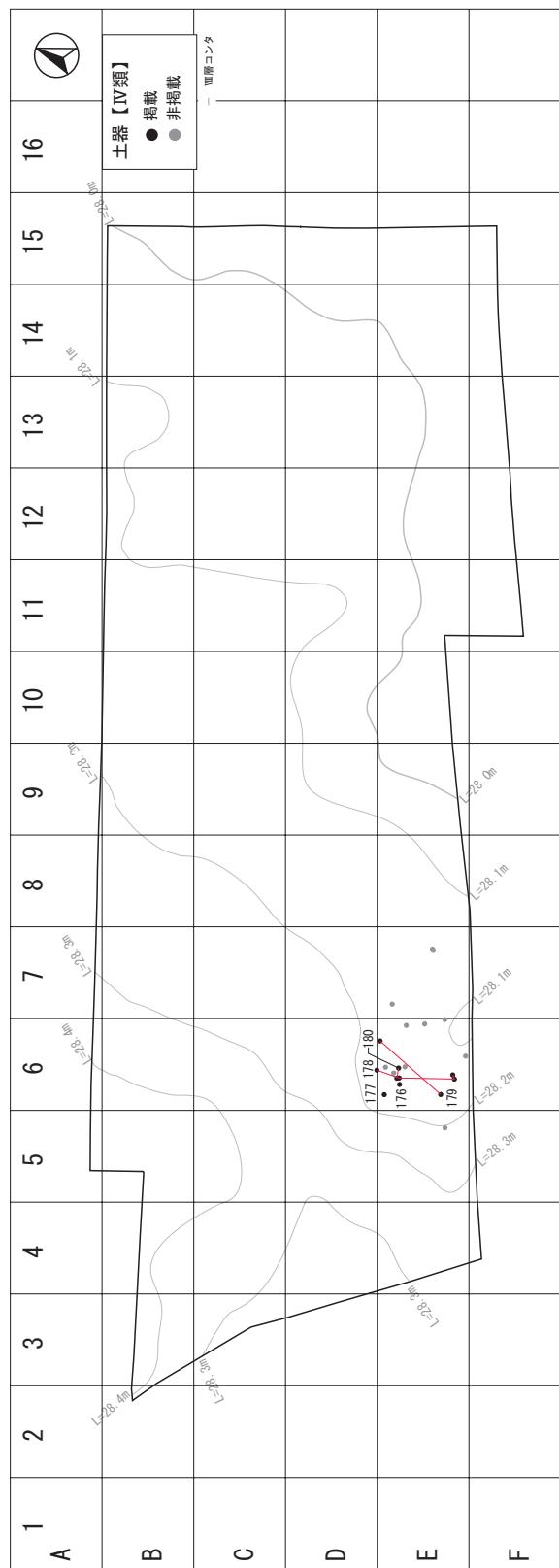
97～141は角筒形を呈する。97～99は口縁部に縦位の貝殻刺突と横位の貝殻刺突線文を施す。胴部には貝殻条痕と貝殻刺突線文を施し、口唇部及び角部にも刺突を施す。98は横位の貝殻刺突線文の上から縦位の刻目を



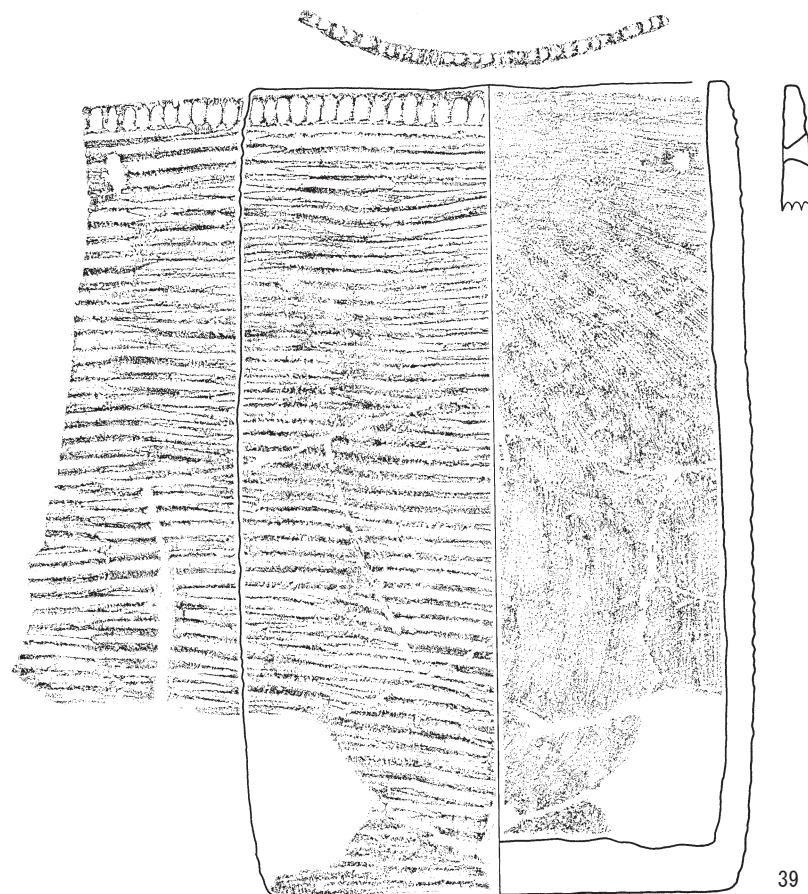
第62図 繩文時代早期土器分布図①



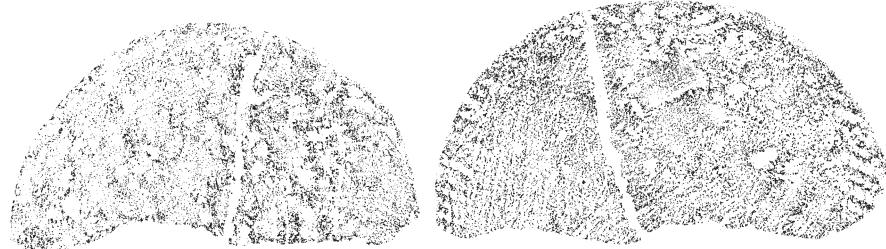
第63図 繩文時代早期土器分布図②



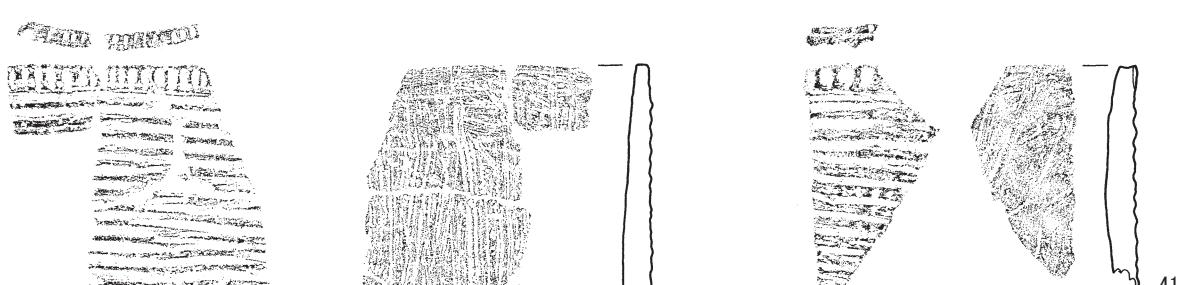
第64図 繩文時代早期土器分布図③



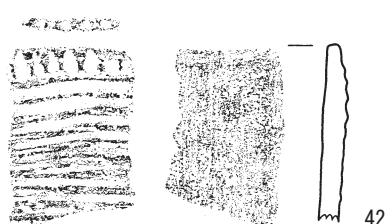
39



40



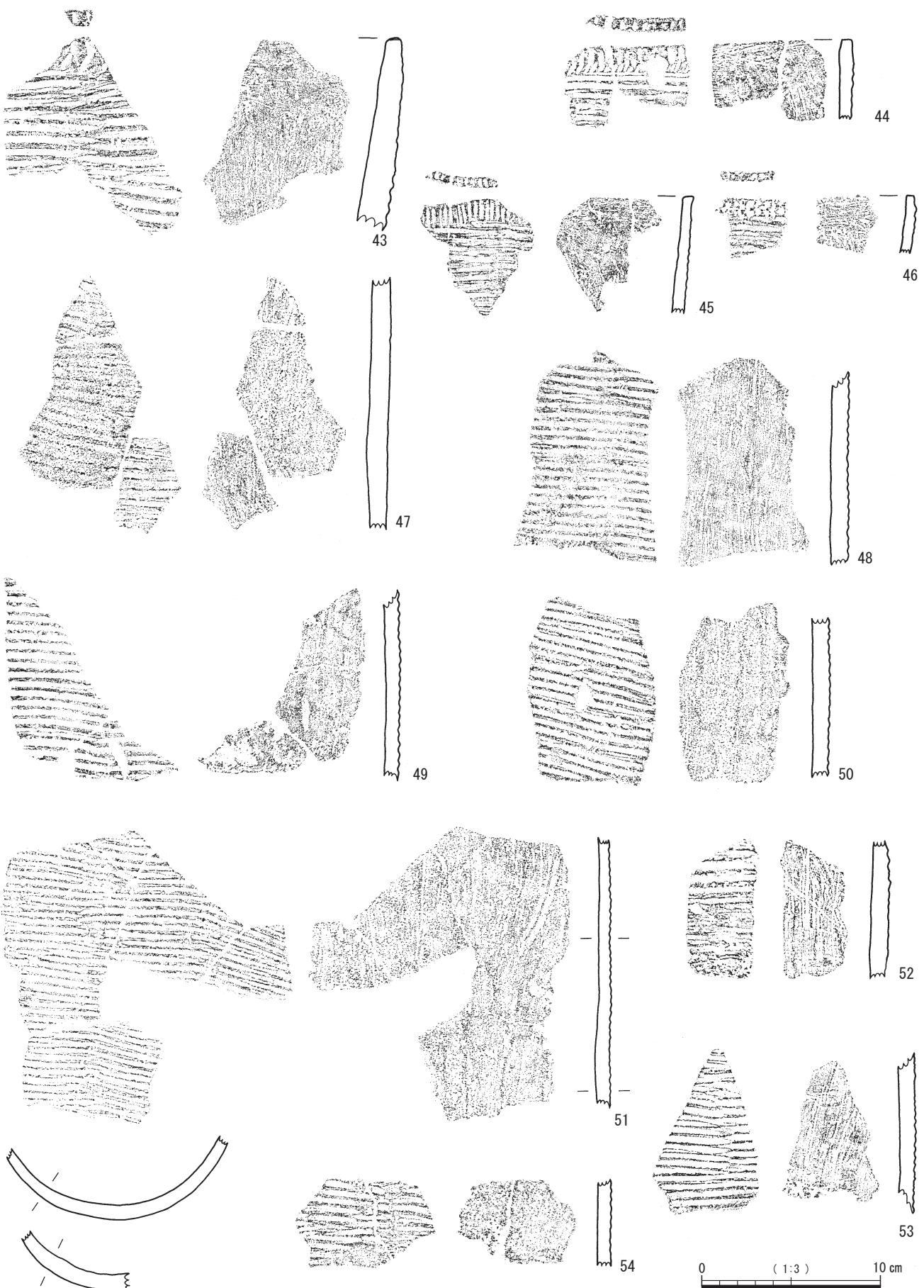
41



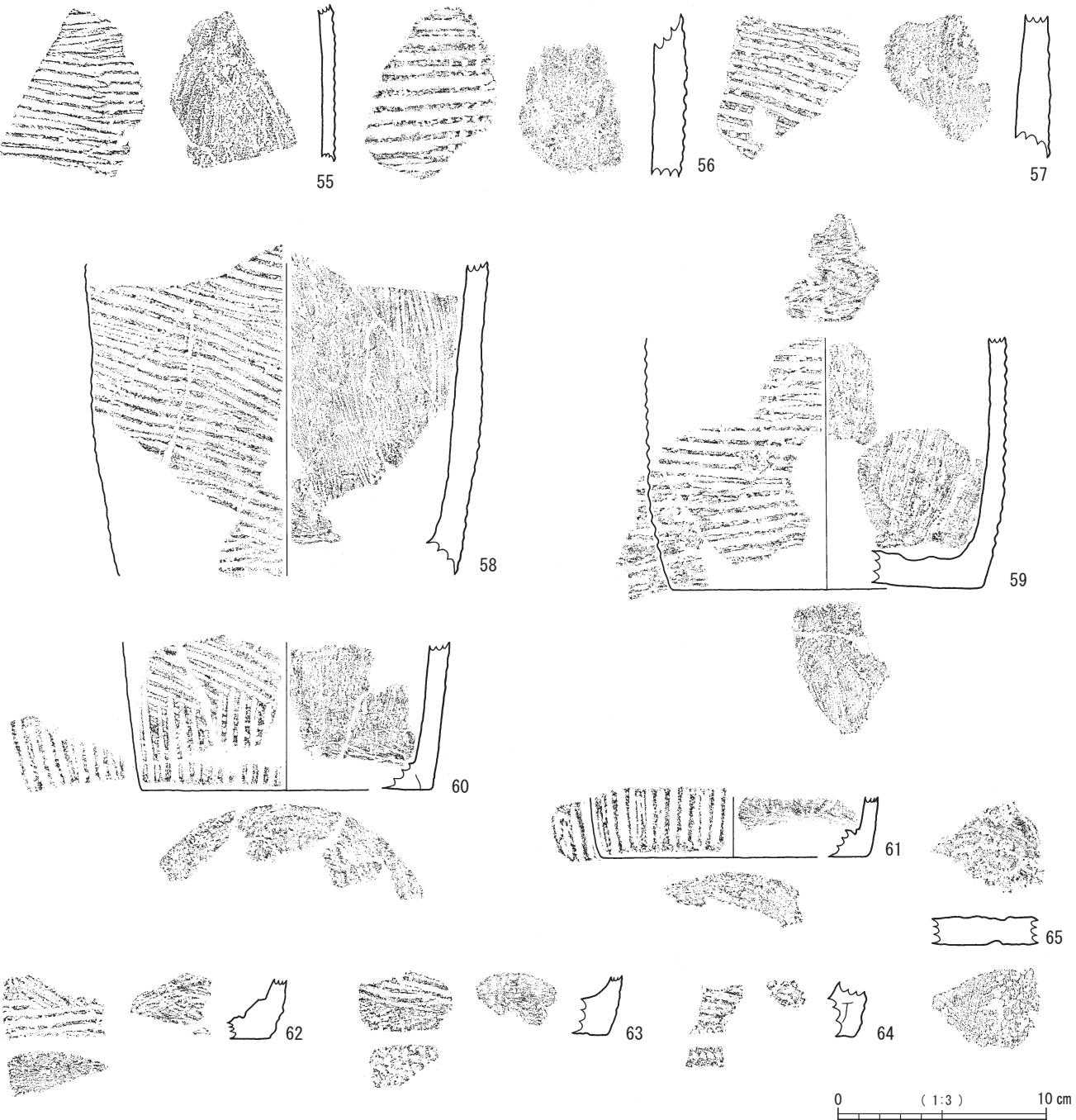
42

0 (1:3) 10 cm

第65図 縄文時代早期土器 1



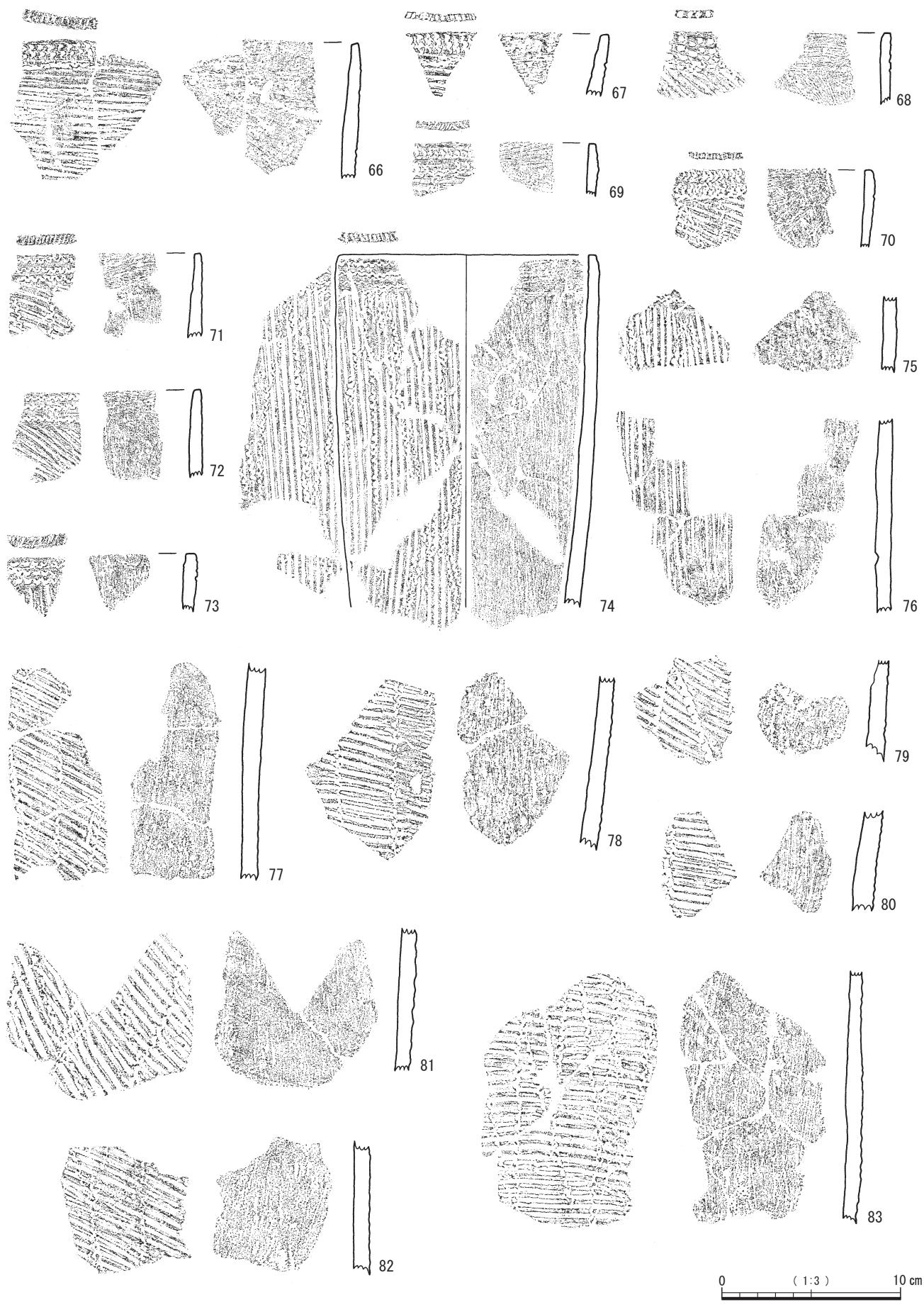
第66図 縄文時代早期土器 2



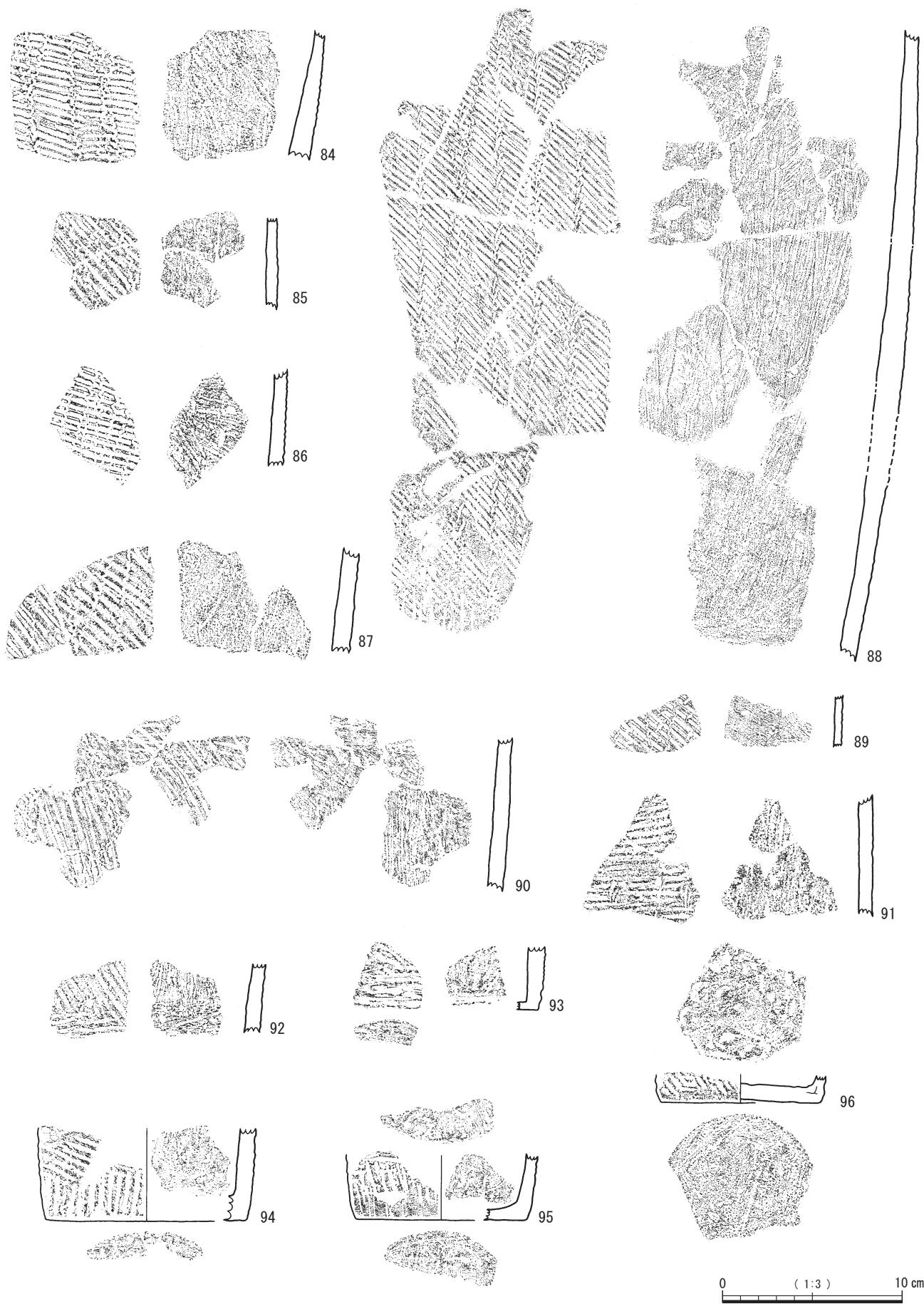
第67図 縄文時代早期土器 3

施す。また、98・100は胴部に縦位の刺突を施す。101は約半分が残存しており、完形に復元できた。底部は各辺が弧状となる長方形を呈する。底面の大きさは長軸8.5cm、短軸8.3cm程度である。器形は底部からほぼ直線的に立ち上がるため、上面観も長方形となる。口唇部には刻目、口縁部には横位の貝殻刺突線文を4段施し、口縁から胴部にかけての角部には短い貝殻刺突線文を施す。胴部には斜位の貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突線文を施す。縦位の貝殻刺突線文は長辺側の面には5本、短辺側の面には4本施し、その間隔は約2cmである。どちら

の面でも縦位・斜位の貝殻刺突線文が交差する高さはほぼ一致しており、文様割付の規則性が窺える。底面境から縦位の貝殻条痕を施す。内面はケズリを施すが、角部は縦方向にナデを施している。底部内面にはナデや指おさえ痕が残る。102～109は口縁部に横位の貝殻刺突線文を2～4段施し、口唇部に刻目を入れている。102は角部に外面から穿孔したと考えられる縦長の補修孔が残る。108は口縁部に粘土紐を2本貼り付け、粘土紐の上面と両側面に櫛状工具で刺突を施す。109は粘土紐を3本貼り付けるが、剥落しているため詳細は不明である。

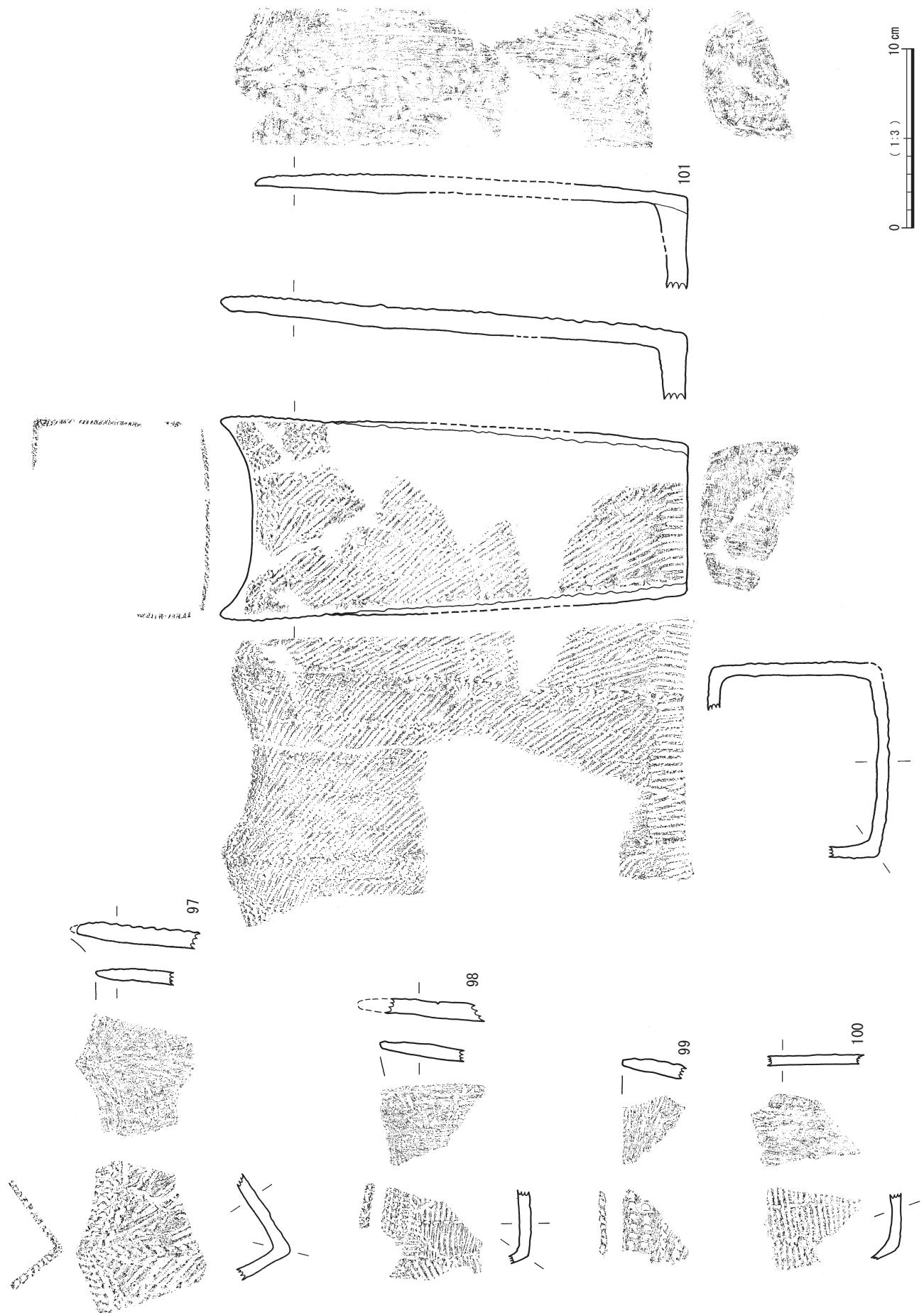


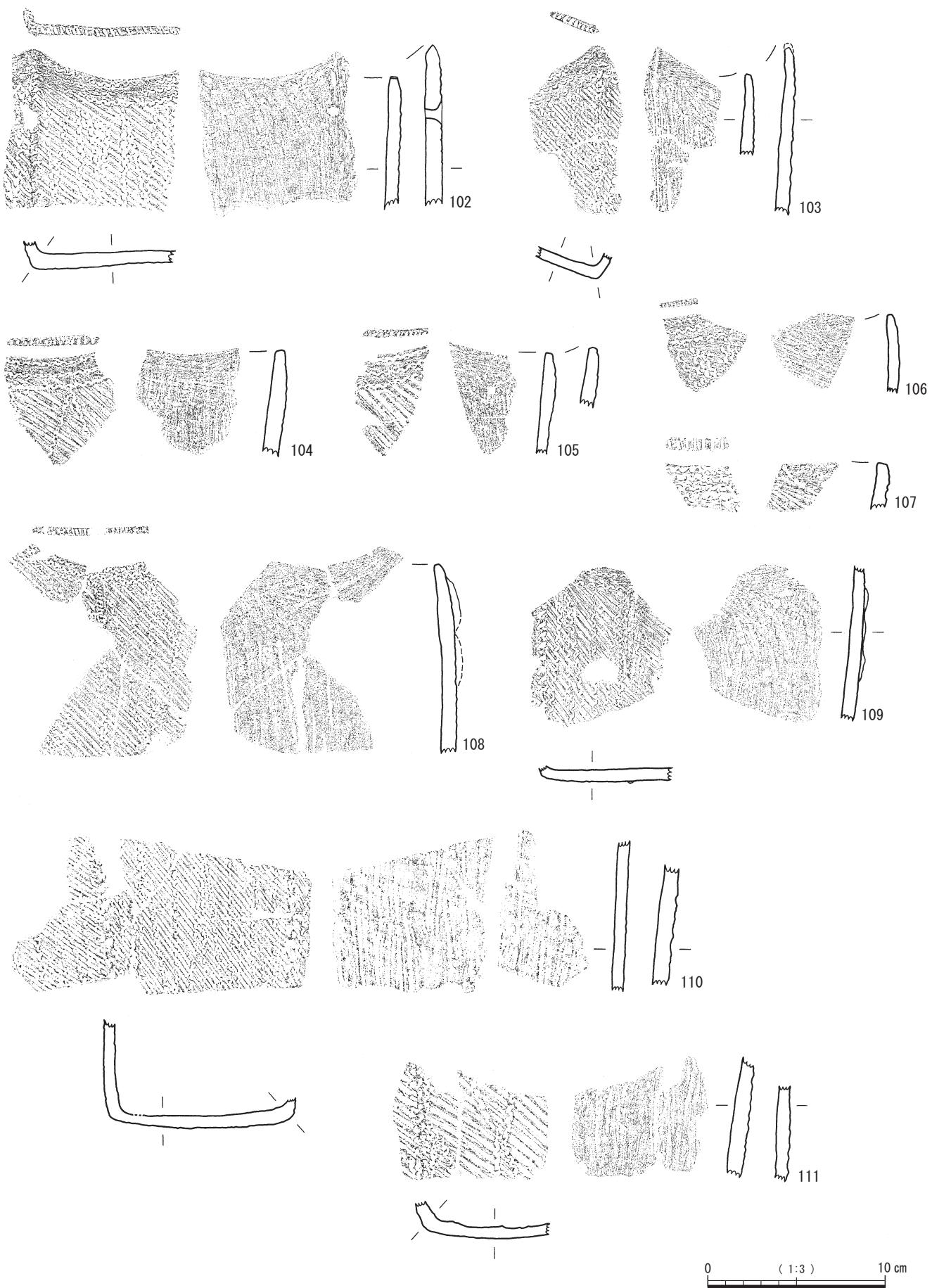
第68図 縄文時代早期土器 4



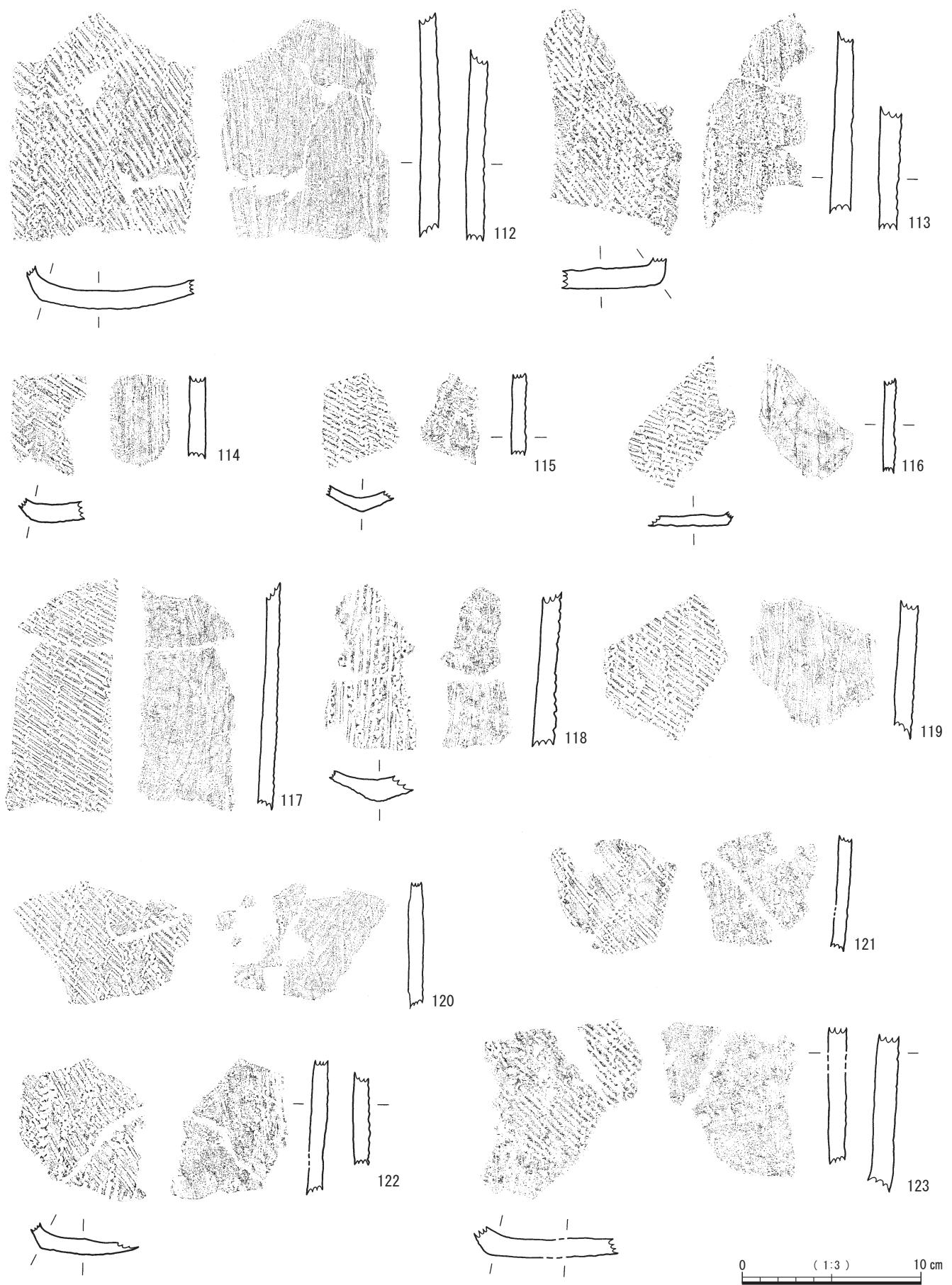
第69図 縄文時代早期土器 5

第70図 繩文時代早期土器 6

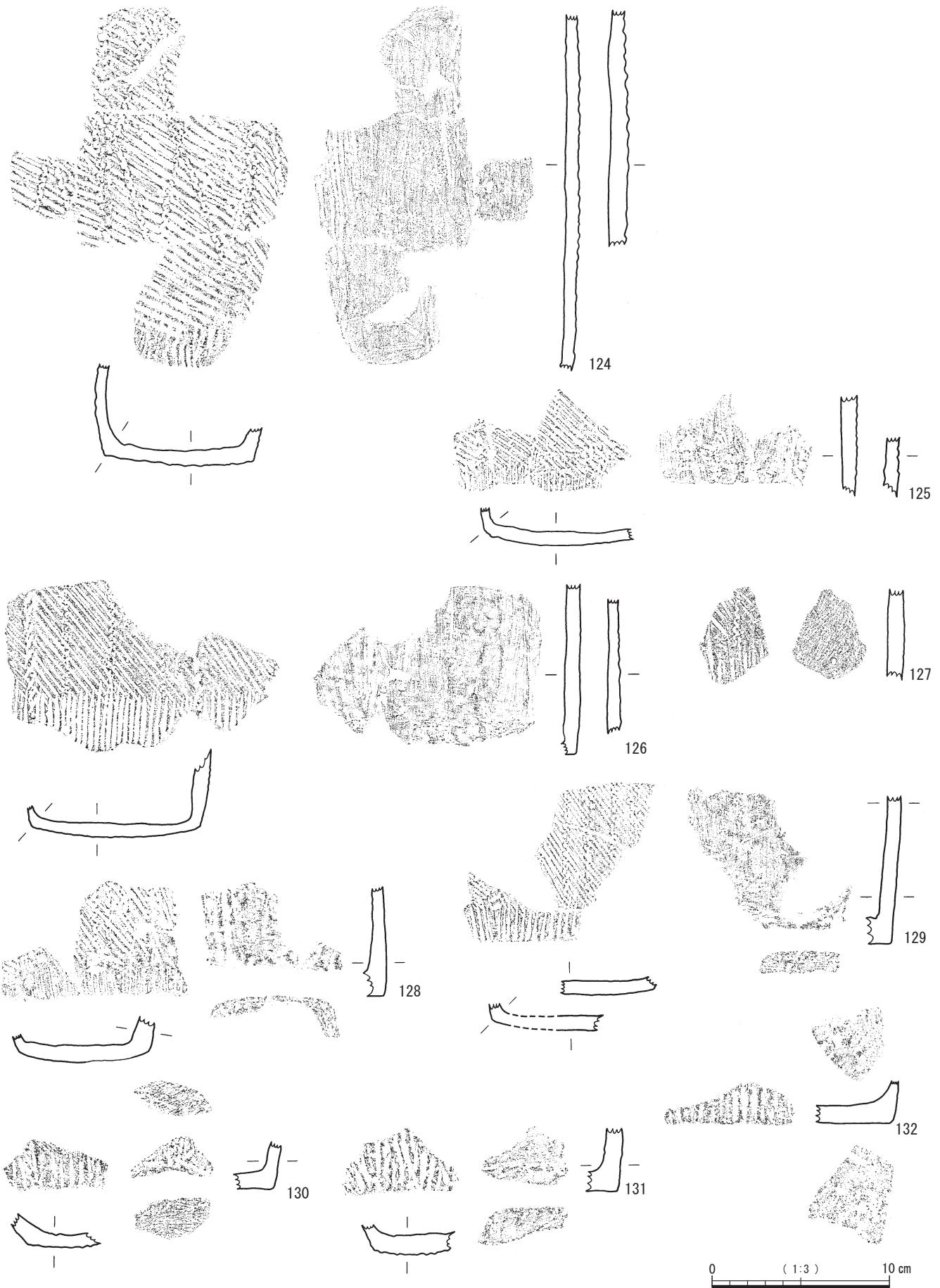




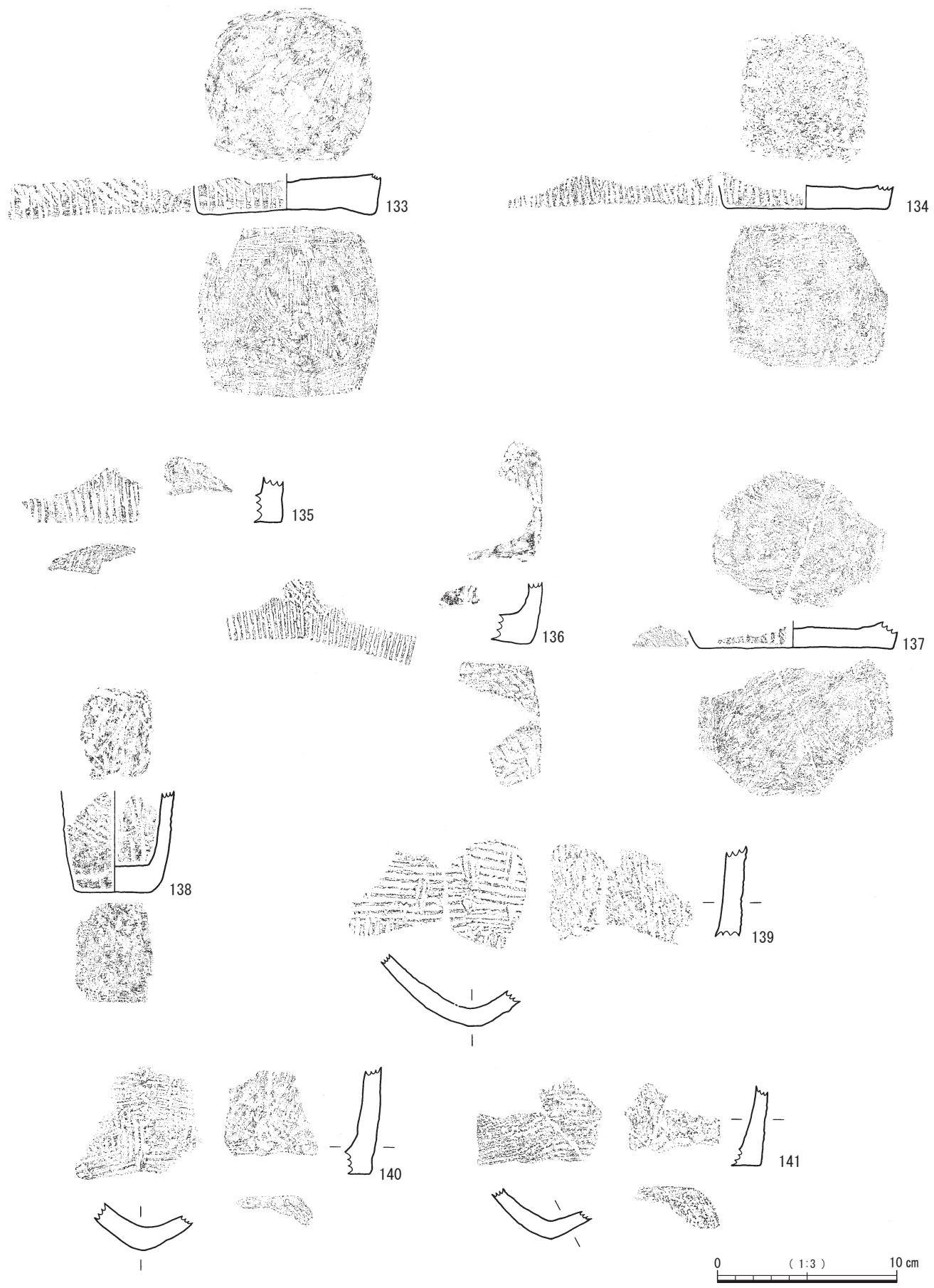
第71図 縄文時代早期土器 7



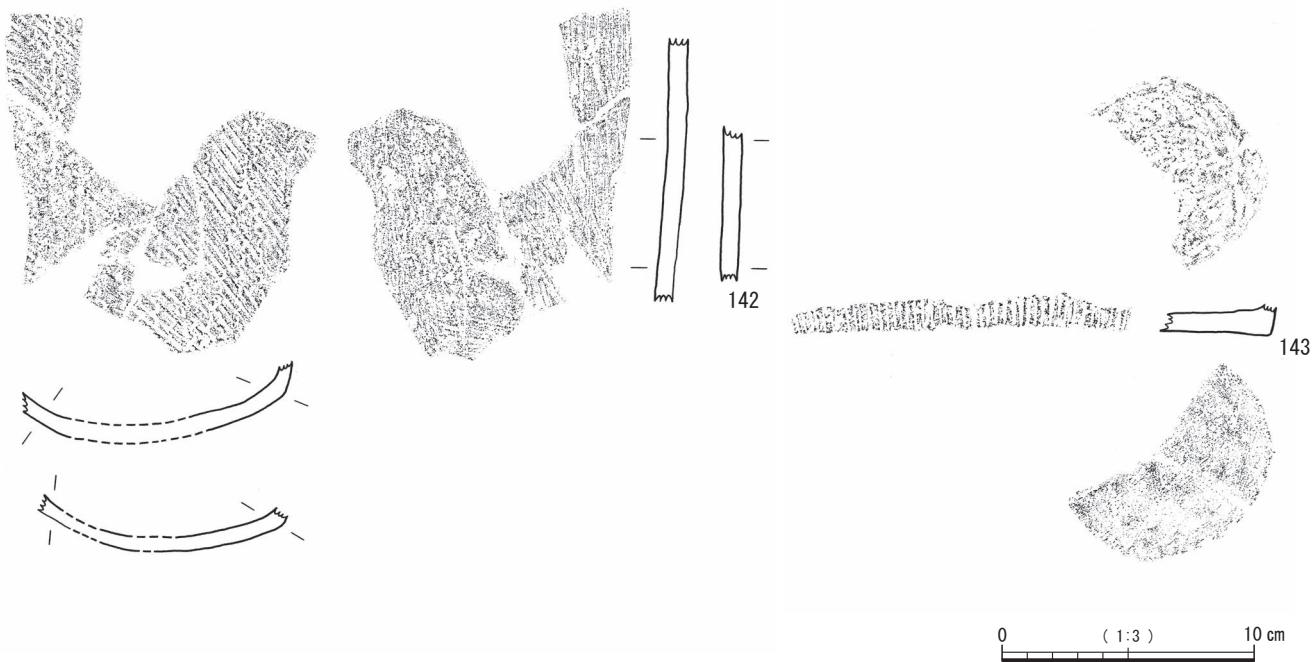
第72図 縄文時代早期土器 8



第73図 縄文時代早期土器 9



第74図 縄文時代早期土器10



第75図 縄文時代早期土器11

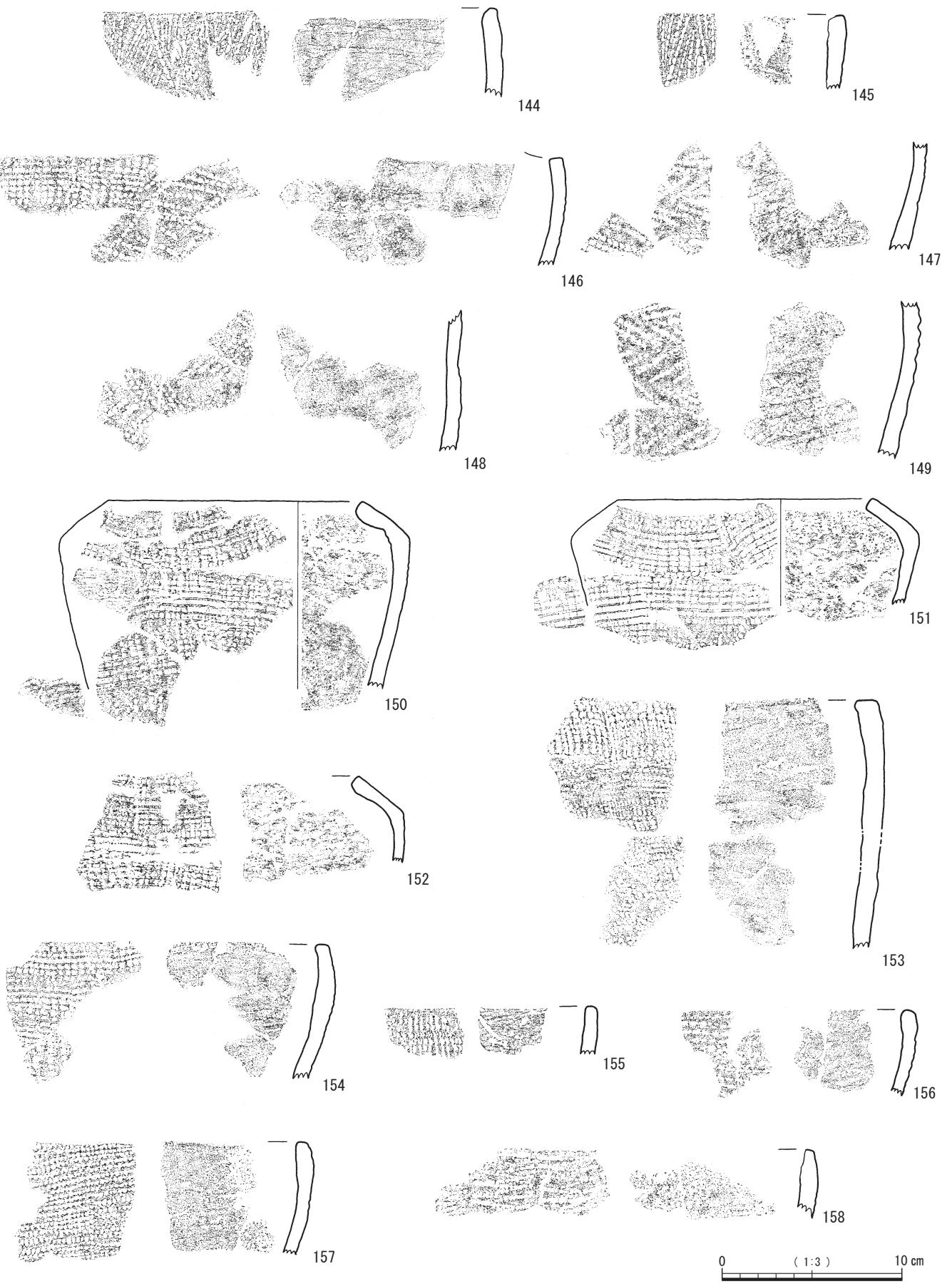
108・109の粘土紐貼付は、角筒形土器の一辺のほぼ中央に貼り付けている。110～127は胴部である。斜位の貝殻条痕と縦位・斜位の貝殻刺突線文を施し、角部には短い貝殻刺突線文もしくは刺突を施す。118のみ貝殻条痕を縦位に施す。角部は直角になるものと、鈍角になるものがあり、鈍角になるものは各辺が緩やかな弧状となる。124～127は胴部下半付近であり、底部境から縦位の貝殻条痕もしくは刻目を施す。128～141は底部である。128～137は底部境から縦位の貝殻条痕もしくは刻目を施し、底面はナデを施す。底面の形状は各辺が弧状を呈するため、角部が鈍角になるものが多い。133の底面は長軸9.9cm、短軸9.6cmを測り、各辺は緩い弧状であるが正方形を呈する。134の底面は長軸9.2cm、短軸8.3cmを測り、各辺が緩い弧状となる長方形を呈する。137は底面の対辺が残存しており、長さが10.8cmを測る。138は小型の底部であり、底面は長軸5.8cm、短軸4.4cmを測り、長方形を呈する。139～141は胴部から底部にかけて貝殻条痕と刺突を施し、角部の角度が緩い。

142・143はレモン形を呈すると考えられる。142は貝殻条痕と貝殻刺突線文を施す胴部であり、横断面は緩い弧状となるが、鈍角の角部をもつ。143は底部境からヘラ状工具で刻目を施し、底面の長さが9cm程度で、一対の角部をもつと考えられる。

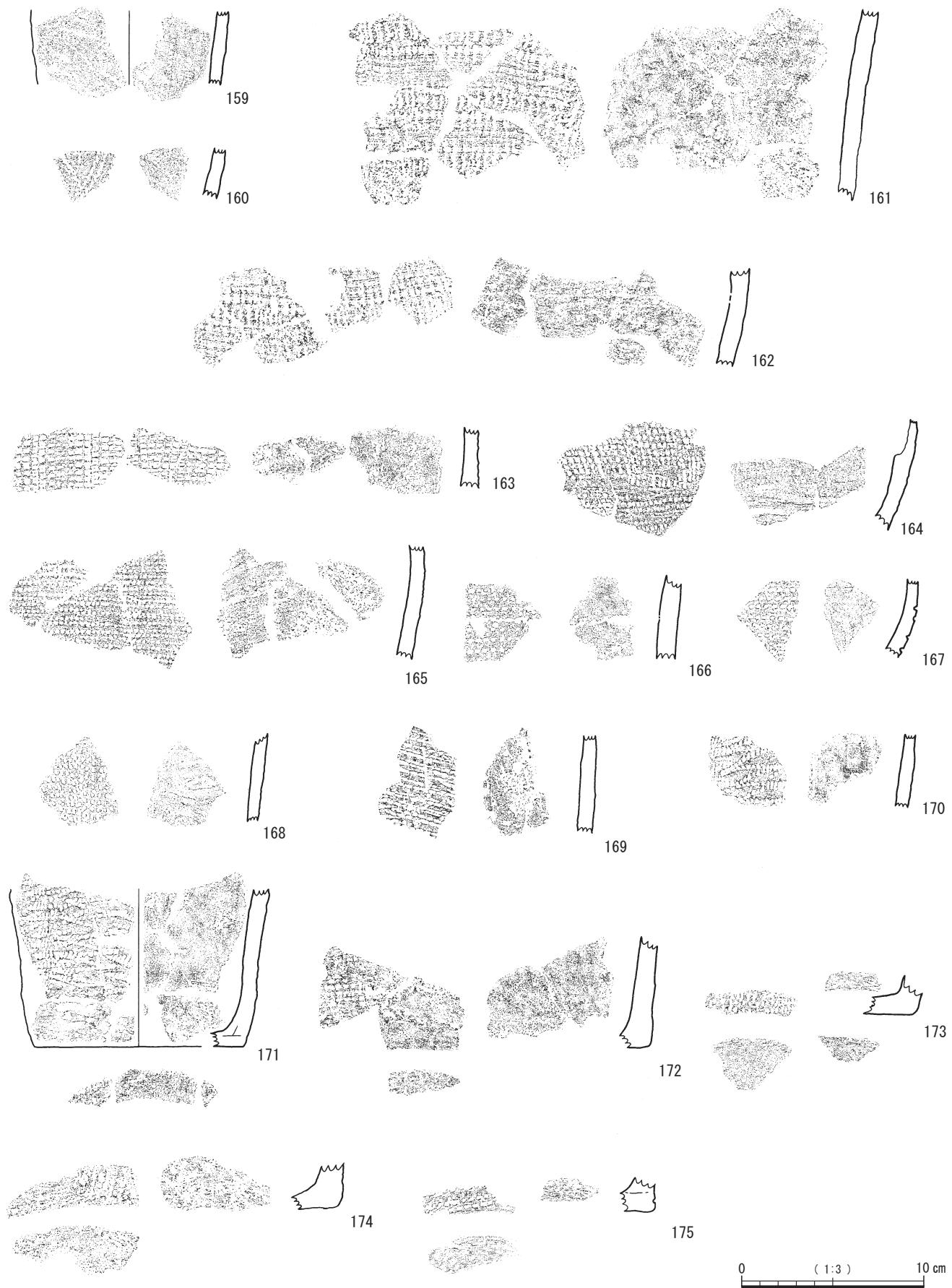
③Ⅲ類土器（第76・77図144～175）

Ⅲ類土器は貝殻刺突文を施し、器面調整はナデを施す土器である。胎土に白色粒子を多く含み、灰黄褐色等の

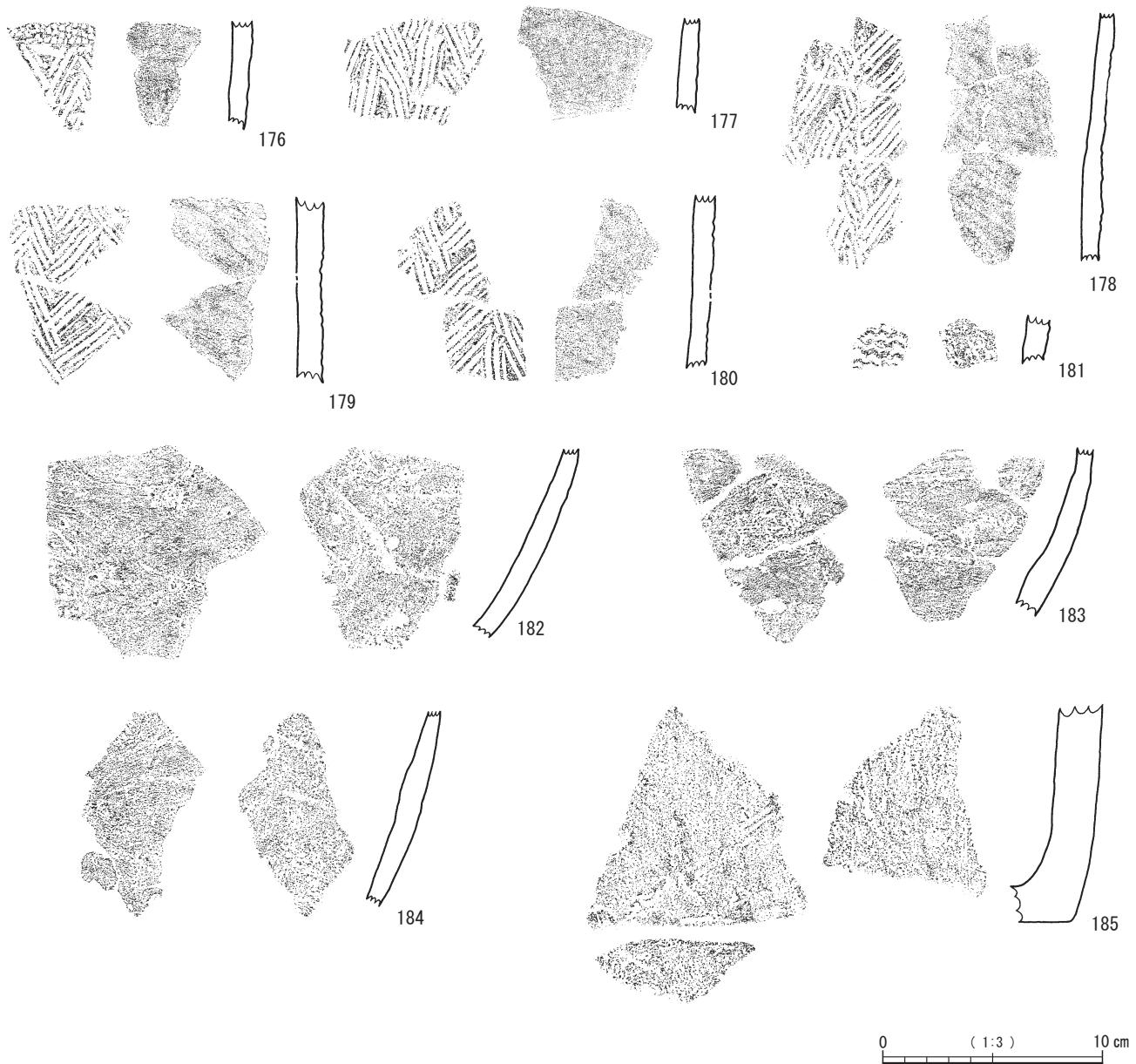
やや暗い色調のものが多い。144～149は口縁部と胴部の2帯に分けて施文するものである。144・145は口唇部に平坦面を作り、直口する口縁部であり、斜位の貝殻刺突で区画した後、縦位や斜位の貝殻刺突を充填する。146は緩やかな波状口縁となり、横位の貝殻刺突と鋸歯状の貝殻刺突を施す。147～149は胴部であり、貝殻刺突を鋸歯状に施す。150～172は口縁部から胴部下半まで1帯で施文するものである。150～152は文様・胎土・焼成等が類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。口唇部に平坦面を作り、口縁部が大きく内傾する。文様は縦位の貝殻刺突を横方向に連続して施す。貝殻刺突が間延びし、押引き状になる箇所もある。内面はケズリ後にナデを施している。153～158は直口もしくはわずかに内湾する口縁部である。口唇部に平坦面を作り出す。153～155は縦位の貝殻刺突を横方向に連続して施す。156～158は横位の貝殻刺突を施し、158は横位の貝殻刺突をロッキングする。159～170は胴部である。159・160は貝殻刺突を鋸歯状に施す。161・162は文様・胎土・焼成等が類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。縦位の貝殻刺突をやや間延びして施すため、押引き状となる。163・164は縦位の貝殻刺突を密に施し、165～167は横位の貝殻刺突を連続して施す。168は刺突の施文方向が一定ではなく、169はやや長めの刺突を斜位に施す。170・171は文様・胎土・焼成等が類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。171は底径11.4cmであり、底部から直線的



第76図 縄文時代早期土器12



第77図 縄文時代早期土器13



第78図 縄文時代早期土器14

に立ち上がり、外面に横位の貝殻刺突をロッキングする。172～175は底部である。底部境付近まで貝殻刺突を施し、内外面及び底面は丁寧なナデを施している。

④IV類土器（第78図176～180）

IV類土器は胴部に条線を施す土器である。176は口唇部が欠損している。口縁部に縦位の刺突を横方向に連続して施し、その下に4または5本1単位の条線を斜位に施す。177～180は3～5本1単位の斜位の条線を交互に施し、鋸歯状となる。内面は丁寧なナデを施している。

⑤V類土器（第78図181）

V類土器は押型文を施す土器である。181は外面に山形押型文を施す。内面はナデを施しており、胎土に金色

の雲母を含む。

⑥VI類土器（第78図182～184）

VI類土器は無文の土器である。182～184は胎土や焼成等が類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。緩やかに開く胴部であり、内外面ともナデを施しており、器壁の厚みが一定ではない。

⑦VII類土器（第78図185）

VII類土器はI～VI類土器に当てはまらないものである。185は無文の底部である。色調はにぶい黄橙色を呈し、器壁の厚みが約2cmと厚く、内外面とも摩滅している。外面にはわずかに条痕が確認できる。

(2) 石器

縄文時代早期の石器は、縄文時代早期の遺物包含層であるVII層を中心出土した（確認調査時のVI層該当）。石器は調査範囲の西側を中心出土し、磨製・打製石鏸や石匙、楔形石器、磨製・打製石斧、磨・敲石が出土した。また、E・F-4区からは黒曜石I類の剥片やチップがブロック状に出土した。縄文時代早期に該当する石器は15点出土し、うち13点を掲載した（第79・81図）。

石材は黒曜石・安山岩・貞岩・チャート・水晶・ホルンフェルス・砂岩等が使用され、黒曜石は下記のとおり分類した。

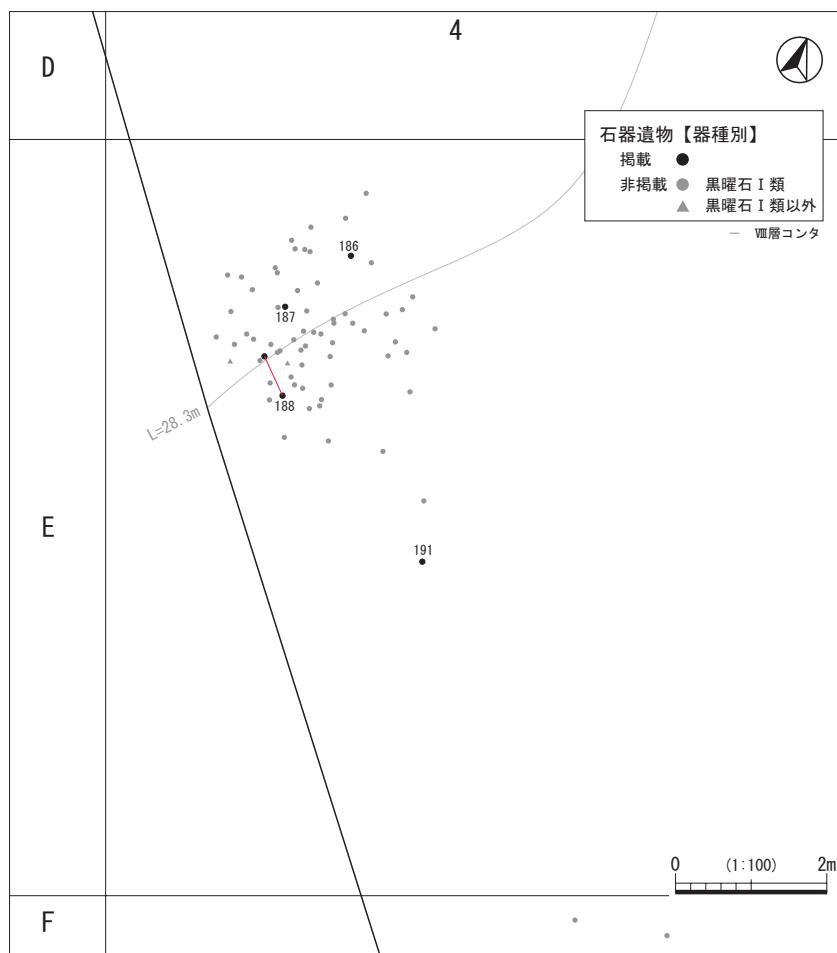
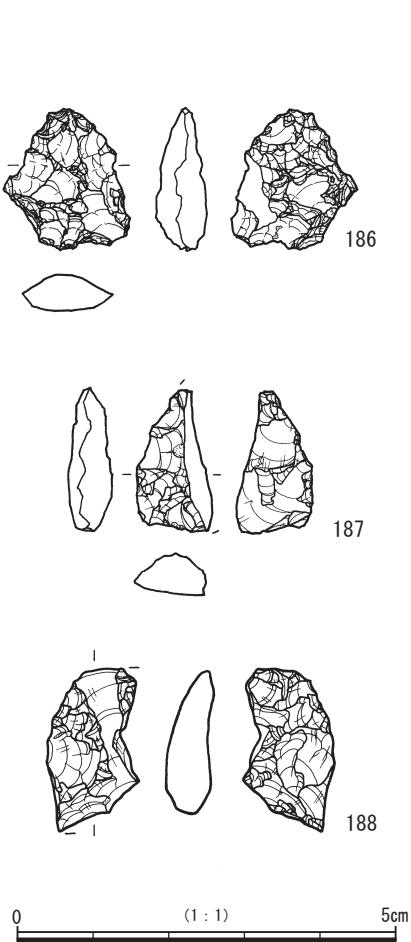
- ・黒曜石I類…不純物を多く含み、漆黒で全く光を通ないもの。上牛鼻産
- ・黒曜石II類…不純物を多く含み、光を通すもの。三船産
- ・黒曜石III類…不純物をほとんど含まず、基質は黒色で強いガラス光沢を持つもの。腰岳産
- ・黒曜石IV類…不純物をほとんど含まず、乳白～灰色を呈し、やや透明感があるもの。姫島産

186～188はE・F-4区の黒曜石I類の剥片やチッ

プが集中する地点から出土した（第79図）。3点とも黒曜石I類製であり、186・187は全体形状が正三角形に近く、やや厚みの残る打製石鏸である。188は楔形石器であり、ブロック内から出土したチップが接合した。チップは上下方向からの加擊を加えた際に取れたものと考えられる。

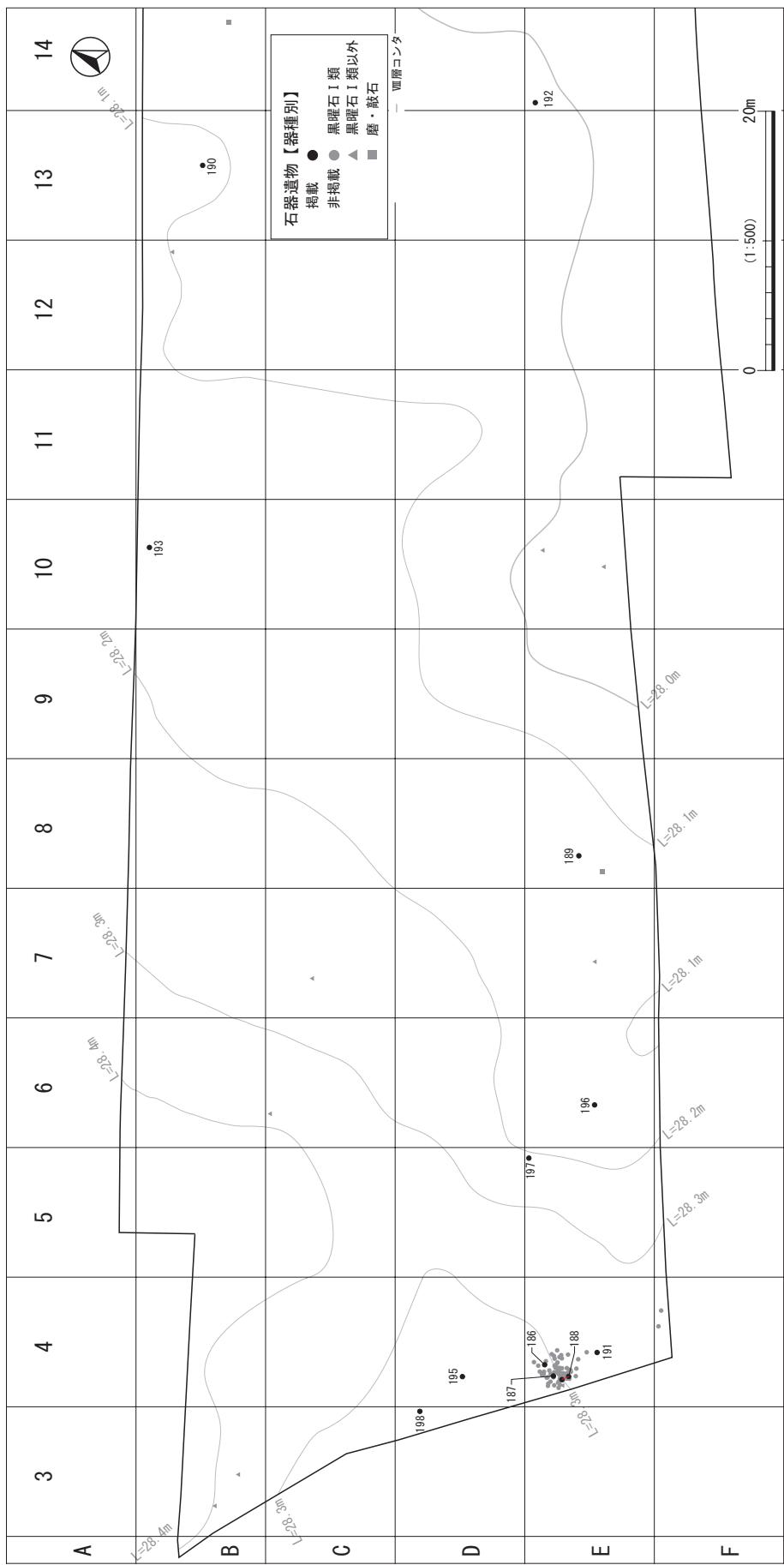
E・F-4区の黒曜石I類のブロックからは剥片やチップが89点出土し、接合を行ったところ、8点の接合資料が得られた。接合資料の観察から、小児頭大から拳大の原石の分割礫を剥片剥離を行い、2～3cm大のやや厚みのある不定形の素材剥片を取り出し、楔形石器等を製作したと考えられる。

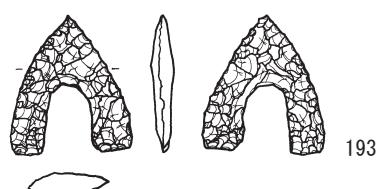
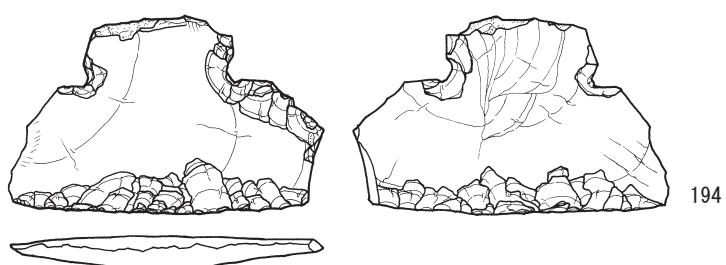
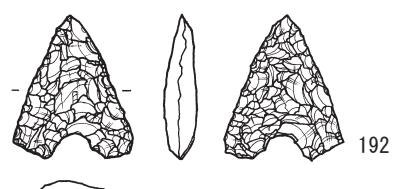
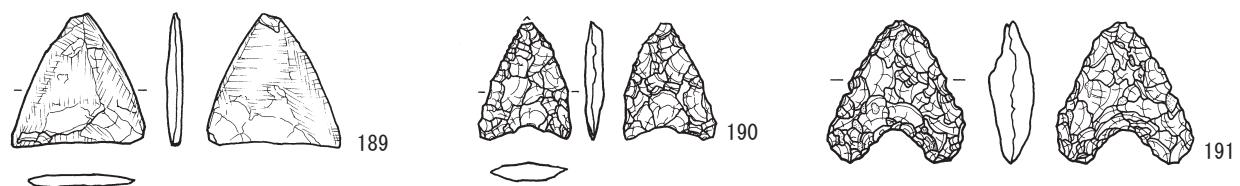
189は貞岩製の磨製石鏸である。先端部は欠損するが、小型の正三角形を呈する。190～193は打製石鏸である。使用する石材は異なるが、基部に抉りを持ち、全体の形状は二等辺三角形を呈する。191は身部に厚みが残り、193は鍬形鏸である。194は安山岩製の石匙であり、刃部は直線的である。195～197はホルンフェルス製の小型の磨製石斧である。全面を研磨しており、195・197の刃部は両凸刃である。198はホルンフェルス製の打製石斧である。基部は欠損し、刃部は両凸刃である。



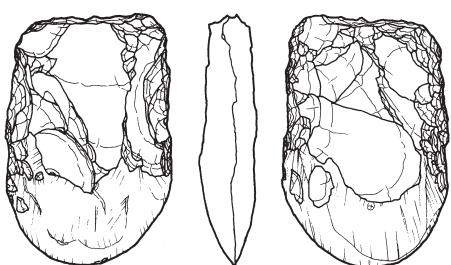
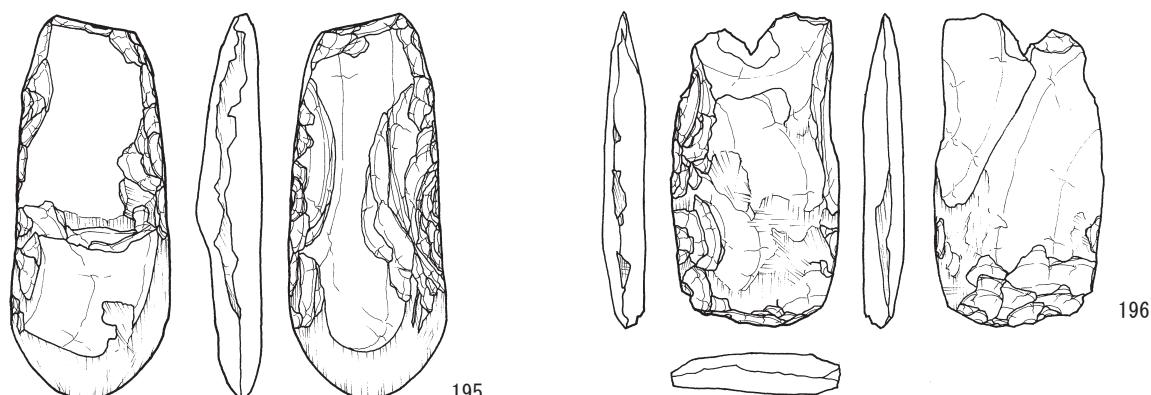
第79図 縄文時代早期石器 1 及び出土状況図

第80図 繩文時代早期石器分布図

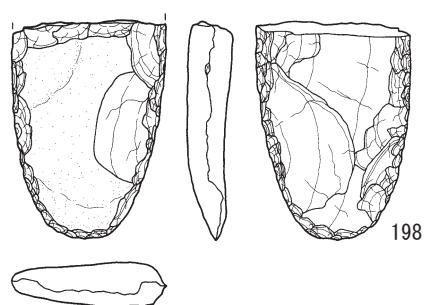




0 (1 : 1) 5cm



0 (4 : 5) 5cm



0 (1 : 2) 5cm

第81図 繩文時代早期石器2

第7表 繩文時代早期土器観察表1

捕獲番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量(cm)			主文様・調整			胎土			色調		出土区	層位	取上番号	備考		
					口径	底径	器高	外面	内面		石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母					
65	39	I	深鉢	口縁～底部	18.8	17.2	32.2	刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ・指おさえ	○ ○ ○						橙色	橙色	E 5	VIII	4286	
	40	I	深鉢	口縁～胴部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						赤褐色	にぶい褐色	B 8	VIII	392・470	
	41	I	深鉢	口縁部				刺突・貝殻条痕	ナデ・ケズリ	○ ○ ○						にぶい黄褐色	にぶい橙色	D 4	VIII	2572	
	42	I	深鉢	口縁部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						明赤褐色	明赤褐色	E 6	VIII	3927・4221	
																		E 6	VIII	2849・4166	
66	43	I	深鉢	口縁部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						明赤褐色	橙色	E 5	VIII	3845	
	44	I	深鉢	口縁部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						橙色	にぶい橙色	C 3	VIII	3260・一括	
	45	I	深鉢	口縁部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						橙色	にぶい橙色	D 3	VIII	2573	
	46	I	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						橙色	橙色	C 4	VIII	3189	
	47	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○ ○						橙色	橙色	D 4	VIII	3162	
	48	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						橙色	橙色	E 4	VIII	2588・2996	
	49	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						赤褐色	赤褐色	E 4	VIII	3081・3088	
	50	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						橙色	橙色	D 4	VIII	3164	
	51	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい赤褐色	明赤褐色	E 7	VIII	3985	
	52	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○ ○						明赤褐色	赤褐色	E 8	VIII	4079・4080	
	53	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	B 8	VIII	336	
	54	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						明赤褐色	明赤褐色	B 11	VIII	198	
																		C 4	VIII	3248	
67	55	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい橙色	にぶい黄橙色	B 11	VIII	193	
	56	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	D 4	VIII	3216	
	57	I	深鉢	胴部				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○ ○						赤褐色	明赤褐色	E 9	VIII	4757	
	58	I	深鉢	胴～底部付近				貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						明赤褐色	橙色	D 4	VIII	3339	
	59	I	深鉢	胴～底部	14.8			貝殻条痕	ナデ	○ ○ ○						明赤褐色	明赤褐色	B 3	VIII	3354	
	60	I	深鉢	胴～底部	14			貝殻条痕	ナデ	○ ○ ○						明赤褐色	赤褐色	E 7	VIII	2607・2620・3807・3986・4207	
	61	I	深鉢	底部	13			貝殻条痕	ナデ	○ ○ ○						橙色	明赤褐色	E 6	VIII	4176	
	62	I	深鉢	底部				貝殻条痕	ナデ	○ ○ ○						明赤褐色	赤褐色	B 3	VIII	3270	
	63	I	深鉢	底部				貝殻条痕	ナデ	○ ○ ○						にぶい赤褐色	褐色	E 4	VIII	2438	
	64	I	深鉢	底部				貝殻条痕	ナデ	○ ○ ○ ○						明赤褐色	明赤褐色	C 4	VIII	3314	
	65	I	深鉢	底部				ナデ	ナデ	○ ○ ○						赤褐色	赤褐色	B 3	VIII	3272	
68	66	II	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						明赤褐色	明赤褐色	D 6	VIII	4225・4226・4233	
	67	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						明赤褐色	明赤褐色	E 4	VIII	2293	
	68	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい橙色	にぶい赤褐色	D 4	VIII	3221	
	69	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ナデ	○ ○ ○						にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	C 4	VIII	3380	
	70	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						明赤褐色	赤褐色	E 7	VIII	3514	
	71	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい黄褐色	橙色	E 8	VIII	3548	
	72	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	E 6	VIII	2888	
	73	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい橙色	にぶい橙色	-	-	-	搅乱一括
	74	II	深鉢	口縁～胴部	14.4			貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい赤褐色	にぶい褐色	E 4	VIII	2226・2827・3116・3400	
	75	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい赤褐色	にぶい褐色	E 5	VIII	4301	
	76	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						赤褐色	赤褐色	E 7	VIII	4187	
																		E 4	VIII	3080・3115	
	77	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						明赤褐色	にぶい赤褐色	C 7	VIII	4429・4442・4443	
	78	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						明赤褐色	赤褐色	E 6	VIII	3933・4167	
	79	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい褐色	褐色	C 3	VIII	3254	
	80	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						赤褐色	にぶい褐色	B 3	VIII	2606	
	81	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○ ○ ○						明赤褐色	明赤褐色	C 5	VIII	4505・4511	
	82	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						橙色	橙色	C 7	VIII	4435	
	83	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい橙色	にぶい褐色	D 4	IXa	3327	
69	84	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい赤褐色	明赤褐色	E 5	VIII	3825	
	85	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい褐色	にぶい褐色	C 4	VIII	3232	
	86	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい赤褐色	明赤褐色	E 6	VIII	4180	
	87	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						にぶい橙色	にぶい橙色	D 6	VIII	2900・3914	
	88	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○								E 4	VIII	3574	
																	E 5	VIII	2842・3883・一括		
																	E 6	VIII	2884・4491		
																	E 7	VIII	4004・4188・4198		
	89	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						橙色	にぶい橙色	E 4	VIII	3136	
	90	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○ ○ ○						にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	C 4	VIII	2739・2741	
																	C 4	VIII	4435		
																	D 4	VIII	3383		
	91	II	深鉢	胴部				刺突・貝殻条痕	ケズリ	○ ○ ○						明赤褐色	明赤褐色	E 4	VIII	2136・2183	
	92	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ	○ ○ ○						赤褐色	にぶい赤褐色	B 3	VIII	3269	
	93	II	深鉢	胴～底部				貝殻条痕	ナデ	○ ○ ○ ○						暗褐色	にぶい黄褐色	C 4	VIII	2750	

第8表 繩文時代早期土器観察表2

捕獲番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量(cm)			主文様・調整			胎土			色調		出土区	層位	取上番号	備考			
					口径	底径	器高	外面	内面		石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母	外面	内面				
69	94	II	深鉢	胴～底部	11.2			貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○	○				にぶい赤褐色	赤褐色	B 3	VIII	2638	
	95	II	深鉢	胴～底部		9.4		貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	E 6	VIII	4173	
	96	II	深鉢	底部				貝殻条痕	ナデ		○	○	○				橙色	橙色	C 4	VIII	3609	
70	97	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				褐色	にぶい赤褐色	B 3	VIII	3282	
	98	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				褐色	褐色	E 8	VIII	4038	
	99	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○					にぶい褐色	にぶい褐色	B 3	VIII	一括	
	100	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				橙色	にぶい橙色	E 8	VIII	3547	
	101	II	深鉢	口縁～底部		26.1		貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	E 7	VIII	3823	
													にぶい赤褐色				E 8	VIII	4019・4020			
71	102	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				橙色	橙色	B 8	VIII	1616	補修孔
	103	II	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				にぶい赤褐色	明赤褐色	E 4	VIII	2955・3632	
	104	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				にぶい橙色	橙色	- -	VIII	一括	
	105	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	D 4	VIII	2505	
	106	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				橙色	明赤褐色	E 4	VIII	2357	
	107	II	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ケズリ		○	○	○				暗赤褐色	褐色	F 4	VIII	3071	
	108	II	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕・粘土紐貼付	ケズリ		○	○					にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	E 4	VIII	2286・2341・3120・3346	
	109	II	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突・貝殻条痕・粘土紐貼付	ケズリ		○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	B 8	VIII	827	
	110	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				明赤褐色	にぶい褐色	D 7	VIII	4213	
																	明赤褐色	にぶい褐色	E 4	VIII	2201・2392・3133	
																	橙色	橙色	C 4	VIII	4212	
72	111	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	D 8	VIII	3611・3613	
	112	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				浅黃橙色	にぶい橙色	E 8	VIII	4098	
	113	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	E 4	VIII	4096	
	114	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	C 4	VIII	2410・2477	
	115	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○	○				にぶい赤褐色	暗赤褐色	E 5	VIII	3315	
	116	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○						褐灰色	褐灰色	B 6	VIII	3829	
	117	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				にぶい褐色	にぶい褐色	B 6	VIII	1337・1342	
	118	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○					橙色	橙色	B 7	VIII	1333	
	119	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				にぶい褐色	橙色	E 5	VIII	2908・3503	
	120	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				橙色	橙色	C 7	VIII	3451	
	121	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				明赤褐色	明赤褐色	E 7	VIII	4457・4459	
	122	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				にぶい褐色	にぶい褐色	E 6	VIII	3820・3994	
73	123	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				にぶい橙色	橙色	E 6	VIII	2874	
	124	II	深鉢	胴～底付近				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				橙色	橙色	B 4	VIII	3131	
	125	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○	○				にぶい褐色	にぶい橙色	C 4	VIII	3302	
	126	II	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○					橙色	にぶい黄橙色	E 5	VIII	4436・4438・4452	
	127	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				にぶい赤褐色	赤褐色	C 7	VIII	3834	
	128	II	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○					橙色	にぶい褐色	E 4	VIII	4412	
	129	II	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○	○				明赤褐色	赤褐色	E 4	VIII	4451	
	130	II	深鉢	胴～底部				貝殻条痕・キザミ	ケズリ・ナデ		○	○	○				にぶい橙色	橙色	E 6	VIII	3131・3133	
	131	II	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○	○				にぶい赤褐色	にぶい橙色	E 4	VIII	2886	
	132	II	深鉢	底部				貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	E 4	VIII	3687	
	133	II	深鉢	底部				貝殻条痕・キザミ	ケズリ・ナデ		○	○	○				にぶい橙色	にぶい橙色	D 7	VIII	4007	
	134	II	深鉢	底部				貝殻条痕	ナデ		○	○	○				明赤褐色	橙色	D 4	VIII	2577	
	135	II	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○					にぶい橙色	にぶい橙色	E 7	VIII	2905	
	136	II	深鉢	底部				貝殻刺突・貝殻条痕・キザミ	ケズリ・ナデ		○	○	○				にぶい褐色	橙色	C 7	VIII	4432・4450	
	137	II	深鉢	底部				条痕	ナデ		○	○	○				赤褐色	明赤褐色	D 8	VIII	4099	
	138	II	深鉢	胴～底部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ・ナデ		○	○	○				にぶい黄橙色	にぶい橙色	C 4	VIII	4101	
	139	II	深鉢	胴部				貝殻条痕・刺突	ケズリ		○	○	○				にぶい褐色	明赤褐色	E 4	VIII	3604	
	140	II	深鉢	胴～底部				貝殻条痕・刺突	ケズリ・ナデ		○	○	○				明赤褐色	褐色	B 3	VIII	4138	
	141	II	深鉢	胴～底部				貝殻条痕・刺突	ケズリ・ナデ		○	○	○				にぶい褐色	にぶい橙色	E 8	VIII	2113・3000	
75	142	II	深鉢	胴部				貝殻刺突・貝殻条痕	ケズリ		○	○	○				にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	E 4	VIII	2636	
	143	II	深鉢	底部				キザミ	ナデ		○	○	○				にぶい橙色	にぶい赤褐色	E 4	VIII	3535・4037	
																	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	E			

第9表 繩文時代早期土器観察表3

捕団番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量(cm)			主文様・調整			胎土			色調		出土区	層位	取上番号	備考
					口径	底径	器高	外面	内面		石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母			
76	149	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						灰黄褐色	灰黄褐色	C 4 VIII	3371・3372・一括
	150	III	深鉢	口縁～胴部	14.2			貝殻刺突	ナデ・ケズリ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい黄褐色	灰黄褐色	E 4 VIII	1300・一括
	151	III	深鉢	口縁～胴部	14.2			貝殻刺突	ナデ・ケズリ	○ ○ ○ ○ ○						灰黄褐色	灰黄褐色	E 5 VIII	4102
	152	III	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突	ナデ・ケズリ	○ ○ ○ ○ ○						灰黄褐色	灰黄褐色	E 4 VIII	3128・3129・3323
	153	III	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						灰黄褐色	灰黄褐色	D 5 VIII	3780・4269
	154	III	深鉢	口縁～胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	B 8 VIII	992
	155	III	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい赤褐色	にぶい褐色	B 14 VIII	70
	156	III	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						○ にぶい黄褐色	灰黄褐色	B 14 VIII	23・253
	157	III	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						○ にぶい褐色	にぶい褐色	E 4 VIII	2244～2246
	158	III	深鉢	口縁部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						灰黄褐色	褐灰色	B 8 VIII	342・346
77	159	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい橙色	褐灰色	E 5 VIII	3416・3867・3868
	160	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい橙色	灰褐色	E 5 VIII	3408
	161	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい褐色	褐色	E 4 VIII	2322・2958・3121・3123・3127・一括
	162	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	E 4 VIII	2390・2956・3122・一括
	163	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						○ にぶい褐色	灰褐色	B 6 VIII	854・862・882・1348
	164	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい橙色	灰黄褐色	E 7 VIII	3993・4189
	165	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						○ にぶい褐色	灰褐色	E 4 VIII	2959
	166	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						明赤褐色	にぶい赤褐色	E 4 VIII	2232・2242
	167	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい赤褐色	にぶい橙色	E 6 VIII	3932
	168	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい赤褐色	にぶい褐色	E 4 VIII	2223
	169	III	深鉢	胴部				刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい黄橙色	褐灰色	D 12 VIII	929
	170	III	深鉢	胴部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						○ にぶい黄橙色	灰黄褐色	B 8 VIII	1180
	171	III	深鉢	胴～底部	11.4			貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい橙色	にぶい褐色	B 6 VIII	857
	172	III	深鉢	胴～底部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						灰黄褐色	褐灰色	E 5 VIII	3435・3832
	173	III	深鉢	底部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい赤褐色	にぶい褐色	C 4 VIII	2765
	174	III	深鉢	底部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい黄褐色	褐灰色	B 8 VIII	475
	175	III	深鉢	底部				貝殻刺突	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						橙色	にぶい橙色	E 4 VIII	2594
78	176	IV	深鉢	胴部				貝殻刺突・条線	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						橙色	にぶい橙色	E 6 VIII	3939
	177	IV	深鉢	胴部				条線	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい黄褐色	褐灰色	E 6 VIII	3480
	178	IV	深鉢	胴部				条線	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい赤褐色	にぶい黄褐色	D 6 VIII	3920
	179	IV	深鉢	胴部				条線	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						○ にぶい赤褐色	にぶい褐色	E 6 VIII	3962・3963・4353・一括
	180	IV	深鉢	胴部				条線	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい褐色	にぶい橙色	E 6 VIII	3940・3941
	181	V	深鉢	胴部				山形押型文	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						○ にぶい橙色	にぶい褐色	D 14 VIII	1520
	182	VI	深鉢	胴部				ナデ	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						浅黄橙色	浅黄橙色	C 4 VIII	2112
	183	VI	深鉢	胴部				ナデ	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						灰白色	にぶい黄橙色	C 4 VIII	3305・3606・一括
	184	VI	深鉢	胴部				ナデ	ナデ	○ ○ ○ ○ ○						浅黄橙色	浅黄橙色	C 4 VIII	2675
	185	VII	深鉢	胴～底部				条痕・ナデ	ケズリ・ナデ	○ ○ ○ ○ ○						にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	B 13 VIII	141

第10表 繩文時代早期石器観察表

捕団番号	掲載番号	実測番号	器種	石材	出土区	層位	法量(cm)			重さ(g)	取上番号	備考
							最大長	最大幅	最大厚			
79	186	S3	打製石鎌	黒曜石I類	E-4	VIII	1.9	1.65	0.65	1.73	2479	
	187	S8	打製石鎌	黒曜石I類	E-4	VIII	1.85	1	0.6	0.9	2491	
	188	S7	楔形石器	黒曜石I類	E-4	VIII	2.15	1.2	0.6	1.58	2448・2451	
81	189	S1	磨製石鎌	貞岩	E-8	VIII	1.8	1.75	0.2	0.57	4021	
	190	S2	打製石鎌	チャート	B-13	VIII	1.55	1.2	0.25	0.42	1	
	191	S4	打製石鎌	安山岩	E-4	VIII	1.9	1.8	0.6	1.26	2131	
	192	S5	打製石鎌	水晶	E-14	VIII	1.9	1.6	0.45	1.05	17T一括	
	193	S6	打製石鎌	チャート	B-10	VIII	1.8	1.6	0.3	0.53	204	
	194	S9	石匙	安山岩	E-4	VI	2.6	4.2	0.5	5.2	1T一括	
	195	S10	磨製石斧	ホルンフェルス	D-4	VIII	6.3	2.6	1.1	21.6	2557	
	196	S11	磨製石斧	ホルンフェルス	E-6	VIII	5.2	2.8	0.7	12.9	3947	
	197	S12	磨製石斧	ホルンフェルス	E-5	VIII	4.15	2.75	0.95	14.6	3747	
	198	S13	打製石斧	ホルンフェルス	D-3	VIII	5.75	4.1	1.2	36.7	2574	

第2節 縄文時代中期以降の調査

1 調査の概要

本遺跡では、確認調査の段階で縄文時代早期の遺物包含層のみ確認されていたが、周辺の遺跡で古代や中世の遺構・遺物が発見されていたため、重機で表土を除去後、人力による掘り下げを慎重に進めた。

調査の結果、縄文時代中期及び古代の遺物が、調査区の北西部にあたるB・C-3・4区のII～IV層より出土したが、II～IV層から遺構は検出しなかった。

2 遺物

縄文時代中期以降の遺物は土器・石器・須恵器が出土した。土器は器形・文様・器面調整等から下記のように分類した。また、石器は磨製石斧1点のみ出土した。その他にB-3区のIII・IV層から黒曜石II類のチップが出土した。

VII類土器

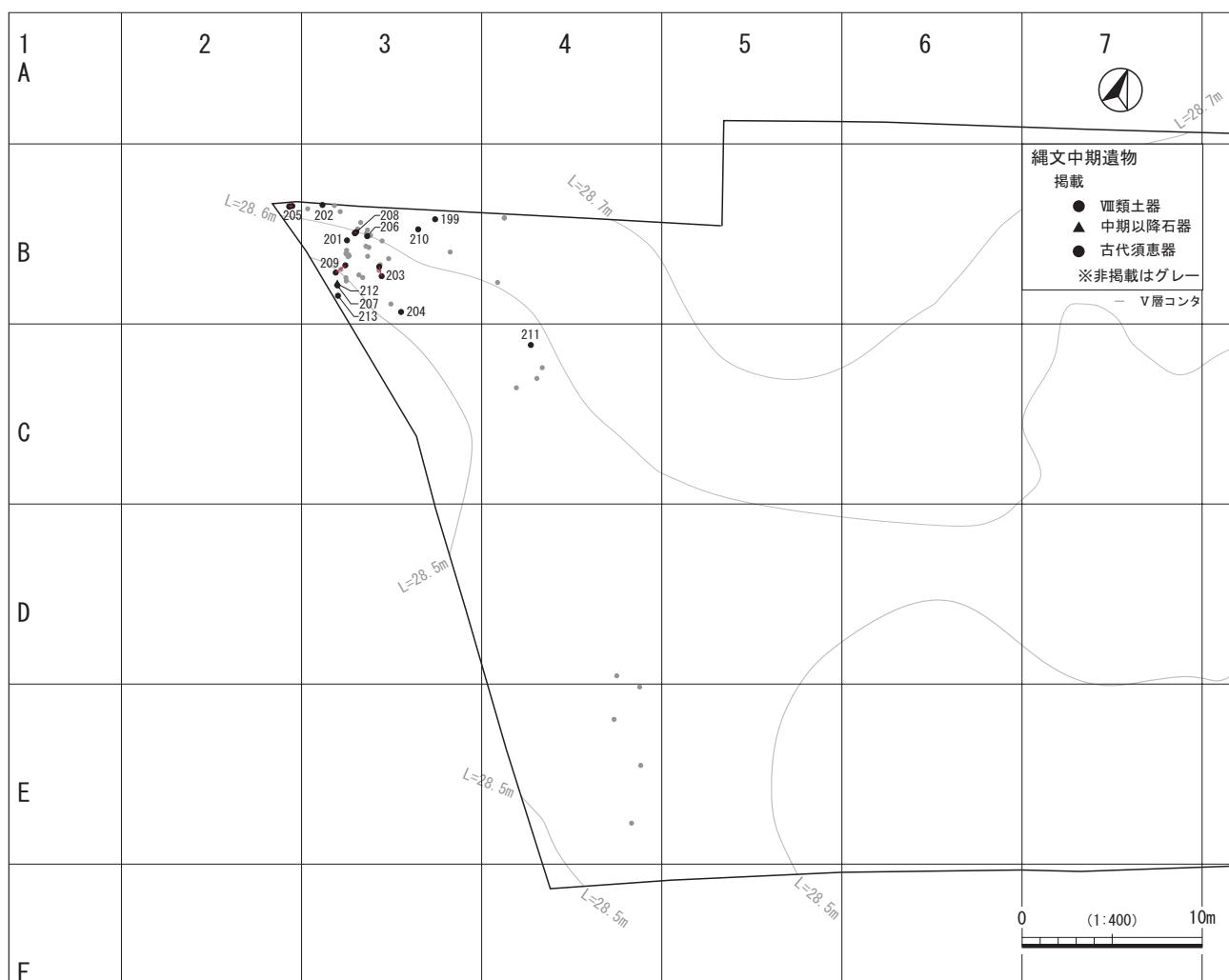
器形は口縁部端部のみ内湾するものと、直口するもの

があり、頸部でくびれ、やや張りのある胴部に至る。底部は平底である。文様は口縁部及び口唇部にのみ施され、太めの突帯や沈線、刺突を施す。器面調整は内外面とも貝殻条痕調整後、ナデを施している。

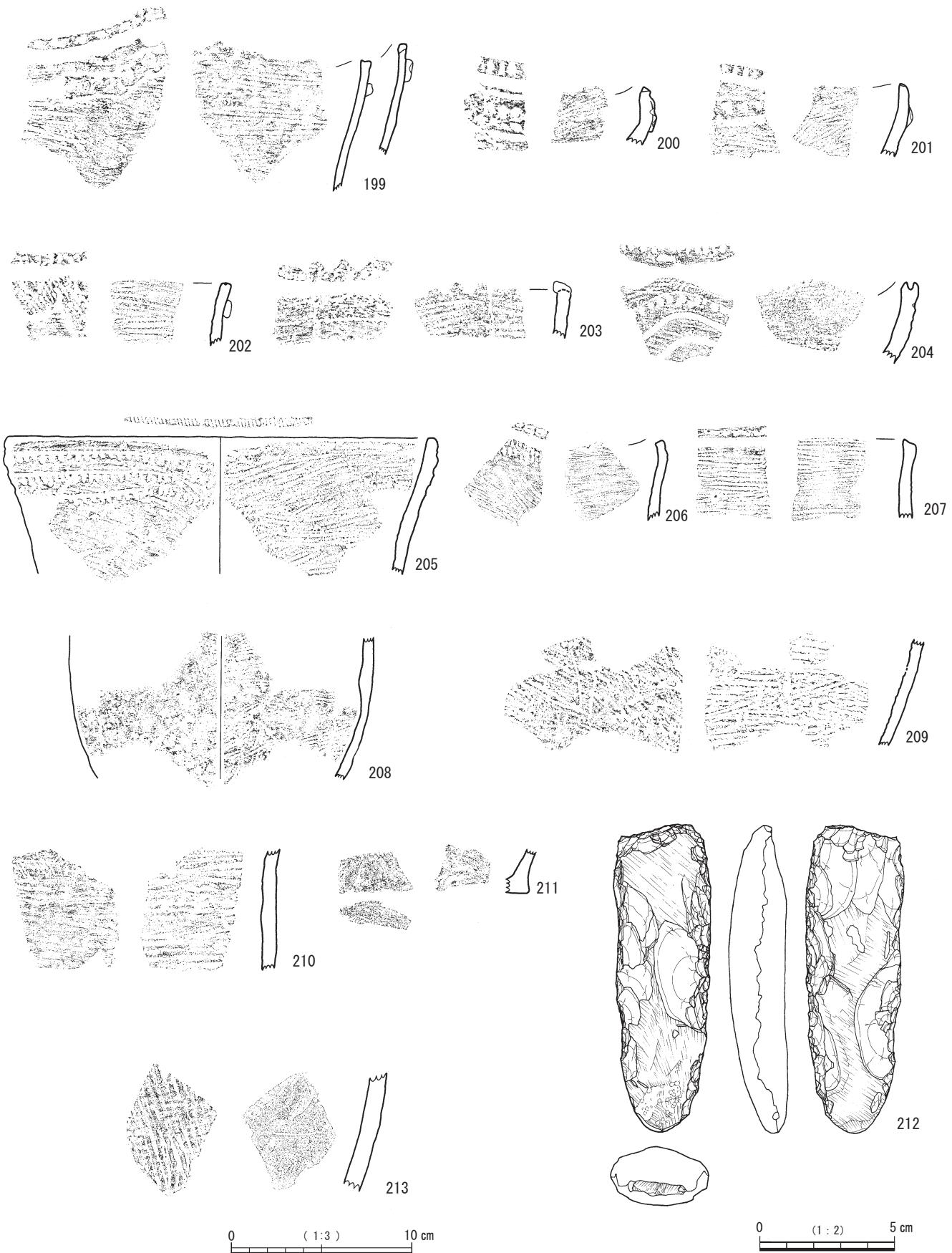
199～201は波状口縁を呈し、口縁部に太い突帯を貼り付け、突帯及び口唇部には刺突を施す。202・203は口縁部が直口し、突帯を波状に貼り付け、貝殻で施す。203は口縁部に横位の貝殻刺突線文を施す。204・205は沈線上に刺突を施す。206・207は文様を口縁部上端及び口唇部のみに施す。208～210は胴部であり、貝殻条痕調整後ナデを施している。211は底面境付近が張り出す底部である。

212はホルンフェルス製の磨製石斧である。棒状を呈し、基部は欠損するが、全面に研磨が施され、刃部は丸みを帯びる。

213のみ古代の遺物である。213はB-3区のII層から出土した須恵器の甕の胴部である。外面に条痕タタキ痕が残り、内面は同心円当て具痕をナデ消している。



第82図 縄文時代中期以降の遺物出土状況図



第83図 縄文時代中期以降の遺物

第11表 繩文時代中期土器観察表

捕団番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量(cm)			主文様・調整			胎土			色調			出土区	層位	取上番号	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面		石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母	外面	内面			
83	199	VIII	深鉢	口縁部				太い突帯	貝殻条痕→ナデ		○ ○					灰黄褐色	にぶい黄褐色	B 3	III	2005	
	200	VIII	深鉢	口縁部				凹線・刻目突帯	貝殻条痕→ナデ		○ ○					灰黄褐色	褐色	- -	I	一括	
	201	VIII	深鉢	口縁部				刻目突帯	貝殻条痕→ナデ		○ ○					にぶい橙色	灰黄褐色	B 3	III	2023	
	202	VIII	深鉢	口縁部				太い突帯	貝殻条痕→ナデ		○ ○					にぶい橙色	にぶい褐色	B 3	III	2034	
	203	VIII	深鉢	口縁部				貝殻刺突・突帯	貝殻条痕→ナデ		○ ○					灰黄褐色	灰黄褐色	B 3	III	2053・2055	
	204	VIII	深鉢	口縁部				凹線・刺突	貝殻条痕→ナデ		○ ○ ○					にぶい橙色	にぶい褐色	B 3	III	2065	
	205	VIII	深鉢	口縁～胴部	23.8			沈線・刺突	貝殻条痕→ナデ		○ ○ ○ ○					灰褐色	褐色	B 2	III	2037	
	206	VIII	深鉢	口縁部				刺突	貝殻条痕→ナデ		○ ○					黒褐色	黒色	B 3	III	2012	
	207	VIII	深鉢	口縁部				貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○ ○ ○					にぶい褐色	灰黄褐色	B 3	III	2060	
	208	VIII	深鉢	胴部				貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○ ○ ○					灰褐色	灰褐色	B 3	III	2020～2022・一括	
	209	VIII	深鉢	胴部				貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○					にぶい赤褐色	灰褐色	B 3	III	2039・2041・一括	
	210	VIII	深鉢	胴部				貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ		○ ○					灰黄褐色	灰黄褐色	B 3	III	2001	補修孔
	211	VIII	深鉢	底部				ナデ	ナデ		○ ○					橙色	にぶい橙色	C 4	III	2068	

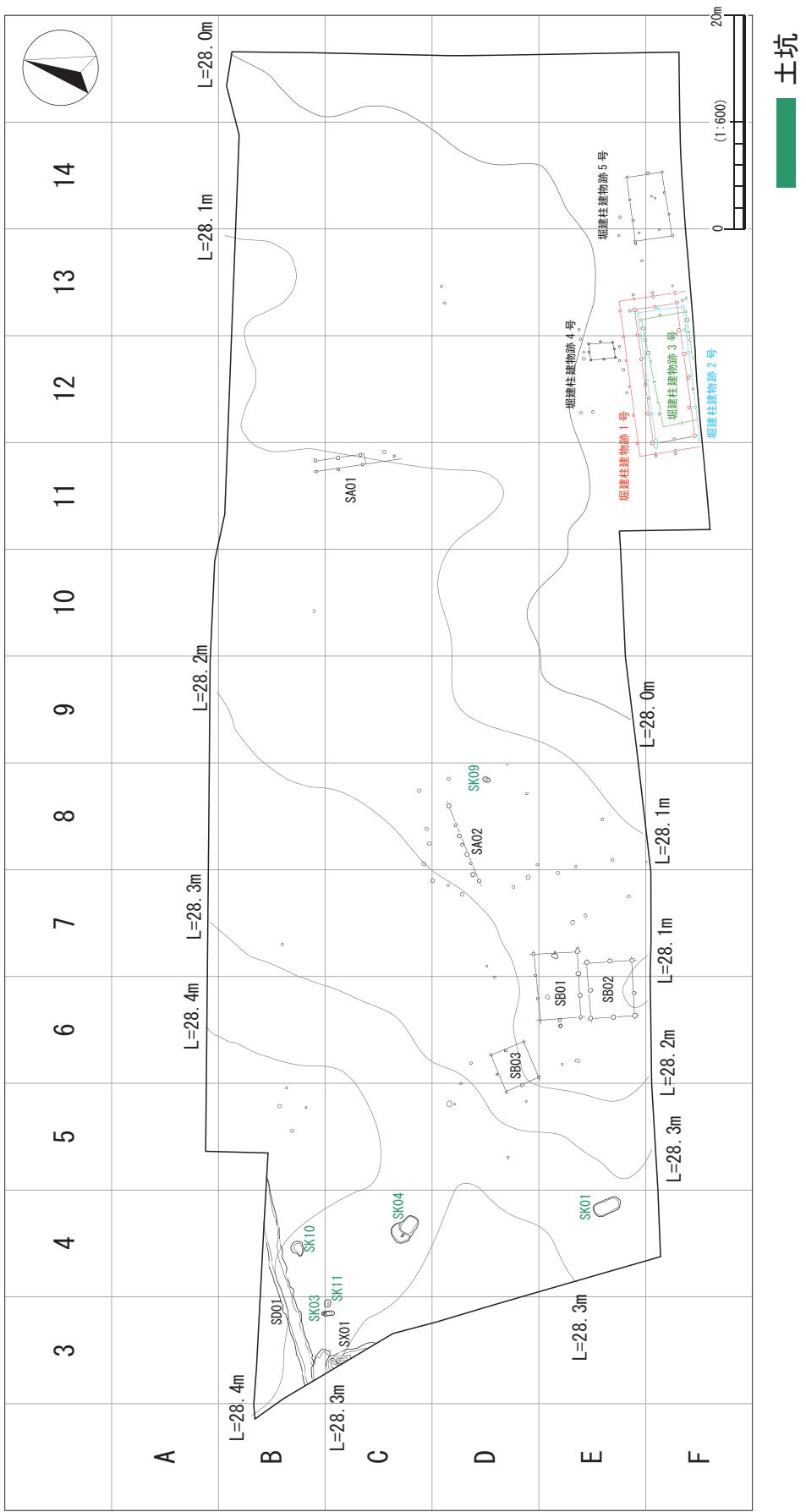
第12表 古代出土遺物観察表

捕団番号	掲載番号	種別	器種	法量(cm)			色調			調整			出土区	層位	取上番号	備考
				口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面					
83	213	須恵器	壺				灰色	灰白色	条痕タタキ	同心円当て具・ナデ		B 3	II a	2062		

第13表 繩文時代中期以降石器観察表

捕団番号	掲載番号	器種			石材	出土区	層位	法量(cm)			重さ(g)	取上番号	備考
								最大長	最大幅	最大厚			
83	212	磨製石斧			ホルンフェルス	B-3	III	11.4	3.6	2.2	118	2061	

第84図 中世の遺構配置図



第3節 中世の調査

1 調査の概要

中世の調査は、池田降下軽石を含むV～VIIa層において掘立柱建物跡8棟、ピット列2基、ピットを76基検出した。

各遺構とも埋土はIIa層を主体とした黒色土を基調とすることと、遺物では須恵器、土師器、青磁、白磁、滑石製石鍋片、鉄製品、鉄滓などが出土したことから、時期の特定を行った。

以下、個別の報告を行う。図化した遺物の詳細については第14～16表を参照されたい。ピットに関しては多数検出したが、建物跡と認定できないものもあった。ここでは、遺構配置図に平面図のみ掲載することとした。

2 遺構

(1) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡1号（掘立柱建物跡1号）【第85図】

E・F-12・13区VIIa層で検出した。2間×5間の母屋の3面に庇が付く建物跡で、主軸方位はN80°Eである。平面の規模は母屋が1,263×399cmで、庇を含めると535cm×1,459cmである。柱穴の長径は14～40cm、深さは5～52cmである。平面形は長方形を呈している。埋土は主に黒色土でP8, 9, 13, 17, 18, 24にはアカホヤブロックが混じる。掘立柱建物跡1号の柱穴からは、土師器と白磁が出土した。214はP1, 215はP2から出土した土師器の壺である。216はP2, 217はP4から出土した土師器の皿の底部であり、底部は糸切りである。218は白磁の碗である。口縁部周辺を施釉後に搔き取る、いわゆる口禿の碗である。

掘立柱建物跡2号（掘立柱建物跡2号）【第86図】

E・F-11～13区VIIa層で検出した。2間×5間の建物で平面形はほぼ長方形を呈しており、主軸方位はN75°Eである。桁行南側の中央の柱穴は検出できなかった。当初からなかったか、浅くて削平されたものと思われる。柱穴は長径が23～47cm、深さが11～51.5cmだった。埋土は主に黒褐色土の単一層であるが、P10は黒色土も混じる。

掘立柱建物跡2号の柱穴からは、土師器と擂鉢が出土した。219はP10から出土した土師器の皿である。220は備前焼の擂鉢である。口縁部の上端にやや丸みがあり、内側が突出する。内面には5本1単位の擂り目が入る。

掘立柱建物跡3号（掘立柱建物跡3号）【第87図】

E・F-12・13区VIIa層で検出された。南側は一部調査区外へ伸びているが、2間×5間の建物跡の可能性がある。平面形はほぼ長方形を呈しており、主軸方位はN73°Eである。柱穴は長径が19～32.5cm、深さが4～28.5cmだった。埋土は黒色土の単層が多いが、P5とP9にはアカホヤブロックを含む。

掘立柱建物跡4号（掘立柱建物跡4号）【第88図】

E-12区のVIIa層で検出した。平面形はほぼ長方形を呈している。主軸方位はN13°Wである。柱間は北側が0.75m+0.75m、南側が0.63m+0.83m、東側は1.13m+1.13mである。柱穴は長径が16～23.5cm、深さが9～23cmだった。埋土は主にシルト質の黒色土であるが褐灰色土を含むものもある。

掘立柱建物跡5号（掘立柱建物跡5号）【第88図】

E・F-13・14区のVIIa層で検出した。平面形はほぼ長方形を呈している。梁行西側の中央の柱穴は検出できなかった。当初からなかったか、浅くて削平されたものと思われる。主軸方位はN75°Eである。柱間は北側が1.97m+1.96m+2.1m、南側が1.94m+2.09m+2.01m、東側は1.3m+2.3mである。柱穴は長径が17～41cm、深さが5～17cmだった。埋土は主にシルト質の黒色土で、P1, P5にはアカホヤブロックを含む。

掘立柱建物跡6号（SB01）【第89図】

E-6・7区V層で検出した。2間×3間の建物で平面形は、ほぼ長方形を呈しており、主軸方位はN70°Eである。柱間は北から2m+2.2m+2m、南側が2mの等間隔、西側が1.8m+2m、東側は2mの等間隔である。柱穴は長径が17.5～57cm、深さが5.5～47cmだった。埋土のP3-1, 2は暗褐色土で、他の柱穴は黒褐色土の単一層である。

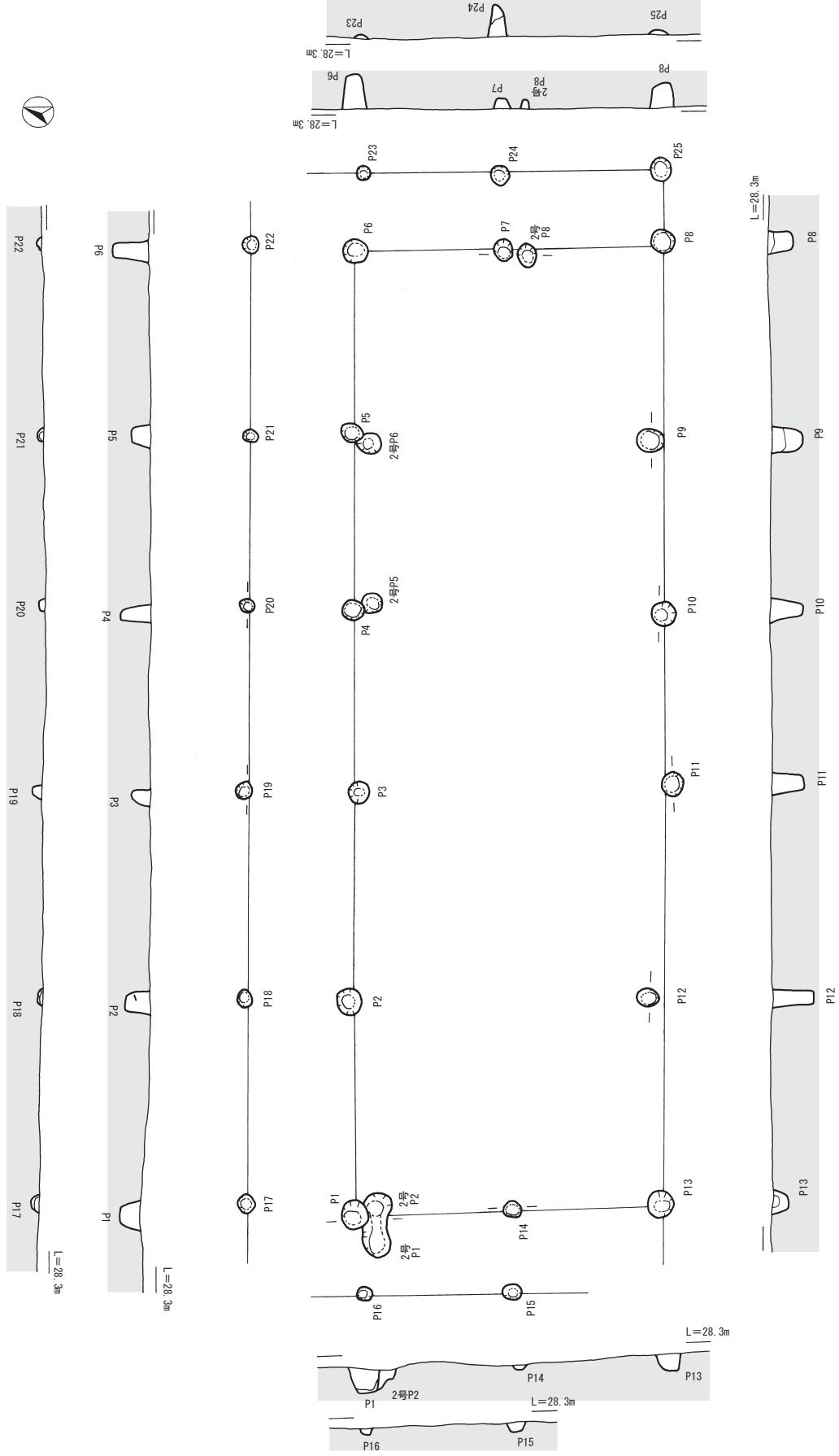
掘立柱建物跡7号（SB02）【第90図】

E-6～7区V層で検出した。2間×2間の建物で平面形はほぼ長方形を呈しており、主軸方位はN72°Eである。柱間は北から2.6mの等間隔、南側が3.1m+2.1m、西側が北から2.1mの等間隔、東側は2.2m+2.1mである。柱穴は長径が36～50cm、深さが32.5～60cmだった。埋土のP3は黒褐色土及び暗褐色土で、他の柱穴は黒褐色土の単一層である。

掘立柱建物跡8号（SB03）【第90図】

D・E-5・6区のV層上面で検出した。平面形はほぼ正方形を呈している。桁行南側の中央の柱穴は検出できなかった。当初からなかったか、浅くて削平されたものと思われる。主軸方位はN55°Eである。柱間は北側が1.9m+1.85m、南側が3.6m、西側が北から1.6m+1.7m、東側は1.4m+1.9mである。柱穴は長径が19～34cm、深さが4～29cmだった。埋土は黒褐色土の単一層である。

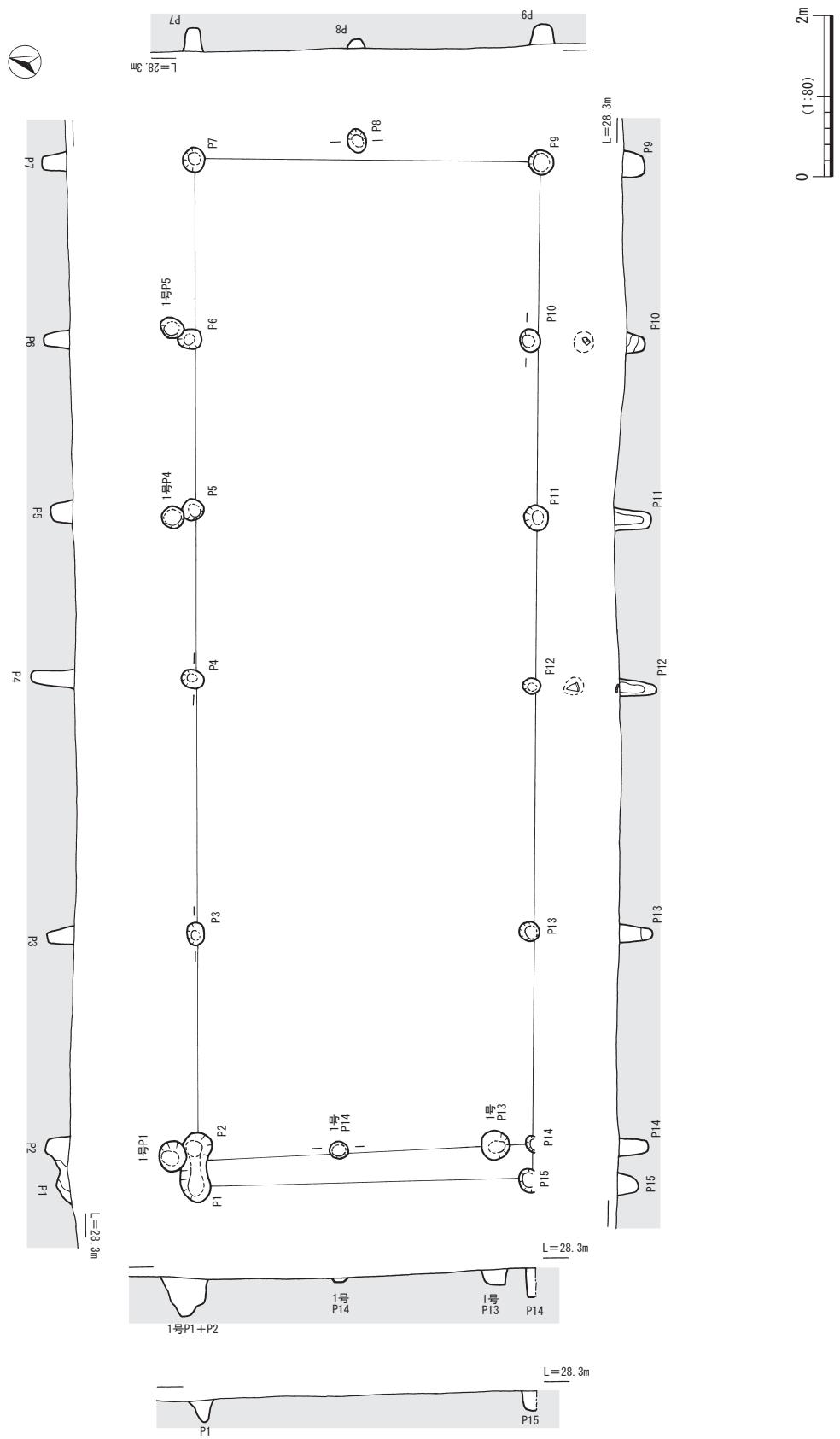
掘立柱建物跡 1 号



第85図 掘立柱建物跡 1号

2m
(1:80)

掘立柱建物跡 2 号



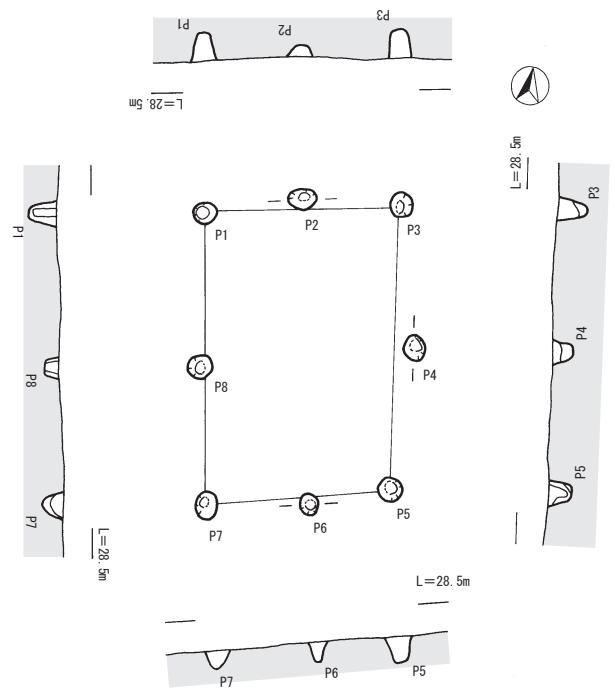
第86図 掘立柱建物跡 2号

掘立柱建物跡 3 号

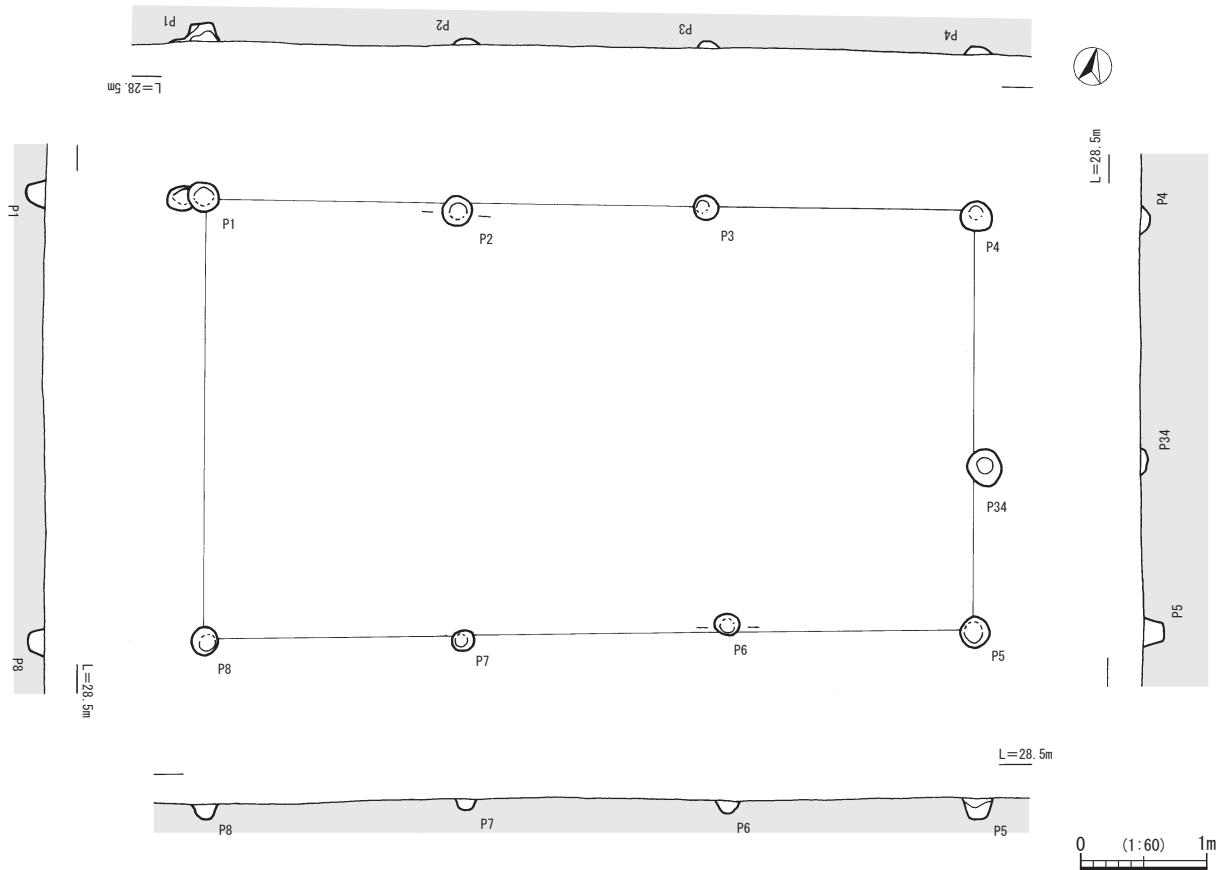


第87図 掘立柱建物跡 3号

掘立柱建物跡 4号

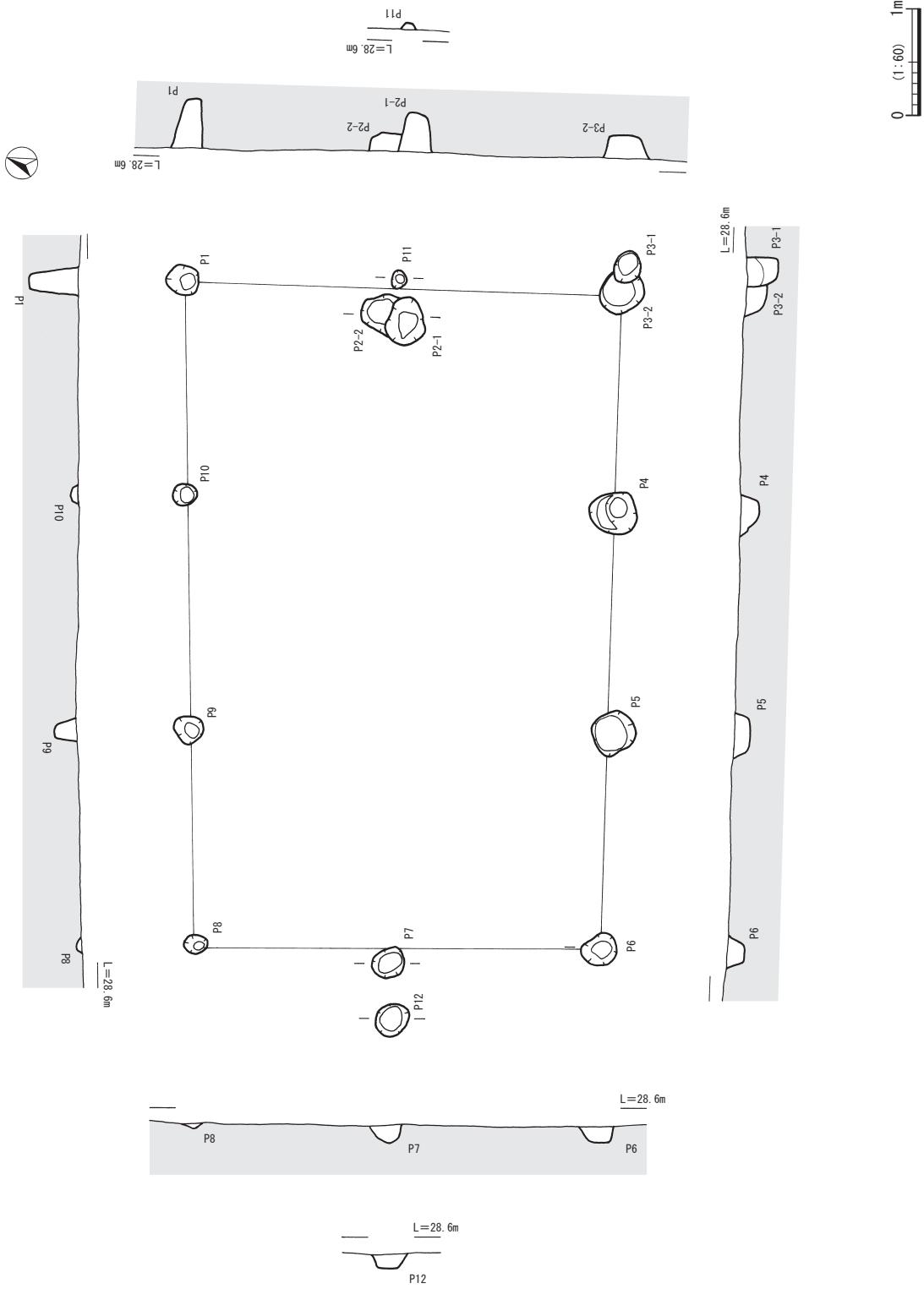


掘立柱建物跡 5号



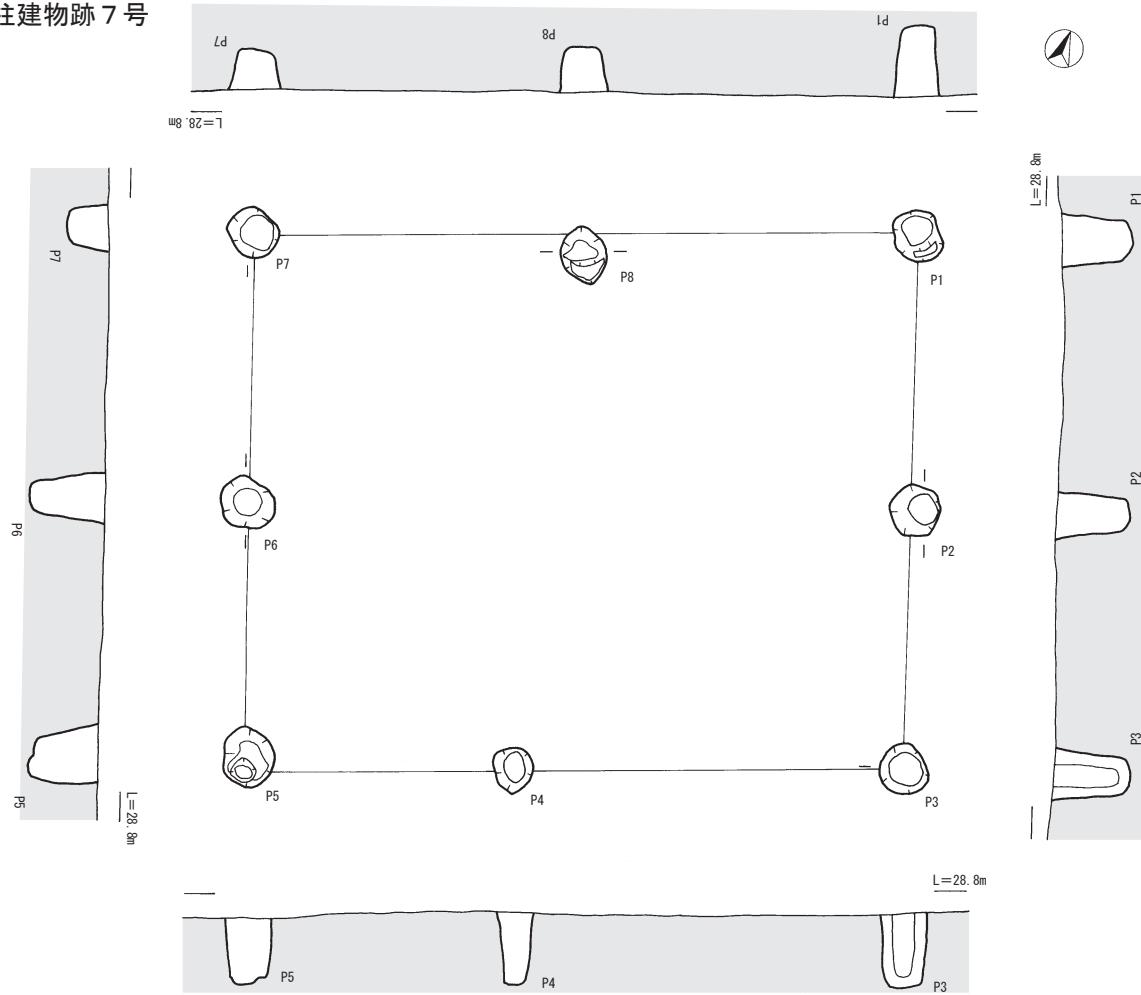
第88図 掘立柱建物跡 4・5号

掘立柱建物跡 6 号

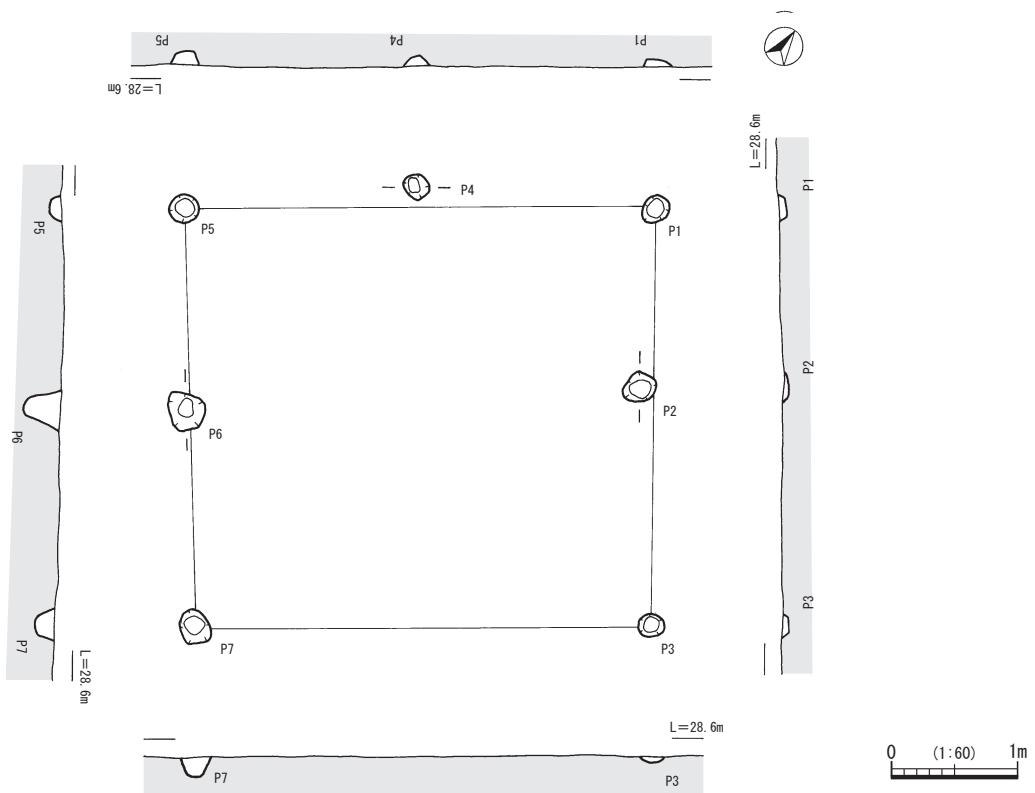


第89図 掘立柱建物跡 6号

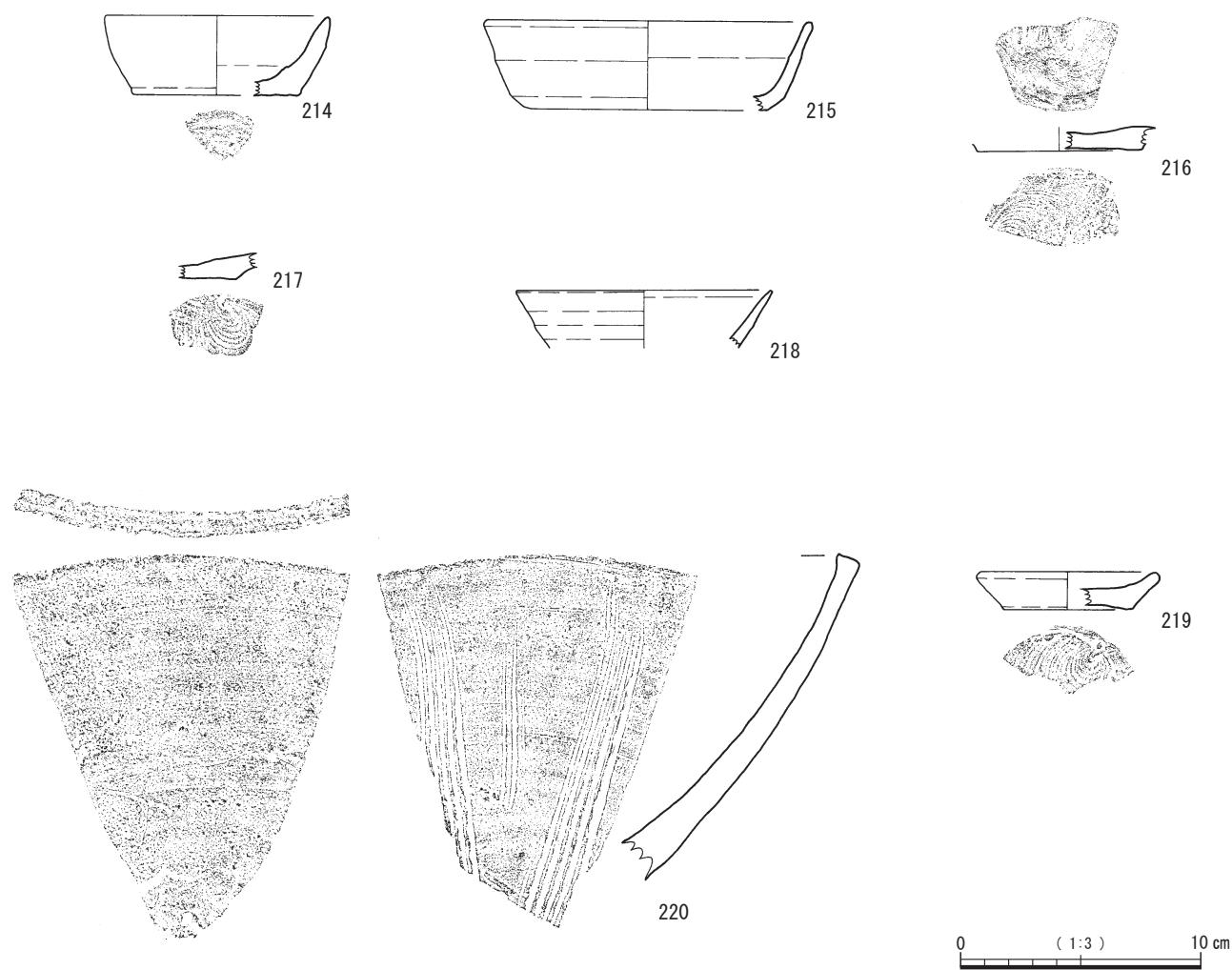
掘立柱建物跡 7号



掘立柱建物跡 8号



第90図 掘立柱建物跡 7・8号



第91図 掘立柱建物跡 1・2号出土遺物

第14表 遺構内出土遺物観察表（土師器）

挿図番号	掲載番号	種別	器種	法量 (cm)			色調		調整		取上番号	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
91	214	土師器	壺	9.4	7	3.3	灰白色	灰白色	ナデ	ナデ	掘立1号P1-1括	
91	215	土師器	壺	13.7	10	3.7	灰白色	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	掘立1号P2-1	
91	216	土師器	皿		3.4		灰白色	浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	掘立1号P2-1括	
91	217	土師器	皿				淡橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ	掘立1号P4-1括	
91	219	土師器	皿	7	5.2	1.6	浅黄橙色	浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	掘立2号P10-1括	

第15表 遺構内出土遺物観察表（国産陶器）

挿図番号	掲載番号	種別	器種	色調		調整		取上番号	備考
				外面	内面	外面	内面		
91	220	備前焼	擂鉢	灰赤色	灰赤色	口クロによるナデ	口クロによるナデ	掘立2号P12-1	

第16表 遺構内出土遺物観察表（輸入陶器）

挿図番号	掲載番号	種別	器種・分類	胎土	釉薬	取上番号	備考
91	218	白磁	碗・IX類	灰白色	透明釉	掘立1号P9-1括	

第17表 挖立柱建物跡観察表

遺構名	旧遺構名	N.o.	柱穴 (cm)			埋 土		
			長径	短径	深さ			
掘立柱建物跡 1号	掘立柱建物跡 1号	P1	40	35	27.5	黒色土 (7.5YR 1/2)	黒色土 (10YR 1/2)	
		P2	32	33	34	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P3	28	27	35	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P4	28	28	38	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P5	29	29	25	褐灰色土 (7.5YR 1/4)	黒色土 (7.5YR 1/2)	
		P6	33.5	32	47	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P7	27	23	12	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P8	33	32	33	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P9	37	37	41	黒色土 (7.5YR 1/2)	黒褐色土 (10YR 1/3)	
		P10	34	34	42	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P11	30	29	43.5	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P12	30	25	52	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P13	33	32	19	褐灰色土 (7.5YR 1/4)	黒色土 (7.5YR 1/2)	
		P14	14	12	5	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P15	24	21	13	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P16	19	17	8.5	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P17	25	24	12	黒色土 (7.5YR 1/2)	アカホヤ+黒色土ブロック	
		P18	23	20	8	黒色土 (7.5YR 1/2)	アカホヤ+黒色土ブロック	
		P19	18.5	21	12	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P20	22	18	8.5	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P21	22	18	8.5	黒色土 (7.5YR 1/2)	アカホヤ+黒色土ブロック	
		P22	21	19	7	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P23	19	18	6	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P24	25	25	42	黒色土 (7.5YR 1/2)	アカホヤ+黒色土ブロック	
		P25	33	17	6.5	黒色土 (7.5YR 1/2)		

遺構名	旧遺構名	N.o.	柱穴 (cm)			埋 土		
			長径	短径	深さ			
掘立柱建物跡 2号	掘立柱建物跡 2号	P1	47	37	13	アカホヤ+黒色土ブロック	黒褐色土 (10YR 1/3)	粘質シルト土
		P2	39	37	39	黒色土 (7.5YR 1/2)	黒色土 (7.5YR 1/2)	シルト土 (アカホヤブロック)
		P3	24	22	32.5	黒褐色土 (10YR 1/3)	粘質シルト土	
		P4	28.5	26	51.5	黒褐色土 (10YR 1/3)	粘質シルト土	
		P5	29	28	28	黒褐色土 (10YR 1/3)	粘質シルト土	
		P6	30.5	23	32	黒褐色土 (10YR 1/3)	粘質シルト土	
		P7	29	24	28.5	黒褐色土 (10YR 1/3)	粘質シルト土	アカホヤ+黒色土ブロック
		P8	28	24	11	黒褐色土 (10YR 1/3)	粘質シルト土	
		P9	33	33	28	黒褐色土 (10YR 1/3)	粘質シルト土	
		P10	32.5	27	23.5	黒褐色土 (10YR 1/5)	粘質シルト土	アカホヤ+黒色土ブロック
		P11	30.5	30	44	褐灰色土 (7.5YR 1/4)	砂質シルト土	黒褐色土 (10YR 1/3)
		P12	23.5	22.5	46	褐灰色土 (7.5YR 1/4)	砂質シルト土	黒褐色土 (10YR 1/3)
		P13	25.5	25	39	黒褐色土 (10YR 1/3)	粘質シルト土	黒褐色土 (7.5YR 3/2)
		P14	23	(12)	39	—	—	—
		P15	31.5	(19)	26	—	—	—

遺構名	旧遺構名	N.o.	柱穴 (cm)			埋 土		
			長径	短径	深さ			
掘立柱建物跡 3号	掘立柱建物跡 3号	P1	22	21	23.5	—	—	—
		P2	20	17	16.5	—	—	—
		P3	22.5	21	4	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P4	19	19	25	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P5	32.5	30	28.5	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P6	24	20	25	—	—	—
		P7	21	18	2	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P8	21	21	10.5	—	—	—
		P9	23	22	19	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P10	31	(10)	7	—	—	—

遺構名	旧遺構名	N.o.	柱穴 (cm)			埋 土		
			長径	短径	深さ			
掘立柱建物跡 4号	掘立柱建物跡 4号	P1	19	12.5	23	褐灰色土 (7.5YR 1/4)	砂質シルト土	
		P2	23.5	17	9	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P3	19	17.5	21	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P4	21	18	17	黒色土 (7.5YR 1/2)	シルト土	アカホヤ+黒色土ブロック
		P5	20	20	17	褐灰色土 (7.5YR 1/4)	砂質シルト土	アカホヤ+黒色土ブロック
		P6	16	17.5	15	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P7	22	18	16	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P8	20	18	10.5	褐灰色土 (7.5YR 1/4)	砂質シルト土	アカホヤ+黒色土ブロック
		P9	22	22	11	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P10	28	22	5	—	—	—

遺構名	旧遺構名	N.o.	柱穴 (cm)			埋 土		
			長径	短径	深さ			
掘立柱建物跡 5号	掘立柱建物跡 5号	P1	41	23	15	黒色土 (7.5YR 1/2)	シルト土	アカホヤ+黒色土ブロック
		P2	25	23	5	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P3	20	20	5.5	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P4	24	22.5	7	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P5	25	25	17	黒色土 (7.5YR 1/2)	黒褐色土 (7.5YR 3/2)	
		P6	21	17	10	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P7	17	17	9	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P8	23	22	11	黒色土 (7.5YR 1/2)		
		P9	33	30	17	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		

遺構名	旧遺構名	N.o.	柱穴 (cm)			埋 土		
			長径	短径	深さ			
掘立柱建物跡 6号	SB01	P1	30	28	47	黒褐色土 (7.5YR 2/1)		
		P2	54	36	46	黒褐色土 (7.5YR 3/2)	暗褐色土 (10YR 3/3)	
		P3	57	30	30.5	黒褐色土 (7.5YR 3/2)	暗褐色土 (7.5YR 3/2)	
		P4	40	42	17	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		
		P5	40	40	14	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		
		P6	33	33	15	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		
		P7	30	28	20	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		
		P8	22	18	5.5	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		
		P9	28	27	21	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		
		P10	22.5	20	7	黒褐色土 (7.5YR 2/1)		
		P11	17.5	15	6.5	黒褐色土 (7.5YR 3/3)		
		P12	33	30	17	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		

遺構名	旧遺構名	N.o.	柱穴 (cm)			埋 土		
			長径	短径	深さ			
掘立柱建物跡 7号	SB02	P1	23	21	5	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		
		P2	28	28	4	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		
		P3	19	18	4	黒褐色土 (7.5YR 3/1)		
		P4	21	20	8.5	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		
		P5	22	21	10	黒褐色土 (7.5YR 3/1)		
		P6	34	30	29	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		
		P7	28.5	24	14	黒褐色土 (7.5YR 3/2)		

遺構名

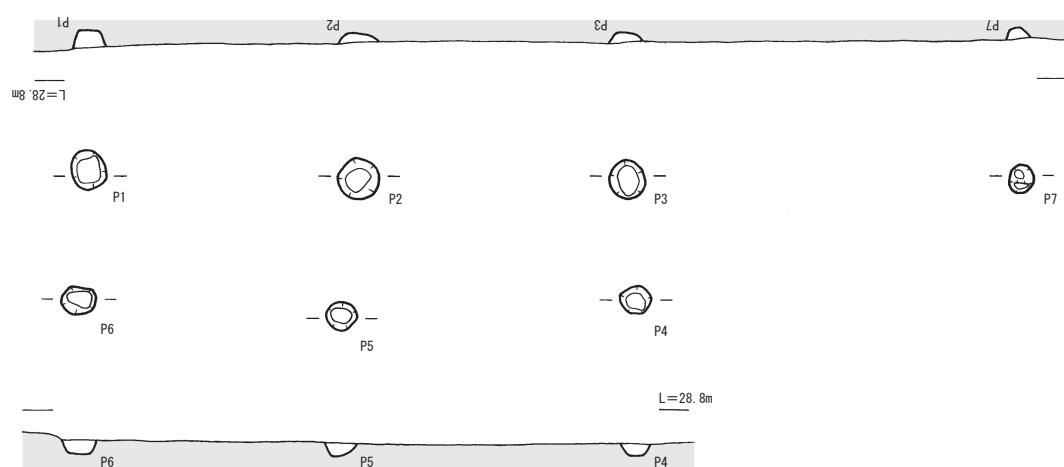
(2) ピット列 【第92図】

基本的には一直線に、かつ等間隔で並ぶことを原則とするが、そのようにならないものでも一方向に直線的に並ぶものについてピット列という名称を付した。本遺跡では、ピット列を2列検出した。

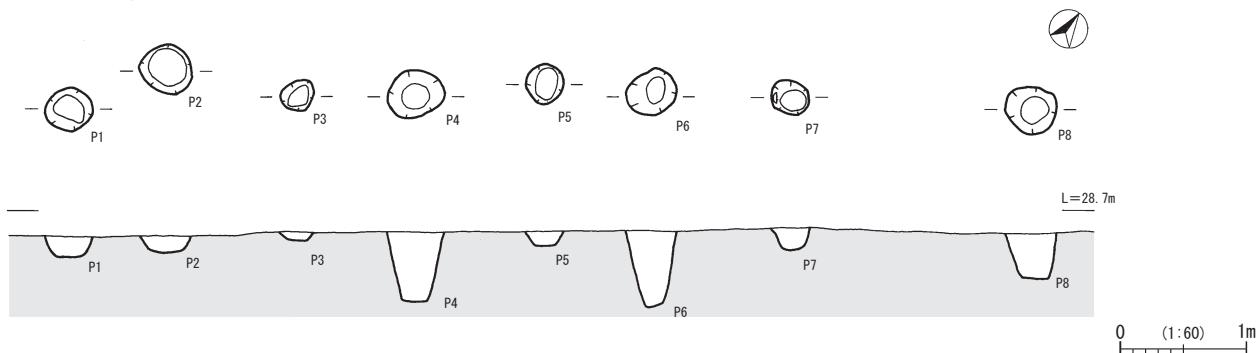
ピット列1号 (SA01) 【第92図】

B・C-11区のV層で検出した。6基のピットと南側に1基のピットがほぼ等間隔でN20°Wの主軸方向に2列に並んでいる。ピットは長径が23~33cm、深さが7~14cmである。埋土は黒色土の単一層が多い。

ピット列1号



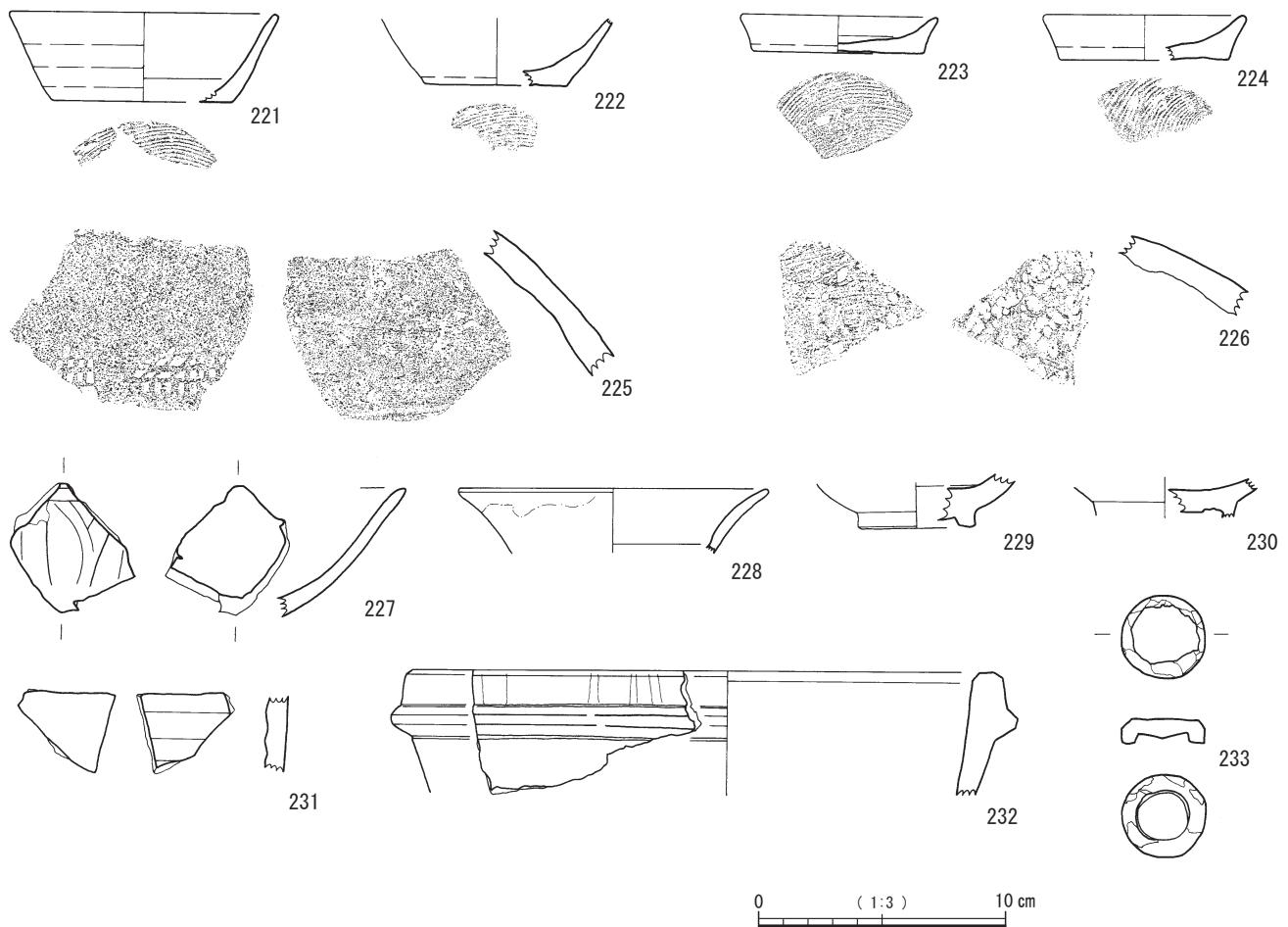
ピット列2号



第92図 ピット列1・2号

第18表 ピット列観察表

遺構名	旧遺構名	No.	ピット(cm)			埋土	ピット間(cm)	遺構名	旧遺構名	No.	ピット(cm)			埋土	ピット間(cm)	
			長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
ピット 列1 号	SA01	P1	30	28	14	黒色土(7.5YR2/1) 粘性ややあり しまりなし。	P1 ~ P2	215	ピット 列2 号	SA02	P1	37	32	15	黒色土(7.5YR2/1) 粘性ややあり しまりなし。	P1 ~ P2 80
		P2	33	33	7	黒色土(7.5YR2/1) 粘性ややあり しまりなし。	P2 ~ P3	215			P2	40	38	12	黒色土(7.5YR2/1) 粘性ややあり しまりなし。	P2 ~ P3 105
		P3	30	30	8	黒色土(7.5YR2/1) 粘性ややあり しまりなし。	P4 ~ P5	230			P3	26	24	8	黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性ややあり しまりなし。	P3 ~ P4 90
		P4	25	23	12	黒色土(7.5YR2/1) 粘性ややあり しまりなし。	P5 ~ P6	210			P4	45	38	55	黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性ややあり しまりなし。	P4 ~ P5 105
		P5	25	23	11	黒色土(7.5YR2/1) 粘性ややあり しまりなし。	P1 ~ P6	105			P5	32	30	12	黒褐色土(7.5YR2/1) 粘性ややあり しまりなし。	P5 ~ P6 85
		P6	26	23	12	黒色土(7.5YR2/1) 粘性ややあり しまりなし。	P2 ~ P5	110			P6	40	38	60	黒褐色土(7.5YR2/3) 粘性ややあり しまりなし。	P6 ~ P7 110
		P7	23	21	10	黒色土(7.5YR2/1) 粘性ややあり しまりなし。	P3 ~ P4	100			P7	30	25	18	黒色土(7.5YR3/2) 粘性なし しまりなし。	P7 ~ P8 190
											P8	40	38	35	黒褐色土(7.5YR2/2) 粘性なし しまりやあり。	



第93図 中世の遺物

3 遺物

中世の遺物包含層はⅡa層であるが、確認調査の段階では縄文時代早期の遺物包含層のみ確認されていたため、平成26年度の本調査では無遺物層として掘削した。そのため、中世の遺物の多くが一括遺物として取り上げられた。中世の遺物としては、土師器や常滑焼、青磁、中国陶器、滑石製石鍋が出土した。

221～224は土師器の壺及び皿である。底部はすべて糸切りである。225・226は常滑焼の甕の肩部である。

225は外面に押印文をもつ。227～229は青磁である。227は外面に片彫りの鎧蓮弁文を有する碗である。228は口縁部が外反する皿である。229は疊付から高台内面が露胎である。230は天目碗と考えられるが、二次焼成を受けている。231は長胴形の壺と考えられる。232は口縁部直下に削り出された鍔がめぐる滑石製石鍋である。233は白磁碗の高台を円盤状に加工している。

第19表 中世出土遺物観察表（土師器）

捕団番号	掲載番号	種別	器種	出土区		層位	法量(cm)			色調		調整		備考	取上番号
							口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
93	221	土師器	杯	B・C	3	-	10.6	7.2	3.6	浅黄橙色	浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	糸切り痕	搅乱一括
	222	土師器	杯	B・C	3	-		5.7		浅黄橙色	浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ	糸切り痕	搅乱一括
	223	土師器	皿	B・C	3	-	7.8	6.9	1.5	浅黄橙色	浅黄橙色	回転ナデ	ナデ	糸切り痕	搅乱一括
	224	土師器	皿	C	3	III	8	6.8	1.8	浅黄橙色	浅黄橙色	回転ナデ	ナデ	糸切り痕	2077

第20表 中世出土遺物観察表（国産陶器）

捕団番号	掲載番号	種別	出土区		層位	器種・分類	法量		色調		調整		備考	取上番号
							口径	底径	外面	内面	外面	内面		
93	225	常滑焼	B	5	VII	壺			灰色	暗赤灰色	ロクロによるナデ	ロクロによるナデ		搅乱一括
	226	常滑焼	-	-	I	壺			灰色	灰色	ロクロによるナデ	-		表土一括

第21表 中世出土遺物観察表（輸入陶器）

捕団番号	掲載番号	種別	出土区		層位	法量(cm)			器種・分類	胎土	釉薬	備考	取上番号
						口径	底径	器高					
93	227	青磁	E	13	I				碗・皿類	灰色	灰オリーブ色	鎬連弁文	表土一括
	228	青磁	G	3	-	12.4			皿	灰白色	灰オリーブ色	15~16世紀	搅乱一括
	229	青磁	B	10	I		4.8		碗	灰白色	明オリーブ灰色		表土一括
	230	中国陶器	-	-	I				天目碗	-	-	二次焼成	表土一括
	231	中国陶器	D	13	I				壺	灰白色	黒褐色		表土一括

第22表 中世出土遺物観察表（石製品他）

捕団番号	掲載番号	種別	出土区		層位	法量(cm)			取上番号	備考
						口径	底径	器高		
93	232	滑石製石鍋	E	13	I	23.5			表土一括	

第23表 中世出土遺物観察表（その他）

捕団番号	掲載番号	種別	出土区		層位	法量(cm)			取上番号	備考
						口径	底径	器高		
93	233	円盤状加工品	B	4	II a	3.4	1.1		2002	15世紀

第4節 時期不明遺構の調査

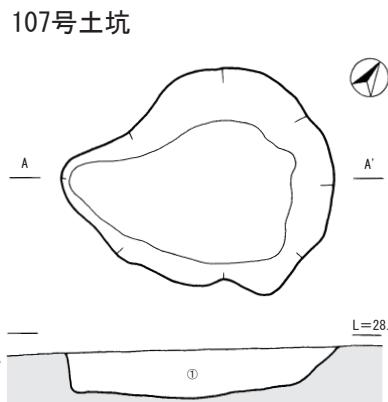
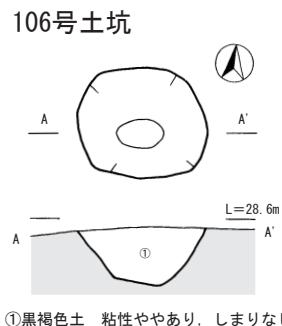
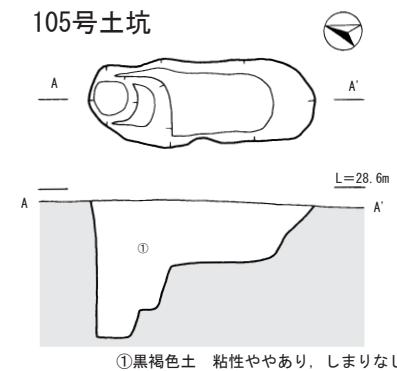
この節は、時期不明の遺構・遺物について扱う。

V層において土坑6基、溝状遺構1条、性格不明遺構1基を検出した。本遺跡では、V層は中世該当の遺構であるが、それを判断できないものは時期不明の遺構と判断した。

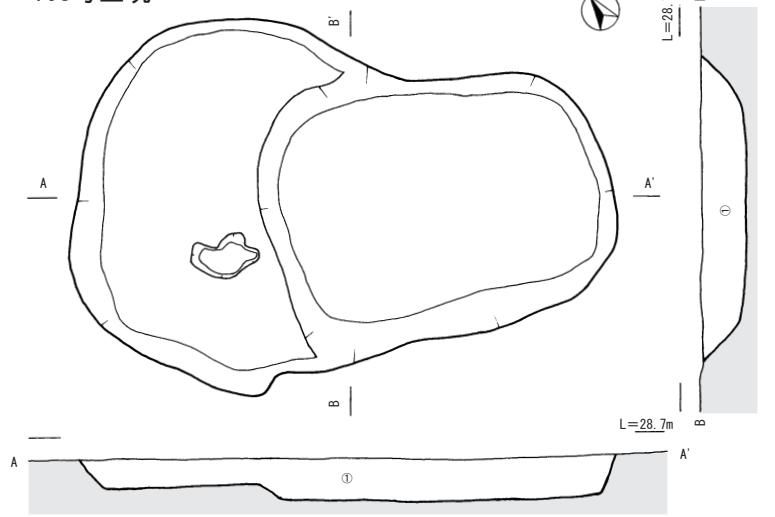
(1) 土坑

105号土坑 (SK03) 【第94図】

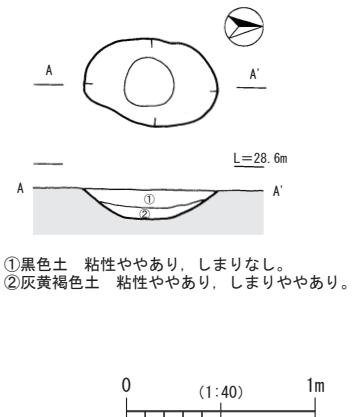
B・C-3区より検出した。平面形状は長軸119cm,



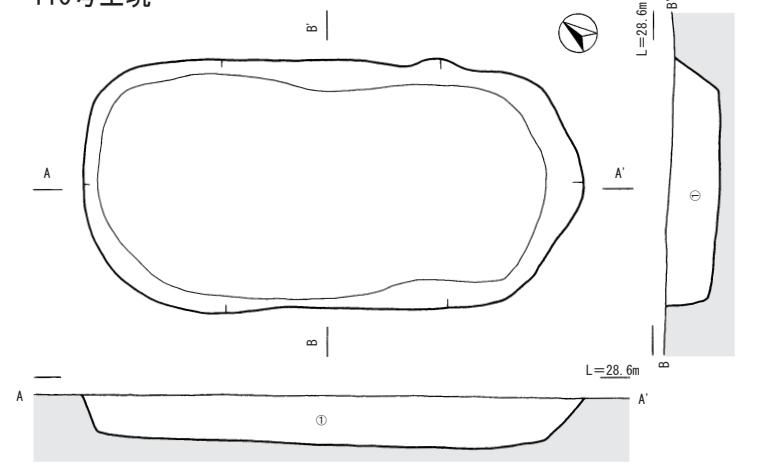
108号土坑



109号土坑



110号土坑



0 (1:40) 1m

0 (1:3) 10 cm

第94図 105～110号土坑・出土遺物

短軸40cmの長楕円形である。最深部までの深さ73cmで、断面は北側から南側に向かって階段状の掘り込みを有する。

埋土から遺物は出土していない。

106号土坑 (SK11) 【第94図】

B・C-3区より検出した。平面形状は長軸68cm、短軸58cmの円形である。最深部までの深さ29cmで断面形状は擂鉢形である。

埋土から遺物は出土していない。

107号土坑 (SK10) 【第94図】

B-4区において検出した。平面形状は長軸146cm、短軸112cmの不定形円形である。最深部までの深さ23cmで断面形状は舟形である。

埋土から遺物は出土していない。

108号土坑 (SK04) 【第94図】

C-4区において検出した。平面形状は長軸290cm、短軸138cmの不定形楕円形である。最深部までの深さ23cmで、断面は西側が段状を呈するが、埋土に差は確認できなかった。

埋土から遺物は出土していない。

109号土坑 (SK09) 【第94図】

D-8区において検出した。平面形状は長軸70cm、短軸47cmの長楕円形である。最深部までの深さ15cmで断面形状は皿形である。

埋土から遺物は出土していない。

110号土坑 (SK01) 【第94図】

E-4区において検出した。平面形状は長軸266cm、短軸132cmの長楕円形である。最深部までの深さ26cmで断面形状は台形である。

出土遺物は土器1点が出土した。234は無文の胴部であり、内外面とも丁寧なナデを施している。VII類土器に相当するが、型式や時期は不明である。

(2) 溝状遺構 (SD01) 【第95図】

B-3～5区、V層上面において検出した。溝内は多くの樹根が遺構を切っている。また、西側は性格不明遺構が切っている。プランは長さ20m、幅1.6m、深さ20cmである。南西～北西に向かって伸びている。埋土は単一層で一部硬化している箇所もある。

出土遺物は埋土からVII類土器や土師器、甕が出土した。235は土師器の皿である。236は常滑焼の甕の胴部である。出土遺物はあるものの、埋土が流れ込みの可能性も否定できず、時期不明の遺構と判断した。

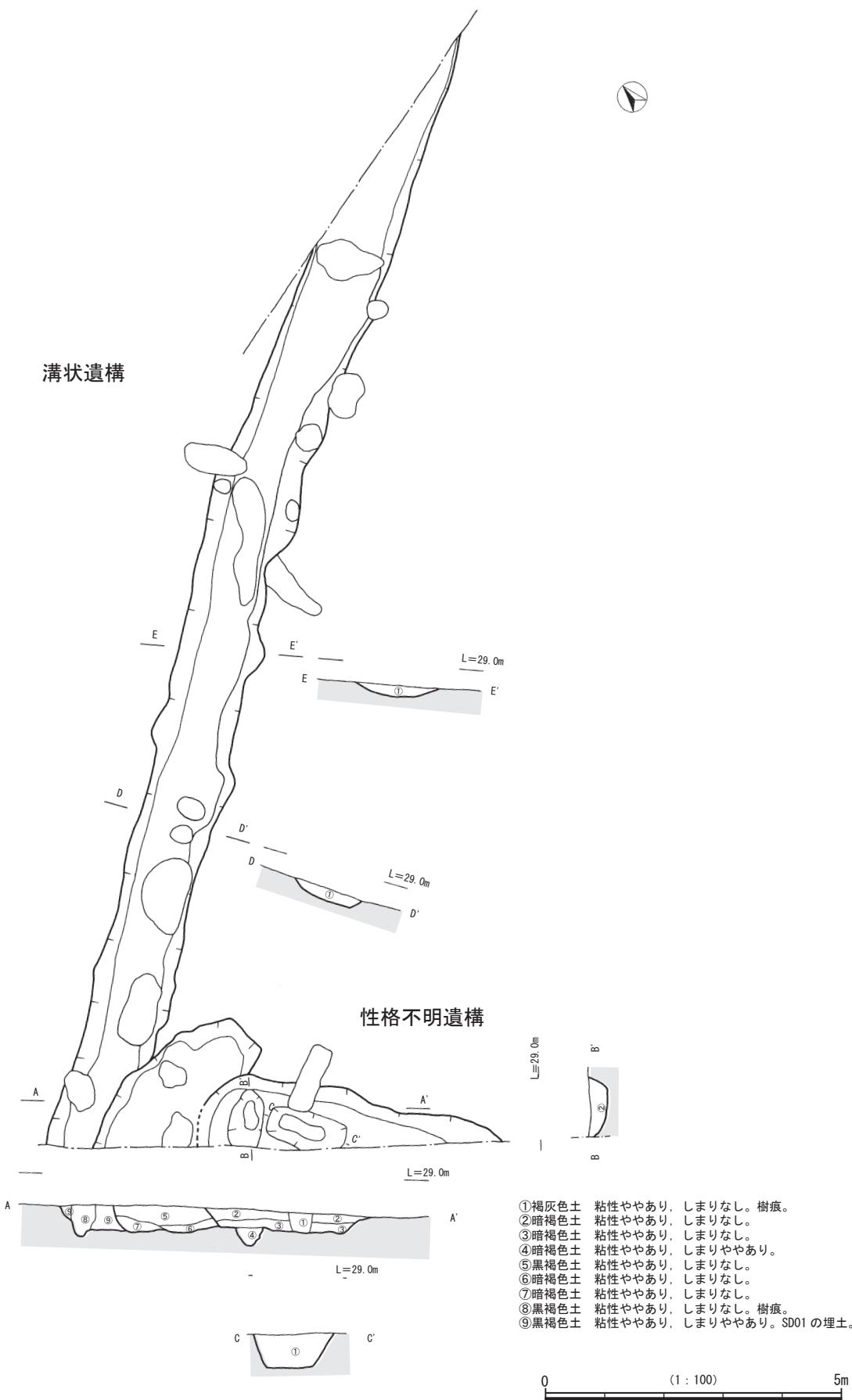
(3) 性格不明遺構 (SX01) 【第95図】

B・C-3区、V層上面で検出した。溝状遺構の西側を切っている。調査区壁際で検出したため、平面形状は判断できなかった。樹根も多く確認されたが、調査区西側の掘り込みはしっかりしたものがある。

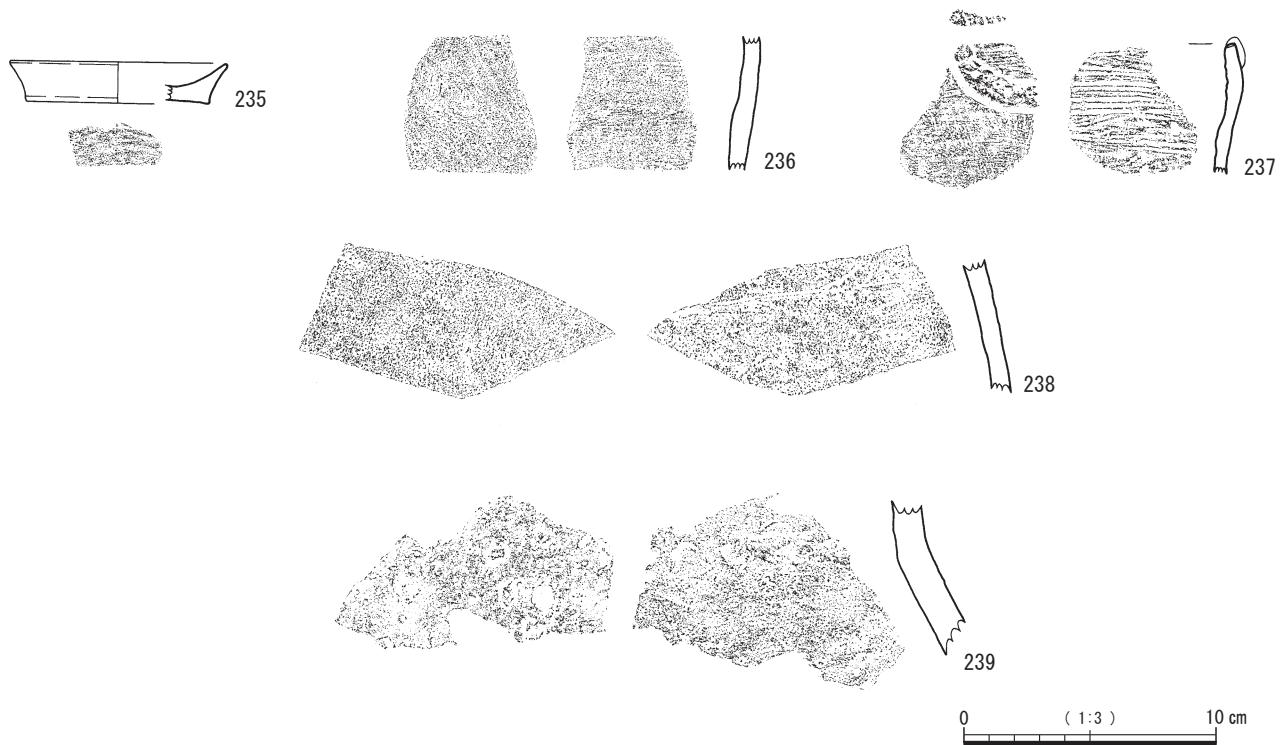
出土遺物は埋土からII・VII類土器や深鉢、甕が出土した。237は口縁部が緩いキャリパー形を呈する。外面には口唇部から粘土紐を貼り付け、竹管文を施す。口唇部には刻目を入れる。VII類土器である。238・239は常滑焼の甕の肩部及び胴部である。外面に自然釉が付着する。

第24表 V層検出土坑観察表

遺号名	旧遺構番号	区	検出面	大きさ(cm)			遺物等	部位	埋 土	備考
				長軸	短軸	深さ				
105号土坑	SK03	B・C3	V層	119	40	73	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。 粘性ややあり、しまりなし。	
106号土坑	SK11	B・C3	V層	68	58	29	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。 粘性ややあり、しまりなし。	
107号土坑	SK10	B4	V層	146	112	23	—	—	①黒褐色土 10YR2/3。 粘性ややあり、しまりなし。	
108号土坑	SK04	C4	V層	290	138	23	—	—	①黒褐色土 7.5YR2/2。 粘性なし、しまりややあり。	
109号土坑	SK09	D8	V層	70	47	15	—	—	①黒色土 10YR2/1。 粘性ややあり、しまりなし。 ②灰黄褐色土 10YR4/2。 粘性ややあり、しまりややあり。	
110号土坑	SK01	E4	V層	266	132	26	土器	胴部	①黒褐色土 7.5YR2/2。 粘性なし、しまりややあり。	



第95図 溝状遺構・性格不明遺構



第96図 溝状遺構・性格不明遺構出土遺物

第25表 遺構内出土土器観察表

挿図番号	掲載番号	分類	器種	部位	法量(cm)			主文様・調整		胎土					色調		取上番号
					口径	底径	器高	外面	内面	石英	長石	角閃石	白色粒子	赤色粒子	雲母	外面	内面
94	234	—	深鉢	胴部				ナデ	ナデ	○	○			○	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	SK01—括
96	237	VII	深鉢	口縁部				粘土紐貼付、竹管文	貝殻条痕→ナデ	○	○	○			にぶい褐色	にぶい橙色	SX01—括

第26表 遺構内出土遺物観察表（土師器）

挿図番号	掲載番号	種別	器種	法量(cm)			色調		調整				取上番号	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	内面	内面		
96	235	土師器	皿	8.6	7.2	1.65	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ	ナデ	SD01—括			

第27表 遺構内出土遺物観察表（国産陶器）

挿図番号	掲載番号	種別	器種	色調		調整		取上番号	備考
				外面	内面	外面	内面		
96	236	常滑焼	甕	灰色	灰色	ロクロによるナデ	ロクロによるナデ	SD01—括	
96	238	常滑焼	甕	にぶい赤褐色	褐灰色	ロクロによるナデ	ロクロによるナデ	SX01—1	
96	239	常滑焼	甕	灰白色	灰白色	ロクロによるナデ	ロクロによるナデ	SX01—括	

第V章 自然科学分析

第1節 放射性炭素年代測定

木森遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

木森遺跡は、鹿児島県志布志市有明町野井倉に所在する。測定対象試料は、集石遺構、連穴土坑から出土した土器付着炭化物1点、炭化物4点の合計5点である（表28）。土器付着炭化物No.1は、下剥峯式に比定される土器の口縁部外面刺突内に付着する炭化物を採取した。SS19、SK160はVII層、SK67、SK103はX層上面、土坑8号はIX層上面で検出され、VII層はアカホヤ火山灰（約7300年前）、X層は薩摩火山灰（約12800年前）とされる。試料はいずれも縄文時代早期前葉と推定されている。

2 測定の意義

遺構の時期、集落の継続期間を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物、混入物を取り除く。
- (2) アセトンで処理を行う（AC）。
- (3) 酸-アルカリ-酸（AAA : Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1 M) の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表28に記載する。
- (4) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (5) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (6) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (7) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表28)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age : yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表28に、補正していない値を参考値として表29に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(¹⁴Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表28に、補正していない値を参考値として表29に示した。
- (4) 暗年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暗年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暗年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma = 68.3\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暗年較正年代を表す。暗年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によって結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暗年較正年代の計算に、IntCal20較正曲線(Reimer et al. 2020)を用い、OxCalv4.4較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暗年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表29に示した。なお、暗年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表28, 29に示す。

試料5点の¹⁴C年代は、9530±40yrBP（試料No. 2）から8860±30yrBP（試料No. 1）の間にある。暦年較正年代（1σ）は、最も古いNo. 2が9119～8776cal BCの間に4つの範囲、最も新しいNo. 1が8194～7948cal BCの間に4つの範囲で示される。推定される縄文時代早期前葉頃におおむね相当し（小林編2008, 小林2017）、火山灰との上下関係にも整合する

試料No. 1は、土器に施された刺突内に薄く付着した炭化物を採取したため、胎土の混入を避けられなかつた。炭素含有率は17%という炭化物としては低い値で、測定された炭素の由来に注意を要する。他の炭化物の炭素含有率は60%を超える十分な値であった。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337–360
 小林謙一 2017 縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素14年代—, 同成社
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
 Reimer, P. J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP), *Radiocarbon* 62(4), 725–757
 Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355–363

第28表 放射性炭素年代測定結果1（ $\delta^{13}\text{C}$ 補正值）

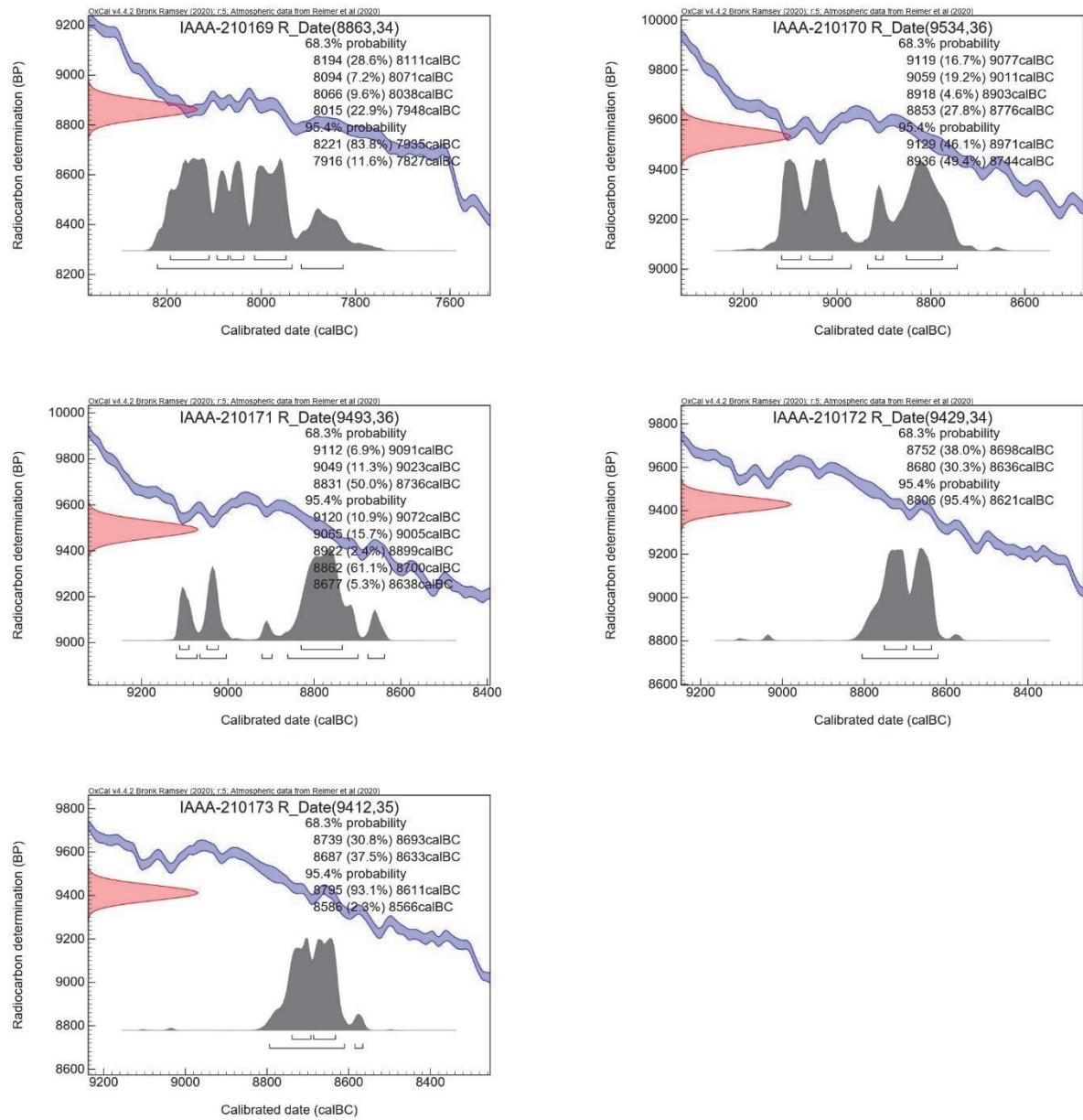
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-210169	No. 1 (遺物 No. SS19-13・12)	SS19 VII層	土器付着炭化物	AC+AaA	-27.45 ± 0.26	8,860 ± 30	33.18 ± 0.14
IAAA-210170	No. 2 (遺物 No. SK67-1)	SK67 埋土①	炭化物	AC+AAA	-24.79 ± 0.27	9,530 ± 40	30.52 ± 0.14
IAAA-210171	No. 3 (遺物 No. SK103-9)	SK103 埋土①	炭化物	AC+AAA	-29.26 ± 0.23	9,490 ± 40	30.67 ± 0.14
IAAA-210172	No. 4 (遺物 No. SK160-40)	SK160 埋土②	炭化物	AC+AAA	-26.34 ± 0.22	9,430 ± 30	30.92 ± 0.13
IAAA-210173	No. 5 (遺物No. 土坑8号一括)	土坑8号 埋土①	炭化物	AC+AAA	-28.78 ± 0.26	9,410 ± 40	30.98 ± 0.14

[IAA登録番号 : #A687]

第29表 放射性炭素年代測定結果2（ $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用¹⁴C年代、較正年代）

	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-210169	8,900 ± 30	33.01 ± 0.14	8,863 ± 34	8194calBC – 8111calBC (28.6%) 8094calBC – 8071calBC (7.2%) 8066calBC – 8038calBC (9.6%) 8015calBC – 7948calBC (22.9%)	8221calBC – 7935calBC (83.8%) 7916calBC – 7827calBC (11.6%)
IAAA-210170	9,530 ± 40	30.53 ± 0.14	9,534 ± 36	9119calBC – 9077calBC (16.7%) 9059calBC – 9011calBC (19.2%) 8918calBC – 8903calBC (4.6%) 8853calBC – 8776calBC (27.8%)	9129calBC – 8971calBC (46.1%) 8936calBC – 8744calBC (49.4%)
IAAA-210171	9,560 ± 40	30.41 ± 0.14	9,493 ± 36	9112calBC – 9091calBC (6.9%) 9049calBC – 9023calBC (11.3%) 8831calBC – 8736calBC (50.0%)	9120calBC – 9072calBC (10.9%) 9065calBC – 9005calBC (15.7%) 8922calBC – 8899calBC (2.4%) 8862calBC – 8700calBC (61.1%) 8677calBC – 8638calBC (5.3%)
IAAA-210172	9,450 ± 30	30.83 ± 0.13	9,429 ± 34	8752calBC – 8698calBC (38.0%) 8680calBC – 8636calBC (30.3%)	8806calBC – 8621calBC (95.4%)
IAAA-210173	9,470 ± 30	30.75 ± 0.13	9,412 ± 35	8739calBC – 8693calBC (30.8%) 8687calBC – 8633calBC (37.5%)	8795calBC – 8611calBC (93.1%) 8586calBC – 8566calBC (2.3%)

[参考値]



第97図 曆年較正年代グラフ(参考)

第VI章 総 括

第1節 遺構

本節では、時期毎の遺構について、特徴的なものを記す。時代ごとの遺構配置は、第10図～第13図及び第84図を参照されたい。

縄文時代早期：連穴土坑23基、集石72基、土坑104基
土器溜まり1基

中世：掘立柱建物跡8棟、ピット列2列
ピット6基

時期不詳：土坑6基、溝状遺構1条
性格不明遺構1基

1 縄文時代早期

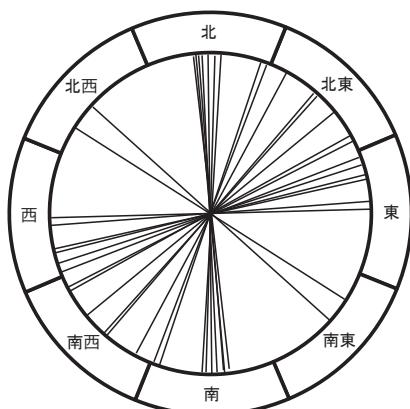
(1) 連穴土坑

連穴土坑はC～E区を中心に23基検出した。連穴土坑は、鹿児島市加栗山遺跡での初見以来、県内の縄文時代早期の遺跡を中心に数多く検出しているが、志布志市市内において10基以上の連穴土坑を検出したのは下堀遺跡、倉園B遺跡、春日堀遺跡等、例が少ない。

23基中、残存状況が良好だったものは5基(21%)であり、ブリッジが一部崩落していたものや、崩落が著しいものが多く、平面形状や埋土の堆積状況等をもとに遺構の判断を行うこととした。

まず、連穴土坑の時期についてであるが、本遺跡の連穴土坑内出土土器型式は加栗山式が多いことから、当該時期もしくはそれ以前に構築された可能性が高い。加栗山式土器の時期としては加栗山遺跡、霧島市上野原遺跡、姶良市建昌城跡、日置市永迫平遺跡などがあり、本遺跡はこれらの遺跡と同時期である可能性が高い。

次に連穴土坑の法量であるが、全長は162cm～337cmと175cmの幅があるが、平均は229.3cmである。次に深さであるが、連穴土坑の検出面はほぼXa層であり、本来の遺構形成面であるVII層中よりも下位で検出している。よって、本来の連穴土坑の深さは不明であるが、10



第30表 連穴土坑主軸方向計測表

号・14号・20号連穴土坑の主穴部及び従穴部の深さ(各68cm)を見ると、少なくとも70cm以上の深さがあったと考えられる。

次に連穴土坑の平面形状であるが、ブリッジ部分が残存しているものが6基(26%)であり、全体的な傾向は一概には言えないが、ほぼ長楕円形である。また、底面の断面形状は、底面の高さがほぼ水平になるものと、ブリッジ部分から従穴側へ低くなるものが多い。

そして主軸の方向を検討したい。23基中21基(91%)が北～東側、南～西側の範囲内に集中している。これは連穴土坑としての機能を鑑み、意図的に主軸の方向を決定していた可能性が考えられる。

(2) 土坑

縄文時代早期の土坑は104基検出した。連穴土坑と同じく調査区C～E区に多く分布する。土坑の中には平面形状や断面形状が連穴土坑に類似するものが見られた(IV類:14基)。それらが連穴土坑だった可能性について検討を行った。

第31表 連穴土坑・土坑の長軸・短軸・最深部平均

	長軸平均	短軸平均	最深部平均
連穴土坑	229.3cm	77.8cm	50.3cm
土坑IV類	184.0cm	82.6cm	32.6cm
土坑I～III類	132.9cm	75.4cm	22.4cm

第31表の通り、IV類は切り合いも多く詳細は明らかではない部分もあるが、連穴土坑の法量にかなり近いといえる。III類の中でも連穴土坑のそれに近いものもある。これらはブリッジの崩落等によって、連穴土坑としての根拠が乏しいだけで、本来は連穴土坑であった可能性も否めない。

I類に含まれる土坑2号は、規模や平面形状が他の土坑と異なる。これは建物跡の可能性も考えられたが加栗山遺跡や鹿児島市前原遺跡B地点の竪穴建物跡と比較すると規模が小さく、柱穴も認められないことから、竪穴建物跡ではない可能性が高いと考えたい。

(3) 集石

ここでは集石の各該当層ごとの分析と、形態分類別の分析を述べる。層位・形態分類については22ページを参照されたい。

本遺跡の集石は、菱田川に面した遺跡西側の河岸段丘第2段丘面縁辺部に集中して検出され、川からの距離が離れるにつれて減少する傾向にある。

構成礫数は50点以下が42基(58%)、100点未満が18基(25%)、150点未満が6基(8%)、200点未満が4基(6%)

%), 200点以上が2基(2%)であり、大半が50点未満であり、構成礫は集中している。また、小礫が多いことも特徴的である。石材は砂岩がほとんどである。

本遺跡の縄文時代早期の遺物包含層はVII層である。集石もVII層、IX層、X層上面で検出されているが、ここでは各層ごとについてまとめる。

①VII層該当集石（全46基：64%）

I類集石2基、II類集石4基、III類集石31基、IV類集石8基、分類不明1基の計46基であり、本遺跡の主体を占める。掘り込みを持たないのは6基で、それ以外は掘り込みを持つ。礫集中度が高いII・III類は全体の約49%を占める。

②IX層該当集石（全21基：29%）

I・II類集石0基、III類集石13基、IV類集石8基の計21基である。すべての集石が掘り込みを持つ。礫集中度が高いII・III類は全体の約18%を占める。

③X層該当集石（全5基：7%）

I・II類集石0基、III類集石3基、IV類集石2基の計5基である。すべての集石が掘り込みを持つ。礫集中度が高いII・III類は全体の約4%を占める。

形態分類別の集計では、全72基中、I類集石は2基(2%)、II類集石は4基(5%)、III類集石は47基(65%)、IV類集石は18基(25%)、分類不明が1基(1%)である。本遺跡の集石のほとんどは円形の掘り込みを持ち(92%)、礫集中度の高い集石(71%)である。

掘り込みを有する集石が多い傾向は、志布志市稻荷迫遺跡・次五遺跡・横堀遺跡・春日堀遺跡、大崎町下堀遺跡・平良上C遺跡などで認められており、志布志湾沿岸の特徴の可能性もあると考えられる。

このように、本遺跡では、集石と連穴土坑は検出したが、堅穴建物跡が確認できていない。本遺跡同様に連穴土坑を多数検出している加栗山遺跡、前原遺跡、上野原遺跡では堅穴建物跡がある。また、本遺跡とほぼ同時期の加栗山遺跡(加栗山式期)と前原遺跡B地点(志風頭式～加栗山式期)の遺構配置を見ると、連穴土坑(土坑を含む)が集中している場所から離れたところで堅穴建物跡を検出している。このことから本遺跡でも堅穴建物跡は存在するものの、調査範囲外に分布している可能性が高いと考えたい。志布志市内において本遺跡のように堅穴建物跡がなく、集石と連穴土坑を検出しているのは稻荷迫遺跡・高吉B遺跡・次五遺跡・横堀遺跡・下堀遺跡である。また、連穴土坑が10基以上検出しているのは本遺跡と下堀遺跡、倉園B遺跡、春日堀遺跡である。このように、本遺跡と他3遺跡は他の遺跡とは性格が異なっており、拠点的な集落であった可能性も考えたい。

2 中世

本遺跡の中世該当の遺構は、掘立柱建物跡、ピット列、ピットなどを検出した。

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は8棟検出した。建物規模は、1号～3号が2間×5間、5号、6号は2間×3間となる長方形を呈する。このうち掘立柱建物跡1号は3面に庇を持つ、やや大型のもので、15m×7mにもなる長大なものもある。長軸は北東から南西にほぼ同一方向を向く。いずれも主軸方向から方位を意識して建てられたことが推察される。1号から5号まではE・F-12～14区で検出されている。なかでも1号～3号は近接しており、間隔もない位置関係にある。建物跡周辺において検出したピットもあり、これらのピットを利用して同じ場所に建て直された可能性もある。掘立柱建物跡の柱穴は、7号の長径50cm、短径42cm、深さ60cmに達する規模の大きなものから、3号の長径21cm、短径18cm、深さ2cmと小さいものまで様々である。検出面からの計測であるため一概には言えないが、柱穴の規模や深さの違いは上屋構造や用途が異なっていたことを示す可能性がある。

〈引用・参考文献・参考報告書〉

- 新東晃一 2005「九州の連穴土坑の再検討」『南九州縄文通信』No.16 南九州縄文研究会
瀬戸口望 1987「連穴土坑のもつ機能的性格について」『鹿児島考古』第21号 鹿児島県考古学会
東 徹志 2006「連穴土坑(炉穴)の新たなる可能性」『南九州縄文通信』No.17南九州縄文研究会
鹿児島県立埋蔵文化財センター
1981『加栗山遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(16)
2014『船迫遺跡・高吉B遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財発掘調査報告書(180)
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
2017『田原迫ノ上遺跡2』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(15)
曾於郡有明町教育委員会
2004『浜場遺跡 下堀遺跡』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)
2005『横堀遺跡』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(8)
志布志市教育委員会
2018『次五遺跡』志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書(13)

※ 論文・報告書は一部割愛した。

第2節 遺物

1 縄文時代早期

(1) 土器

縄文時代早期の土器はI～VII類に分類した。第32表は包含層出土土器の分類別の掲載点数及び一括取り上げ遺物も含めた出土点数である。II類土器が最も多く、次いでI類土器・III類土器の出土点数が多い。同様に、遺構内出土土器もII類土器が7割近くを占め、連穴土坑及び土坑からはII類土器、集石遺構からはI・II・III類土器が出土している。

次に、各類の特徴と出土状況について述べる。

I類土器は外面に貝殻条痕を施すことから前平式土器に該当する。出土状況は調査範囲の南西側を中心、一部は調査範囲の北側にあたるB-7～11区にも分布する。

II類土器は外面に貝殻条痕と貝殻刺突線文を施すことから、志風頭式土器や加栗山式土器に該当する。出土状況は数点がB-11区から出土しているが、調査範囲の南西側に分布する。円筒形・角筒形・レモン形の器形による分布の差異は見られない。円筒形・角筒形・レモン形の出土点数の割合は、51.4%・47.4%・1.2%となるが、本遺跡の出土土器は小片が多く、判別が困難なものも多かったため、特にレモン形の割合については1.2%より多い可能性がある。II類土器のうち、66～70・91・97～100・139～141は、口縁部に縦位の貝殻刺突を施し、胴部に貝殻条痕調整後、刺突等を施すことから、志風頭式土器と考えられる。73～76・118のように縦位の貝殻条痕を施すものは、霧島市上野原遺跡や曾於市定塚遺跡、鹿児島市前原遺跡でも出土している。また、口縁部に粘土紐貼付を施すものは非掲載を含め3点のみであり、粘土紐貼付を施す個体が少ない点も本遺跡から出土した加栗山式土器の特徴と言える。

III類土器は外面に貝殻刺突を施すことから下剥峯式土器に該当する。出土状況はB-6～8区、C～E-4～6区を中心に分布する。150～152のように口縁部が大

きく内傾するものは、次五遺跡からも出土している。また、集石遺構の出土土器である23は年代測定の結果、未補正で $8863 \pm 34^{14}\text{C}$ BPの値が得られた。県内での下剥峯式土器の測定値例はなく、宮崎県での測定例が 8900^{14}C BP台半ば～ 8800^{14}C BP台後半の測定値であるため(川口・黒木・立神2020)，整合する結果が得られた。

IV類土器は小片のみ出土したため、全容は不明であるが、外面に短い条線を施し、内面は丁寧なナデを行うことから、桑ノ丸式土器と考えられる。分布はE-5～7区に限られ、出土した破片は文様・胎土・焼成等が類似することから、1個体分の可能性がある。

V類土器は1点のみの出土した押型文土器である。調査範囲の東側にあたるD-14区から出土した。周辺には当該時期の遺構はなく、流れ込みの可能性もある。

VI類土器は内外面ともナデ調整を行う無文の土器である。出土状況は調査範囲の西側に分布する。

VII類土器はI～VI類土器に当てはまらないものである。調査範囲の北側に分布する。

以上のことから、本遺跡の縄文時代早期土器は、前平式・志風頭式・加栗山式土器の早期前葉前半と、下剥峯式・桑ノ丸式土器の早期中葉前半の2つの時期に大別でき、本遺跡は縄文時代早期前葉前半が主体となると考えられる。

(2) 石器

縄文時代早期の石器は15点出土した。組成表は第33表のとおりである。出土状況は調査範囲の西端にあたるE・F-4区で黒曜石I類の剥片やチップがブロック状に出土した他は、調査範囲全体に点在する。E・F-4区で検出した黒曜石I類のブロックは、製品や接合資料が得られたことからも、石器製作跡と考えられる。石器の出土点数や黒曜石I類以外の剥片・チップ類が少ないとから、石器製作は調査範囲外で行ったか、遺跡外で製作されたものを持ち込んだと考えられる。

第32表 包含層出土土器分類別の出土点数

	掲載点数	総点数
I類	27	321
II類	円筒形	31
	角筒形	45
	レモン形	2
III類	32	240
IV類	5	26
V類	1	1
VI類	3	19
VII類	1	2

第33表 縄文時代早期石器組成表

	黒曜石				安山岩	頁岩	チャート	水晶	ホルムヒルズ	砂岩
	I	II	III	IV						
磨製石鎌						1				
打製石鎌	2				1		2	1		
石匙					1					
楔形石器	1									
磨製石斧								3		
打製石斧								1		
磨・敲石									2	
剥片・チップ類	88	3	1	1	2	1	1	1		

2 縄文時代中期以降

縄文時代中期以降の遺物は、VII類土器と古代の須恵器、磨製石斧が出土した。VII類土器は64点出土し、文様を口縁部及び口唇部に、太めの突帯や沈線、刺突を施す。器面調整は貝殻条痕調整後、ナデを施しており、春日式土器の南宮島段階に該当する。出土状況はVII類土器・須恵器・磨製石斧とも調査範囲の西側に集中している。

3 中世

中世の遺物は、土師器・青磁・白磁・中国陶器・常滑焼・備前焼・滑石製石鍋が出土した。掘立柱建物跡からは土師器の壺・皿、白磁碗IX類（13世紀後半～14世紀前半）、備前焼の擂鉢が出土した。擂鉢は備前市教育委員会の分類試案のⅡB（14世紀前半）と考えられる。

中世の包含層出土遺物の多くは、表土や搅乱の一括遺物であるが、出土区は調査範囲の北西端と、重複する掘立柱建物跡の検出された周辺である。表土や搅乱の一括遺物のため、小片で破損しているものが多い。土師器は壺及び小皿のみであり、底部は全て糸切りである。青磁は227の龍泉窯系の碗III類（13世紀中頃～14世紀初頭前後）や15～16世紀と考えられる皿等が出土した。232の滑石製石鍋は鍔付であり、木戸III類（13世紀後半～15世紀）に該当すると考えられる。以上のことから、本遺跡の中世の遺物は、概ね13世紀後半～14世紀に相当するものが中心となる。

引用・参考文献

- 上杉彰紀・深野信之 2004「前平式土器および志風頭式土器の検討」『南九州縄文通信』No.15 pp. 19～39
南九州縄文研究会
- 川口雅之・黒木梨絵・立神倫史 2020「鹿児島県における縄文土器の実年代—土器付着炭化物放射性炭素年代測定値から—」『研究紀要・年報 縄文の森から』第12号 pp. 1～23 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 東 和幸 1989「春日式土器の型式組列」『鹿児島考古』第23号 pp. 38～45 鹿児島県考古学会
- 東 和幸 1991「鹿児島県における縄文中期の様相」『南九州縄文通信』No.5 pp. 35～46 南九州縄文研究会
- 前迫亮一 2019「鹿児島市前原遺跡B地区出土の土器に関する一考察—あのころ土器は「角」だった—」『鹿児島考古』第49号 pp. 59～74 鹿児島県考古学会
- 横手伸太郎 2019「土師器から見た古代～中世の大隅—8～13世紀を中心に」『鹿児島考古』第49号 pp. 109～126 鹿児島県考古学会

引用・参考報告書

鹿児島県立埋蔵文化財センター

- 2002『上野原遺跡第2～7地点』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（41）
- 2007『前原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（107）
- 2007『持駄松遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（120）
- 2010『定塚遺跡・稻村遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（153）
- 2012『芝原遺跡3』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（170）
- 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
- 2018『天神段遺跡3』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（18）
- 2021『小牧遺跡2』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（39）
- 志布志市教育委員会 2018『次五遺跡』志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書（13）
- 太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第49集
- 備前市教育委員会 2013『備前窯詳細分布調査報告書』備前市埋蔵文化財調査報告11

図 版



①



②

① 遺跡遠景（東から）
② 遺跡遠景（西から）

図版2 土層断面・遺物出土状況



図版 3 繩文時代早期検出遺構 1



① 5号連穴土坑 検出状況
③ 7号連穴土坑 検出状況

② 5号連穴土坑 完掘状況
④ 7号連穴土坑 完掘状況
⑤ 7号連穴土坑 遺物出土状況

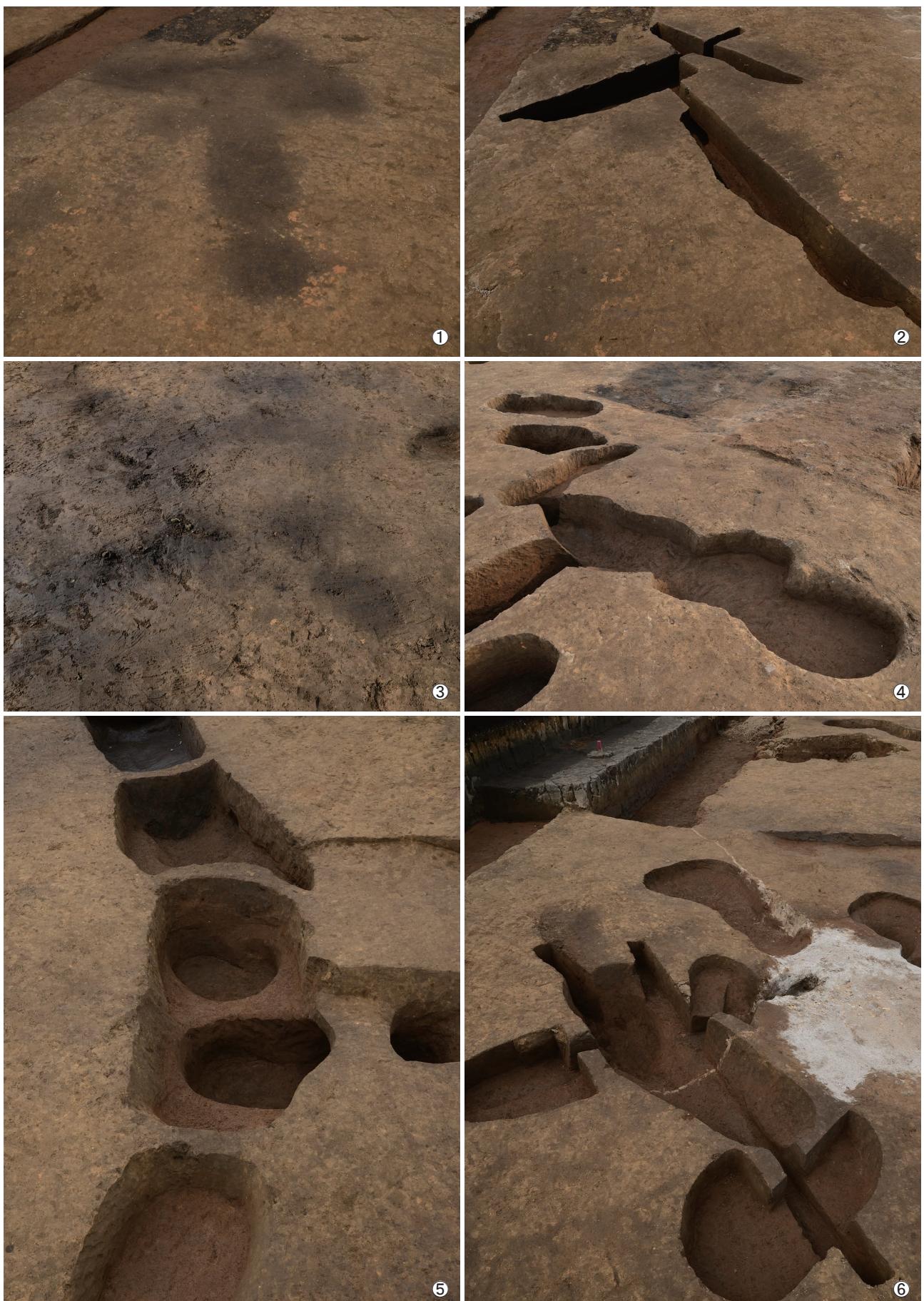


①



②

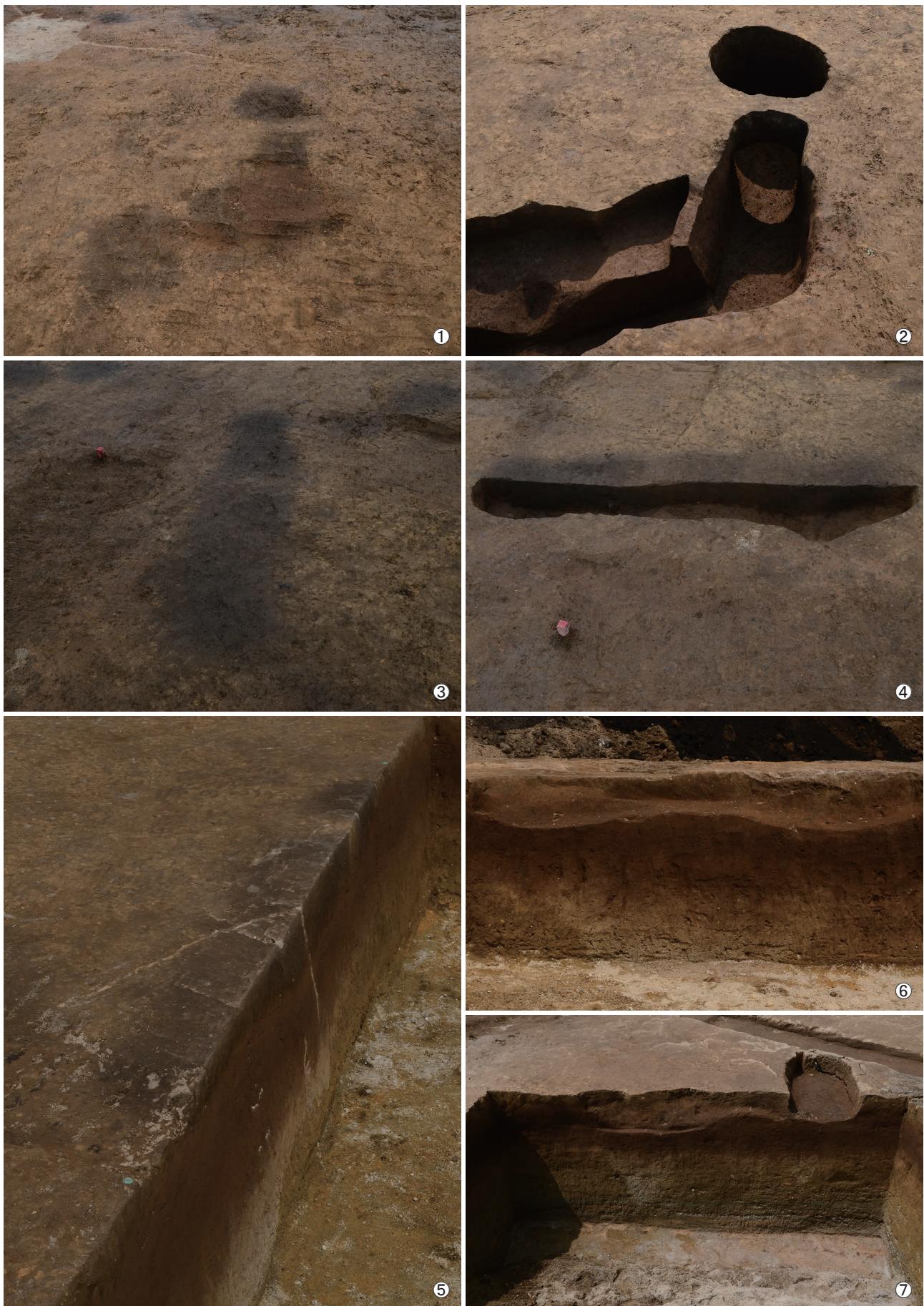
- ① 9号連穴土坑 検出状況
② 9号連穴土坑 完掘状況



① 11号連穴土坑 検出状況
③ 12号連穴土坑 検出状況
⑤ 14号連穴土坑 完掘状況

② 11号連穴土坑 半掘状況
④ 12号連穴土坑 完掘状況
⑥ 19号連穴土坑 完掘状況

図版 6 繩文時代早期検出遺構 4



① 20号連穴土坑 検出状況
③ 28号土坑 検出状況
⑤ 2号連穴土坑半裁状況

② 20号連穴土坑 完掘状況
④ 28号土坑 半掘状況
⑥ 28号土坑 断割状況
⑦ 11号連穴土坑 断割状況



① 14号土坑 完掘状況
④ 噴砂検出状況
⑥ 噴砂断面状況

② 2号土坑 検出状況
③ 2号土坑 半掘状況
⑤ 59~63号土坑 検出状況
⑦ 59~63号土坑 完掘状況



①



②

① 土器溜まり 検出状況
② 土器溜まり 半掘状況



① 集石遺構 検出状況
② 集石遺構 出土状況

図版 10
縄文時代早期検出遺構 8



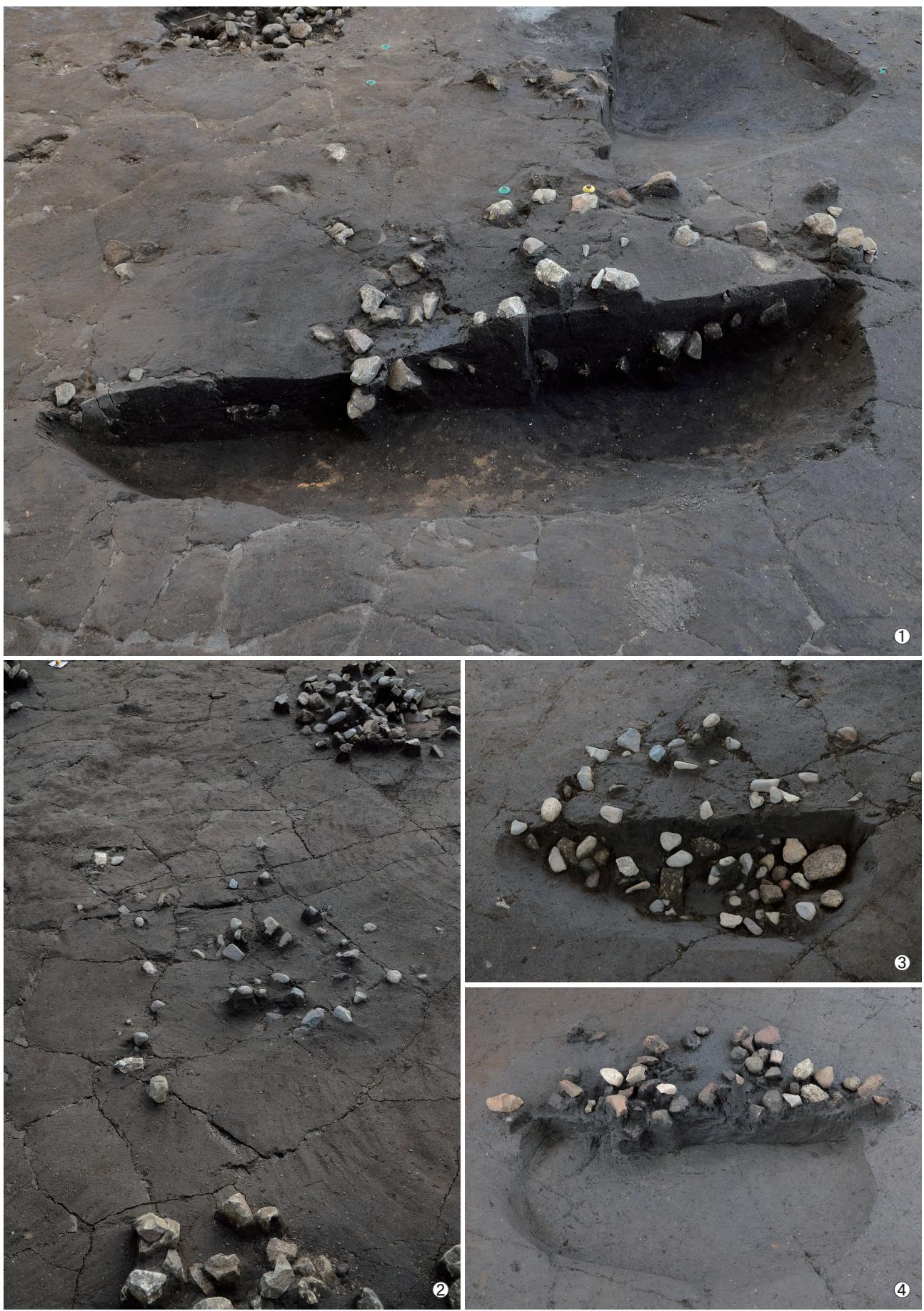
① 7号集石 検出状況
③ 23号集石 検出状況
⑤ 24・59・60号集石 半裁状況

② 22号集石 検出状況
④ 24・59・60号集石 検出状況
⑥ 24・59・60号集石 完掘状況



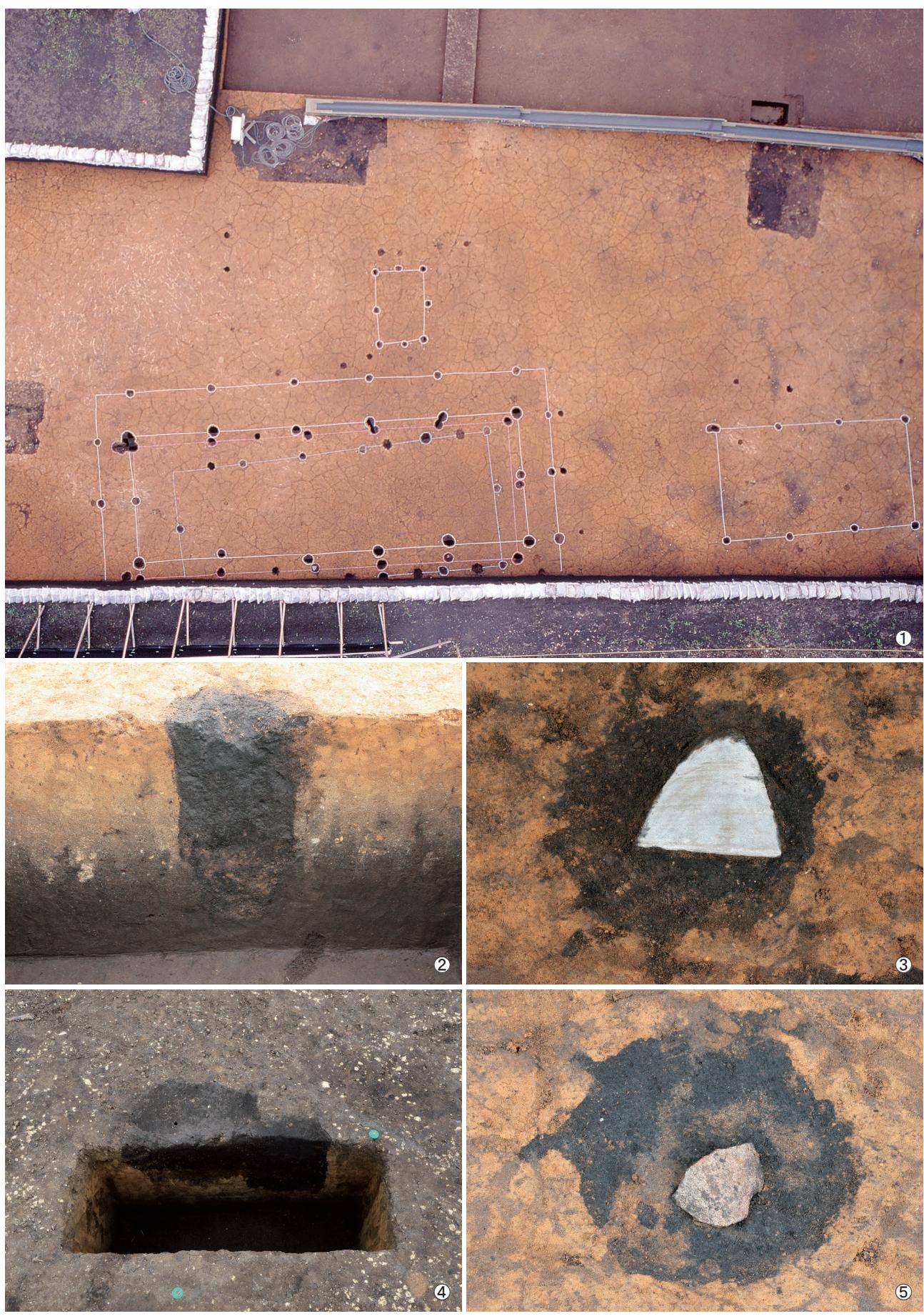
① 29・30・32号集石 検出状況
④ 33号集石 検出状況
⑤ 34号集石 検出状況

② 28号集石 検出状況
③ 28号集石 半裁状況
⑥ 37号集石 検出状況



① 42号集石 半掘状況
② 39~41号集石 検出状況

③ 39号集石 半掘状況
④ 40号集石 半掘状況

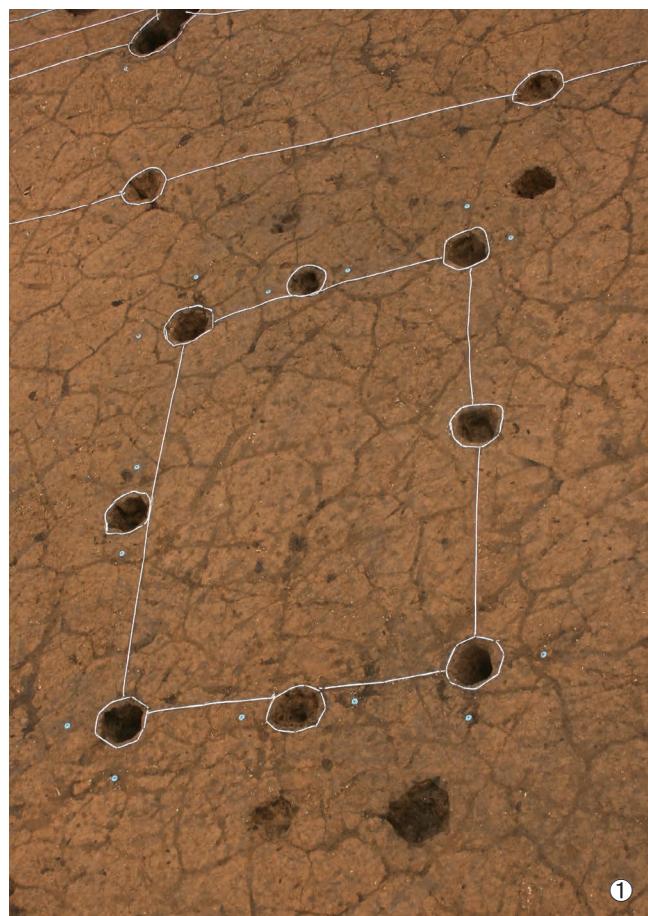


① 掘立柱建物跡1～5号 全景
② 掘立柱建物跡1号 柱穴半裁状況
④ 掘立柱建物跡6号 柱穴半裁状況

③ 掘立柱建物跡2号P12 遺物出土状況
⑤ 掘立柱建物跡2号P10 遺物出土状況



① 掘立柱建物跡 遺構検出状況
② 掘立柱建物跡 1号～4号 完掘状況



①



②



③

① 掘立柱建物跡 4号 完掘状況
③ ピット列 1号 半掘状況



④

② ピット群 検出状況
④ ピット列 2号 完掘状況



1



5



2

4

3

6

7

8

9

11

12

10

13

14

15

16

17

図版17 繩文時代早期遺構内出土土器2





39

図版 19 繩文時代早期土器 2



図版20
縄文時代早期土器3





101





図版23 繩文時代早期土器6





図版 25 包含層出土石器



186



187



188



189



190



191



192



193



194



195



196



212



197



198

図版26

縄文時代中期以降の遺物



公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（45）

東九州自動車道建設（志布志 I C～鹿屋串良 J C T 間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

木森遺跡

発行年月 2022年3月

編集・発行 鹿児島県教育委員会

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター

〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-70-0574 FAX 0995-70-0576

印 刷 株式会社 国分新生社印刷

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久 620-1

TEL 0995-45-4880 FAX 0995-45-6979